

# Netra Blade X3-2B (旧 Sun Netra X6270 M3 Blade)

管理ガイド

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

# 目次

---

このドキュメントの使用方法 .....	7
プロダクトノート .....	7
関連ドキュメント .....	7
フィードバック .....	8
サポートとアクセシビリティ .....	8
システム管理環境の計画 .....	9
関連情報 .....	9
単一システム管理向けのツールの選択 .....	10
複数システム管理向けのツールの選択 .....	11
システム管理ツールの概要 .....	11
一般的なシステム管理タスク .....	15
一般的なシステム管理者タスク .....	16
サーバー環境の評価 .....	19
システム管理ツールへのアクセス .....	23
Oracle System Assistant へのアクセス .....	23
Oracle ILOM へのアクセス .....	29
Oracle Hardware Management Pack へのアクセス .....	31
Oracle System Assistant によるブレードの設定 .....	33
Oracle System Assistant の概要 .....	33
「Help」 ボタンと「Exit」 ボタンの使用 .....	35
サーバー構成のための Oracle System Assistant の使用 .....	38
Oracle System Assistant の管理タスク .....	67
Oracle System Assistant を使用したサーバーの管理 .....	83
関連情報 .....	84
Oracle System Assistant を使用したサーバーの構成 .....	84
システム概要の表示 .....	85
システムの目録の表示 .....	86
ネットワーク設定の構成 .....	87

新規プラットフォームソフトウェアリリースの更新の取得 .....	88
ファームウェアの更新 .....	90
RAID用のハードウェア構成 .....	92
Oracle ILOM SP用のハードウェア構成 .....	95
オペレーティングシステムのインストール .....	100
Oracle System Assistant を無効にするための設定の変更 .....	104
キーボード言語設定の変更 .....	106
Oracle System Assistant シェルにアクセスするための高度なタスクの実行 .....	107
メディアの整合性をチェックするための高度なタスクの実行 .....	109
Oracle System Assistant の保守 .....	111
Oracle System Assistant のトラブルシューティング .....	112
Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント .....	122
ソフトウェアとファームウェアの設定 .....	129
ソフトウェアおよびファームウェアの設定 (OSA) .....	129
ソフトウェアとファームウェアの設定 (Oracle ILOM) .....	131
使用したソフトウェアとファームウェアの設定 (Oracle Hardware Management Pack) .....	132
Oracle ILOM を使用したサーバーポリシーの管理 .....	135
関連情報 .....	136
Oracle ILOM の機能 .....	136
x86 Sun サーバー向けの Oracle ILOM 機能 .....	136
サイドバンド管理 .....	137
サービスプロセッサの電源投入ポリシー .....	138
サポートされる電源管理ポリシー .....	138
Pc-Check による診断とマスク不可能割り込み (NMI) .....	139
次のブートデバイスの制御 .....	140
FRU TLI の自動更新 .....	140
ホスト管理コンソールへのシリアルポート出力の切り替え .....	141
BIOS 構成のバックアップと復元 .....	141
未解決の問題の管理 .....	142
ブレード障害のクリア .....	142
Oracle ILOM (Web) インタフェースを使用した管理ポリシーの構成 .....	143
Oracle ILOM (CLI) を使用した管理ポリシーの構成 .....	144
RAID の構成 .....	145
サポートされている HBA REM .....	145
RAID の考慮事項 .....	146

RAID ボリュームの作成 .....	146
BIOS 設定ユーティリティによるブレードの設定 .....	149
関連情報 .....	149
BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス .....	149
BIOS 設定ユーティリティのメニューの移動 .....	151
BIOS のキーマッピング .....	153
BIOS 設定ユーティリティメニューの概要 .....	154
レガシーおよびUEFI BIOS の選択 .....	157
関連情報 .....	157
UEFI BIOS ブートモードの構成 .....	157
サポートされるブートモード .....	158
UEFI BIOS の利点 .....	159
アドインカードの構成ユーティリティ .....	160
UEFI またはレガシー BIOS ブートモードの選択 .....	160
BIOS 設定ユーティリティでよく実行するタスク .....	163
関連情報 .....	163
BIOS の出荷時のデフォルト設定の確認 .....	164
ブートデバイスの選択 .....	165
TPM サポートの構成 .....	166
SP ネットワーク設定の構成 .....	170
レガシー BIOS オプション ROM の割り当てに関する検討事項 .....	173
オプション ROM 設定の構成 .....	174
デバイス構成の変更 .....	175
I/O リソースの割り当て .....	177
iSCSI 仮想ドライブの構成 .....	178
BIOS 設定ユーティリティの終了 .....	184
BIOS 設定ユーティリティの画面リファレンス .....	187
BIOS の「Main」メニューの選択 .....	187
BIOS の「Advanced」メニューの選択 .....	194
BIOS の「IO」メニューの選択 .....	206
BIOS の「Boot」メニューの選択 .....	213
BIOS の「UEFI Driver Control」メニューの選択 .....	216
BIOS の「Save & Exit」メニューの選択 .....	222
BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の画面リファレンス .....	227
BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の「Controller Management」メ ニューへのアクセス .....	227

---

BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の 「Controller Management」 の選択	228
BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の 「Drive Management」 メニューの選択	241
BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の 「Virtual Drive Management」 メニューの選択	244
BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の 「Enclosure Management」 メニューの選択	247
ハードウェアコンポーネントおよび SNMP メッセージの識別	249
関連情報	249
システムハードウェアコンポーネントの識別	249
表の説明	250
システムボードコンポーネント (センサー)	250
センサー	252
現場交換可能ユニット (FRU)	254
SNMP および PET トラップ	255
索引	267

# このドキュメントの使用方法

---

このドキュメントには、Netra Blade X3-2B のシステム管理に関する情報および手順が記載されています。

- 7 ページの「プロダクトノート」
- 7 ページの「関連ドキュメント」
- 8 ページの「フィードバック」
- 8 ページの「サポートとアクセシビリティ」

## プロダクトノート

この製品に関する最新の情報と既知の問題については、次の場所にあるプロダクトノートを参照してください。

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=NetraBladeX3-2B>

## 関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	<a href="http://www.oracle.com/documentation">http://www.oracle.com/documentation</a>
Netra Blade X3-2B	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=NetraBladeX3-2B">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=NetraBladeX3-2B</a>
Sun Netra 6000 モジュラーシステム	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=Netra6000">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=Netra6000</a>
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31</a>
Oracle Hardware Management Pack	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp</a>

## フィードバック

このドキュメントについてのフィードバックをお寄せください。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

## サポートとアクセシビリティ

---

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	<a href="http://support.oracle.com">http://support.oracle.com</a> 聴覚障害の方へ: <a href="http://www.oracle.com/accessibility/support.html">http://www.oracle.com/accessibility/support.html</a>
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	<a href="http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html">http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html</a>
トレーニングに関する情報	<a href="http://education.oracle.com">http://education.oracle.com</a>

---

# システム管理環境の計画

---

このセクションでは、Netra Blade X3-2B の管理に使用できる管理ツールに関する情報と、使用するのに最適なツールを選択する方法について説明します。

ここでは、次のトピックを取り上げます。

説明	リンク
単一のサーバーを管理する際に使用可能なツールの説明を確認します。	<a href="#">10 ページの「単一システム管理向けのツールの選択」</a>
複数のサーバーを管理する際に使用可能なツールの説明を確認します。	<a href="#">11 ページの「複数システム管理向けのツールの選択」</a>
システム管理ツールの利点を確認します。	<a href="#">11 ページの「システム管理ツールの概要」</a>
一般的なシステム管理タスクのリストを表示して、使用可能なツールを確認します。	<a href="#">15 ページの「一般的なシステム管理タスク」</a>
一般的なシステム管理者タスクのリストを表示して、使用可能なツールを確認します。	<a href="#">16 ページの「一般的なシステム管理者タスク」</a>
使用しているサーバー環境にどのツールが適しているのかを評価します。	<a href="#">19 ページの「サーバー環境の評価」</a>
システム管理ドキュメントを検索します。	<a href="#">21 ページの「サーバー管理のドキュメント」</a>

## 関連情報

- [23 ページの「システム管理ツールへのアクセス」](#)

## 単一システム管理向けのツールの選択

データセンター管理者は、ローカル管理用、またはネットワーク経由でのリモートアクセス管理用のシステム管理ツールを使用できます。さらに、システム管理ツールでは、ほかの Oracle エンタープライズツールおよびサードパーティー製の管理アプリケーションと統合するためのインタフェースが提供されます。

Oracle サーバーを管理するには、次のシステム管理ツールを使用します。

SSM ツール	種類	機能	リンク
Oracle System Assistant	インストール済みです。ブレード USB ドライブに組み込まれています。インストールは必要ありません。	ブレードハードウェアをローカルまたはリモートで構成および更新し、サポートされているオペレーティングシステムをインストールします。	11 ページの「 <a href="#">Oracle System Assistant</a> 」
Oracle Integrated Lights Out Manager (Oracle ILOM)	インストール済みのサービスプロセッサ (SP) コーティリティー。インストールは必要ありません。	ブレードコンポーネントを構成および管理します。Oracle ILOM を使用すると、ローカルまたはリモートで専用のネットワークポート、サイドバンドポート、またはローカルシリアルポートに接続できます。	13 ページの「 <a href="#">Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)</a> 」)
Oracle Hardware Management Pack	アドオンのソフトウェアパック。Oracle System Assistant から取得するか、 <a href="http://www.oracle.com/goto/system-management">http://www.oracle.com/goto/system-management</a> からダウンロードします。	ホストオペレーティングシステムを通じてハードウェアを監視します。Oracle Hardware Management Pack では、SNMP を使用してリモート接続、またはコマンド行インタフェースツールを使用してローカル接続できます。	14 ページの「 <a href="#">Oracle Hardware Management Pack</a> 」

### 関連情報

- 11 ページの「[システム管理ツールの概要](#)」
- 23 ページの「[システム管理ツールへのアクセス](#)」
- 20 ページの「[システムコンポーネントの更新および監視の計画](#)」

## 複数システム管理向けのツールの選択

複数のシステムに対して同時にシステム管理機能を実行する必要がある場合は、Oracle Enterprise Manager Ops Center の使用を検討します。Oracle Enterprise Manager Ops Center は、サーバーサポートの連絡先の一部としてブレードに含まれている場合があります。Oracle Enterprise Manager Ops Center ソフトウェアを Oracle から注文することもできます。

Oracle Enterprise Manager Ops Center は、物理環境にも仮想環境にも対応できるスケラビリティの高い統合管理プラットフォームです。Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用すると、世界的規模のデータセンターで配布される X86 や SPARC などの複数プラットフォームシステムを管理し、これらのシステムを既存のツールセットと統合することができます。Oracle Enterprise Manager Ops Center には、多様な側面のコンプライアンスレポート機能 (ITIL) とデータセンターの自動化機能があるため、数千単位システムを同時に管理できます。

[http://docs.oracle.com/cd/E11857\\_01/nav/management.htm](http://docs.oracle.com/cd/E11857_01/nav/management.htm) で Oracle Enterprise Manager Ops Center の製品情報を参照してください。

### 関連情報

- 10 ページの「単一システム管理向けのツールの選択」

## システム管理ツールの概要

これらのトピックでは、次のシステム管理ツールについて簡単に説明します。

- 11 ページの「Oracle System Assistant」
- 13 ページの「Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)」
- 14 ページの「Oracle Hardware Management Pack」

### 関連情報

- 15 ページの「一般的なシステム管理タスク」
- 20 ページの「システムコンポーネントの更新および監視の計画」
- 21 ページの「システム管理ツールのインストール」

## Oracle System Assistant

Oracle System Assistant を使用すると、最新のソフトウェアおよびファームウェアの更新の取得、ファームウェアの更新、ハードウェアの構成、およびサポートされるオペレーティングシステムのインストールを行うことができます。Oracle System Assistant は、Oracle の単一システム管理製品と関連ソフトウェアを統合する管理ツールです。

Oracle System Assistant は BIOS または Oracle ILOM から起動できます。その後、ブレードにオペレーティングシステムがインストールされているかどうかに関係なく、機能にアクセスしてタスクを完了できるグラフィカルユーザーインターフェイスアプリケーションが Oracle System Assistant に表示されます。オペレーティングシステムがブレードで実行されると、ツール、ドライバ、およびドキュメントは一般的なストレージデバイス上のファイルとして表示され、Oracle System Assistant をリソースメディアとして使用できます。

Oracle System Assistant では、次を実行できます。

- システムの概要およびハードウェアの目録情報を表示します。
- 最新の利用可能なシステム BIOS、Oracle ILOM、サポートされているオペレーティングシステム、ファームウェア、およびドライバを Oracle から入手します (インターネット接続が必要です)。
- システム BIOS、Oracle ILOM、およびオプションのアクセサリカードおよびほかのシステムハードウェアで使用する、サーバーおよび構成に固有の Oracle 認証デバイスドライバを更新します。
- 統合 LSI ディスクコントローラが搭載されたサーバーに RAID 0 または RAID 1 を構成します。
- Oracle ILOM サービスプロセッサ (SP) を構成します。SP 構成には次が含まれます: 識別情報の変更、ネットワーク設定 (IPv4 および IPv6) と DNS の構成、ユーザーの追加、削除、または変更、サービスプロセッサロックの設定。
- サポートされているオペレーティングシステムを最新のドライバやサポートされているツールとともにインストールします。
- Oracle System Assistant を無効にします。
- キーボード言語を設定します。
- 実行環境の使用が許可されている Oracle System Assistant (Linux) シェル端末ウィンドウにアクセスします。
- Oracle Hardware Management Pack に (Oracle System Assistant シェルを使用して) アクセスします。
- 製品ドキュメントにアクセスします。

Sun Oracle x86 サーバーでは、Oracle System Assistant は出荷時にシステムの USB ストレージデバイス上にインストール済みであり、電源を投入すればすぐに使用できます。このストレージデバイスには、サポートされるオペレーティングシステムおよびハードウェアを自分で選択してブレードの使用を開始するために必要なものがすべて含まれています。オペレーティングシステムのインストールメディアを用意すれば、Oracle System Assistant でほかのすべてのものが提供されます。

Oracle System Assistant コンポーネントはオンラインで更新されます。ストレージドライブは、すべてのコンポーネントをオンライン更新機能を使用して保守できるように、出荷時にサーバー固有のバージョンの Oracle System Assistant がインストールさ

れた状態で構成されます。さらに、My Oracle Support の Web サイトから入手可能な UPDATER ISO イメージを使用して、コンポーネントを更新することもできます。

Oracle System Assistant のコンポーネントは次のとおりです。

- Oracle System Assistant アプリケーション
- オペレーティングシステム固有のソフトウェア、ドライバ、およびツール
- サーバー固有のファームウェア
- Oracle Hardware Management Pack
- Oracle System Assistant (Linux) コマンド行環境
- サーバー固有の関連ドキュメント

Oracle は継続的に製品を改善するよう努力しています。Oracle System Assistant についてコメントを送信する場合は、[server-sysmgmt-feedback\\_ww@oracle.com](mailto:server-sysmgmt-feedback_ww@oracle.com) まで連絡してください。

## 関連情報

- [33 ページの「Oracle System Assistant によるブレードの設定」](#)

## Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)

Oracle Integrated Lights Out Manager (Oracle ILOM) は、Oracle の x86 ベースのサーバーおよび SPARC ベースのサーバーに組み込まれたサービスプロセッサにプリインストールされているシステム管理ファームウェアです。Oracle ILOM を使用すると、サーバーのコンポーネントをアクティブに管理および監視できます。Oracle ILOM を使用すると、ホストシステムの状態に関係なく、キーボード、モニター、およびマウスをローカルで接続して使用するのと同じように、ブレードをリモートで管理および監視できます。Oracle ILOM ファームウェアは、ブレードにスタンバイ電源が投入されると自動的に初期化されます。

Oracle ILOM ファームウェアでは、完全な機能を備えたブラウザベースの Web インタフェースと、それと同等なコマンド行インタフェース (CLI) のいずれかを選択できます。

Oracle ILOM では次のことが可能です。

- ホストのグラフィカル (Web ブラウザ) コンソールまたはグラフィカルでない (CLI) コンソールを表示します。
- ブレードのセンサーとインジケータの現在のステータスを監視します。
- ハードウェアで発生しているエラーおよび障害を監視します。
- 障害発生時に SNMP トラップまたは電子メール警告を使用してイベントを送信します。
- ブレードの電源状態をリモートから制御します。

- ブレードのハードウェアを構成します。

サービスプロセッサ (SP) には、専用の Ethernet ポートが搭載されています。SP は Oracle ILOM が組み込まれた独自のオペレーティングシステムで動作し、帯域外管理機能を提供します。さらに、サーバーのホストオペレーティングシステム (Oracle Solaris、Oracle Linux、Linux のその他のバリエーション、または Windows) から Oracle ILOM にアクセスできます。

また、データセンターのほかの管理ツールに統合するように、Oracle ILOM を構成することもできます。Oracle ILOM SNMP インタフェースおよび IPMI 管理インタフェースは、Oracle Enterprise Manager Ops Center など、使用しているサーバーとすでに連携して稼働しているほかの管理ツールやプロセスと簡単に統合できます。Oracle Enterprise Manager Ops Center の詳細については、次を参照してください。

[http://docs.oracle.com/cd/E11857\\_01/nav/management.htm](http://docs.oracle.com/cd/E11857_01/nav/management.htm)

さらに、Oracle ILOM を、CA Unicenter、HP OpenView Operations、BMC Patrol、IBM Tivoli などの複数のエンタープライズ管理用のサードパーティー製ツールと統合できます。サポートされているツールの詳細については、次を参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/servermgmt/tech/isv-hardware-connectors/index.html>

## 関連情報

- Oracle ILOM のドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>)

# Oracle Hardware Management Pack

Oracle Hardware Management Pack はお使いのブレード、および多くの x86 ベースのサーバーと一部の SPARC ベースのサーバーで利用できます。Oracle Hardware Management Pack には、サーバーを管理するための 2 つのコンポーネント (SNMP 監視エージェントと、クロスオペレーティングシステムのコマンド行インタフェースツール (CLI ツール) のファミリ) が用意されています。

Hardware Management Agent SNMP Plugins を使用すると、SNMP を使用してデータセンター内の Oracle サーバーおよびブレードを監視でき、2 つの管理ポイント (ホストと Oracle ILOM) に接続する必要がないという利点が得られます。この機能により、単一の IP アドレス (ホストの IP) を使用して、複数のサーバーおよびブレードを監視できます。

Hardware Management Agent SNMP Plugins は、Oracle サーバーのホストオペレーティングシステム上で動作します。SNMP Plugins では、サービスプロセッサとの通信に Oracle Hardware Storage Access Libraries が使用されます。サーバーの現在の状態に関する情報が Hardware Management Agent によって自動的に取得されます。

Oracle Server CLI ツールを使用して、Oracle サーバーを構成できます。CLI ツールは、Oracle Solaris、Oracle Linux、Oracle VM、Linux のその他のバリエーション、および Windows オペレーティングシステムで動作します。次の表では、CLI ツールを使用して実行できるタスクについて説明します。

ホスト OS からのシステム管理タスク	CLI ツール
BIOS の設定、デバイスのブート順序、および一部の SP 設定を構成する。	ubiosconfig
Oracle ILOM と BIOS を更新します。	fwupdate
サポートされる SAS ストレージデバイス、組み込み SAS ストレージコントローラ、SAS ストレージエクスパンダ、およびストレージドライブのファームウェアバージョンを照会、更新、検証する。	
Oracle ILOM の構成設定を復元、設定、表示するほかに、ネットワーク管理、クロック設定、ユーザー管理に関連のある Oracle ILOM プロパティを表示および設定する。	ilomconfig
RAID コントローラ (ストレージアレイを含む) に接続されたストレージドライブ上の RAID ボリュームを表示または作成する。	raidconfig
システムの健全性を監視する。	hwmgmt

## 関連情報

- <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp> にある Oracle Hardware Management Pack のドキュメントライブラリ
- Oracle Enterprise Manager ドキュメントライブラリ ([http://docs.oracle.com/cd/E11857\\_01/nav/management.htm](http://docs.oracle.com/cd/E11857_01/nav/management.htm))

## 一般的なシステム管理タスク

どのシステム管理ツールにも固有の機能がありますが、一部の機能は重複しています。各ツールを単独で使用することも、使用しているプラットフォームに応じて、ツールを併用してより包括的なシステム管理を行うこともできます。各システム管理ツールは無償で利用できます。

次の表では、単一システム管理ソフトウェアを使用して実行できる一般的なサーバー管理タスクについて説明します。

タスク	Oracle System Assistant	Oracle ILOM	Oracle Hardware Management Pack
BIOS ファームウェアを更新する。	可	可	可

タスク	Oracle System Assistant	Oracle ILOM	Oracle Hardware Management Pack
Oracle ILOM ファームウェアを更新する。	可	可	可
Oracle ILOM を構成します。	可	可	可
HBA ファームウェアを更新します。	可	不可	可
エクスパンダファームウェア (REM または FEM) を更新する。	可	不可	可
Linux オペレーティングシステムとドライバをインストールする。	可	不可	不可
Windows オペレーティングシステムとドライバをインストールする。	可	不可	不可
Oracle VM ソフトウェアとドライバをインストールする。	可	不可	不可
ハードウェアコンポーネントを監視する。	不可	可	可
RAID を構成します。	可	不可	可

## 関連情報

- [11 ページの「システム管理ツールの概要」](#)
- [20 ページの「システムコンポーネントの更新および監視の計画」](#)
- [21 ページの「システム管理ツールのインストール」](#)

# 一般的なシステム管理者タスク

次の表に、システム管理ツールを使用して実行できる一般的な管理者タスクに関する情報を示します。

タスク	Oracle System Assistant	Oracle ILOM	Oracle Hardware Management Pack	その他
ソフトウェアおよびファームウェアを設定する。	<a href="#">129 ページの「ソフトウェアおよびファームウェアの設定 (OSA)」</a>	<a href="#">131 ページの「ソフトウェアとファームウェアの設定 (Oracle ILOM)」</a>	<a href="#">132 ページの「使用したソフトウェアとファームウェアの設定 (Oracle Hardware Management Pack)」</a>	該当なし
電源投入と冷却のポリシーを設定する。	該当なし	<a href="#">135 ページの「Oracle ILOM を使用したサーバーポリシーの管理」</a>	該当なし	該当なし

タスク	Oracle System Assistant	Oracle ILOM	Oracle Hardware Management Pack	その他
BIOS または Oracle ILOM ファームウェアを更新する。	ファームウェアの更新	CLI: load  Web インタフェース: 「ILOM Administration」 > 「Maintenance」 > 「Firmware Upgrade」	fwupdate	該当なし
HBA とエキスパンダファームウェアを更新する。	ファームウェアの更新	該当なし	fwupdate	該当なし
インストール済みのオペレーティングシステムを構成する。	該当なし	該当なし	該当なし	『Netra Blade X3-2B 設置ガイド』
Linux オペレーティングシステムをインストールする。	Install OS	該当なし	該当なし	『Netra Blade X3-2B Linux オペレーティングシステムインストールガイド』
Windows オペレーティングシステムをインストールする。	Install OS	該当なし	該当なし	『Netra Blade X3-2B Windows オペレーティングシステムインストールガイド』
Oracle VM オペレーティングシステムをインストールする。	Install OS	該当なし	該当なし	『Netra Blade X3-2B Oracle VM オペレーティングシステムインストールガイド』
Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールする。	該当なし	該当なし	該当なし	『Netra Blade X3-2B Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』
ESXi VMware をインストールする。	該当なし	該当なし	該当なし	『Netra Blade X3-2B ESX ソフトウェアインストールガイド』
サーバー SP の IP アドレスを表示する。	システムの概要	CLI: show /SP/network  Web インタフェース: 「System Information」 > 「Summary」	該当なし	該当なし

タスク	Oracle System Assistant	Oracle ILOM	Oracle Hardware Management Pack	その他
ホストの MAC アドレスを表示する。	システムの概要	CLI: show /System  Web インタフェース: 「System Information」 > 「Summary」	該当なし	該当なし
Oracle ILOM ネットワーク設定を構成する。	「Configure Hardware」 > 「Service Processor Configuration」	CLI: set /SP/network/properties  Web インタフェース: 「ILOM Administration」 > 「Network Settings」	ILOMconfig	該当なし
RAID を構成します。	「Configure Hardware」 > 「RAID Configuration」	該当なし	RAIDconfig	145 ページの「RAID の構成」
リモートでサーバーの電源を投入する。	該当なし	CLI: start /System  Web インタフェース: 「System Information」 > 「Summary」	該当なし	該当なし
リモートでサーバーの電源を切断する。	該当なし	CLI: stop /System  Web インタフェース: 「System Information」 > 「Summary」	該当なし	該当なし
SP をデフォルト値にリセットする。	該当なし	CLI: set /SP reset_to_defaults  Web インタフェース: 「ILOM Administration」 > 「Configuration Management」 > 「Reset Defaults」	該当なし	該当なし
ハードウェアコンポーネントを監視する。	該当なし	CLI: show System  Web インタフェース: 「System Information」	Hardware Management Agent	該当なし

## 関連情報

- Oracle ILOM のドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>)
- Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp>)

- 『Netra Blade X3-2B 設置ガイド』

## サーバー環境の評価

このセクションでは、サーバー環境に最適な単一のシステム管理ツールまたはツールの組み合わせのタイプを決定するために役立つ情報を提供します。

評価の対象には、次の情報が含まれます。

- 19 ページの「オペレーティングシステムのインストールの計画」
- 20 ページの「システムコンポーネントの更新および監視の計画」
- 21 ページの「システム管理ツールのインストール」
- 21 ページの「サーバー管理のドキュメント」

## オペレーティングシステムのインストールの計画

ほとんどのシステム管理ツールは、Oracle サーバーでサポートされるほとんどのオペレーティングシステムで動作します。ただし、注意する必要のある例外がいくつかあります。詳細については、次の表を参照してください。

サーバーでサポートされているオペレーティングシステムのリストについては、『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』を参照してください。

システム管理ツール	オペレーティングシステムの制限
Oracle System Assistant	Oracle System Assistant を使用して、Windows と Linux (Oracle Linux、Red Hat Enterprise Linux、SUSE Linux) オペレーティングシステム、および Oracle VM ソフトウェアをインストールできます。  Oracle Solaris または VMware ESXi をサーバーにインストールしている場合は、ファームウェアを更新し、追加のシステム管理タスクを実行できます。
Oracle Integrated Lights Out Manager (Oracle ILOM)	Oracle ILOM はオペレーティングシステムではなくシステムサービスプロセッサで実行するので、このソフトウェアに関するオペレーティングシステムの制限はありません。
Oracle Hardware Management Pack	Hardware Management Pack コンポーネントでサポートされているオペレーティングシステムを確認するには、( <a href="http://www.oracle.com/goto/hmp">http://www.oracle.com/goto/hmp</a> ) を参照してください

## システムコンポーネントの更新および監視の計画

システム管理ツールを使用して、サーバーソフトウェアまたはコンポーネントを更新または監視します。

次の表に、各ツールの主要な機能を一覧表示します。

サーバー管理ソフトウェア	更新機能	監視機能
Oracle System Assistant	<p>Oracle ILOM と BIOS ファームウェアを更新します。</p> <p>Oracle ILOM ファームウェアを構成します。</p> <p>HBA ファームウェアを更新および構成します。</p> <p>オペレーティングシステムとドライバのインストールを補助します。</p> <p>RAID を構成します。</p>	システムのステータスに関する最小限の情報を提供します。
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)	Oracle ILOM と BIOS ファームウェアを更新します。	<p>コンポーネントのステータスを監視します。</p> <p>障害を報告します。</p>
Oracle Hardware Management Pack	<p>Oracle ILOM と BIOS ファームウェアを構成します。</p> <p>HBA とエクスパンダファームウェアを更新します。</p> <p>RAID を構成します。</p>	<p>コンポーネントのステータスを監視します。</p> <p>障害を報告します。</p>

### ファームウェアおよびソフトウェアの更新

- ファームウェアおよびソフトウェアを入手して更新するもっとも簡単な方法は、Oracle System Assistant を使用することです。26 ページの「[Oracle ILOM \(Web\) からの Oracle System Assistant へのアクセス](#)」を参照してください。
- 129 ページの「[ソフトウェアおよびファームウェアの設定 \(OSA\)](#)」
- 132 ページの「[使用したソフトウェアとファームウェアの設定 \(Oracle Hardware Management Pack\)](#)」

また、最新のファームウェアおよびソフトウェアは My Oracle Support から、または物理メディアをリクエストすることによって入手できます。詳細については、『[Netra Blade X3-2B プロダクトノート](#)』を参照してください。

## 関連情報

- 11 ページの「システム管理ツールの概要」
- 21 ページの「システム管理ツールのインストール」
- 15 ページの「一般的なシステム管理タスク」

## モジュラーシステム管理の計画

すべてのシステム管理ツールを使用して、モジュラーシステム (ブレード) またはラックサーバーを管理できます。ただし、モジュラーシステムのシャーシ監視モジュール (CMM) とブレードサーバーインタフェースの両方からブレードを管理するために使用できるのは Oracle ILOM だけです。

## 関連情報

- 11 ページの「システム管理ツールの概要」
- Oracle ILOM ドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>)

## システム管理ツールのインストール

次の表では、単一システム管理ソフトウェアツールをインストールする方法について説明します。

システム管理ツール	インストール方法
Oracle System Assistant	インストール済みです。サーバー USB ドライブに組み込まれています。インストールは必要ありません。
Oracle Integrated Lights Out Manager	インストール済みです。システムサービスプロセッサに組み込まれています。インストールは必要ありません。
Oracle Hardware Management Pack	Oracle System Assistant から取得するか、 <a href="http://www.oracle.com/goto/system-management">http://www.oracle.com/goto/system-management</a> からダウンロードします。

## 関連情報

- 23 ページの「システム管理ツールへのアクセス」
- *Netra Blade X3-2B* プロダクトノート

## サーバー管理のドキュメント

次の表では、システム管理ツールのその他のドキュメントを検索できる場所について説明します。

サーバー管理ツール	リンク
Oracle System Assistant	Oracle System Assistant のオンラインヘルプを参照してください。Oracle System Assistant に関するドキュメントは、この管理ガイドおよびサーバーのドキュメントライブラリに含まれるその他のガイドに付属しています。
Oracle Integrated Lights Out Manager (Oracle ILOM)	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31</a>
Oracle Hardware Management Pack	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp</a>

---

## 関連情報

- [23 ページの「システム管理ツールへのアクセス」](#)
- [Netra Blade X3-2B プロダクトノート](#)

# システム管理ツールへのアクセス

---

このセクションでは、インストール後に Netra Blade X3-2B で使用できる各システム管理ツールにアクセスする方法について説明します。

ここでは、次のトピックを取り上げます。

アクセス	リンク
Oracle System Assistant	23 ページの「 <a href="#">Oracle System Assistant へのアクセス</a> 」
Oracle ILOM	29 ページの「 <a href="#">Oracle ILOM へのアクセス</a> 」
Oracle Hardware Management Pack	31 ページの「 <a href="#">Oracle Hardware Management Pack へのアクセス</a> 」

## Oracle System Assistant へのアクセス

Oracle System Assistant にアクセスするには、次の方法のいずれかを選択します。

オプション	リンク
ブレードをブートし、ブート中に F9 キーを押します。	24 ページの「 <a href="#">起動時の Oracle System Assistant へのアクセス</a> 」
Oracle ILOM Web インタフェースを使用します。	26 ページの「 <a href="#">Oracle ILOM (Web) からの Oracle System Assistant へのアクセス</a> 」
Oracle ILOM コマンド行インタフェースを使用します。	28 ページの「 <a href="#">Oracle ILOM (CLI) からの Oracle System Assistant へのアクセス</a> 」

Oracle System Assistant を起動するには、そのツールをオンライン状態 (オペレーティングシステムで使用可能) にしておく必要があります。BIOS 設定ユーティリティを使用して Oracle System Assistant を有効にできます。76 ページの「[BIOS からの Oracle System Assistant の有効化](#)」を参照してください。

## ▼ 起動時の Oracle System Assistant へのアクセス

サーバーを起動したあとに Oracle System Assistant にアクセスするには、次の手順を使用します。

- 始める前に
- 78 ページの「Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント」
  - 76 ページの「BIOS からの Oracle System Assistant の有効化」
- 1 サーバーがスタンバイモードまたは全電力モードであることを確認します。
  - 2 モニター、キーボード、およびマウスがサーバーにローカル接続されていることを確認します。
  - 3 サーバーを起動(ブート)します。  
サーバーの電源状態に応じて、次のいずれかの処理を実行します。
    - スタンバイモード: サーバーの前面にある電源ボタンを押します。
    - 全電力モード: サーバーの電源を投入および切断します。ブートメッセージがモニターに表示されます。



- 4 プロンプトが表示されたら、**F9** ファンクションキーを押して **Oracle System Assistant** を起動します。  
シリアルキーボードの CTRL-O を押すこともできます。

---

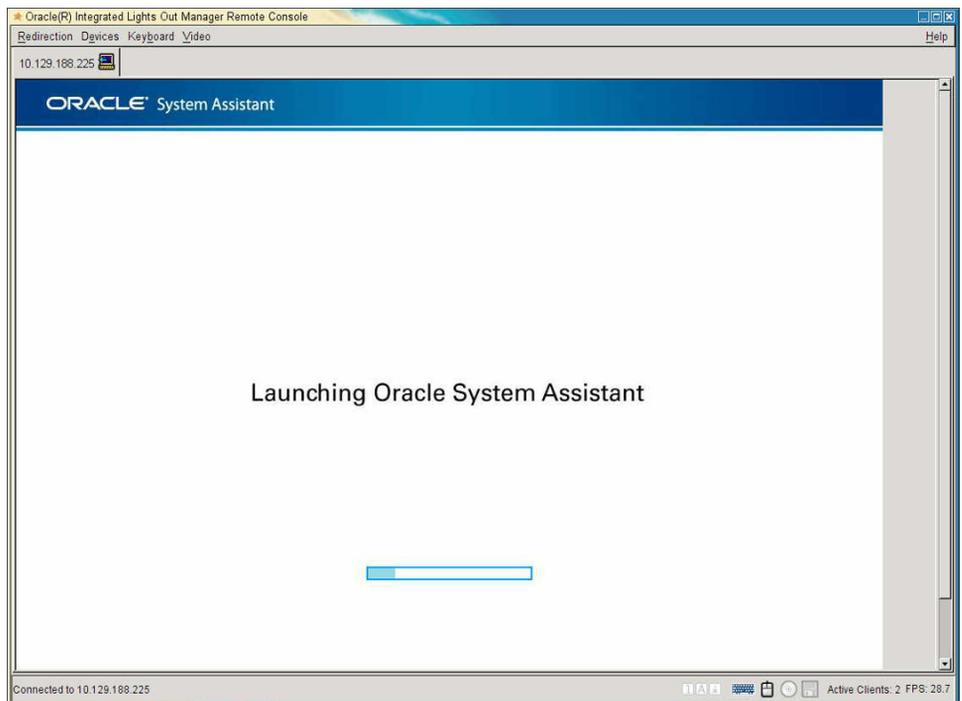
ヒント-KVM を使用してリモートでサーバーにアクセスする場合は、遅延のためにサーバーが信号の受信に失敗する可能性があるため、F9 キーを数回押します。

---

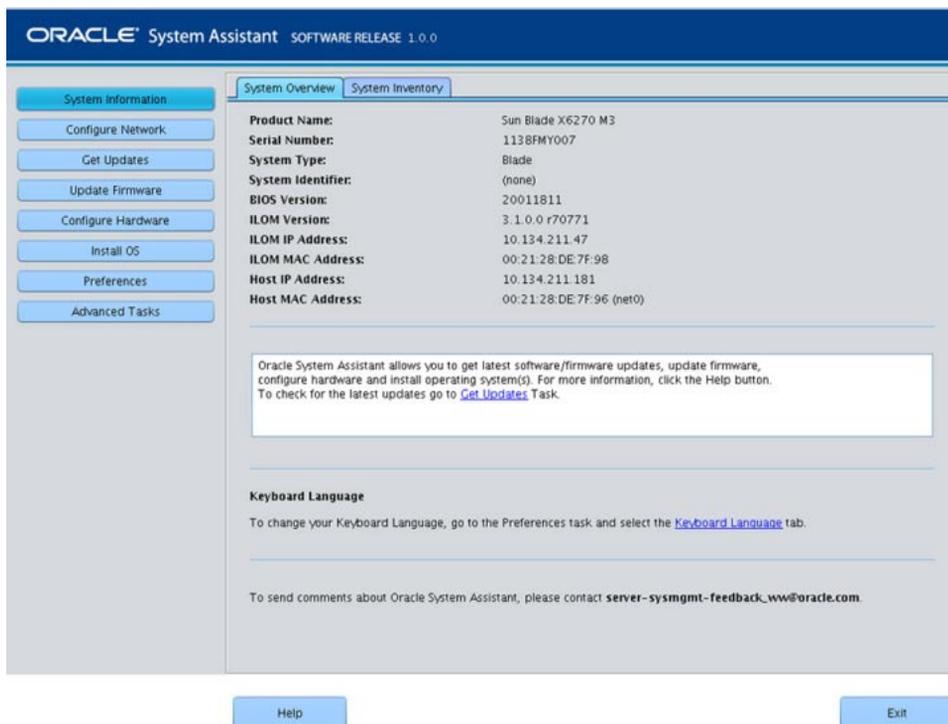
テキスト [Oracle System Assistant Selected] を含む、チェックポイントメッセージが表示されます。

```
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.  
BIOS Build Version : 20012001, Date: 01/26/2012 10:41:40  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on serial keyboard)  
Press F8 for BBS Popup (CTRL+P on serial keyboard)  
Press F12 for network boot (CTRL+N on serial keyboard)  
Press F9 to start Oracle System Assistant (CTRL+O on serial keyboard)  
[Oracle System Assistant Selected]
```

「Launching Oracle System Assistant」画面が表示されます。



次に、「System Overview」タスク画面が表示されます。



- 5 Oracle System Assistant 画面が表示されない場合は、68 ページの「Oracle System Assistant のトラブルシューティング」を参照してください。
- 6 必要に応じて、Oracle System Assistant のタスクを実行します。

#### 参考 関連情報

- 78 ページの「Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント」
- 33 ページの「Oracle System Assistant の概要」
- 153 ページの「BIOS のキーマッピング」

#### ▼ Oracle ILOM (Web) からの Oracle System Assistant へのアクセス

Oracle ILOM の Web インタフェースの使用中に Oracle System Assistant にアクセスするには、次の手順を使用します。

- 始める前に
- 78 ページの「Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント」
  - 76 ページの「BIOS からの Oracle System Assistant の有効化」

- 1 ホストの電源を切断します。
  - a. 「Host Management」、「Power Control」の順に選択します。
  - b. リストから「Server Power Control Management graceful shutdown and power off」を選択します。
  - c. 「Save」をクリックします。

注- ホストオペレーティングシステムで電源停止が有効になっている必要があります。

- 2 Oracle ILOM Web インタフェースで「System Information」 > 「Summary」ページにアクセスします。  
29 ページの「Oracle ILOM (Web) へのアクセス」を参照してください。

The screenshot displays the Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) Summary page. The interface includes a navigation menu on the left, a main content area with 'General Information', 'Actions', and 'Status' sections, and a table for system status.

**General Information**

System Type	Blade
Model	SUN NETRA 6000 DC MODULAR SYSTEM
Part Number	541-4391-01
Serial Number	1104BD0753
Component Model	Sun Netra X6270 M3
Component Part Number	MENSAP1DA-C+1
Component Serial Number	1138FY002
Chassis Address	10.134.159.13
Chassis Description	ORACLEMM-1104BD0753
System Identifier	-
System Firmware Version	3.1.0.16.n
Primary Operating System	Not Available
Host Primary MAC Address	00:21:28:de:7f:86
Blade Slot	Slot 4
ILOM Address	10.134.159.36
ILOM MAC Address	00:21:28:DE:7F:88

**Actions**

Power State:  ON

Locator Indicator:  OFF

Oracle System Assistant (Version: 1.0.0.76536):

System Firmware Update:

Remote Console:

**Status**

Overall Status:  OK Total Problem Count: 0

Subsystem	Status	Details	Inventory
Processors	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Processor Architecture: x86 64-bit Processor Summary: Two Intel Xeon Processor E5 Series	Processors (Installed / Maximum): 2 / 2
Memory	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Installed RAM Size: 128 GB	DBMMs (Installed / Maximum): 16 / 24
Power	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Permitted Power Consumption: 406 watts Actual Power Consumption: 136 watts	PSUs (Installed / Maximum): 4 / 4
Cooling	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Inlet Air Temperature: 25 °C Exhaust Air Temperature: 34 °C	Fans (Installed / Maximum): 12 / 12
Storage	<input type="checkbox"/> Not Available	Installed Disk Size: Not Available Disk Controllers: Not Available	Internal Disks (Installed / Maximum): 1 / 4

- 3 Oracle System Assistant を起動します。

「Launching Oracle System Assistant」画面が表示されます。次に、Oracle System Assistant の「System Overview」画面が表示されます。

Oracle System Assistant 画面が表示されない場合は、68 ページの「Oracle System Assistant のトラブルシューティング」を参照してください。

- 4 必要に応じて、**Oracle System Assistant** のタスクを実行します。

参考 関連情報

- 33 ページの「**Oracle System Assistant の概要**」
- **Oracle ILOM のドキュメントライブラリ** (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>)

▼ **Oracle ILOM (CLI) からの Oracle System Assistant へのアクセス**

Oracle ILOM のコマンド行インタフェース (CLI) から Oracle System Assistant にアクセスするには:

- 1 **Oracle ILOM CLI** にアクセスします。  
30 ページの「**Oracle ILOM (CLI) へのアクセス**」を参照してください。
- 2 **Oracle ILOM CLI** で、次のように入力します。  
**start /HOST/provisioning/system-assistant**  
次のプロンプトが表示されます。  
Are you sure that you want to start /HOST/provisioning/system-assistant (y/n)?
- 3 「y」と入力して **Oracle System Assistant** を起動します。  
Oracle ILOM によって Oracle System Assistant が起動されます。  
Oracle System Assistant の「System Overview」タスク画面が表示されます。
  - または、「n」と入力して、操作を取り消します。
- 4 必要に応じて、**Oracle System Assistant** を使用してタスクを実行します。

参考 関連情報

- 33 ページの「**Oracle System Assistant の概要**」
- **Oracle ILOM のドキュメントライブラリ** (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>)

# Oracle ILOM へのアクセス

Oracle ILOM にアクセスするには、次の方法のいずれかを選択します。

オプション	リンク
Web ブラウザを使用して Oracle ILOM にアクセスします。	<a href="#">29 ページの「Oracle ILOM (Web) へのアクセス」を参照してください。</a>
CLI コマンドを使用して Oracle ILOM にアクセスします。	<a href="#">30 ページの「Oracle ILOM (CLI) へのアクセス」を参照してください。</a>

## ▼ Oracle ILOM (Web) へのアクセス

Oracle ILOM Web ブラウザインタフェースにログインするには:

- 1 **Netra Blade X3-2B** にケーブルを接続して、**IP アドレス**を設定します。  
『Netra Blade X3-2B 設置ガイド』を参照してください。
- 2 **Web** ブラウザのアドレスフィールドにブレード **SP** の **IP アドレス**を入力します。
- 3 プロンプトでユーザー名とパスワードを入力します。  
デフォルトのユーザー名は **root**、デフォルトのパスワードは **changeme** です。

- 4 「Log In」 ボタンをクリックします。  
Oracle ILOM の「Summary」 ページが表示されます。

The screenshot shows the Oracle ILOM web interface for Blade 4. The main content area is divided into three sections:

- General Information:** A table listing system details such as Model (SUN NETRA 6000 DC MODULAR SYSTEM), Part Number (541-4381-01), and ILOM Address (10.134.159.36).
- Actions:** A panel with buttons for Power State (ON/OFF), Locator Indicator, Oracle System Assistant (Launch/Update), and Remote Console (Launch).
- Status:** A table showing the overall status (OK) and a list of subsystems (Processors, Memory, Power, Cooling, Storage) with their respective status and details.

Subsystem	Status	Details	Inventory
Processors	OK	Processor Architecture: x86 64-bit Processor Summary: Two Intel Xeon Processor E5 Series	Processors (Installed / Maximum): 2 / 2
Memory	OK	Installed RAM Size: 128 GB	DIMMs (Installed / Maximum): 16 / 24
Power	OK	Permitted Power Consumption: 406 watts Actual Power Consumption: 136 watts	PSUs (Installed / Maximum): 4 / 4
Cooling	OK	Inlet Air Temperature: 25 °C Exhaust Air Temperature: 34 °C	Fans (Installed / Maximum): 12 / 12
Storage	Not Available	Installed Disk Size: Not Available Disk Controllers: Not Available	Internal Disks (Installed / Maximum): 1 / 4

- 5 Web ブラウザで Oracle ILOM タスクを実行します。または、必要に応じて Oracle System Assistant を起動します。

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31> を参照してください。

## ▼ Oracle ILOM (CLI) へのアクセス

CLI を通じて Oracle ILOM にログインするには:

- Netra Blade X3-2B にケーブルを接続して、IP アドレスを設定します。  
『Netra Blade X3-2B 設置ガイド』を参照してください。
- 端末ウィンドウを開きます。
- Secure Shell (SSH) セッションを使用して、サーバーの SP にログインします。  
たとえば、次のように入力します。

```
$ ssh username@SPIPaddress
```

変数	定義
<code>username</code>	管理者権限を持つユーザーアカウント
<code>SPIAddress</code>	サーバーの SP の IP アドレス

デフォルトのユーザー名は `root`、デフォルトのパスワードは `changeme` です。

正常に Oracle ILOM にログインすると、デフォルトの CLI プロンプト (`->`) が表示されます。

- 4 必要に応じて、**Oracle ILOM CLI** タスクを実行します。

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31> を参照してください。

## Oracle Hardware Management Pack へのアクセス

Oracle Hardware Management Pack にアクセスするには、次の方法のいずれかを選択します。

オプション	リンク
Oracle System Assistant の使用	<a href="#">31 ページの「Oracle Hardware Management Pack (OSA) へのアクセス」</a>
Oracle Hardware Management Pack ソフトウェアのダウンロード	<a href="#">32 ページの「Oracle Hardware Management Pack (MOS) へのアクセス」</a>

### 関連情報

- [14 ページの「Oracle Hardware Management Pack」](#)
- [Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリ \(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp\)](http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp)

### ▼ Oracle Hardware Management Pack (OSA) へのアクセス

Oracle Hardware Management Pack ファイルは、Oracle System Assistant ファイルシステムのオペレーティングシステム (OS) ディレクトリ内にあります。ファイルシステム内の該当する OS ディレクトリを参照してから、Oracle Hardware Management Pack ファイルが配置されている、ドライバとツール用のサブディレクトリを参照します。次に、Oracle Hardware Management Pack インストーラアプリケーションを実行します。

- 1 **Oracle System Assistant** から **Oracle Hardware Management Pack** をインストールします。次のいずれかの方法を選択します。

- OSがインストールされたら、使用しているファイルシステムから Oracle System Assistant デバイス上の Oracle Hardware Management Pack ファイルにアクセスします。
- サーバーが Linux または Windows を実行している場合は、Oracle System Assistant を使用して、Oracle Hardware Management Pack を含む追加ソフトウェアをインストールします。

**2 Oracle System Assistant シェルにアクセスします。**

シェルではコマンド行インタフェースを取得できるため、Oracle Hardware Management Pack のコマンドを入力できます。

64 ページの「Oracle System Assistant シェルにアクセスするための高度なタスクの実行」を参照してください。

**3 必要に応じて、シェルで Oracle Hardware Management Pack CLI コマンドを入力して、Oracle Hardware Management Pack のタスクを実行します。**

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp> を参照してください。

**▼ Oracle Hardware Management Pack (MOS) へのアクセス**

**1 Oracle Hardware Management Pack をダウンロードします。**

『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』の手順に従ってください。

**2 Oracle Hardware Management Pack をインストールします。**

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp> にあるドキュメントの手順に従ってください。

**3 Oracle Hardware Management Pack がインストールされたら、Oracle Hardware Management Pack のツールにアクセスし、必要に応じて、CLI コマンドを入力して Oracle Hardware Management Pack タスクを実行します。**

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp> を参照してください。

# Oracle System Assistant によるブレードの設定



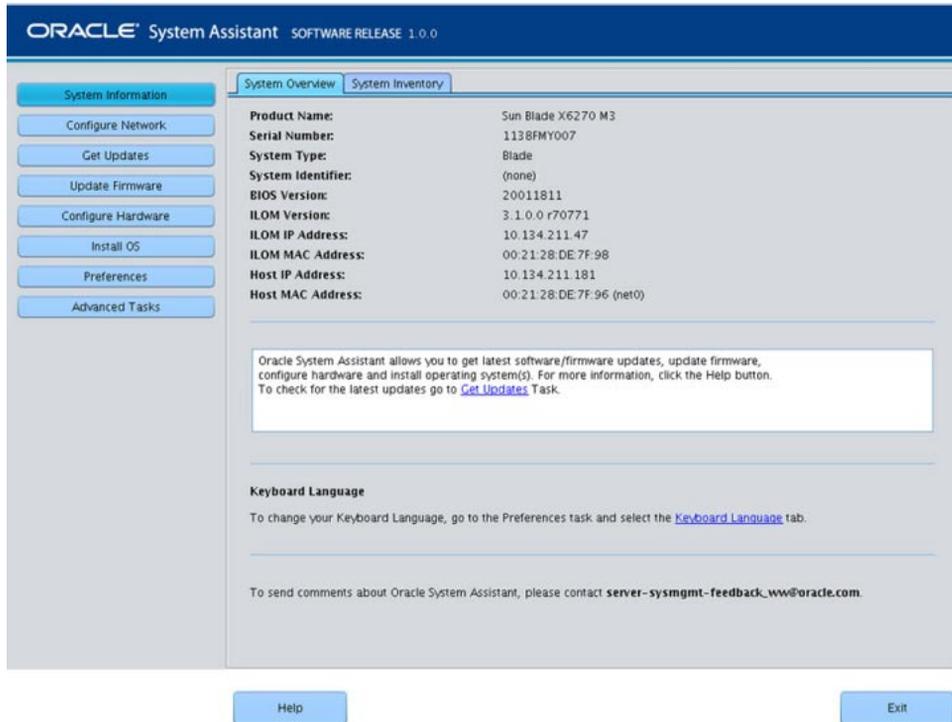
注意 - OSA はブレード上で診断を設定、構成、および実行するために使用されますが、高入力周囲条件では信頼できません。このデバイスにはユーザー空間が存在せず、OSA で記載された機能のみを目的として使用されます。背面 USB ポートには、NEBS の最大入力周囲条件に対応する工業用温度定格のデバイスが必要です。Oracle では工業用温度定格の USB デバイスは提供されません。

次のセクションでは、Oracle System Assistant の設定タスクについて説明します。

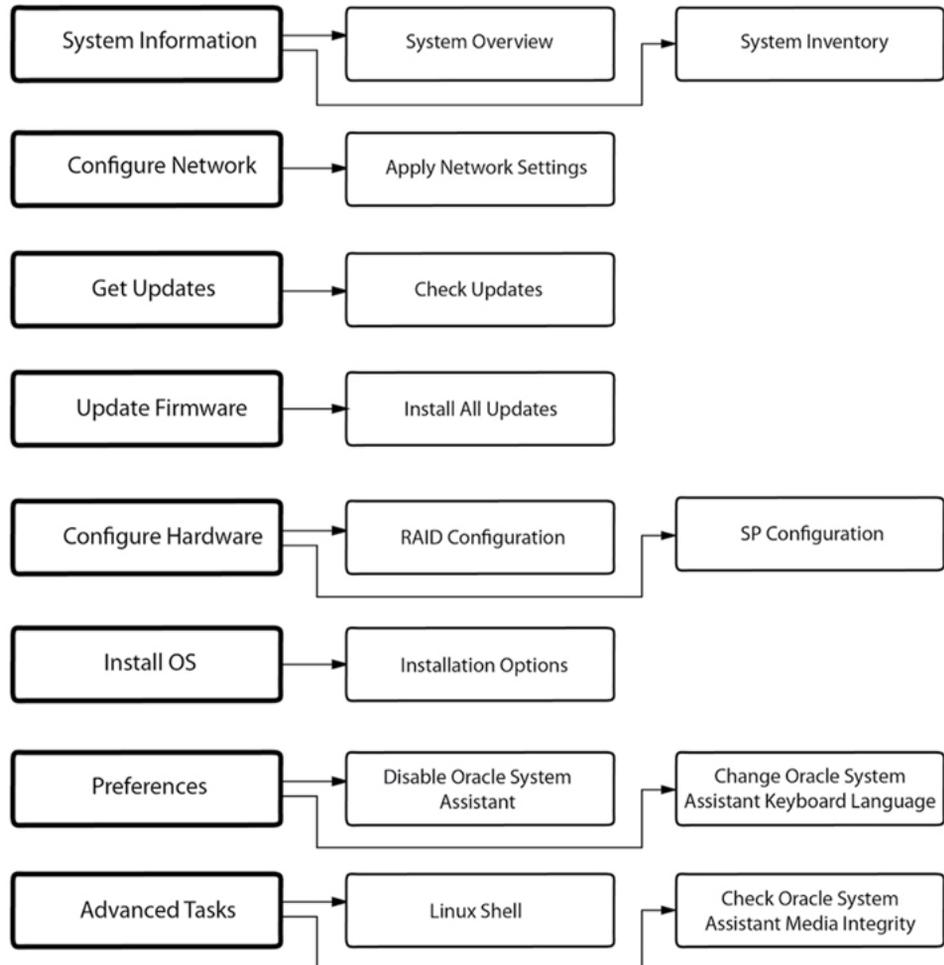
セクション	説明	リンク
Oracle System Assistant によるブレードの設定	Oracle System Assistant の構成を確認します。	<a href="#">33 ページの「Oracle System Assistant の概要」</a>
	「Help」ボタンと「Exit」ボタンを使用する方法。	<a href="#">33 ページの「Oracle System Assistant の概要」</a>
Oracle System Assistant を使用したサーバーの構成	Oracle System Assistant を使用してシステム管理タスクを実行する方法。	<a href="#">38 ページの「サーバー構成のための Oracle System Assistant の使用」</a>
Oracle System Assistant の管理タスク	Oracle System Assistant をテスト、管理、トラブルシューティング、および復元する方法。	<a href="#">67 ページの「Oracle System Assistant の管理タスク」</a>

## Oracle System Assistant の概要

次の図は、Oracle System Assistant の「System Overview」タスク画面を示しています。



次の図は、Oracle System Assistant 機能の構成を示しています。

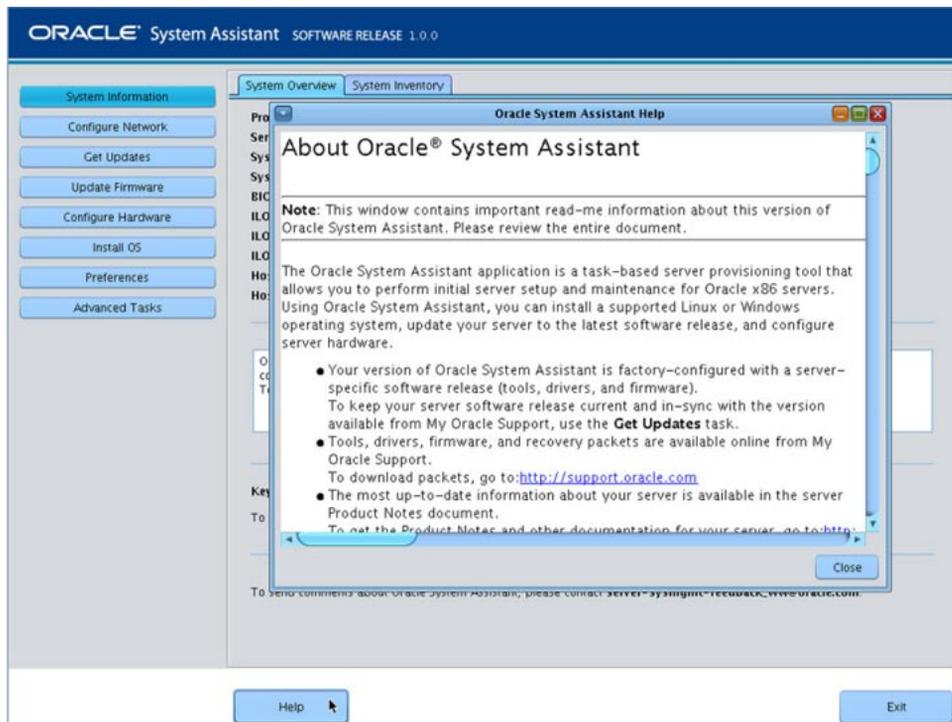


## 「Help」ボタンと「Exit」ボタンの使用

「Help」ボタンと「Exit」ボタンを使用するには、Oracle System Assistant 画面の下部にあるボタンを押します。

### 「Help」ボタン

「Help」ボタンをクリックすると、タスク情報が表示されます。



注-インストールされているプラットフォームソフトウェアリリースの ReadMe ファイル (リリースノート) を表示するには、「System Overview」画面を表示中に「Help」ボタンをクリックします。

## ▼ Oracle System Assistant の ReadMe ファイルの表示

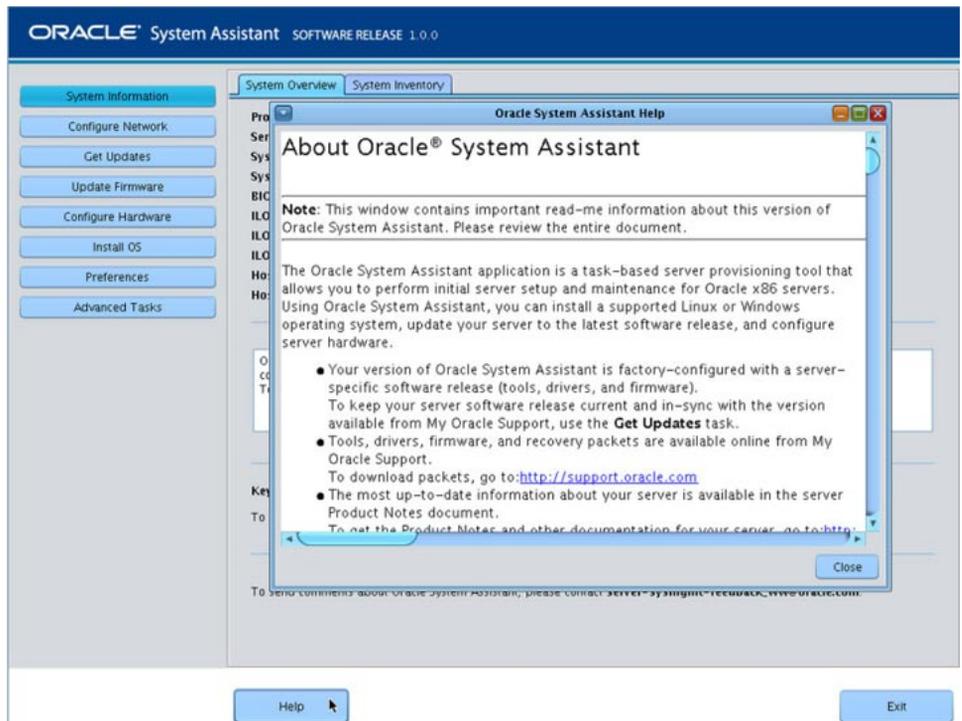
インストールされているプラットフォームソフトウェアリリースの Oracle System Assistant ReadMe ファイル (リリースノート) を表示するには:

### 1 Oracle System Assistant にアクセスします。

23 ページの「Oracle System Assistant へのアクセス」を参照してください。

「System Overview」タスク画面が表示されます。

- 2 「System Overview」 タスク画面の下部にある「Help」 ボタンをクリックします。  
Oracle System Assistant およびプラットフォームソフトウェアリリースに関する情報が記載された ReadMe ファイルが表示されます。



## 「Exit」 ボタン

「Exit」 をクリックすると、Oracle System Assistant アプリケーションが終了します。必要に応じて、「Exit」 をクリックして Oracle System Assistant を終了し、サーバーをリブートするか、電源を切断します。

## ▼ Oracle System Assistant の終了

Oracle System Assistant を終了するには:

- 1 Oracle System Assistant から「Exit」 ボタンをクリックして、アプリケーションセッションを終了します。

- 2 システムをリブートするか、電源を切断するかを選択します。



## サーバー構成のための Oracle System Assistant の使用

このセクションでは、Oracle System Assistant を使用してサーバーを管理する方法について説明します。

次の Oracle System Assistant サーバー管理タスクについて説明します。

タスク	リンク
システムの概要情報を表示します。	<a href="#">40 ページの「システム概要の表示」</a>
システムの目録情報を表示します。	<a href="#">41 ページの「システムの目録の表示」</a>
Oracle System Assistant の更新を取得する際に使用されるサーバーのネットワーク設定を構成します。	<a href="#">42 ページの「ネットワーク設定の構成」</a>
最新のソフトウェアリリース(ファームウェア、ドライバ、ソフトウェア、ドキュメントを含む)に更新します。	<a href="#">43 ページの「プラットフォームソフトウェアリリースの更新の取得」</a>
サポートされているハードウェアを最新のファームウェアバージョンに更新します。	<a href="#">47 ページの「ファームウェアの更新」</a>
サーバーに RAID を構成します。	<a href="#">49 ページの「RAID 用のハードウェア構成」</a>
サーバー SP の設定を構成します。	<a href="#">52 ページの「Oracle ILOM SP 用のハードウェア構成」</a>
サーバーに Linux または Windows オペレーティングシステム、あるいは Oracle VM ソフトウェアをインストールします。	<a href="#">57 ページの「オペレーティングシステムのインストール」</a>
Oracle System Assistant を無効にします。	<a href="#">61 ページの「Oracle System Assistant を無効にするための設定の変更」</a>
Oracle System Assistant のキーボード言語を設定します。	<a href="#">63 ページの「キーボード言語設定の変更」</a>
Oracle System Assistant シェルにアクセスします。	<a href="#">64 ページの「Oracle System Assistant シェルにアクセスするための高度なタスクの実行」</a>

タスク	リンク
Oracle System Assistant メディアの整合性をチェックします。	66 ページの「メディアの整合性をチェックするための高度なタスクの実行」

## 関連情報

- [23 ページの「Oracle System Assistant へのアクセス」](#)
- [33 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

## ▼ Oracle System Assistant を使用したサーバーの構成

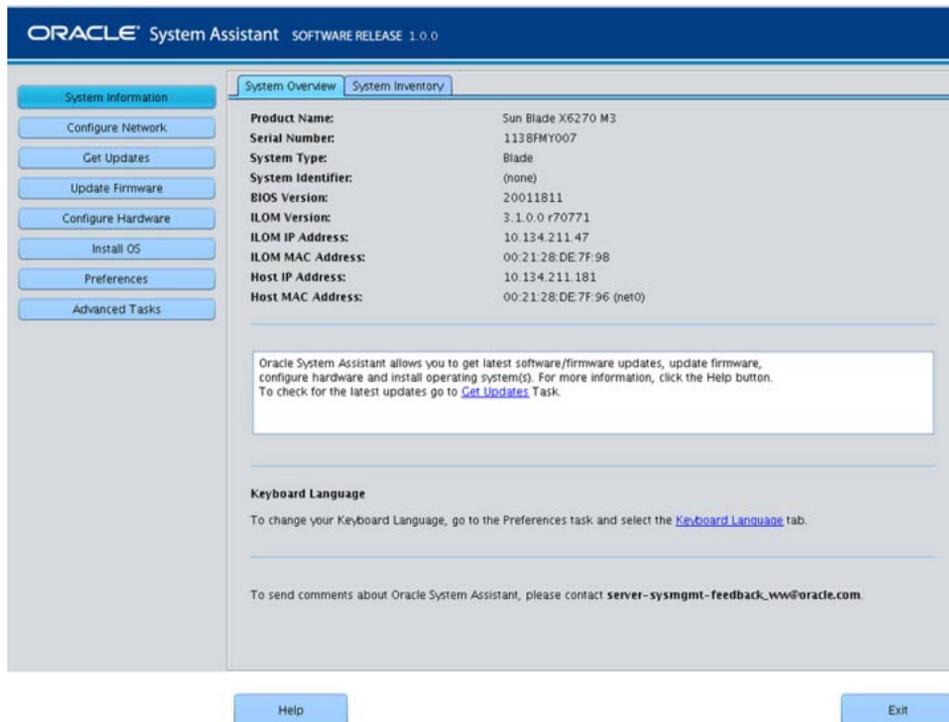
Oracle System Assistant を使用して、新しいシステムを簡単に構成できます。

- 1 システムの電源を投入します。  
『サービス』の「ブレードへの電源投入」を参照してください。
- 2 **Oracle System Assistant** をブートします。  
[23 ページの「Oracle System Assistant へのアクセス」](#) を参照してください。
- 3 **Oracle System Assistant** を使用して、サーバーを構成します。  
サーバーの初期設定および構成を行うには、次のトピックの手順を使用します。
  - [40 ページの「システム概要の表示」](#)
  - [41 ページの「システムの目録の表示」](#)
  - [42 ページの「ネットワーク設定の構成」](#)
  - [43 ページの「プラットフォームソフトウェアリリースの更新の取得」](#)
  - [47 ページの「ファームウェアの更新」](#)
  - [49 ページの「RAID 用のハードウェア構成」](#)
  - [57 ページの「オペレーティングシステムのインストール」](#)
  - [61 ページの「Oracle System Assistant を無効にするための設定の変更」](#)
  - [64 ページの「Oracle System Assistant シェルにアクセスするための高度なタスクの実行」](#)

## ▼ システム概要の表示

Oracle System Assistant を使用してシステムの概要情報を表示するには:

- 1 「System Information」 タスクボタンをクリックします。
- 2 必要に応じて、「System Overview」タブをクリックします。  
システムに関する情報を含む、「System Overview」画面が表示されます。



- 3 システムに関する情報を確認します。
- 4 インストールされているプラットフォームソフトウェアリリースの **ReadMe** ファイル (リリースノート) を表示するには、「**Help**」ボタンをクリックします。  
36 ページの「Oracle System Assistant の ReadMe ファイルの表示」を参照してください。

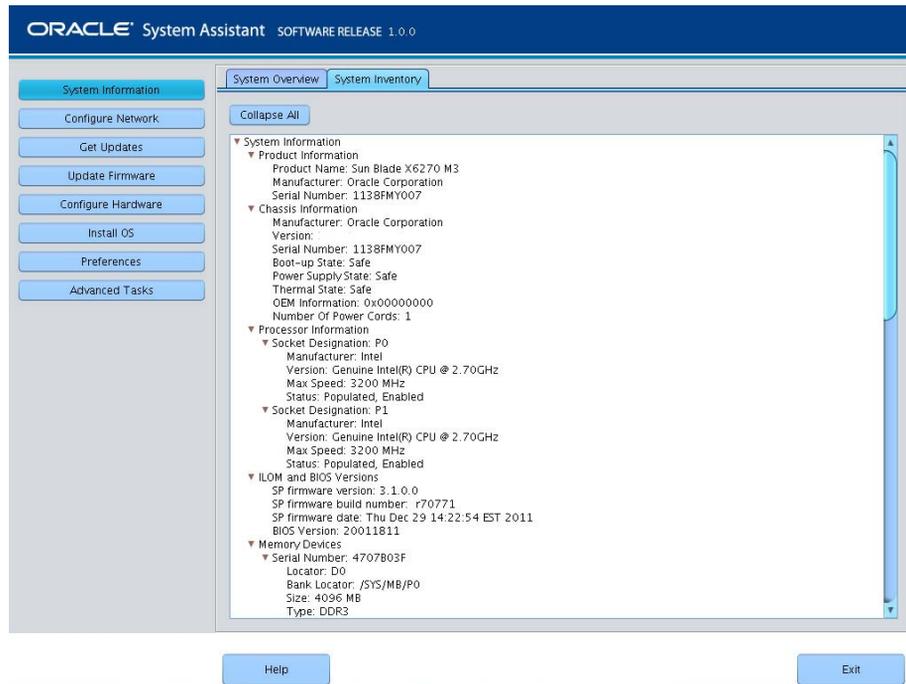
### 参考 関連情報

- 33 ページの「Oracle System Assistant の概要」

## ▼ システムの目録の表示

Oracle System Assistant を使用してシステムの目録情報を表示するには:

- 1 「**System Information**」 タスクボタンをクリックします。  
システムに関する情報を含む、「System Overview」画面が表示されます。
- 2 「**System Inventory**」 タブをクリックします。  
「System Inventory」画面が表示されます。



- 3 詳細情報を表示するには、エントリのいずれかをクリックします。
- 4 すべてのエントリの情報を表示するには、「**Expand all**」をクリックします。
- 5 すべてのシステム情報を閉じるには、「**Collapse all**」をクリックします。

### 参考 関連情報

- [33 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

## ▼ ネットワーク設定の構成

ネットワークの構成タスクでは、サーバーのネットワーク設定を構成できます。サーバーに含まれるツールおよびドライバが確実に最新のものになるようにするには、初期のサーバーインストールおよび設定時にネットワーク設定を構成します。

注 - Oracle System Assistant で更新の取得タスクを使用する前に、ネットワーク設定を構成する必要があります。

Oracle System Assistant を使用してネットワーク設定を構成するには:

始める前に 必要に応じて、ネームサーバーや静的IPなどのシステムのネットワーク情報を取得します。

- 1 「Configure Network」 タスクボタンをクリックします。  
「Configure Network」 画面が表示されます。

ORACLE System Assistant SOFTWARE RELEASE 1.0.0

System Information  
**Configure Network**  
 Get Updates  
 Update Firmware  
 Configure Hardware  
 Install OS  
 Preferences  
 Advanced Tasks

### CONFIGURE NETWORK

Enter your network configuration (interface and IP settings).

net0 - Intel Corporation I350 Gigabit Network Connection (rev 01)

Link Status: **Link Up**

MAC Address: 00:21:28:DE:7F:96

Disabled  
 **DHCP**  
 Static IP

Auto DNS via DHCP

IP Address: 10.134.211.181  
 Netmask: 255.255.255.0  
 Gateway: 10.134.211.254

Nameserver: 52.130.35.249, 41.192.135.82, 132 \* Required for Get Updates  
 Search Domains: us.oracle.com

HTTP Proxy Configuration  
 Proxy Host:  
 Proxy Port:

Apply Network Settings

Help Exit

- 2 構成するネットワークデバイスを選択します。  
ドロップダウンリストで、サーバーに表示されるデバイスを特定します。
- 3 ネットワークアドレス設定を構成します。  
次の方法のいずれかを選択して、サーバーの IP アドレスを特定します:
  - **Disabled:** このデバイスのネットワークアクセスを許可しません。
  - **DHCP:** 動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を使用して IP アドレスを自動的にサーバーに割り当てます。このオプションが選択されているときに、「Auto DNS via DHCP」オプションを選択すると、ネームサーバーの IP アドレスおよび検索ドメインを自動的に割り当てることができます。「Auto DNS via DHCP」オプションを選択しない場合は、次の情報も指定する必要があります:
    - ネームサーバーの IP アドレス
    - (オプション) 検索ドメイン
  - **Static:** 固定 IP アドレスをサーバーに割り当てます。次の情報を指定する必要があります:
    - サーバーの IP アドレス
    - ネットマスク
    - ゲートウェイ
  - **HTTP Proxy Configuration:** プロキシサーバーを使用する場合に、このオプションを選択します。次の情報を指定する必要があります:
    - プロキシホスト
    - プロキシポート
- 4 「Apply Network Settings」 ボタンをクリックします。  
ネットワーク設定を適用し、その他のすべてのインタフェースを無効にするかどうかの確認を求めるプロンプトが表示されます。
- 5 確認ダイアログボックスで、「Yes」をクリックして続行します。

#### 参考 関連情報

- [33 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

## ▼ プラットフォームソフトウェアリリースの更新の取得

Oracle System Assistant (OSA) では、プラットフォームソフトウェアの更新をダウンロードできます。更新されるコンポーネントには、ファームウェア、ドライバ、およびツールが含まれます。OSA を使用すると、ダウンロードサイトからファーム

ウェアおよびソフトウェアパッケージをダウンロードして展開したり、ツールとドライバの CD/DVD または ISO イメージを使用したりする必要がなくなります。

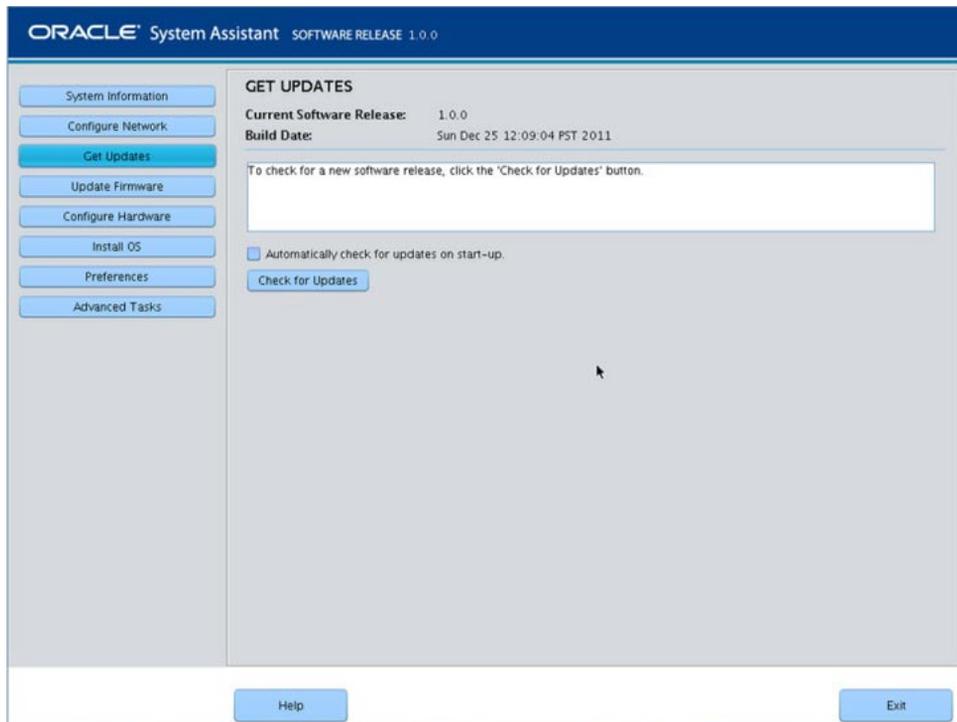
OSA を更新するには、次の手順を使用します。

始める前に 次のことを確認してください。

- プラットフォームソフトウェアリリースのダウンロードを有効にするために、サーバーから外部の Web にアクセスできる。
- 資格が構成されている。46 ページの「Oracle System Assistant の更新を有効にするように MOS を構成する」を参照してください。

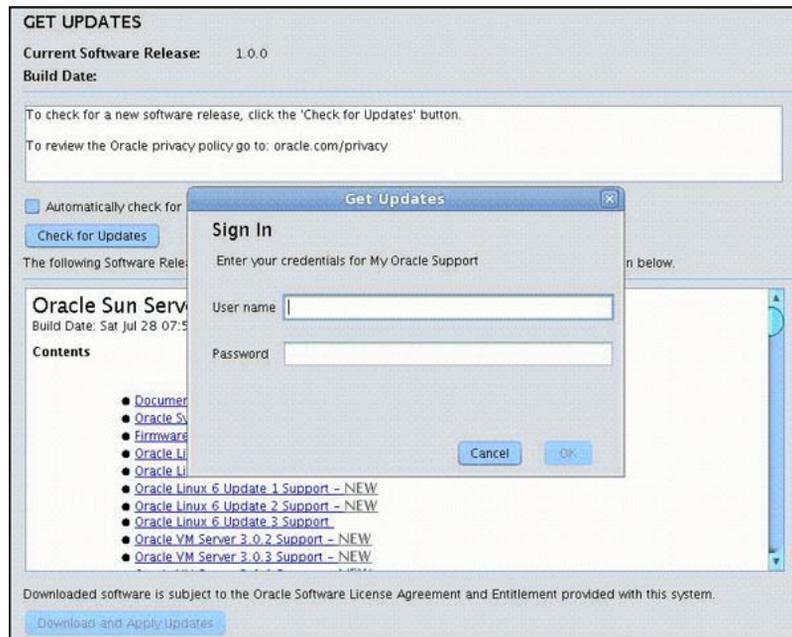
新規 Oracle System Assistant リリースに更新するには:

- 1 「Get Updates」をクリックします。  
「Get Updates」画面が表示されます。



注-システムが起動するたびに自動的に更新をチェックするには、このチェックボックスをクリックします。

- 2 新しいソフトウェアリリースがないかチェックするには、「**Check for Updates**」ボタンをクリックします。  
更新が利用可能な場合は、更新の ReadMe ファイル(リリースノート)が表示されます。
- 3 更新を取得するには、「**Download and Apply Updates**」ボタンをクリックします。  
「Get Updates Sign-In」画面が表示されます。
- 4 MOS 資格(ユーザー名とパスワード)を入力します。



注 - サーバーには MOS でのダウンロード資格が必要です。Oracle System Assistant が資格を確認できないためにサインインプロセスが停止した場合は、Oracle System Assistant の更新を有効にするように MOS を構成する必要があります。[46 ページ](#)の「Oracle System Assistant の更新を有効にするように MOS を構成する」を参照してください。

更新がダウンロードされると、システムがレポートします。

#### 参考 関連情報

- [33 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

## ▼ Oracle System Assistant の更新を有効にするように MOS を構成する

サーバーがプラットフォームソフトウェアリリースの更新をダウンロードできるようにする前に、Oracle System Assistant はまずそのサーバーが My Oracle Support (MOS) でのダウンロード資格を持っていることを確認します。サーバーのシリアル番号に有効な MOS CSI (Customer Support Identifier) との関連付けがある場合、そのサーバーには資格があります。更新の取得タスクを試行する前にこの関連付けが行われなかった場合、Oracle System Assistant は資格を確認できず、更新プロセスは「Get Updates Sign-in」画面で停止して、サーバーは MOS にアクセスできません。

MOS でサーバーと CSI を関連付けるには、この手順を使用します。

始める前に 次のいずれかを持っている必要があります。

- CSI (Customer Support Identifier)。これは Oracle Premier Support for Systems の購入確認書に印刷されているか、サーバーの保証契約書で入手できます。
- サーバーのシリアル番号。これは Oracle System Assistant の「System Overview」タブで入手できます。

1 次で MOS にログインします。

<http://support.oracle.com>

2 「More」ドロップダウンリストから「Settings」タブを選択します。

3 左側のペインの「Personal」の下で、「Accounts/Privileges」をクリックします。

4 「Support Identifiers」ウィンドウで「Request Access」ボタンをクリックします。「Request Access to a Support Identifier」ウィンドウが表示されます。

5 次のいずれかを実行します。

- CSI を持っている場合は、それを「Request Access」タブの「Support Identifier」フィールドに入力して、「Request Access」をクリックします。



承認が必要となる場合がありますが、一度アクセスが許可されると、CSIに関連付けられたすべてのサーバーで Oracle System Assistant の更新の取得機能が有効になります。

注 - CSI アクセスを取得できない場合、または Oracle System Assistant を使用してサーバーの更新をダウンロードできない場合は、Oracle サポートにお問い合わせください。

- サーバーのシリアル番号はあるが、CSI を持っていない場合は、次を実行します。
  - a. 「Find a Support Identifier」タブをクリックします。

The screenshot shows a window titled "Request Access to a Support Identifier". It has two tabs: "Request Access" and "Find a Support Identifier". The "Find a Support Identifier" tab is selected. The window contains the following elements:

- Text: "Find Support Identifier by Serial Number and Organization"
- Input field: "\* System Serial Number" (with a search icon)
- Input field: "\* Organization" (with a search icon)
- Button: "Search"
- Table with columns: "Support Identifier", "Organization", "Status", "Serial Numbers"
- Button: "Request Access" (bottom right)

- b. 「System Serial Number」フィールドにサーバーのシリアル番号を入力します。
- c. 「Organization」フィールドに組織名を入力します。
- d. 「Search」をクリックします。
- e. 検索結果の表内の CSI を強調表示して、「Request Access」をクリックします。

注 - CSI アクセスを取得できない場合、または Oracle System Assistant を使用してサーバーの更新をダウンロードできない場合は、Oracle サポートにお問い合わせください。

## ▼ ファームウェアの更新

ファームウェアの更新タスクでは、システム上のシステムファームウェア (BIOS と Oracle ILOM SP) およびデバイスファームウェアを更新できます。

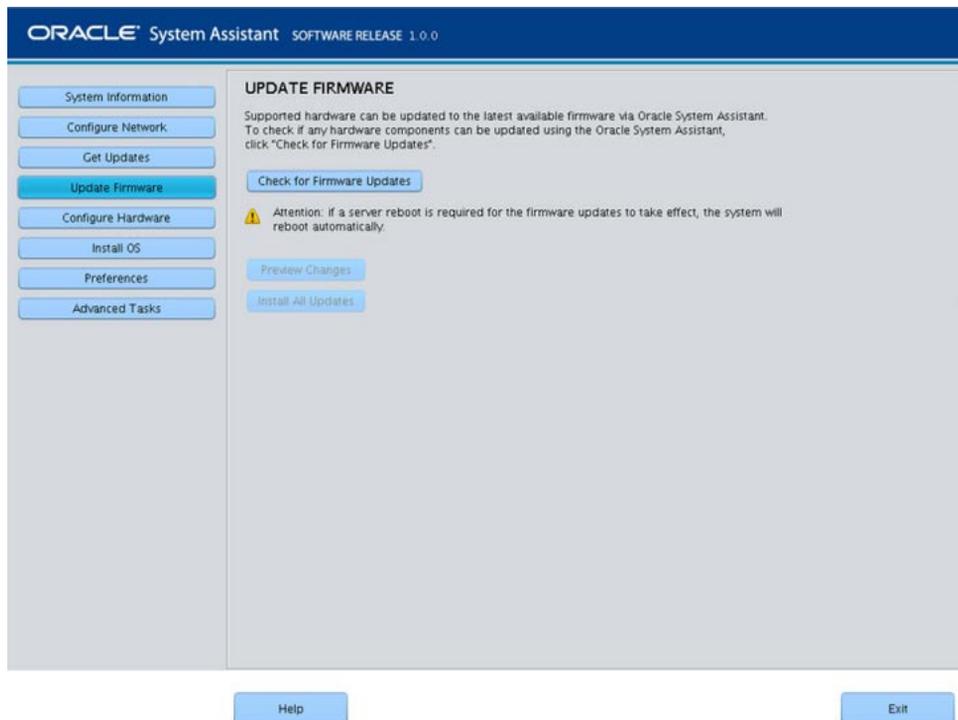
ファームウェアの更新タスクでは、最新のプラットフォームソフトウェアリリースと現在インストールされているサーバーシステムおよびデバイスファームウェアで、ファームウェアのバージョンを比較することによって、更新が利用可能かどうか判断されます。変更内容を確認し、バージョン番号を比較してから、更新するコンポーネントを手動で選択することも、すべてのファームウェアコンポーネントを更新するように選択することもできます。すべてのファームウェアコンポーネントの更新を選択することを強くお勧めします。

一部のファームウェアコンポーネントでは、ファームウェア更新の直後にサーバーをリブートする必要があります。必要な場合、更新プロセスが終了すると自動的にサーバーがリブートすることもあります。

Oracle System Assistant を使用してファームウェアを更新するには:

始める前に 更新の取得タスクを使用して、ファームウェアを更新する前に Oracle から最新のプラットフォームソフトウェアリリースをダウンロードします。

- 1 「Update Firmware」をクリックします。  
「Update Firmware」画面が表示されます。



- 2 **Oracle System Assistant** を使用して更新できるハードウェアコンポーネントを表示するには、「**Check for Firmware Updates**」ボタンをクリックします。  
ファームウェアの更新チェックが実行され、「Firmware Update Check」進捗状況ボックスが表示されます。
- 3 (オプション) 「**Preview Changes**」ボタンをクリックします。  
「Firmware Update Install Changes」ダイアログが表示されます。
- 4 更新が必要なファームウェアコンポーネントのリストを表示し、現在のバージョン番号と利用可能なバージョン番号を比較します。  
「Component Name」、「Device Name」、「Firmware/BIOS Installed」、および「Firmware/BIOS Available」も確認できます。
- 5 続行するには、次のいずれかを選択します。
  - ファームウェアの更新を選択的に実行するには、インストールするファームウェアの更新を選択してから、「**Install Updates**」ボタンをクリックします。

---

注-最新のコンポーネントは更新できないため、選択もできません。

---

- ファームウェアの更新をすべてインストールするには、「**Install All Updates**」ボタンをクリックします。
- 6 ファームウェアが更新されるまで待機します。  
ファームウェアの更新の進捗バーが表示されます。



---

注意-ファームウェアの更新を有効にするためにサーバーのリブートが必要な場合は、システムが自動的にリブートします。

---

#### 参考 関連情報

- [33 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

## ▼ RAID 用のハードウェア構成

RAID の構成タスクでは、サーバーに対して RAID-0 または RAID-1 を構成できます。

---

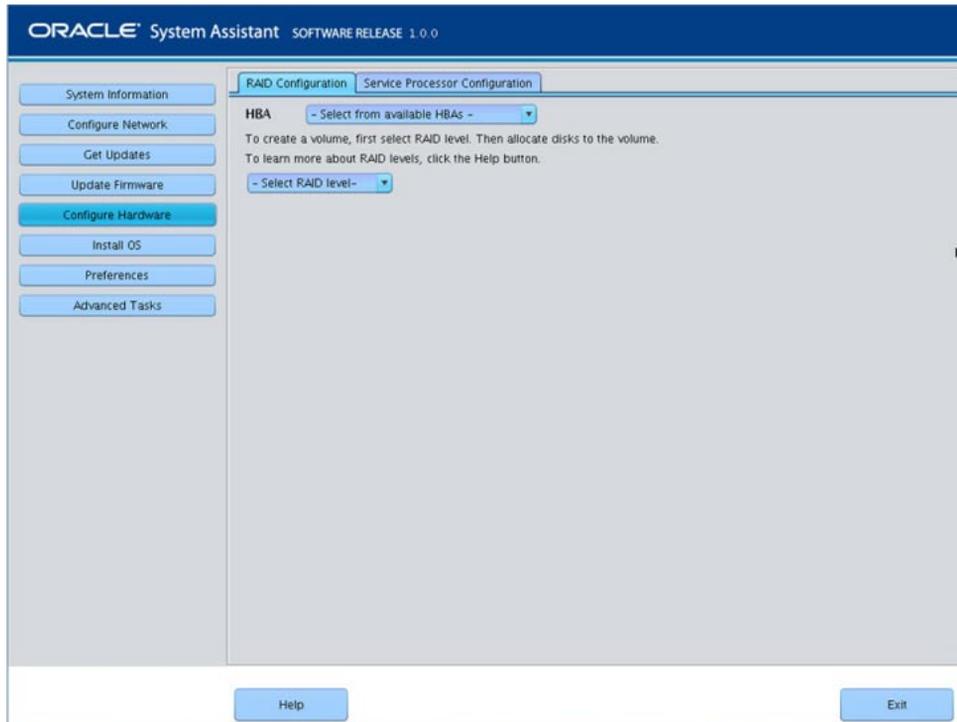
注-このタスクは、オペレーティングシステムをインストールする前に実行します。

---

RAID ボリュームを構成するときは、ディスクが同じサイズ (276G バイトなど)、同じタイプ (SAS または SATA など) でなければならないことに注意してください。

Oracle System Assistant を使用して RAID を構成するには:

- 1 「Configure Hardware」 をクリックし、「RAID Configuration」 タブをクリックします。「RAID Configuration」 画面が表示されます。



- 2 HBA リストボックスで、ホストバスアダプタ (HBA) ディスクコントローラが正しいことを検証します。  
たとえば、サーバーは、SAS6-REM-Z Express Module または SGX-SAS6-R-REM-Z Express Module をサポートします (ブート可能なボリュームを作成する場合)。これらの HBA の詳細については、『インストール』の「オペレーティングシステムをインストールするストレージドライブの準備」を参照してください。
- 3 「Select RAID Level」 リストボックスで、RAID-0 または RAID-1 のいずれかの RAID レベルを選択します。

注 - Oracle System Assistant を使用する場合は、この 2 つの RAID レベルのみを設定できます。その他の RAID レベルを設定するには、HBA BIOS 設定ユーティリティを使用します。

1 つのアレイで許可されるディスクの数は、コントローラによって異なります。

- SGX-SAS6-R-REM-Z HBA は、1 台以上のディスクが必要であり、WebBIOS を使用して構成されます。
  - SGS-SAS6-REM-Z HBA は、2 台以上のディスクが必要であり、構成ユーティリティを使用して構成されます。
- 4 「Available Disks」テーブルで、RAID 構成に追加するストレージドライブを選択します。
- ボリュームがすでにディスク上に存在する場合は、「Created Volumes」セクションに表示されます。必要に応じて、既存のボリュームを強調表示して削除します。

---

注- ディスクは、同じサイズおよびタイプ (SAS または SATA) でなければなりません。

---

- 5 「Create Volume」ボタンをクリックします。  
「Creating RAID Volume」情報ボックスが表示されます。
- 6 RAID ボリュームが作成されるまで待機します。  
「Volume Details」ダイアログボックスが表示されます。強調表示されているボリュームに関する情報が表示されます。
- 7 「Volume Details」ダイアログボックスで、「Volume Name」ボックスにボリューム名を入力してから、「Save Changes」ボタンをクリックします。  
「RAID Configuration」画面が表示されます。これにより、RAID の構成が完了します。
- 8 RAID ボリュームを削除する場合、またはブート可能なボリュームを構成する場合は、次のステップに進みます。
- RAID ボリュームを削除する場合は、「RAID Configuration」画面でボリュームを選択してから、「Delete Volume」ボタンをクリックします。  
この操作によって、既存のボリューム上のデータがすべて削除されます。
  - ブート可能なボリュームを作成する場合は、「RAID Configuration」画面で RAID ボリュームを選択してから、「Set Volume for Boot」ボタンをクリックします。  
「RAID Configuration」画面に、ブート可能なボリュームが表示されます。RAID コントローラからブートするように選択した場合、今後はこのボリュームからサーバーがブートします。

---

注- 使用しているディスクコントローラで、この機能がサポートされていないことがあります。

---

- 9 「Save Settings」をクリックします。

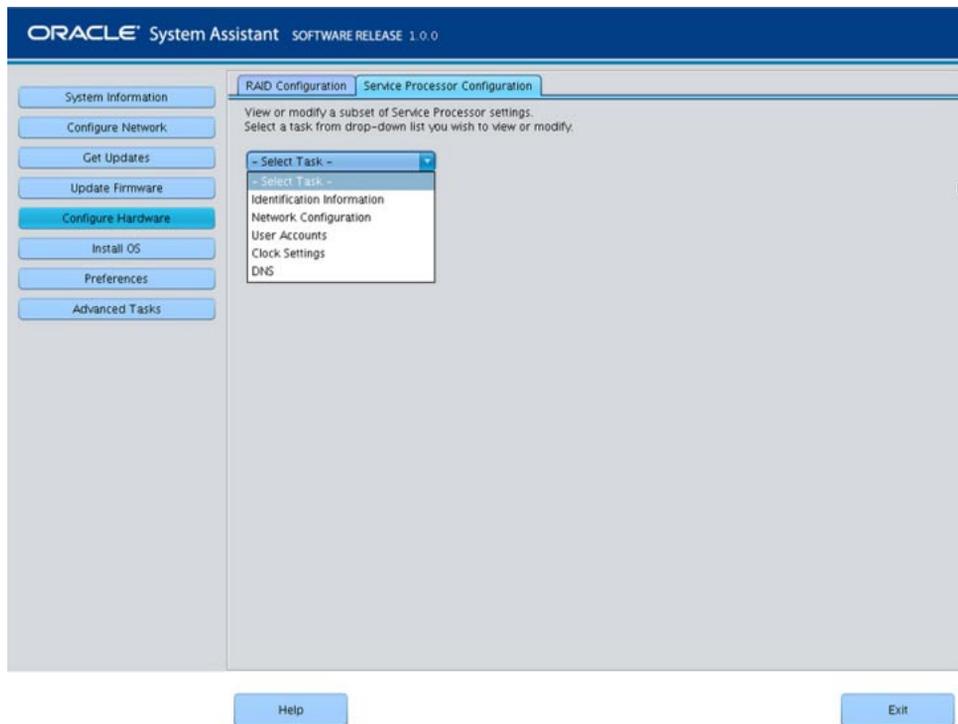
参考 関連情報

- 33 ページの「Oracle System Assistant の概要」
- 145 ページの「RAID の構成」

## ▼ Oracle ILOM SP 用のハードウェア構成

Oracle System Assistant を使用して Oracle ILOM サービスプロセッサ (SP) 設定のサブセットを表示または変更するには:

- 1 「Configure Hardware」をクリックし、「Service Processor Configuration」タブをクリックします。  
「Server Processor Configuration」画面が表示されます。



- 2 「Select Task」ドロップダウンリストから、タスクを選択します。
  - **Identification Information**— ステップ 3 を参照してください。
  - **Network Configuration**— ステップ 4 を参照してください。
  - **User Accounts**— ステップ 5 を参照してください。
  - **Clock Settings**— ステップ 6 を参照してください。
  - **DNS Settings**— ステップ 7 を参照してください。

### 3 識別情報を表示または変更するには、次の情報を指定します:

#### a. SP Hostname

Oracle ILOM ホスト名を入力します。

ホスト名はアルファベットで始める必要があり、長さは60文字以下、使用できる文字は英数字、ハイフン、アンダースコアのみです。

#### b. System Identifier

システムを識別する名前を入力します。引用符以外のすべての文字を使用できません。

#### c. SP System Contact

連絡先の個人の名前を入力します。引用符以外のすべての文字を使用できます。

#### d. SP System Location

システムの物理的な場所の名前を入力します。引用符以外のすべての文字を使用できます。

ORACLE System Assistant SOFTWARE RELEASE 1.0.0

System Information  
Configure Network  
Get Updates  
Update Firmware  
Configure Hardware  
Install OS  
Preferences  
Advanced Tasks

RAID Configuration Service Processor Configuration

View or modify a subset of Service Processor settings.  
Select a task from drop-down list you wish to view or modify.

Identification Information

Identification panel helps to view or modify identification settings for the Service Processor.  
Click Save Settings for the modified values to be applied.

SP Hostname:

SP System Identifier:

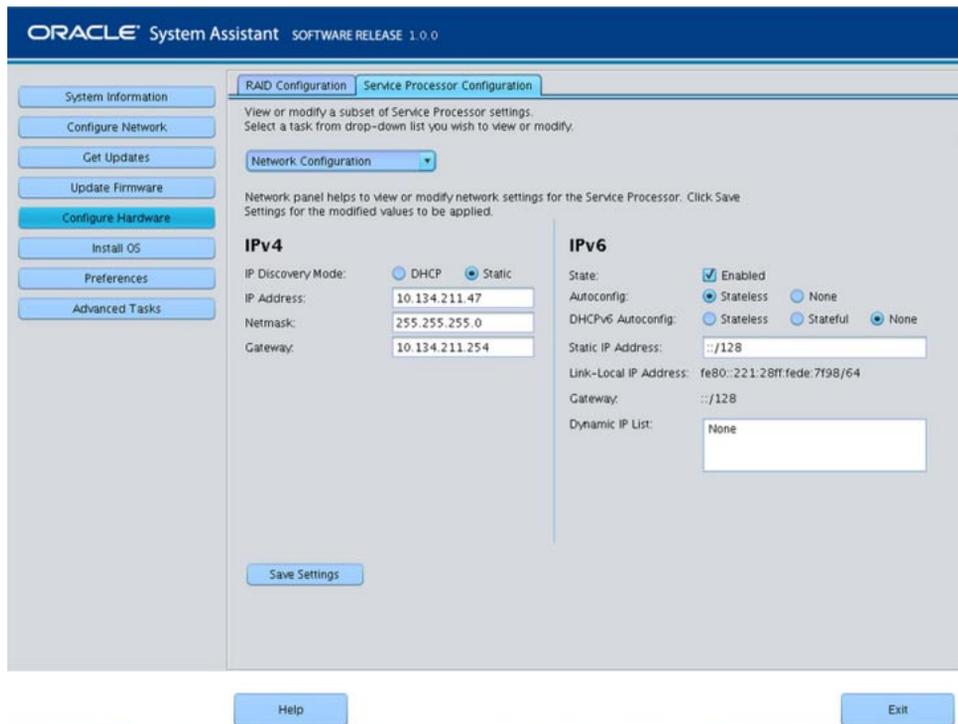
SP System Contact:

SP System Location:

Save Settings

Help Exit

- 4 ネットワーク構成情報を表示または変更するには、IPv4の次の情報を指定するか、必要に応じてIPv6を指定します。
  - a. **IP Discovery Mode**  
動的ホスト制御プロトコル (DHCP) と静的 IP の割り当てのどちらをシステムで使用するのを選択します。
  - b. **IP Address**  
静的 IP の割り当てを選択した場合は、SP の IP アドレスを指定します。
  - c. **ネットマスク**  
静的割り当てを選択した場合は、SP のネットマスクを指定します。
  - d. **ゲートウェイ**  
静的割り当てを選択した場合は、SP のゲートウェイアドレスを指定します。



---

5 ユーザーアカウントを表示または変更するには、次の情報を指定します。

**a. Add User**

新しいユーザーアカウントを追加する場合にクリックします。一意のユーザー名を入力し、役割(「Basic」または「Advanced」)をドロップダウンリストから選択し、特権を設定し、パスワードを入力します。

---

注-ユーザーに特定の特権(事前設定なし)を選択する場合は、「Advanced」を選択します。

---

**b. Modify user**

リスト内のユーザーアカウントを強調表示し、「Modify User」をクリックして、ユーザーアカウント設定を確認または変更します。

**c. Delete User**

リスト内のユーザーアカウントを強調表示し、「Delete User」をクリックして、ユーザーアカウントを削除します。

6 クロック設定を表示または変更するには、次の情報を指定します。

**a. Date**

ドロップダウンリストを使用して、月、日、年を選択します。

**b. Time**

ドロップダウンリストを使用して、24時間形式で時間を設定します。

**c. Timezone**

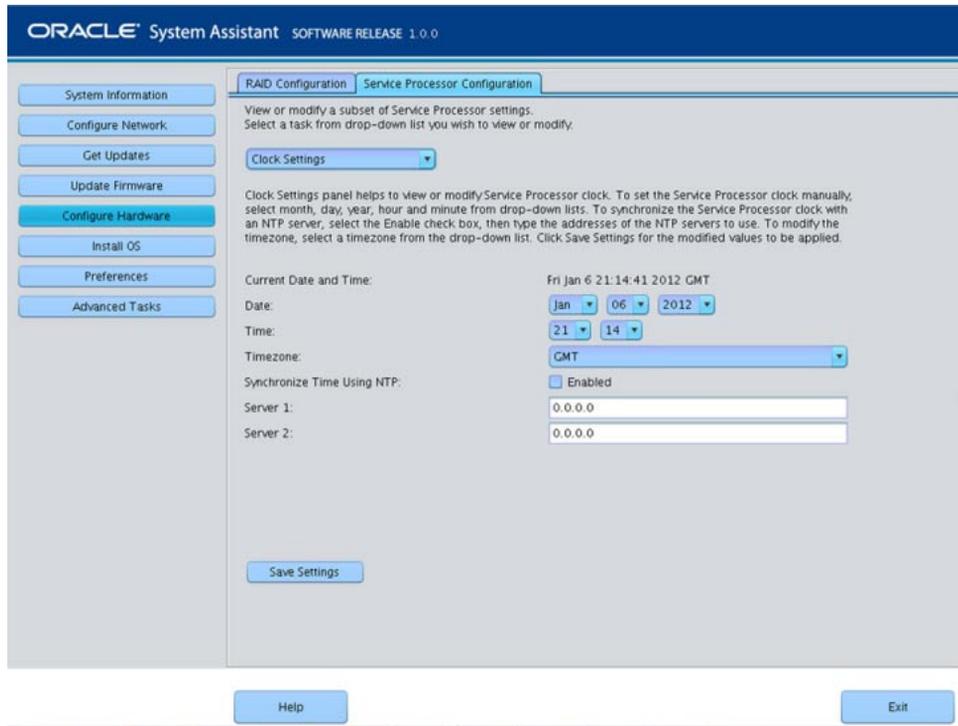
ドロップダウンリストを使用してタイムゾーンを選択します。

**d. Synchronize Time Using NTP**

チェックボックスをクリックすると、時間情報プロトコル(NTP)サーバーとの同期が有効になります。

**e. Server 1、Server 2**

NTPサーバーに関する情報を入力します。



7 DNS 設定を表示または変更するには、次の情報を指定します。

a. Auto DNS via DHCP

「Enabled」または「Disabled」にチェックマークを付けます。

b. DNS Name Server

これは、自動 DNS が無効になっている場合にのみ編集します。

優先度順に最大 3 つのネームサーバーの IP アドレスをコンマで区切って入力します。たとえば、1.2.3.4,5.6.7.8。

c. DNS Search Path

これは、自動 DNS が無効になっている場合にのみ編集します。

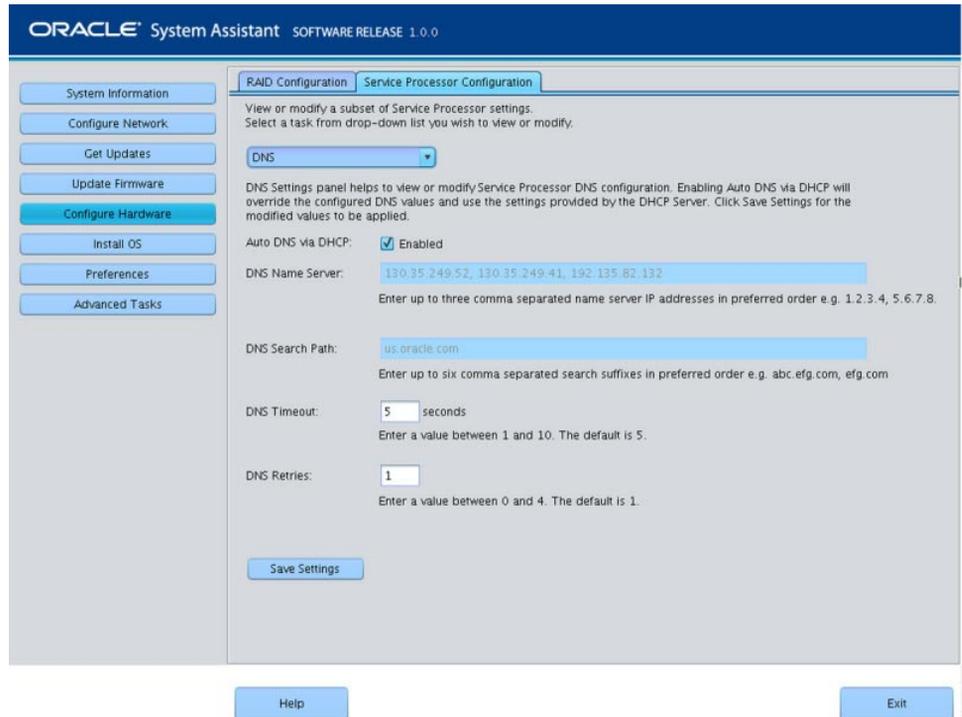
優先度順に最大 6 つの検索接尾辞をコンマで区切って入力します。たとえば、abc.efg.com,efg.com。

d. DNS Timeout

1 - 10 の値を入力します。デフォルトは 5 です。

### e. DNS Retries

0-4 の値を入力します。デフォルトは1です。



- 8 「Save Settings」をクリックします。

### 参考 関連情報

- 33 ページの「Oracle System Assistant の概要」
- Oracle ILOM のドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>)

## ▼ オペレーティングシステムのインストール

注 - Oracle System Assistant の OS のインストールタスクは、**Windows** および **Linux** オペレーティングシステムと **Oracle VM** ソフトウェアのサポート対象バージョンでのみ利用できます。

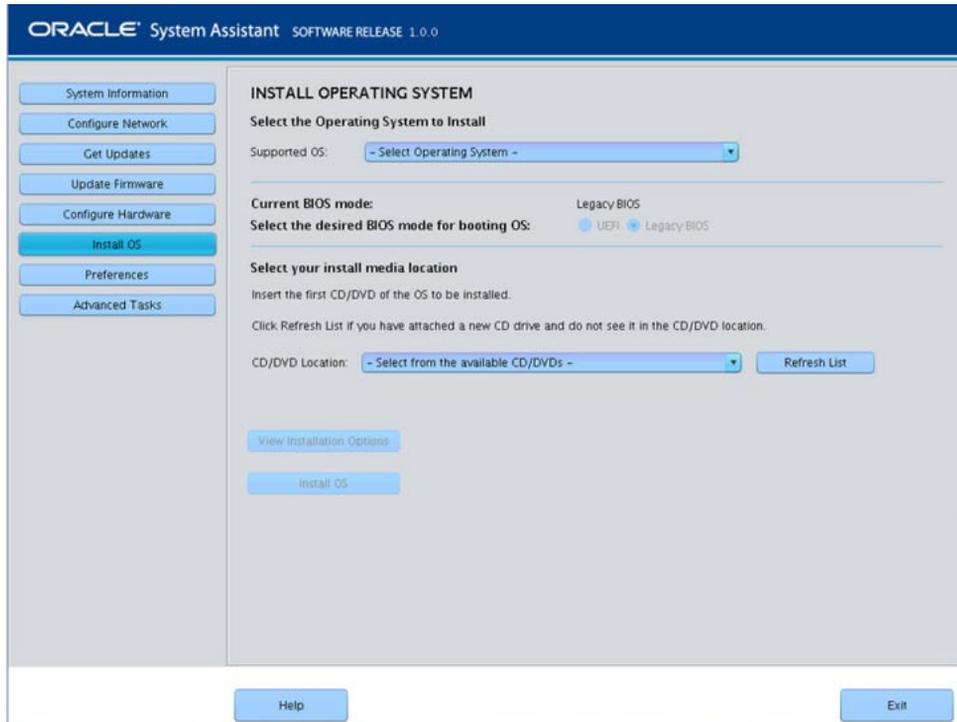
始める前に オペレーティングシステム (OS) メディアおよびライセンスを提供する必要があります。

この手順を始める前に、次のタスクを実行します。

- 最新のツールおよびドライバを入手します。43 ページの「プラットフォームソフトウェアリリースの更新の取得」を参照してください。
- ファームウェアを更新します。47 ページの「ファームウェアの更新」を参照してください。
- RAID を構成します。49 ページの「RAID 用のハードウェア構成」を参照してください。

Oracle System Assistant を使用してブレードにサポート対象のオペレーティングシステムをインストールするには:

- 1 「Install OS」 タスクボタンをクリックします。  
「Install Operating System」 画面が表示されます。



- 2 「Supported OS」 ドロップダウンリストから、インストールするオペレーティングシステムを選択します。

このリストには、サポートされているオペレーティングシステムのうち、OS のインストールタスクを使用できるものだけが含まれます。

- 3 画面の「**Select the desired BIOS mode for booting OS**」部分で、OSのインストールで使用するBIOSモード(「UEFI」または「レガシーBIOS」)を選択します。

BIOSモードの選択は、UEFIモードでのブートがターゲットOSでサポートされている場合にのみ可能です。

157 ページの「[レガシーおよびUEFI BIOSの選択](#)」を参照してください。

- 4 画面の「**Select your install media location**」部分で、インストールメディアの場所を指定します。

これはOS配布メディアの場所です。オプションはCD/DVDデバイスです。「Refresh」ボタンをクリックすると、デバイスのリストが更新されます。

---

ヒント-KVMを使用してリモートからOSをインストールする場合は、KVMメニューオプション「Devices」を選択し、「CD-ROM」をクリックすると、リモートのCD-ROMが表示されます。次に、「Oracle System Assistant」画面で、「Refresh」をクリックし、CD/DVDの場所を選択します。

---

- 5 画面の「**Select the boot disk**」部分で、「**Boot disk**」ドロップダウンリストからブートデバイスを選択します。

これは、OSがインストールされるデバイスです。

Linuxディストリビューションを選択した場合は、画面の「Select the boot disk」部分が表示されます。Windowsディストリビューションを選択した場合は、画面の「Select the boot disk」部分は表示されません。



---

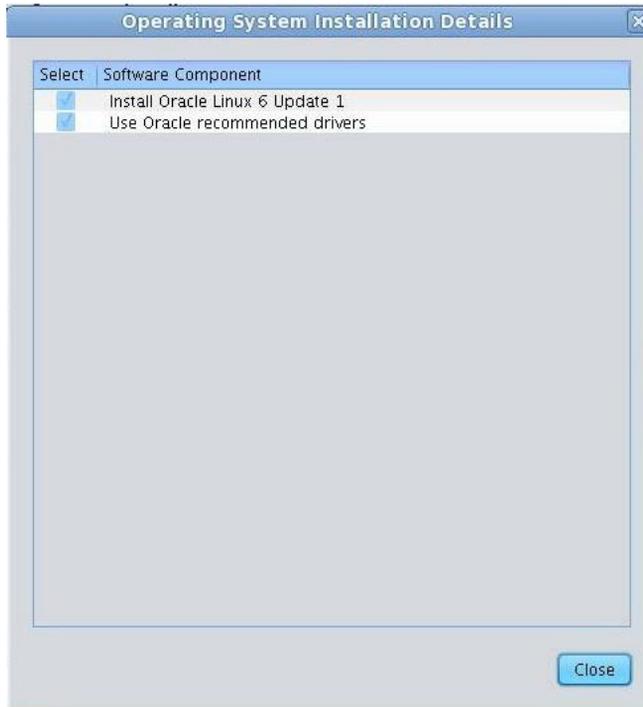
注意-データが失われます。オペレーティングシステムのインストールによって、ディスクの内容が消去されます。選択したディスク上のデータはすべて消去されます。

---

- 6 ブートデバイスの選択を確認するには、「Yes」をクリックします。

- 7 「View Installation」 オプションをクリックします。

「Operating System Installation Details」 ダイアログが表示されます。OS およびドライバソフトウェアコンポーネントが一覧表示されます。インストールしないコンポーネントの選択を解除します。ほとんどのオペレーティングシステムでは、一覧表示されているコンポーネントはすべて必要です。



- 8 「Close」 をクリックして、ダイアログを終了します。  
「Install Operating System」 画面が表示されます。
- 9 「Install OS」 ボタンをクリックします。
- 10 プロセスに従って、プロセスが終了するまでプロンプトに回答します。  
インストールが完了すると、サーバーがブートします。

参考 関連情報

- [33 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)
- [157 ページの「UEFI BIOS ブートモードの構成」](#)
- 『インストール』の「オペレーティングシステムをインストールするストレージドライブの準備」

- 『Netra Blade X3-2B Oracle VM オペレーティングシステムインストールガイド』
- 『Netra Blade X3-2B ESX ソフトウェアインストールガイド』
- 『Netra Blade X3-2B Linux オペレーティングシステムインストールガイド』
- 『Netra Blade X3-2B Windows オペレーティングシステムインストールガイド』

## ▼ Oracle System Assistant を無効にするための設定の変更

すでに Oracle System Assistant でブートした場合は、Oracle System Assistant を無効にするタスクを使用して、Oracle System Assistant の USB デバイスをオフライン状態にし、サーバーオペレーティングシステム (OS) から利用できないようにすることができます。これにより、誤ってデバイスを消去および上書きしてしまうことが回避されます。デバイスをオフラインにするとブート可能ではなくなり、Oracle System Assistant デバイ스에搭載されたツール、ドライバ、およびファイルにはアクセスできなくなります。

---

注 - Oracle System Assistant を再度有効にする方法については、[76 ページの「BIOS からの Oracle System Assistant の有効化」](#)を参照してください。

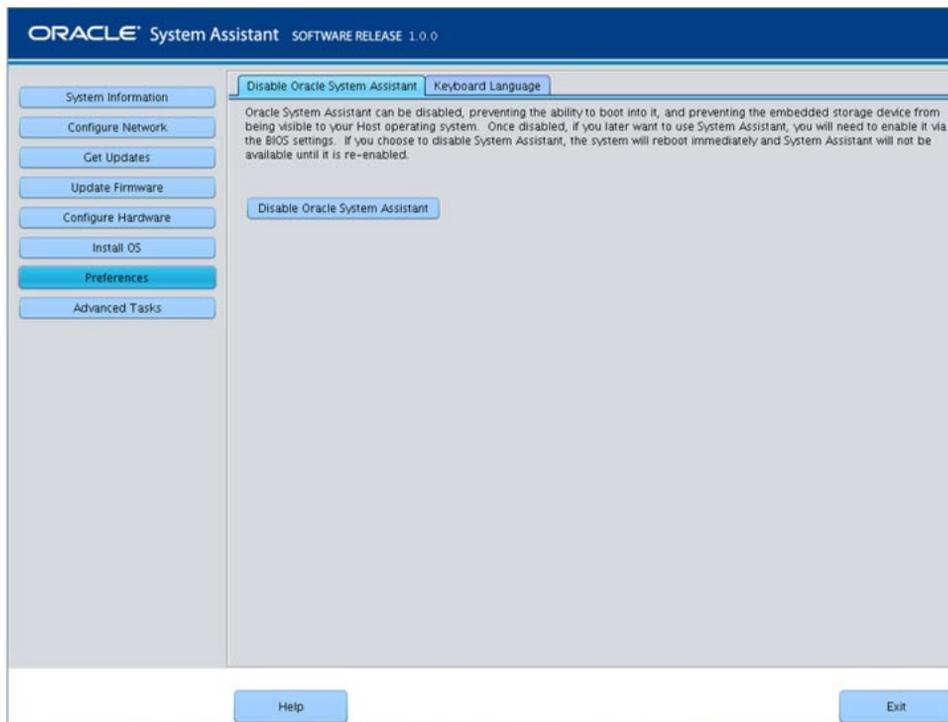
---

デバイスをオンライン状態にする (OS で使用可能にする) には、サーバーの BIOS 設定ユーティリティの「Boot」メニューで「Configure OSA」設定を使用します。

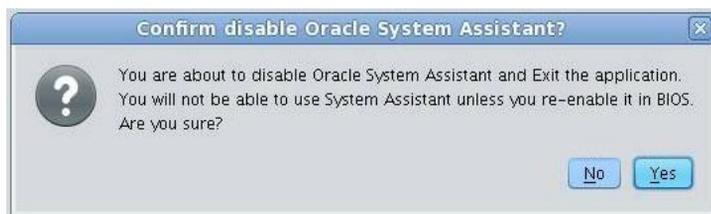
システムを Oracle System Assistant でブートしたときに Oracle System Assistant を無効にするには:

- 1 「Preferences」をクリックしてから、「Disable Oracle System Assistant」タブをクリックします。

「Disable Oracle System Assistant」画面が表示されます。



- 2 「Disable Oracle System Assistant」をクリックします。
- 3 「Yes」をクリックして確認します。




---

注-システムがリブートします。

---

## 参考 関連情報

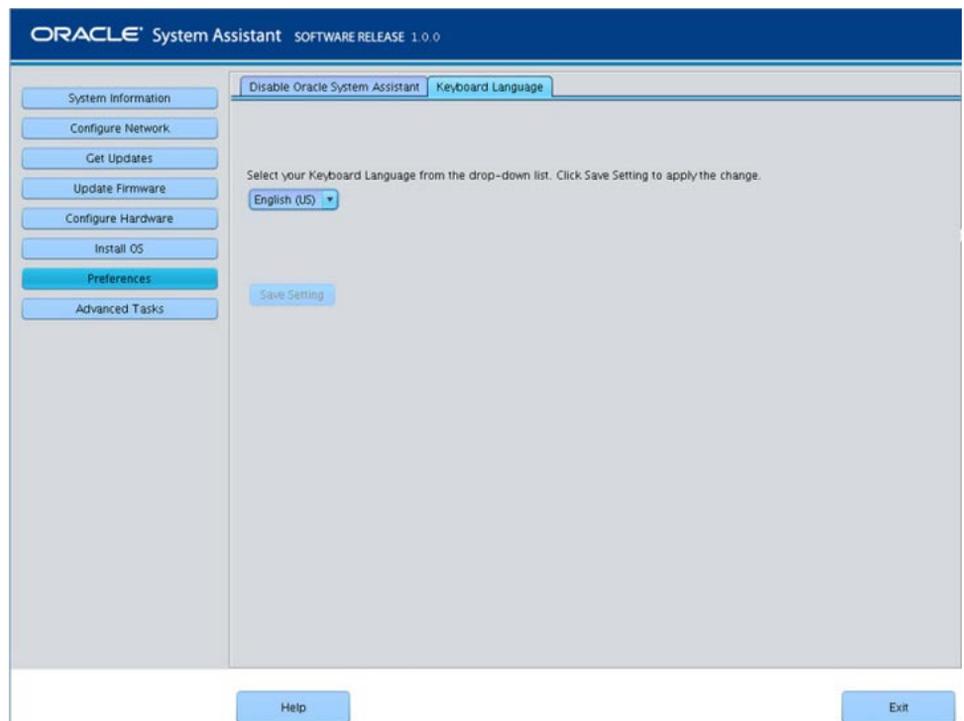
- 33 ページの「Oracle System Assistant の概要」
- 157 ページの「UEFI BIOS ブートモードの構成」
- 76 ページの「BIOS からの Oracle System Assistant の有効化」

## ▼ キーボード言語設定の変更

キーボード言語タスクでは、Oracle System Assistant のキーボード言語を選択できます。

Oracle System Assistant を使用してキーボード言語を設定するには:

- 1 「Preferences」をクリックしてから、「Keyboard Language」タブをクリックします。「Keyboard Language」画面が表示されます。



- 2 ドロップダウンリストから、キーボード言語を選択します。オプションとして、英語 (US)、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、スウェーデン語があります。

- 3 「Save Settings」をクリックします。

参考 関連情報

- [33 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

## ▼ Oracle System Assistant シェルにアクセスするための高度なタスクの実行

このタスクは、Oracle System Assistant ファイルシステムへの Linux root レベルのアクセスを提供します。コマンド行シェルを使用して、Oracle System Assistant の内蔵 USB デバイスに搭載されているツールやファイルにアクセスします。

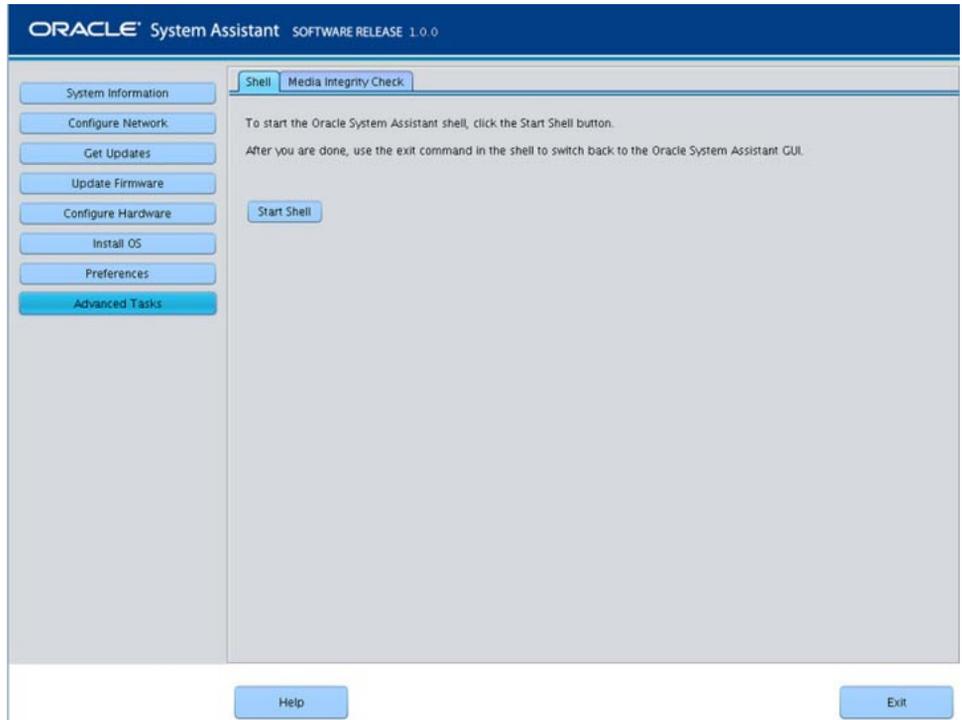


注意 - データや Oracle System Assistant の機能が失われる可能性があります。一般に、上級ユーザーまたはシステム管理者のみが Linux シェルにアクセスして使用することが許可されます。

---

Oracle System Assistant を使用してコマンド行シェルにアクセスするには:

- 1 「Advanced Tasks」をクリックしてから、「Shell」タブをクリックします。「Shell」画面が表示されます。



- 2 「Start Shell」ボタンをクリックします。Oracle System Assistant のコマンド行シェルウィンドウが表示されます。

```
Oracle System Assistant
Enterprise Linux Command Line Environment
You are now in the shell with full root-level access!
**Caution**: Potential for loss of data or loss of server system functionality. Root-level access is for advanced users or system administrator only. To quit the shell and return to the Oracle System Assistant application, type 'exit' and press Enter.
-bash-4.1# _
```

- 3 シェルを終了して Oracle System Assistant ユーザーインターフェイスに戻るには、シェルコマンド行プロンプトで「exit」と入力します。

## 参考 関連情報

- 33 ページの「Oracle System Assistant の概要」

## ▼ メディアの整合性をチェックするための高度なタスクの実行

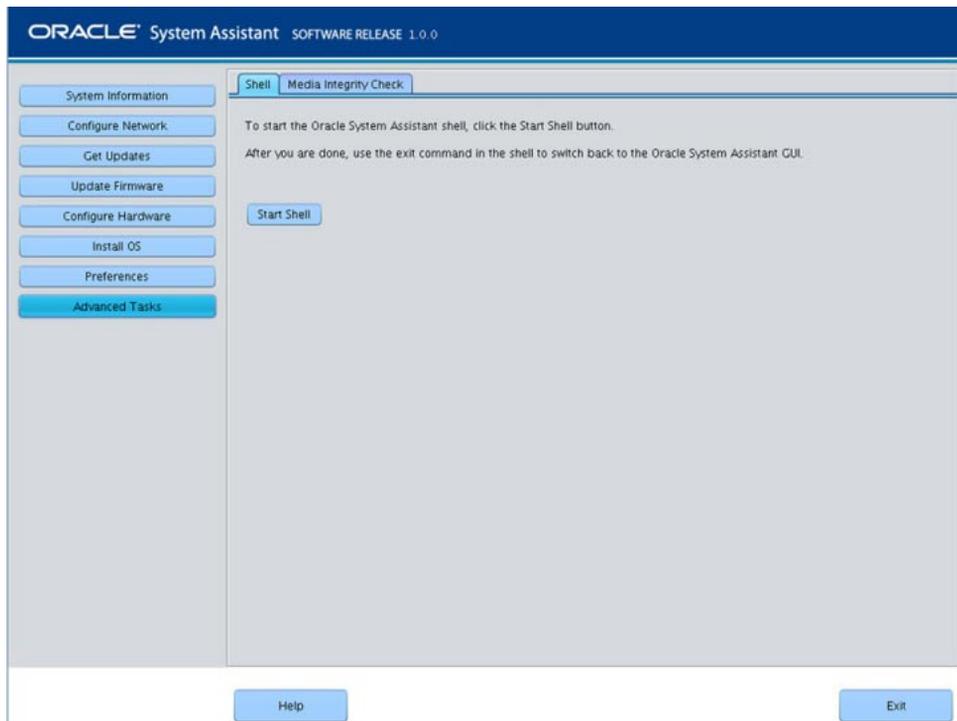
メディアの整合性のチェックタスクは、内部の Oracle System Assistant メディアファイルの整合性を検証し、レポートを表示します。このタスクは、USB デバイスでエラーが発生したときや、Oracle サービス担当者からリクエストされたときに実行します。

使用しているバージョンの Oracle System Assistant が破損した場合は、My Oracle Support サイトからサーバーに対応した復旧 ISO イメージファイルをダウンロードします。詳細については、70 ページの「Oracle System Assistant ソフトウェアの復元」を参照してください。

Oracle System Assistant の USB メディアが正常に動作していることを検証するには:

- 1 「Advanced Tasks」をクリックしてから、「Media Integrity Check」タブをクリックします。

「Media Integrity Check」画面が表示されます。



## 2 「Check Integrity」 ボタンをクリックします。

Oracle System Assistant の内蔵 USB デバイスがテストされ、レポートが生成されます。テストでは推定実行時間が表示されます。テストはいつでも取り消すことができます。



### 参考 関連情報

- 33 ページの「Oracle System Assistant の概要」

## Oracle System Assistant の管理タスク

このセクションでは、Oracle System Assistant ソフトウェアを管理、トラブルシューティング、および復元する方法について説明します。

ここでは、次のトピックを取り上げます。

説明	リンク
Oracle System Assistant のインストールを チェックします。	68 ページの「Oracle System Assistant のトラブル シューティング」
Oracle System Assistant がサーバーにインス トールされていて、正常に動作しているかどう かを確認します。	68 ページの「Oracle System Assistant のインス トールの検証」
Oracle System Assistant を復元します。	70 ページの「Oracle System Assistant ソフト ウェアの復元」
Oracle System Assistant を有効または無効にし ます。	76 ページの「BIOS からの Oracle System Assistant の有効化」
Oracle System Assistant ファイルシステムをナビ ゲートします。	77 ページの「Oracle System Assistant ファイルシ ステムへのアクセス」
Oracle System Assistant の USB フラッシュドライ ブを Oracle VM 3.0、Oracle Solaris 10、または Linux オペレーティングシステムでマウントし ます。	78 ページの「Oracle System Assistant USB フ ラッシュドライブのマウント」

説明	リンク
Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブに搭載されているファームウェアおよびソフトウェアにアクセスします。	81 ページの「Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブ上のファームウェアとソフトウェアへのアクセス」

## Oracle System Assistant のトラブルシューティング

デフォルトでは、Oracle System Assistant は各サポート対象サーバーとともにインストールされます。Oracle System Assistant ソフトウェアはサーバーに事前にインストールされているため、ダウンロードする必要はありません。ただし、必要に応じて、復旧イメージをダウンロードできます。

注 - Oracle System Assistant は、初期インストール用のダウンロードとして使用できません。ただし、Oracle System Assistant イメージがサーバーにインストールされた場合は、復旧することができます。

- サーバー上のバージョンの Oracle System Assistant が破壊、消去、または上書きされた場合は、復旧 ISO イメージファイルを My Oracle Support の Web サイトからダウンロードしてから、Oracle System Assistant を内蔵 USB デバイスに復元する必要があります。詳細については、70 ページの「Oracle System Assistant ソフトウェアの復元」を参照してください。
- Oracle System Assistant をサーバー構成の一部から除外する場合は、次の方法のいずれかを選択して、使用しているサーバーに対応した最新の更新を取得します。My Oracle Support の Web サイト (<http://support.oracle.com>) にアクセスします。または、物理メディアのリクエストを提出できます。『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』を参照してください。

### ▼ Oracle System Assistant のインストールの検証

アクセスしようとしても Oracle System Assistant のタスク画面が表示されない場合は、68 ページの「Oracle System Assistant のインストールの検証」手順を実行します。Oracle System Assistant がサーバーにインストールされていて、正常に動作しているかどうかを確認するには、次の手順を使用します。

Netra Blade X3-2B は、Oracle System Assistant をデフォルトオプションとしてサポートし、サーバーに事前にインストールされています。使用しているサーバーに Oracle System Assistant が物理的にインストールされているのに、ファイルシステムから表示されない場合は、オフラインになっているか、破壊または上書きされている可能性があります。

Oracle System Assistant のインストールをチェックするには:

- 1 **Oracle ILOM** を使用して、**Oracle System Assistant** のインストールを検証します。  
Oracle ILOM の Web インタフェースで、「System Summary」ページに移動して、Oracle System Assistant がサーバーにインストールされているかどうかをチェックします。29 ページの「[Oracle ILOM \(Web\) へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 オペレーティングシステムから **Oracle System Assistant** のインストールを検証します。  
ファイルシステムブラウザまたはコマンド行端末を開いて、コンピュータまたはデバイスのディレクトリに移動し、Oracle System Assistant の USB デバイスが存在するかどうかをチェックします。  
  
Oracle System Assistant の USB デバイスには、ORACLE\_SSM というラベルが付いています。デバイスをダブルクリックして、アクセス可能であることを確認します。
  - デバイスが存在し、アクセス可能な場合は、アプリケーションを起動します。  
23 ページの「[Oracle System Assistant へのアクセス](#)」を参照してください。
  - デバイスが OS に存在しない場合は、サーバーの物理的なチェックを実行します。『サービス』の「USB フラッシュドライブ (CRU) の保守」を参照してください。
  - デバイスは存在するのにアクセスできない場合は、破損したデータが含まれている可能性があります。70 ページの「[Oracle System Assistant ソフトウェアの復元](#)」を参照してください。
- 3 **Oracle System Assistant** が BIOS のブート優先順位リストに表示されるかどうかを確認します。  
サーバーの BIOS 設定ユーティリティにアクセスし、「Boot」メニューまで移動します。サーバーの BIOS 設定ユーティリティのアクセスについては、149 ページの「[BIOS 設定ユーティリティによるブレードの設定](#)」を参照してください。
  - Oracle System Assistant デバイスのラベルは Oracle\_SSM です。
  - 正しくラベルが付いたデバイスがブートリストに表示されている場合は、使用しているサーバーに Oracle System Assistant が存在します。Oracle System Assistant アプリケーションを起動する方法については、23 ページの「[Oracle System Assistant へのアクセス](#)」を参照してください。
  - デバイスがサーバーに物理的に存在するのに、ブートリストには表示されない場合は、Oracle System Assistant が無効で、オフラインになっている可能性があります。Oracle System Assistant が無効で、オフラインになっているかどうかをチェックするには、次のステップを使用します。
- 4 **Oracle System Assistant** が無効で、オフラインになっているかどうかをチェックします。  
76 ページの「[BIOS からの Oracle System Assistant の有効化](#)」を参照してください。  
  
Oracle System Assistant が無効で、オフラインになっている場合は、有効にして、表示され、ブート可能になるようにします。

- 5 サーバーの物理的なチェックを実行します。

Oracle System Assistant は、サーバーの内蔵 USB デバイスにインストールされません。使用しているサーバーの内蔵 USB ポートの場所については、『サービス』の「USB フラッシュドライブ (CRU) の保守」を参照してください。

  - デバイスが存在する場合は、アプリケーションを起動してみます。23 ページの「Oracle System Assistant へのアクセス」を参照してください。
  - デバイスが存在するのに、オペレーティングシステムから表示できない場合は、無効でオフラインになっている可能性があります。76 ページの「BIOS から Oracle System Assistant の有効化」を参照してください。
  - アプリケーションが起動しない場合は、破損したデータが含まれている可能性があります。70 ページの「Oracle System Assistant ソフトウェアの復元」を参照してください。

#### 参考 関連情報

- 33 ページの「Oracle System Assistant の概要」

## ▼ Oracle System Assistant ソフトウェアの復元

Oracle System Assistant が消去された、または壊れた場合、My Oracle Support サイトから利用可能なイメージファイルをダウンロードして、USB デバイスに復元することができます。USB ドライブを交換したあとや必要なときに、Oracle System Assistant ソフトウェアを復元します。

- 1 **My Oracle Support の Web サイト**から適切なイメージファイルをダウンロードします。使用しているサーバーに固有のイメージをダウンロードします。サーバーの更新イメージのパッケージ名は次のとおりです: X6270 M3 SW version -- Oracle System Assistant

たとえば、Netra Blade X3-2B の場合は、次の更新イメージをダウンロードできます: Sun\_Blade\_X6270\_M3-1.0.0.7555-ORACLE\_SYSTEM\_ASSISTANT\_UPDATER\_4G.iso。このファイル名は例です。正しいファイルをダウンロードする必要があります。

My Oracle Support へのアクセスおよびこのイメージのダウンロードについては、『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』を参照してください。

- 2 更新イメージをブレードで使用可能にします。次のいずれかを実行します。
  - イメージファイルを使用して、物理 DVD イメージを作成します。  
サーバーに取り付けられている DVD ドライブに DVD を挿入します。

---

注 - Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、DVD をリダイレクトされた DVD としてサーバーで使用可能にすることもできます。

---

- Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、更新イメージファイルを ISO イメージとしてサーバーで使用可能にします。
- 3 サーバーをリセットまたは電源投入します。  
次のいずれかの方法を選択します。
- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) 電源を切り、再度電源ボタンを押して、サーバーの電源を投入します。
  - Oracle ILOM Web インタフェースで、「Host Management」 > 「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
  - サーバー SP の Oracle ILOM CLI から、「reset /System」と入力します。  
BIOS 画面が表示されます。



---

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。

---

- 4 BIOS 画面で、F8 キーを押して、Oracle System Assistant のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」画面が表示されます。



- 5 復旧イメージをサーバーで使用可能にしたときに使用した方法に応じて、次のステップのいずれかを実行します。

---

注 - 「Please Select Boot Device」メニューに一覧表示される項目は、システムがレガシー BIOS でブートされたか、UEFI ブートモードでブートされたかによって異なります。

---

- 復旧 DVD を作成し、その DVD を接続された DVD ドライブに挿入するように選択した場合は、次の「Please Select Boot Device」メニューに示されている **SATA:HDD:P4:TSSTcorp CDDVDW TS-T633C** を選択してから、Enter キーを押します。
- Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、復旧イメージをリダイレクトされた DVD または ISO イメージとしてサーバーで使用可能にするよう

に選択した場合は、次の「Please Select Boot Device」メニューに示すように、**USB:VIRTUAL:AMI Virtual CDROM 1.00** を選択してから、**Enter** キーを押します。



メッセージが表示され、復旧プロセスを続行するかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。

- 6 **Oracle System Assistant** イメージを復旧するには、「yes」と入力してから、Enter キーを押します。

次のメッセージが表示され、復旧プロセスの進捗を示します。完了すると、復旧された Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブを検証して正しくプログラムされたことを確認する必要があるかどうかを尋ねられます。

```
This program will restore your Oracle System Assistant embedded
storage device to the version contained on the recovery media.
It will overwrite any existing content on the embedded storage
device.
```

```
Would you like to proceed? [yes or no]
```

- 7 **USB デバイスの整合性のチェック**を実行するには、「yes」を入力してから、Enter キーを押します。

```
The embedded storage device is being recovered.
Please do not reboot or power off the server
during this process
```

```
[=====>] 100%
```

```
Recovery is complete, you may optionally perform an integrity verification
of the device to insure that it was correctly programmed.
```

```
Would you like to verify the device? [yes or no]
```

次の画面が表示され、Oracle System Assistant の USB デバイスが正常に検証されたことを示します。その後、システムがリブートし、Oracle System Assistant アプリケーションが起動します。

```
The embedded storage device is being recovered.
Please do not reboot or power off the server
during this process

[=====>] 100%

Recovery is complete, you may optionally perform an integrity verification
of the device to insure that it was correctly programmed.

Would you like to verify the device? [yes or no] yes

Verifying...
[=====>] 100%

Verification Succeeded.

Rebooting to start Oracle System Assistant...
Connected. Use ^D to exit.
-> set /HOST/provisioning/system-assistant _setboot=system-assistant
```

- USB デバイスの整合性チェックを実行しない場合は、「no」と入力してから、Enter キーを押します。

確認画面が表示され、復旧が完了したことを示します。その後、システムがリブートし、Oracle System Assistant アプリケーションが起動します。

```
The embedded storage device is being recovered.
Please do not reboot or power off the server
during this process

[=====>] 100%

Recovery is complete, you may optionally perform an integrity verification
of the device to insure that it was correctly programmed.

Would you like to verify the device? [yes or no] no

Rebooting to start Oracle System Assistant...
Connected. Use ^D to exit.
```

## 参考 関連情報

- [33 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)
- [Netra Blade X3-2B プロダクトノート](#)

## ▼ BIOS からの Oracle System Assistant の有効化

Oracle System Assistant の USB デバイスをオンライン状態で有効にする (OS で使用可能にする) には、サーバーの BIOS 設定ユーティリティの「Boot」メニューで「Configure OSA」設定を使用します。

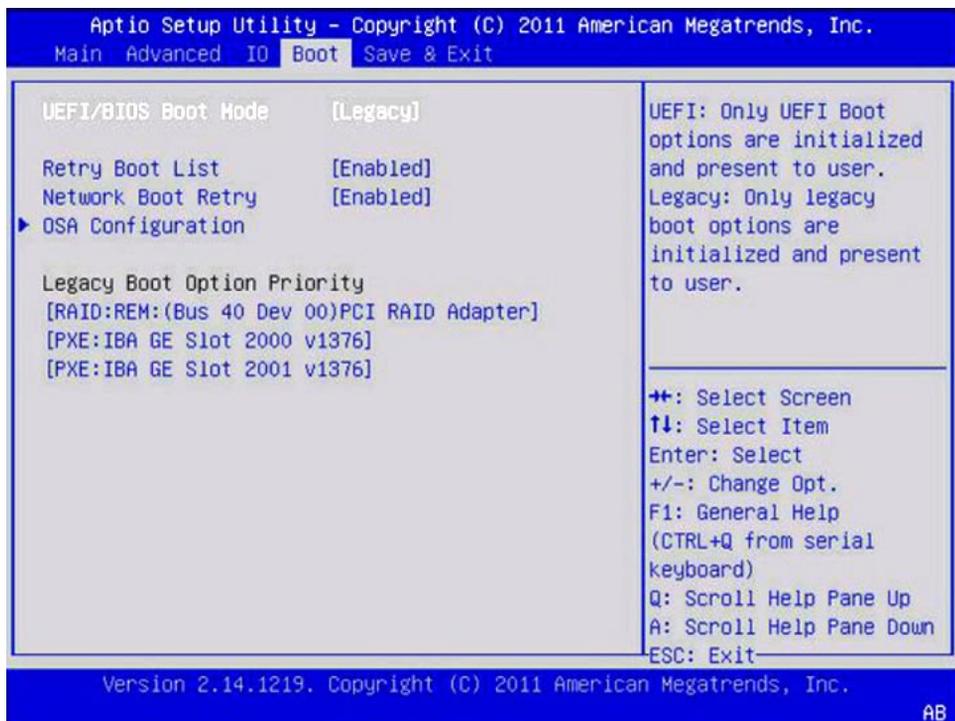
USB デバイスをオフライン状態で無効にして、サーバー OS から使用できないようにすることもできます。これにより、誤ってデバイスを消去および上書きしてしまうことが回避されます。デバイスをオフラインにするとブート可能ではなくなり、Oracle System Assistant デバイ스에搭載されたツール、ドライバ、およびファイルにはアクセスできなくなります。これを、Oracle System Assistant のメニュー画面から行うこともできます。

Oracle System Assistant の USB デバイスを有効にする (または無効にする) には:

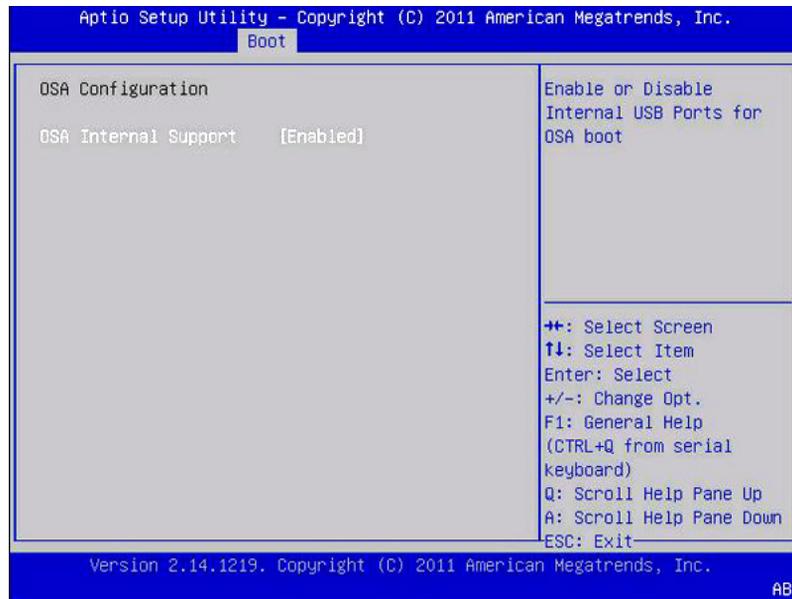
- 1 サーバーの BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

149 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス」を参照してください。

- 2 「Boot」画面に移動します。



- 3 「OSA Configuration」画面に移動します。



- 4 「OSA Internal Support」設定で「Enabled」(または「Disabled」)を選択してから、Enter キーを押します。
- 5 BIOS ユーティリティを保存して終了するには、F10 キーを押します。サーバーがブートします。

#### 参考 関連情報

- 149 ページの「BIOS 設定ユーティリティによるブレードの設定」

## ▼ Oracle System Assistant ファイルシステムへのアクセス

- 1 「Advanced Tasks」をクリックしてから、「Shell」タブをクリックします。
- 2 「Start Shell」をクリックします。CLI プロンプトが表示されます。

- 3 ファイルシステムのルートディレクトリにアクセスするには、次のように入力します。  
`cd \sysroot`
- 4 シェルを終了するには、「**exit**」と入力します。

参考 関連情報

- 64 ページの「Oracle System Assistant シェルにアクセスするための高度なタスクの実行」

## Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント

Oracle VM 3.0 または Oracle Solaris 10 および Linux オペレーティングシステムで Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブにアクセスする前に、まず USB フラッシュドライブをマウントする必要があります。

次の手順のいずれかを選択して、Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブをマウントします。

- 78 ページの「Oracle VM 3.0 での Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント」
- 80 ページの「Linux オペレーティングシステムでの Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント」
- 80 ページの「Oracle Solaris 10 オペレーティングシステムでの Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント」

---

注 - 現時点では、システムが VMware ESXi 5.0 仮想マシンソフトウェアを使用している場合、Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブを直接マウントすることはできません。My Oracle Support に移動して、VMware ESXi ソフトウェアに必要なドライバを取得します。

---

関連情報

- 81 ページの「Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブ上のファームウェアとソフトウェアへのアクセス」
- 23 ページの「システム管理ツールへのアクセス」

### ▼ Oracle VM 3.0 での Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント

- 1 Oracle VM 3.0 サーバーに **root** ユーザーとして接続します。

- 2 **Oracle System Assistant** の USB フラッシュドライブのデバイスマッピングを確認するには、**lsccsi** コマンドを入力します。

このコマンドによるサーバー上のストレージデバイスの表示例は、次のとおりです。

```
# lsccsi
[0:0:0:0] disk SEAGATE ST360057SSUN600G 0805 /dev/sda
[0:0:1:0] disk SEAGATE ST32000SSUN2.0T 0313 /dev/sdb
[0:0:2:0] disk SEAGATE ST32000SSUN2.0T 0313 /dev/sdc
[0:0:3:0] disk ATA INTEL HDDSA2BZ30 0362 /dev/sdd
[0:0:4:0] enclosu ORACLE BLADE14 0903 -
[7:0:0:0] disk SUN StorEdge 3511 421F /dev/sde
[7:0:0:1] disk SUN StorEdge 3511 421F /dev/sdf
[7:0:0:2] disk SUN StorEdge 3511 421F /dev/sdg
[7:0:0:3] disk SUN StorEdge 3511 421F /dev/sdh
[9:0:0:0] disk SUN CSM200_R 0660 /dev/sdi
[9:0:0:1] disk SUN CSM200_R 0660 /dev/sdj
[9:0:0:2] disk SUN CSM200_R 0660 /dev/sdk
[9:0:0:3] disk SUN CSM200_R 0660 /dev/sdl
[9:0:0:4] disk SUN CSM200_R 0660 /dev/sdm
[9:0:0:5] disk SUN CSM200_R 0660 /dev/sdn
[11:0:0:0] disk ORACLE SSM PMAP /dev/sdo
```

Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブは、ORACLE SSM というラベルの付いたディスクであり、この例では /dev/sdo にマップされています。

- 3 **Oracle System Assistant** の USB デバイス上のパーティションの名前を確認するには、**fdisk -l /dev/sdo** コマンドを入力します。

このコマンドで生成される出力例は、次のとおりです。

```
# fdisk -l /dev/sdo
Disk /dev/sdo: 3880 MB, 3880452096 bytes
4 heads, 32 sectors/track, 59211 cylinders
Units = cylinders of 128 * 512 = 65536 bytes
Device Boot Start End Blocks Id System
/dev/sdo1 * 17 57344 3668992 ef EFI (FAT-12/16/32)
```

- 4 (オプション) **Oracle System Assistant** の USB フラッシュドライブをマウントするとき使用するマウントポイントを作成します。

例:

```
# mkdir /mnt/OSA
```

- 5 **Oracle System Assistant** の USB デバイスをマウントするには、ステップ 3 で確認したパーティション名、および既存のマウントポイントまたはステップ 4 で作成したマウントポイントを使用します。

マウントコマンドの例は次のとおりです:

```
# mount -t vfat -o codepage=850 /dev/sdo1 /mnt/OSA
# ls /mnt/OSA
boot Firmware LiveOS OracleVM syslinux.cfg
Documentation ldlinux.sys manifest.xml readme.html Versions.txt
EFI Linux Oracle Solaris Windows
#
```

指定された mount の場所に、Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブがマウントされます。

## ▼ Linux オペレーティングシステムでの Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント

サーバーで Linux オペレーティングシステムが動作している場合は、ファイルシステムを使用して内容を表示またはアクセスする前に、Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブをマウントする必要があります。

この手順では、Linux オペレーティングシステムで Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブをマウントする方法を示します。

- Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブをマウントするには、次に示すコマンドを入力します。

```
#>mkdir /mnt/OSA
#>mount LABEL=ORACLE_SSM /mnt/OSA
#>cd /mnt/OSA
#>ls -l
total 916
drwxr-xr-x 2 root root 4096 Nov 21 07:42 boot
drwxr-xr-x 3 root root 4096 Nov 21 07:42 Documentation
drwxr-xr-x 3 root root 4096 Oct 26 21:05 EFI
drwxr-xr-x 16 root root 4096 Nov 21 07:42 Firmware
-r-xr-xr-x 1 root root 15218 Oct 26 19:10 ldlinux.sys
drwxr-xr-x 5 root root 4096 Nov 21 07:41 Linux
drwxr-xr-x 2 root root 4096 Oct 26 21:05 LiveOS
-rwxr-xr-x 1 root root 787672 Nov 21 08:17 manifest.xml
drwxr-xr-x 2 root root 4096 Nov 21 08:00 Oracle
-rwxr-xr-x 1 root root 78879 Nov 21 07:42 readme.html
drwxr-xr-x 4 root root 4096 Nov 21 07:41 Solaris
-rwxr-xr-x 1 root root 263 Oct 26 21:05 syslinux.cfg
-rwxr-xr-x 1 root root 3755 Nov 21 07:42 Versions.txt
drwxr-xr-x 3 root root 4096 Nov 21 07:42 VMware
drwxr-xr-x 4 root root 4096 Nov 21 07:42 Windows
#>
```

指定された場所に、Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブがマウントされます。

## ▼ Oracle Solaris 10 オペレーティングシステムでの Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント

サーバーで Oracle Solaris 10 が動作している場合は、ファイルシステムを使用して内容を表示またはアクセスする前に、Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブをマウントする必要があります。

Oracle Solaris 10 オペレーティングシステムで Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブをマウントするには:

- 1 **volfs** サービスをオフにするには、次のように入力します。

```
# svcadm disable volfs
```

- 2 **USB** フラッシュドライブを識別するには、次のように入力します。

```
# rmformat -l
```

デバイスのリストが表示されます。

```
Looking for devices...
```

```
1. Logical Node: /dev/rdsd/c1t0d0p0
   Physical Node:
   /pci@0,0/pci108e,484e@1a/hub@1/storage@2/disk@0,0
   Connected Device: ORACLE    SSM    PMAP
   Device Type: Removable
#
```

- 3 **USB** フラッシュドライブを読み取り専用で手動でマウントするには、次のように入力します。

```
# mount -F pcfs -o ro /dev/dsk/c1t0d0p1 /mnt
```

- 4 **Oracle Solaris 10** の内容を取得するには、次を入力します:

```
# cd /mnt/Solaris
```

```
# ls
```

次のように表示されます:

```
10U10 11
#
```

- 5 **OSA** デバイスのマウントを解除するには、次を入力します:

```
# cd /
```

```
# umount /mnt
```

- 6 **volfs** を再起動するには、次を入力します:

```
# svcadm enable volfs
```

Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブがマウントされます。

## ▼ **Oracle System Assistant** の **USB** フラッシュドライブ上のファームウェアとソフトウェアへのアクセス

Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブには、サーバー用のファームウェアとソフトウェアが含まれています。USB フラッシュドライブには、オペレーティングシステムまたは仮想マシンのソフトウェアファイルシステムからアクセス可能です。Oracle System Assistant 内で更新の取得タスクを使用すると、すべてのソフトウェアリリースの更新とともに、更新済みのファームウェアおよびソフトウェアがダウンロードされます。

この手順では、Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブに搭載されているファームウェアおよびソフトウェアにアクセスして表示する方法について説明します。

- 1 サーバーの電源が投入され、オペレーティングシステムが動作していることを確認します。
- 2 **Oracle System Assistant** の USB フラッシュドライブをマウントします。  
OS 固有のマウント手順については、次を参照してください。
  - **Oracle VM: 78 ページの「Oracle VM 3.0 での Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント」**
  - **Linux オペレーティングシステム: 80 ページの「Linux オペレーティングシステムでの Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント」**
  - **Oracle Solaris 10: 80 ページの「Oracle Solaris 10 オペレーティングシステムでの Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント」**
- 3 ファイルシステムブラウザを使用して、**Oracle System Assistant** の内蔵 USB フラッシュドライブまで移動します。  
USB フラッシュドライブのラベルは、Oracle VM オペレーティングシステムでは ORACLE\_SSM、Oracle Solaris 10 オペレーティングシステムおよび Linux オペレーティングシステムでは ORACLE\_SSM です。

---

注 - Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブがマウントされているのに表示されない場合は、Oracle System Assistant が無効になっている可能性があります。Oracle System Assistant を有効にするには、BIOS 設定ユーティリティーから「Boot」>「OSA Configuration」画面の順にアクセスし、設定を「Enabled」に変更します。Oracle System Assistant を有効にする手順については、76 ページの「BIOS からの Oracle System Assistant の有効化」を参照してください。

---

- 4 **Oracle\_SSM** ドライブの内容を表示するには、そのドライブをダブルクリックします。  
Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブのディレクトリが表示され、そのドライブの内容が一覧表示されます。

# Oracle System Assistant を使用した サーバーの管理

---

このセクションでは、Oracle System Assistant を使用してサーバーを管理する方法について説明します。

次のタスクで構成されています。

タスク	リンク
システムの概要情報を表示します。	85 ページの「システム概要の表示」
システムの目録情報を表示します。	86 ページの「システムの目録の表示」
Oracle System Assistant の更新を取得する際に使用されるサーバーのネットワーク設定を構成します。	87 ページの「ネットワーク設定の構成」
最新のソフトウェアリリース (ファームウェア、ドライバ、ソフトウェア、ドキュメントを含む) に更新します。	88 ページの「新規プラットフォームソフトウェアリリースの更新の取得」
サポートされているハードウェアを最新のファームウェアバージョンに更新します。	90 ページの「ファームウェアの更新」
サーバーに RAID を構成します。	92 ページの「RAID 用のハードウェア構成」
サーバー SP の設定を構成します。	95 ページの「Oracle ILOM SP 用のハードウェア構成」
サーバーに Linux または Windows オペレーティングシステム、あるいは Oracle VM ソフトウェアをインストールします。	100 ページの「オペレーティングシステムのインストール」
Oracle System Assistant を無効にします。	104 ページの「Oracle System Assistant を無効にするための設定の変更」
Oracle System Assistant のキーボード言語を設定します。	106 ページの「キーボード言語設定の変更」
Oracle System Assistant シェルにアクセスします。	107 ページの「Oracle System Assistant シェルにアクセスするための高度なタスクの実行」

---

タスク	リンク
Oracle System Assistant メディアの整合性をチェックします。	109 ページの「メディアの整合性をチェックするための高度なタスクの実行」

## 関連情報

- 23 ページの「Oracle System Assistant へのアクセス」
- 33 ページの「Oracle System Assistant の概要」

### ▼ Oracle System Assistant を使用したサーバーの構成

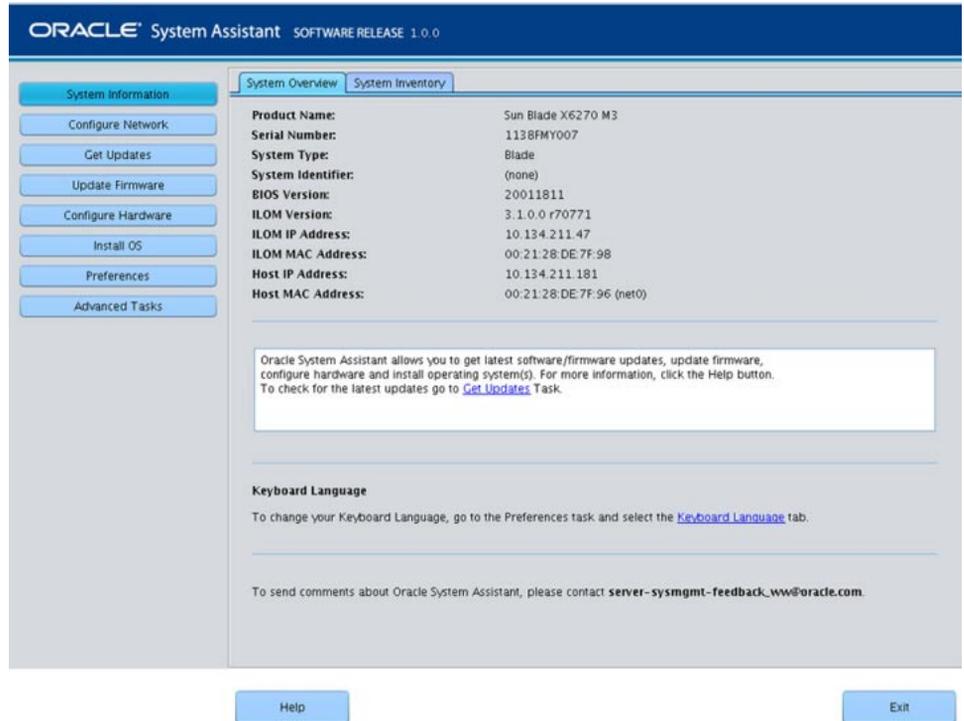
Oracle System Assistant を使用して、新しいシステムを簡単に構成できます。

- 1 システムの電源を投入します。  
『サービス』の「ブレードへの電源投入」を参照してください。
- 2 Oracle System Assistant をブートします。  
23 ページの「Oracle System Assistant へのアクセス」を参照してください。
- 3 Oracle System Assistant を使用して、サーバーを構成します。  
サーバーの初期設定および構成を行うには、次のトピックの手順を使用します。
  - 85 ページの「システム概要の表示」
  - 86 ページの「システムの目録の表示」
  - 87 ページの「ネットワーク設定の構成」
  - 88 ページの「新規プラットフォームソフトウェアリリースの更新の取得」
  - 90 ページの「ファームウェアの更新」
  - 92 ページの「RAID 用のハードウェア構成」
  - 100 ページの「オペレーティングシステムのインストール」
  - 104 ページの「Oracle System Assistant を無効にするための設定の変更」
  - 107 ページの「Oracle System Assistant シェルにアクセスするための高度なタスクの実行」

## ▼ システム概要の表示

Oracle System Assistant を使用してシステムの概要情報を表示するには:

- 1 「System Information」 タスクボタンをクリックします。
- 2 必要に応じて、「System Overview」 タブをクリックします。  
システムに関する情報を含む、「System Overview」画面が表示されます。



- 3 システムに関する情報を確認します。
- 4 インストールされているプラットフォームソフトウェアリリースの **ReadMe** ファイル (リリースノート) を表示するには、「**Help**」 ボタンをクリックします。  
36 ページの「Oracle System Assistant の ReadMe ファイルの表示」を参照してください。

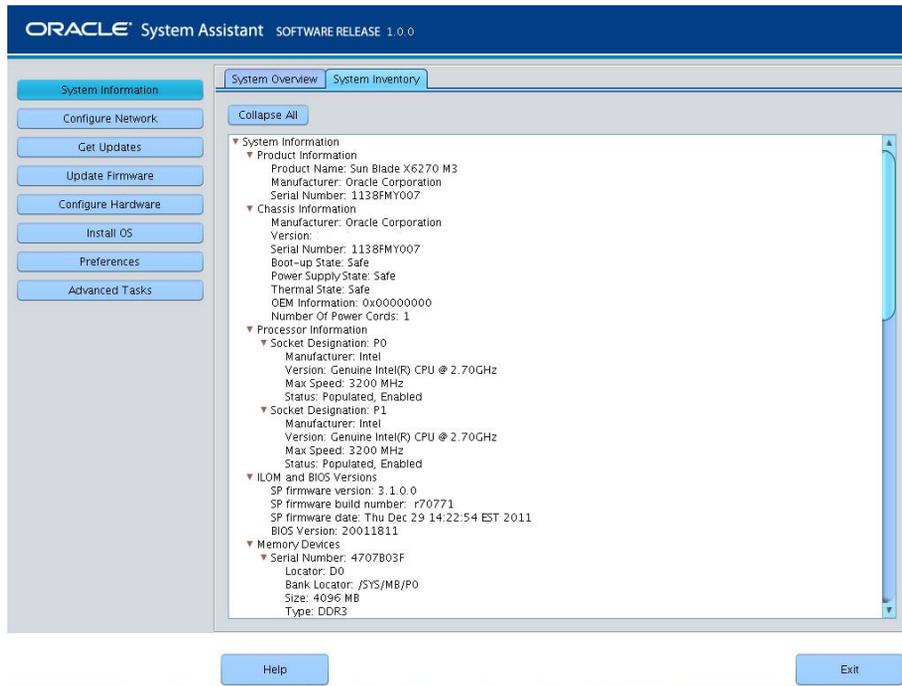
### 参考 関連情報

- 33 ページの「Oracle System Assistant の概要」

## ▼ システムの目録の表示

Oracle System Assistant を使用してシステムの目録情報を表示するには:

- 1 「System Information」 タスクボタンをクリックします。  
システムに関する情報を含む、「System Overview」画面が表示されます。
- 2 「System Inventory」 タブをクリックします。  
「System Inventory」画面が表示されます。



- 3 詳細情報を表示するには、エントリのいずれかをクリックします。
- 4 すべてのエントリの情報を表示するには、「Expand all」をクリックします。
- 5 すべてのシステム情報を閉じるには、「Collapse all」をクリックします。

### 参考 関連情報

- [33 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

## ▼ ネットワーク設定の構成

ネットワークの構成タスクでは、サーバーのネットワーク設定を構成できません。サーバーに含まれるツールおよびドライバが確実に最新のものになるようにするには、初期のサーバーインストールおよび設定時にネットワーク設定を構成します。

注 - Oracle System Assistant で更新の取得タスクを使用する前に、ネットワーク設定を構成する必要があります。

Oracle System Assistant を使用してネットワーク設定を構成するには:

始める前に 必要に応じて、ネームサーバーや静的 IP などのシステムのネットワーク情報を取得します。

- 1 「Configure Network」タスクボタンをクリックします。  
「Configure Network」画面が表示されます。

ORACLE System Assistant SOFTWARE RELEASE 1.0.0

System Information  
Configure Network  
Get Updates  
Update Firmware  
Configure Hardware  
Install OS  
Preferences  
Advanced Tasks

### CONFIGURE NETWORK

Enter your network configuration (interface and IP settings).

net0 - Intel Corporation i350 Gigabit Network Connection (rev 01)

Link Status: Link Up

MAC Address: 00:21:28:DE:7F:96

Disabled  
 DHCP  
 Static IP

Auto DNS via DHCP

IP Address: 10.134.211.181  
Netmask: 255.255.255.0  
Gateway: 10.134.211.254

Nameserver: 52.130.35.249, 41.192.135.82, 132 \* Required for Get Updates  
Search Domains: us.oracle.com

HTTP Proxy Configuration  
Proxy Host:  
Proxy Port:

Apply Network Settings

Help Exit

- 2 構成するネットワークデバイスを選択します。  
ドロップダウンリストで、サーバーに表示されるデバイスを特定します。
- 3 ネットワークアドレス設定を構成します。  
次の方法のいずれかを選択して、サーバーの IP アドレスを特定します:
  - **Disabled:** このデバイスのネットワークアクセスを許可しません。
  - **DHCP:** 動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を使用して IP アドレスを自動的にサーバーに割り当てます。このオプションが選択されているときに、「Auto DNS via DHCP」オプションを選択すると、ネームサーバーの IP アドレスおよび検索ドメインを自動的に割り当てることができます。「Auto DNS via DHCP」オプションを選択しない場合は、次の情報も指定する必要があります:
    - ネームサーバーの IP アドレス
    - (オプション) 検索ドメイン
  - **Static:** 固定 IP アドレスをサーバーに割り当てます。次の情報を指定する必要があります:
    - サーバーの IP アドレス
    - ネットマスク
    - ゲートウェイ
  - **HTTP Proxy Configuration:** プロキシサーバーを使用する場合に、このオプションを選択します。次の情報を指定する必要があります:
    - プロキシホスト
    - プロキシポート
- 4 「Apply Network Settings」 ボタンをクリックします。  
ネットワーク設定を適用し、その他のすべてのインタフェースを無効にするかどうかの確認を求めるプロンプトが表示されます。
- 5 確認ダイアログボックスで、「Yes」をクリックして続行します。

参考 関連情報

- [33 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

## ▼ 新規プラットフォームソフトウェアリリースの更新の取得

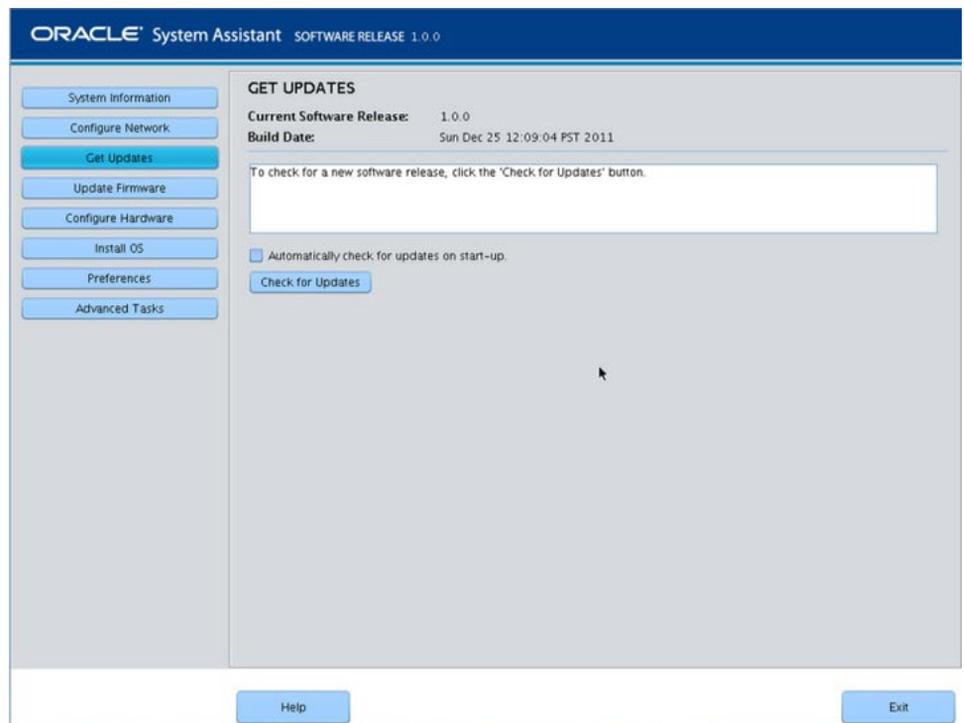
Oracle System Assistant では、新しいリリースのプラットフォームファームウェアおよびソフトウェアに対応したファームウェアおよびソフトウェアの更新をダウンロードできます。プラットフォームソフトウェアリリースで更新されるのもっとも一

一般的な内容には、ファームウェア、ツール、およびドライバが含まれます。サーバーに Oracle System Assistant をインストールすると、「Tools and Drivers CD/DVD ISO」イメージまたはサポート Web サイトから、ファームウェアおよびソフトウェアをダウンロードする必要がなくなります。

始める前に 新規プラットフォームソフトウェアリリースのダウンロードを有効にするために、使用しているサーバーから外部の Web にアクセスできることを確認してください。

新規 Oracle System Assistant リリースに更新するには:

- 1 「Get Updates」をクリックします。  
「Get Updates」画面が表示されます。



- 2 (オプション)システムが起動するたびに自動的に更新をチェックするには、このチェックボックスにチェックマークを付けます。

- 3 新しいソフトウェアリリースがないかチェックするには、「**Check for Updates**」ボタンをクリックします。

更新のチェックプロセスが完了すると、新たに「**Available Updates**」ドロップダウンリストおよびボタンがペインに表示されます。

更新が利用可能な場合は、プラットフォームソフトウェアに関する **ReadMe** ファイル (リリースノート) が表示されます。新規ソフトウェアリリースに更新するかどうかを選択できます。

---

注- 利用可能な最新ソフトウェアリリースに更新してください。

---

- 4 「**Available Updates**」リストから、ダウンロードする更新を選択します。
- 5 更新プロセスを開始するには、「**Download and Apply Updates**」ボタンをクリックします。  
更新がダウンロードされると、システムがリブートします。

#### 参考 関連情報

- [33 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

## ▼ ファームウェアの更新

ファームウェアの更新タスクでは、システム上のシステムファームウェア (BIOS と Oracle ILOM SP) およびデバイスファームウェアを更新できます。

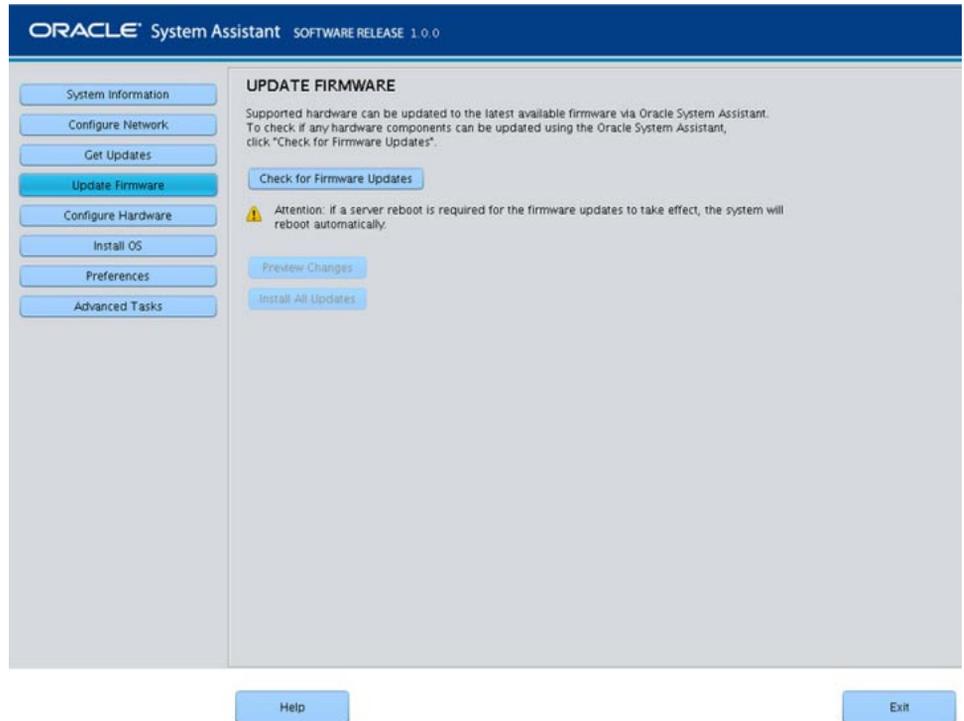
ファームウェアの更新タスクでは、最新のプラットフォームソフトウェアリリースと現在インストールされているサーバーシステムおよびデバイスファームウェアで、ファームウェアのバージョンを比較することによって、更新が利用可能かどうか判断されます。変更内容を確認し、バージョン番号を比較してから、更新するコンポーネントを手動で選択することも、すべてのファームウェアコンポーネントを更新するように選択することもできます。すべてのファームウェアコンポーネントの更新を選択することを強くお勧めします。

一部のファームウェアコンポーネントでは、ファームウェア更新の直後にサーバーをリブートする必要があります。必要な場合、更新プロセスが終了すると自動的にサーバーがリブートすることもあります。

Oracle System Assistant を使用してファームウェアを更新するには:

- 始める前に 更新の取得タスクを使用して、ファームウェアを更新する前に Oracle から最新のプラットフォームソフトウェアリリースをダウンロードします。

- 1 「Update Firmware」をクリックします。  
「Update Firmware」画面が表示されます。



- 2 Oracle System Assistant を使用して更新できるハードウェアコンポーネントを表示するには、「Check for Firmware Updates」ボタンをクリックします。  
ファームウェアの更新チェックが実行され、「Firmware Update Check」進捗状況ボックスが表示されます。
- 3 (オプション) 「Preview Changes」ボタンをクリックします。  
「Firmware Update Install Changes」ダイアログが表示されます。
- 4 更新が必要なファームウェアコンポーネントのリストを表示し、現在のバージョン番号と利用可能なバージョン番号を比較します。  
「Component Name」、「Device Name」、「Firmware/BIOS Installed」、および「Firmware/BIOS Available」も確認できます。
- 5 続行するには、次のいずれかを選択します。
  - ファームウェアの更新を選択的に実行するには、インストールするファームウェアの更新を選択してから、「Install Updates」ボタンをクリックします。

---

注-最新のコンポーネントは更新できないため、選択もできません。

---

- ファームウェアの更新をすべてインストールするには、「Install All Updates」ボタンをクリックします。

ファームウェアの更新の進捗バーが表示されます。

ファームウェアが更新されるまで待機します。



---

注意-ファームウェアの更新を有効にするためにサーバーのリブートが必要な場合は、システムが自動的にリブートします。

---

参考 **関連情報**

- [33 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

## ▼ RAID 用のハードウェア構成

RAID の構成タスクでは、サーバーに対して RAID-0 または RAID-1 を構成できます。

---

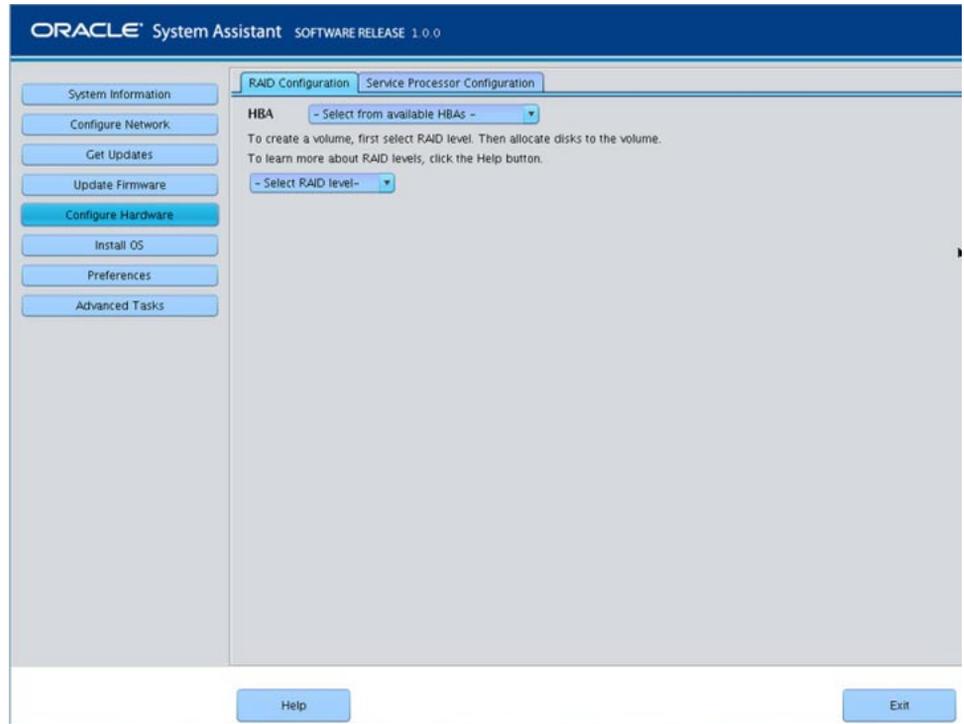
注-このタスクは、オペレーティングシステムをインストールする前に実行します。

---

RAID ボリュームを構成するときは、ディスクが同じサイズ (276G バイトなど)、同じタイプ (SAS または SATA など) でなければならないことに注意してください。

Oracle System Assistant を使用して RAID を構成するには:

- 1 「Configure Hardware」をクリックし、「RAID Configuration」タブをクリックします。「RAID Configuration」画面が表示されます。



- 2 HBA リストボックスで、ホストバスアダプタ (HBA) ディスクコントローラが正しいことを検証します。  
たとえば、サーバーは、SAS6-REM-Z Express Module または SGX-SAS6-R-REM-Z Express Module をサポートします (ブート可能なボリュームを作成する場合)。これらの HBA の詳細については、『インストール』の「オペレーティングシステムをインストールするストレージドライブの準備」を参照してください。
- 3 「Select RAID Level」リストボックスで、RAID-0 または RAID-1 のいずれかの RAID レベルを選択します。

注 - Oracle System Assistant を使用する場合は、この 2 つの RAID レベルのみを設定できます。その他の RAID レベルを設定するには、HBA BIOS 設定ユーティリティーを使用します。

1 つのアレイで許可されるディスクの数は、コントローラによって異なります。

- SGX-SAS6-R-REM-Z HBA は、1 台以上のディスクが必要であり、WebBIOS を使用して構成されます。

- SGS-SAS6-REM-Z HBA は、2 台以上のディスクが必要であり、構成ユーティリティを使用して構成されます。

4 「Available Disks」テーブルで、RAID 構成に追加するストレージドライブを選択します。

ボリュームがすでにディスク上に存在する場合は、「Created Volumes」セクションに表示されます。必要に応じて、既存のボリュームを強調表示して削除します。

---

注-ディスクは、同じサイズおよびタイプ(SASまたはSATA)でなければなりません。

---

5 「Create Volume」ボタンをクリックします。

「Creating RAID Volume」情報ボックスが表示されます。

6 RAID ボリュームが作成されるまで待機します。

「Volume Details」ダイアログボックスが表示されます。強調表示されているボリュームに関する情報が表示されます。

7 「Volume Details」ダイアログボックスで、「Volume Name」ボックスにボリューム名を入力してから、「Save Changes」ボタンをクリックします。

「RAID Configuration」画面が表示されます。これにより、RAID の構成が完了します。

8 RAID ボリュームを削除する場合、またはブート可能なボリュームを構成する場合は、次のステップに進みます。

- RAID ボリュームを削除する場合は、「RAID Configuration」画面でボリュームを選択してから、「Delete Volume」ボタンをクリックします。

この操作によって、既存のボリューム上のデータがすべて削除されます。

- ブート可能なボリュームを作成する場合は、「RAID Configuration」画面で RAID ボリュームを選択してから、「Set Volume for Boot」ボタンをクリックします。

「RAID Configuration」画面に、ブート可能なボリュームが表示されます。RAID コントローラからブートするように選択した場合、今後はこのボリュームからサーバーがブートします。

---

注-使用しているディスクコントローラで、この機能がサポートされていないことがあります。

---

9 「Save Settings」をクリックします。

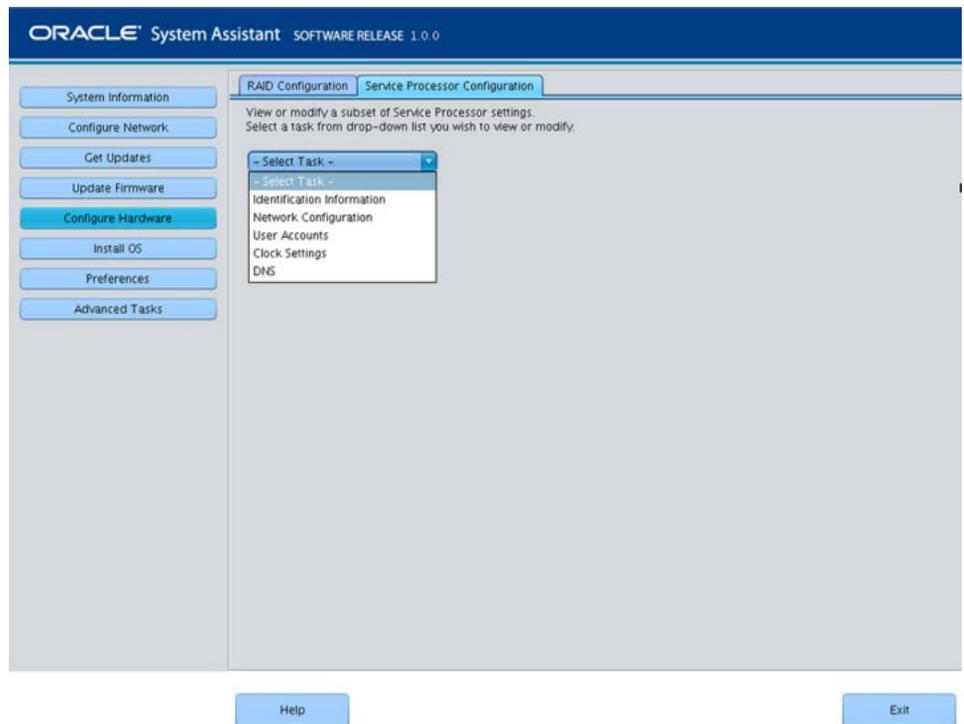
## 参考 関連情報

- 33 ページの「Oracle System Assistant の概要」
- 145 ページの「RAID の構成」

## ▼ Oracle ILOM SP 用のハードウェア構成

Oracle System Assistant を使用して Oracle ILOM サービスプロセッサ (SP) 設定のサブセットを表示または変更するには:

- 1 「Configure Hardware」をクリックし、「Service Processor Configuration」タブをクリックします。  
「Server Processor Configuration」画面が表示されます。



- 2 「Select Task」ドロップダウンリストから、タスクを選択します。
  - **Identification Information**— ステップ 3 を参照してください。
  - **Network Configuration**— ステップ 4 を参照してください。
  - **User Accounts**— ステップ 5 を参照してください。
  - **Clock Settings**— ステップ 6 を参照してください。
  - **DNS Settings**— ステップ 7 を参照してください。

3 識別情報を表示または変更するには、次の情報を指定します:

a. **SP Hostname**

Oracle ILOM ホスト名を入力します。

ホスト名はアルファベットで始める必要があり、長さは 60 文字以下、使用できる文字は英数字、ハイフン、アンダースコアのみです。

b. **System Identifier**

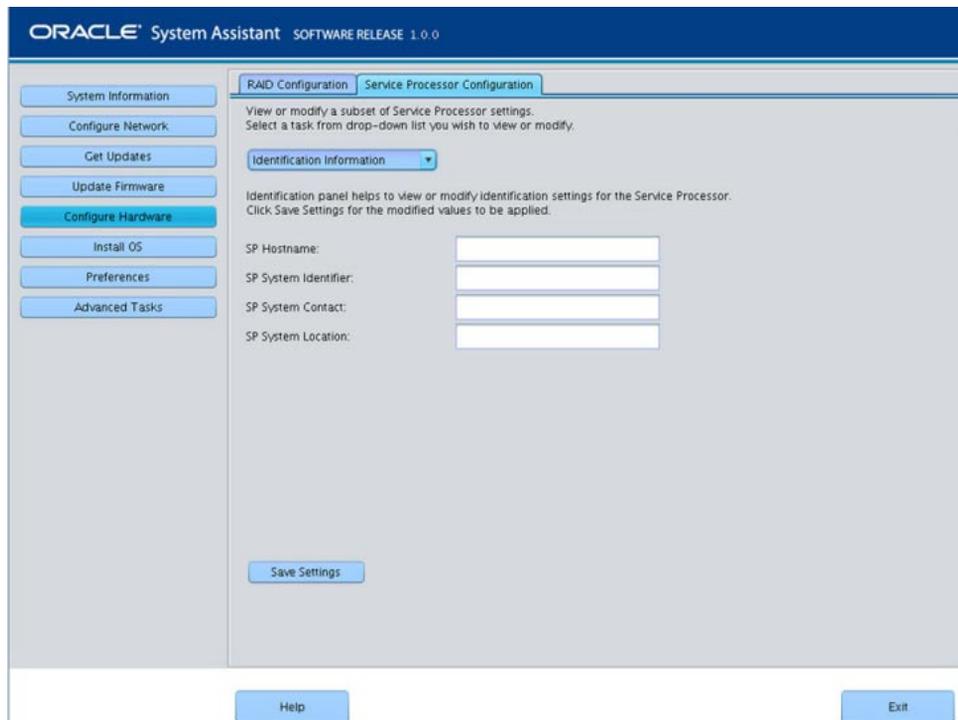
システムを識別する名前を入力します。引用符以外のすべての文字を使用できません。

c. **SP System Contact**

連絡先の個人の名前を入力します。引用符以外のすべての文字を使用できます。

d. **SP System Location**

システムの物理的な場所の名前を入力します。引用符以外のすべての文字を使用できます。



- 4 ネットワーク構成情報を表示または変更するには、IPv4の次の情報を指定するか、必要に応じてIPv6を指定します。

a. IP Discovery Mode

動的ホスト制御プロトコル (DHCP) と静的 IP の割り当てのどちらをシステムで使用するのを選択します。

b. IP Address

静的 IP の割り当てを選択した場合は、SP の IP アドレスを指定します。

c. ネットマスク

静的割り当てを選択した場合は、SP のネットマスクを指定します。

d. ゲートウェイ

静的割り当てを選択した場合は、SP のゲートウェイアドレスを指定します。

The screenshot displays the Oracle System Assistant interface for Service Processor Configuration. The 'Network Configuration' tab is active, showing settings for both IPv4 and IPv6. The IPv4 section is configured with 'Static' discovery mode, IP address 10.134.211.47, netmask 255.255.255.0, and gateway 10.134.211.254. The IPv6 section is configured with 'Enabled' state, 'Stateless' autoconfig, and 'None' for DHCPv6 autoconfig. A 'Save Settings' button is located at the bottom of the configuration panel.

Section	Parameter	Value
IPv4	IP Discovery Mode	Static
	IP Address	10.134.211.47
	Netmask	255.255.255.0
	Gateway	10.134.211.254
IPv6	State	Enabled
	Autoconfig	Stateless
	DHCPv6 Autoconfig	None
	Static IP Address	::/128
	Link-Local IP Address	fe80::221:28ff:fe:7198/64

5 ユーザーアカウントを表示または変更するには、次の情報を指定します。

**a. Add User**

新しいユーザーアカウントを追加する場合にクリックします。一意のユーザー名を入力し、役割(「Basic」または「Advanced」)をドロップダウンリストから選択し、特権を設定し、パスワードを入力します。

---

注-ユーザーに特定の特権(事前設定なし)を選択する場合は、「Advanced」を選択します。

---

**b. Modify user**

リスト内のユーザーアカウントを強調表示し、「Modify User」をクリックして、ユーザーアカウント設定を確認または変更します。

**c. Delete User**

リスト内のユーザーアカウントを強調表示し、「Delete User」をクリックして、ユーザーアカウントを削除します。

6 クロック設定を表示または変更するには、次の情報を指定します。

**a. Date**

ドロップダウンリストを使用して、月、日、年を選択します。

**b. Time**

ドロップダウンリストを使用して、24時間形式で時間を設定します。

**c. Timezone**

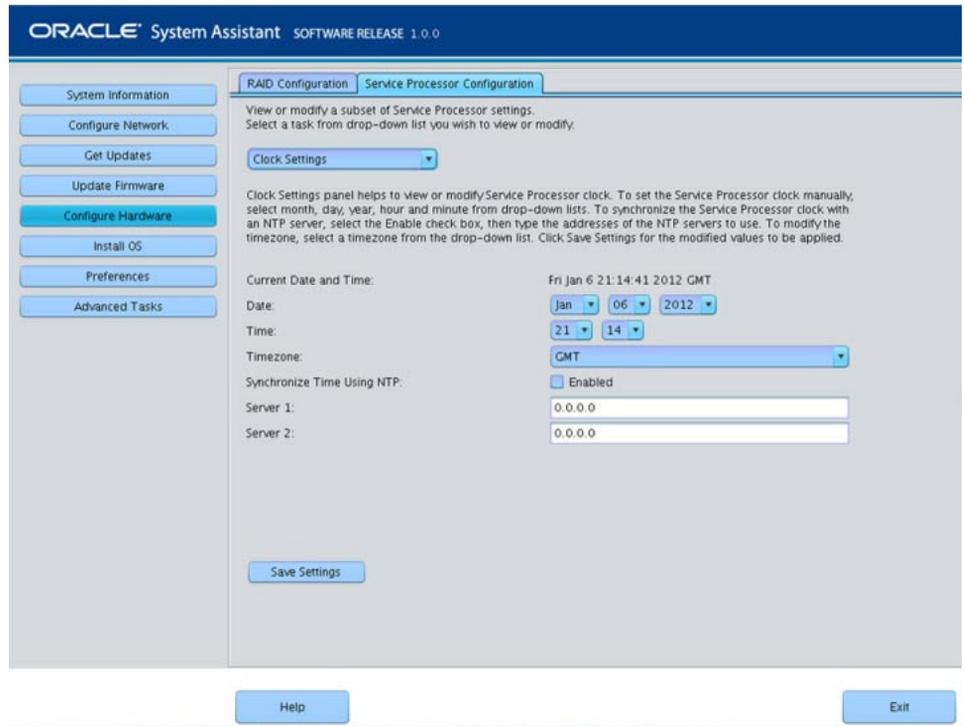
ドロップダウンリストを使用してタイムゾーンを選択します。

**d. Synchronize Time Using NTP**

チェックボックスをクリックすると、時間情報プロトコル(NTP)サーバーとの同期が有効になります。

**e. Server 1、Server 2**

NTPサーバーに関する情報を入力します。



7 DNS 設定を表示または変更するには、次の情報を指定します。

**a. Auto DNS via DHCP**

「Enabled」または「Disabled」にチェックマークを付けます。

**b. DNS Name Server**

これは、自動 DNS が無効になっている場合にのみ編集します。

優先度順に最大 3 つのネームサーバーの IP アドレスをコンマで区切って入力します。たとえば、1.2.3.4,5.6.7.8。

**c. DNS Search Path**

これは、自動 DNS が無効になっている場合にのみ編集します。

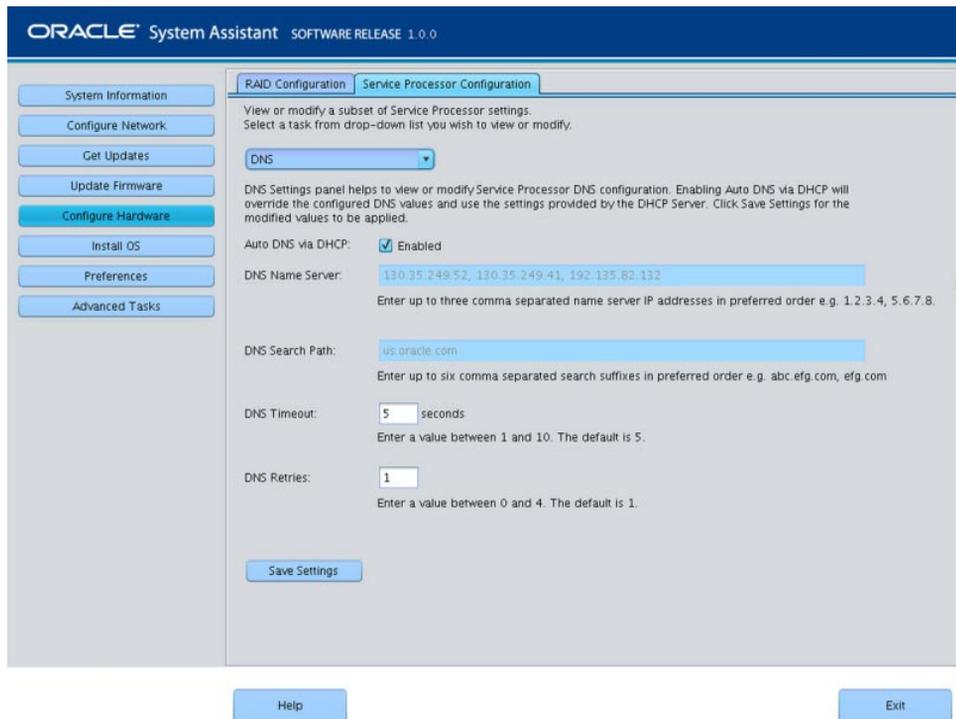
優先度順に最大 6 つの検索接尾辞をコンマで区切って入力します。たとえば、abc.efg.com,efg.com。

**d. DNS Timeout**

1 - 10 の値を入力します。デフォルトは 5 です。

e. DNS Retries

0 - 4 の値を入力します。デフォルトは1です。



- 8 「Save Settings」をクリックします。

参考 関連情報

- 33 ページの「Oracle System Assistant の概要」
- Oracle ILOM のドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>)

## ▼ オペレーティングシステムのインストール

注 - Oracle System Assistant の OS のインストールタスクは、**Windows** および **Linux** オペレーティングシステムと **Oracle VM** ソフトウェアのサポート対象バージョンでのみ利用できます。

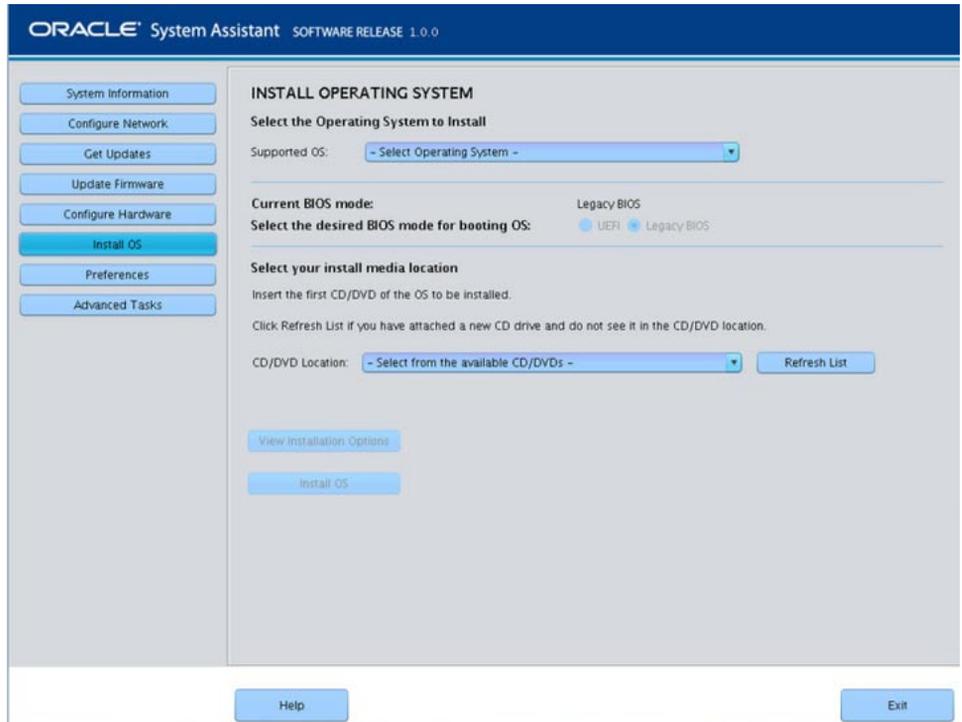
始める前に オペレーティングシステム (OS) メディアおよびライセンスを提供する必要があります。

この手順を始める前に、次のタスクを実行します。

- 最新のツールおよびドライバを入手します。88 ページの「新規プラットフォームソフトウェアリリースの更新の取得」を参照してください。
- ファームウェアを更新します。90 ページの「ファームウェアの更新」を参照してください。
- RAID を構成します。92 ページの「RAID 用のハードウェア構成」を参照してください。

Oracle System Assistant を使用してブレードにサポート対象のオペレーティングシステムをインストールするには:

- 1 「Install OS」 タスクボタンをクリックします。  
「Install Operating System」 画面が表示されます。



- 2 「Supported OS」 ドロップダウンリストから、インストールするオペレーティングシステムを選択します。

このリストには、サポートされているオペレーティングシステムのうち、OS のインストールタスクを使用できるものだけが含まれます。

- 3 画面の「**Select the desired BIOS mode for booting OS**」部分で、OSのインストールで使用するBIOSモード(「**UEFI**」または「**レガシー BIOS**」)を選択します。

BIOSモードの選択は、UEFIモードでのブートがターゲットOSでサポートされている場合にのみ可能です。

157 ページの「[レガシーおよびUEFI BIOSの選択](#)」を参照してください。

- 4 画面の「**Select your install media location**」部分で、インストールメディアの場所を指定します。

これはOS配布メディアの場所です。オプションはCD/DVDデバイスです。「Refresh」ボタンをクリックすると、デバイスのリストが更新されます。

---

ヒント-KVMを使用してリモートからOSをインストールする場合は、KVMメニューオプション「Devices」を選択し、「CD-ROM」をクリックすると、リモートのCD-ROMが表示されます。次に、「Oracle System Assistant」画面で、「Refresh」をクリックし、CD/DVDの場所を選択します。

---

- 5 画面の「**Select the boot disk**」部分で、「**Boot disk**」ドロップダウンリストからブートデバイスを選択します。

これは、OSがインストールされるデバイスです。

Linuxディストリビューションを選択した場合は、画面の「Select the boot disk」部分が表示されます。Windowsディストリビューションを選択した場合は、画面の「Select the boot disk」部分は表示されません。



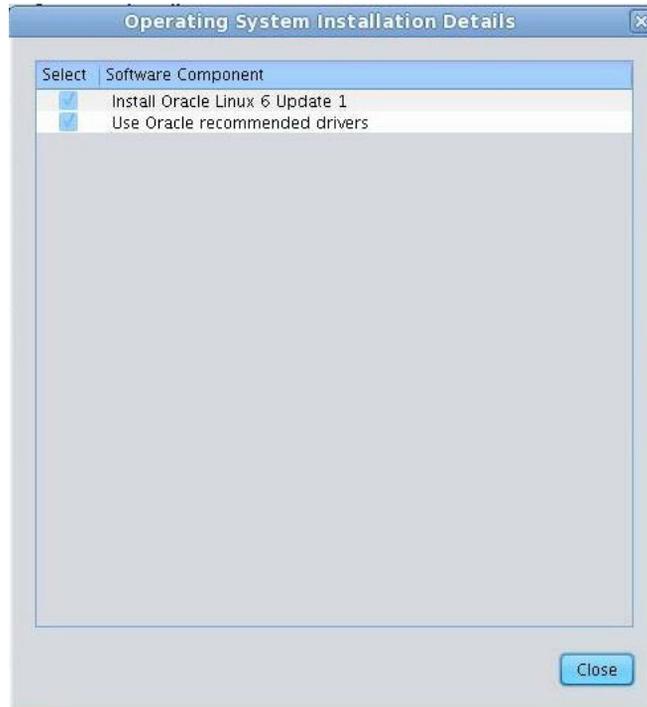
---

注意-データが失われます。オペレーティングシステムのインストールによって、ディスクの内容が消去されます。選択したディスク上のデータはすべて消去されます。

---

- 6 ブートデバイスの選択を確認するには、「**Yes**」をクリックします。

- 7 「View Installation」 オプションをクリックします。  
「Operating System Installation Details」 ダイアログが表示されます。OS およびドライバソフトウェアコンポーネントが一覧表示されます。インストールしないコンポーネントの選択を解除します。ほとんどのオペレーティングシステムでは、一覧表示されているコンポーネントはすべて必要です。



- 8 「Close」 をクリックして、ダイアログを終了します。  
「Install Operating System」 画面が表示されます。
- 9 「Install OS」 ボタンをクリックします。
- 10 プロセスに従って、プロセスが終了するまでプロンプトに回答します。  
インストールが完了すると、サーバーがブートします。

#### 参考 関連情報

- [33 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)
- [157 ページの「UEFI BIOS ブートモードの構成」](#)
- 『インストール』の「オペレーティングシステムをインストールするストレージドライブの準備」

- 『Netra Blade X3-2B Oracle VM オペレーティングシステムインストールガイド』
- 『Netra Blade X3-2B ESX ソフトウェアインストールガイド』
- 『Netra Blade X3-2B Linux オペレーティングシステムインストールガイド』
- 『Netra Blade X3-2B Windows オペレーティングシステムインストールガイド』

## ▼ Oracle System Assistant を無効にするための設定の変更

すでに Oracle System Assistant でブートした場合は、Oracle System Assistant を無効にするタスクを使用して、Oracle System Assistant の USB デバイスをオフライン状態にし、サーバーオペレーティングシステム (OS) から利用できないようにすることができます。これにより、誤ってデバイスを消去および上書きしてしまうことが回避されます。デバイスをオフラインにするとブート可能ではなくなり、Oracle System Assistant デバイ스에搭載されたツール、ドライバ、およびファイルにはアクセスできなくなります。

---

注 - Oracle System Assistant を再度有効にする方法については、[120 ページの「BIOS からの Oracle System Assistant の有効化」](#)を参照してください。

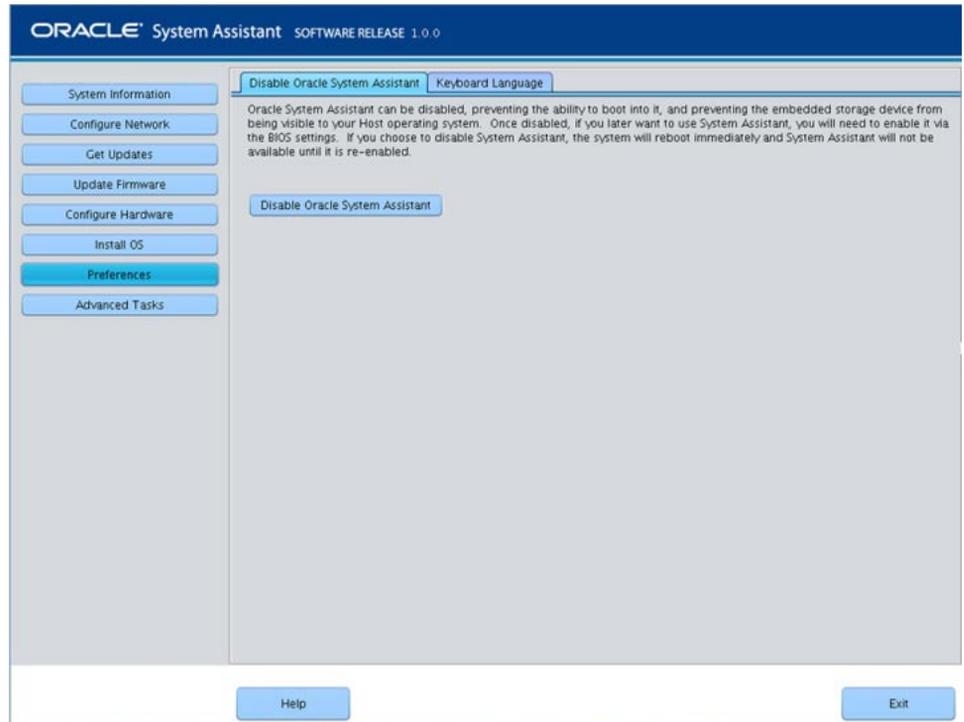
---

デバイスをオンライン状態にする (OS で使用可能にする) には、サーバーの BIOS 設定ユーティリティの「Boot」メニューで「Configure OSA」設定を使用します。

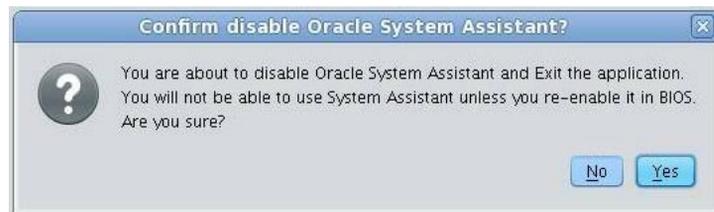
システムを Oracle System Assistant でブートしたときに Oracle System Assistant を無効にするには:

- 1 「Preferences」をクリックしてから、「Disable Oracle System Assistant」タブをクリックします。

「Disable Oracle System Assistant」画面が表示されます。



- 2 「Disable Oracle System Assistant」をクリックします。
- 3 「Yes」をクリックして確認します。



---

注-システムがリブートします。

---

参考 関連情報

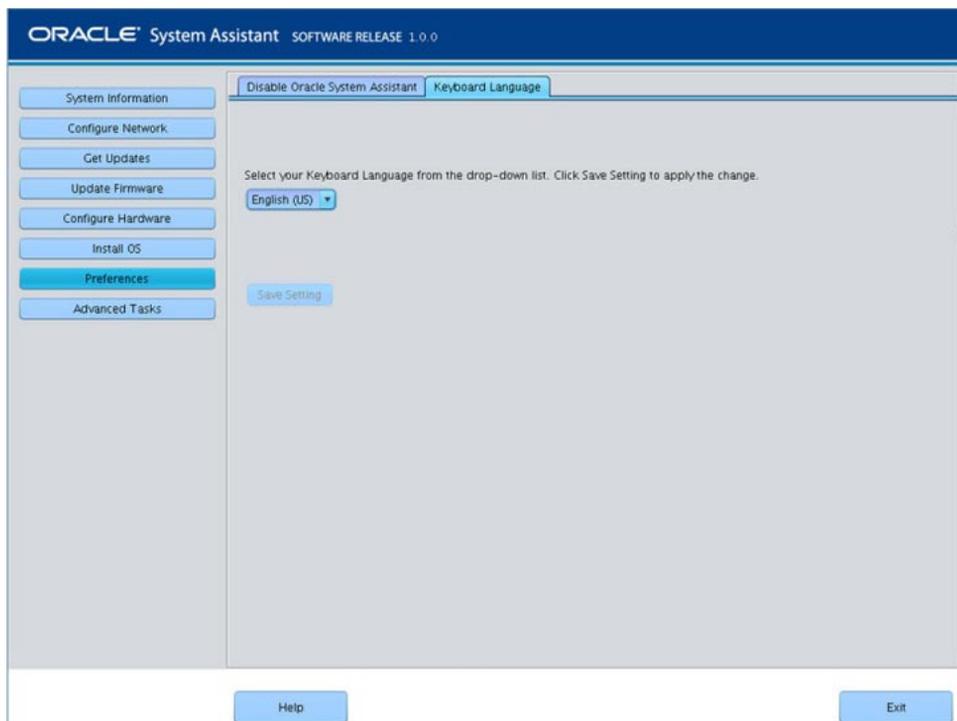
- 33 ページの「Oracle System Assistant の概要」
- 157 ページの「UEFI BIOS ブートモードの構成」
- 120 ページの「BIOS からの Oracle System Assistant の有効化」

## ▼ キーボード言語設定の変更

キーボード言語タスクでは、Oracle System Assistant のキーボード言語を選択できます。

Oracle System Assistant を使用してキーボード言語を設定するには:

- 1 「Preferences」をクリックしてから、「Keyboard Language」タブをクリックします。「Keyboard Language」画面が表示されます。



- 2 ドロップダウンリストから、キーボード言語を選択します。オプションとして、英語 (US)、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、スウェーデン語があります。

- 3 「Save Settings」をクリックします。

参考 関連情報

- [33 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

## ▼ Oracle System Assistant シェルにアクセスするための高度なタスクの実行

このタスクは、Oracle System Assistant ファイルシステムへの Linux root レベルのアクセスを提供します。コマンド行シェルを使用して、Oracle System Assistant の内蔵 USB デバイ스에搭載されているツールやファイルにアクセスします。



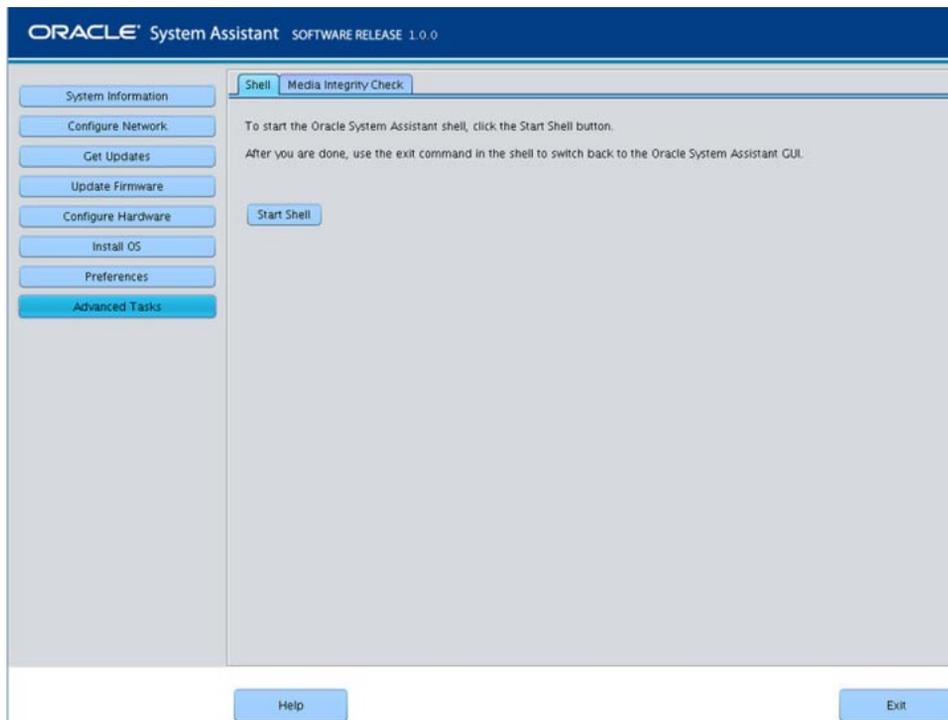
---

注意 - データや Oracle System Assistant の機能が失われる可能性があります。一般に、上級ユーザーまたはシステム管理者のみが Linux シェルにアクセスして使用することが許可されます。

---

Oracle System Assistant を使用してコマンド行シェルにアクセスするには:

- 1 「AdvancedTasks」をクリックしてから、「Shell」タブをクリックします。  
「Shell」画面が表示されます。



- 2 「Start Shell」ボタンをクリックします。  
Oracle System Assistant のコマンド行シェルウィンドウが表示されます。

```
Oracle System Assistant
Enterprise Linux Command Line Environment
You are now in the shell with full root-level access!
**Caution**: Potential for loss of data or loss of server system functionality. Root-level access is for advanced users or system administrator only. To quit the shell and return to the Oracle System Assistant application, type 'exit' and press Enter.
-bash-4.1# _
```

- 3 シェルを終了して Oracle System Assistant ユーザーインターフェイスに戻るには、シェルコマンド行プロンプトで「exit」と入力します。

参考 関連情報

- [33 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

## ▼ メディアの整合性をチェックするための高度なタスクの実行

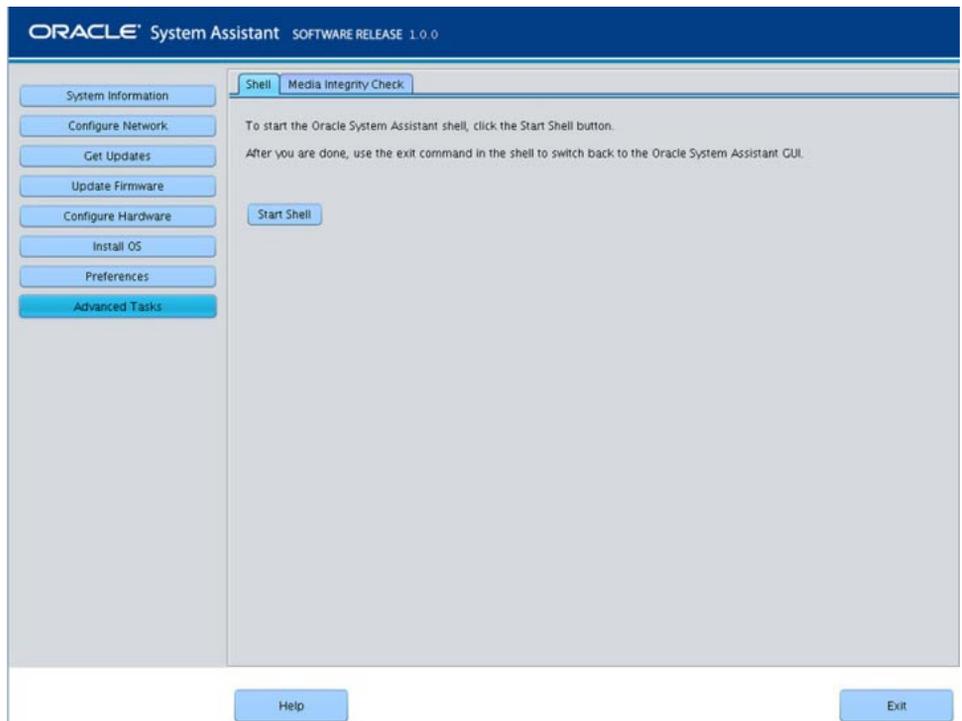
メディアの整合性のチェックタスクは、内部の Oracle System Assistant メディアファイルの整合性を検証し、レポートを表示します。このタスクは、USB デバイスでエラーが発生したときや、Oracle サービス担当者からリクエストされたときに実行します。

使用しているバージョンの Oracle System Assistant が破損した場合は、My Oracle Support サイトからサーバーに対応した復旧 ISO イメージファイルをダウンロードします。詳細については、114 ページの「Oracle System Assistant ソフトウェアの復元」を参照してください。

Oracle System Assistant の USB メディアが正常に動作していることを検証するには:

- 1 「Advanced Tasks」をクリックしてから、「Media Integrity Check」タブをクリックします。

「Media Integrity Check」画面が表示されます。



2 「Check Integrity」 ボタンをクリックします。

Oracle System Assistant の内蔵 USB デバイスがテストされ、レポートが生成されます。テストでは推定実行時間が表示されます。テストはいつでも取り消すことができます。



参考 関連情報

- [33 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

# Oracle System Assistant の保守

---



注意 - OSA はブレード上で診断を設定、構成、および実行するために使用されますが、高入力周囲条件では信頼できません。このデバイスにはユーザー空間が存在せず、OSA で記載された機能のみを目的として使用されます。背面 USB ポートには、NEBS の最大入力周囲条件に対応する工業用温度定格のデバイスが必要です。Oracle では工業用温度定格の USB デバイスは提供されません。

---

このセクションでは、Oracle System Assistant ソフトウェアを管理、トラブルシューティング、および復元する方法について説明します。

ここでは、次のトピックを取り上げます。

説明	リンク
Oracle System Assistant のインストールをチェックします。	<a href="#">112 ページの「Oracle System Assistant のトラブルシューティング」</a>
Oracle System Assistant がサーバーにインストールされていて、正常に動作しているかどうかを確認します。	<a href="#">112 ページの「Oracle System Assistant のインストールの検証」</a>
Oracle System Assistant を復元します。	<a href="#">114 ページの「Oracle System Assistant ソフトウェアの復元」</a>
Oracle System Assistant を有効または無効にします。	<a href="#">120 ページの「BIOS からの Oracle System Assistant の有効化」</a>
Oracle System Assistant ファイルシステムをナビゲートします。	<a href="#">121 ページの「Oracle System Assistant ファイルシステムへのアクセス」</a>
Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブを Oracle VM 3.0、Oracle Solaris 10、または Linux オペレーティングシステムでマウントします。	<a href="#">122 ページの「Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント」</a>
Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブに搭載されているファームウェアおよびソフトウェアにアクセスします。	<a href="#">126 ページの「Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブ上のファームウェアとソフトウェアへのアクセス」</a>

---

## Oracle System Assistant のトラブルシューティング

デフォルトでは、Oracle System Assistant は出荷時に USB ストレージデバイスの各サポート対象サーバーにインストールされます。ほとんどの場合、Oracle System Assistant ソフトウェアはサーバーに事前にインストールされているため、ダウンロードする必要はありません。ただし、必要に応じて、復旧イメージをダウンロードできます。

---

注 - Oracle System Assistant は、初期インストール用のダウンロードとして使用できません。ただし、Oracle System Assistant イメージがサーバーにインストールされた場合は、復旧することができます。

---

Oracle System Assistant のトラブルシューティングを行うには:

- 112 ページの「Oracle System Assistant のインストールの検証」
- 114 ページの「Oracle System Assistant ソフトウェアの復元」
- 120 ページの「BIOS からの Oracle System Assistant の有効化」
- 121 ページの「Oracle System Assistant ファイルシステムへのアクセス」

### ▼ Oracle System Assistant のインストールの検証

アクセスしようとしても Oracle System Assistant のタスク画面が表示されない場合は、次の手順を実行して、Oracle System Assistant がサーバーにインストールされていて、正常に動作しているかどうかを確認します。

Netra Blade X3-2B は、Oracle System Assistant をデフォルトオプションとしてサポートし、サーバーに事前にインストールされています。使用しているサーバーに Oracle System Assistant が物理的にインストールされているのに、ファイルシステムから表示されない場合は、オフラインになっているか、破壊または上書きされている可能性があります。

Oracle System Assistant のインストールをチェックするには:

- 1 **Oracle ILOM** を使用して、**Oracle System Assistant** のインストールを検証します。  
Oracle ILOM の Web インタフェースで、「System Summary」ページに移動して、Oracle System Assistant がサーバーにインストールされているかどうかをチェックします。29 ページの「Oracle ILOM (Web) へのアクセス」を参照してください。
- 2 オペレーティングシステムから **Oracle System Assistant** のインストールを検証します。  
ファイルシステムブラウザまたはコマンド行端末を開いて、コンピュータまたはデバイスのディレクトリに移動し、Oracle System Assistant の USB デバイスが存在するかどうかをチェックします。

Oracle System Assistant の USB デバイスには、ORACLE\_SSM というラベルが付いています。デバイスをダブルクリックして、アクセス可能であることを確認します。

- デバイスが存在し、アクセス可能な場合は、アプリケーションを起動します。[23 ページの「Oracle System Assistant へのアクセス」](#)を参照してください。
- デバイスが OS に存在しない場合は、サーバーの物理的なチェックを実行します。『サービス』の「USB フラッシュドライブ (CRU) の保守」を参照してください。
- デバイスは存在するのにアクセスできない場合は、破損したデータが含まれている可能性があります。[114 ページの「Oracle System Assistant ソフトウェアの復元」](#)を参照してください。

**3 Oracle System Assistant が BIOS のブート優先順位リストに表示されることを確認します。**

サーバーの BIOS 設定ユーティリティにアクセスし、「Boot」メニューまで移動します。サーバーの BIOS 設定ユーティリティのアクセスについては、[149 ページの「BIOS 設定ユーティリティによるブレードの設定」](#)を参照してください。

- Oracle System Assistant デバイスのラベルは Oracle\_SSM です。
- 正しくラベルが付いたデバイスがブートリストに表示されている場合は、使用しているサーバーに Oracle System Assistant が存在します。Oracle System Assistant アプリケーションを起動する方法については、[23 ページの「Oracle System Assistant へのアクセス」](#)を参照してください。
- デバイスがサーバーに物理的に存在するのに、ブートリストには表示されない場合は、Oracle System Assistant が無効で、オフラインになっている可能性があります。Oracle System Assistant が無効で、オフラインになっているかどうかをチェックするには、次のステップを使用します。

**4 Oracle System Assistant が無効で、オフラインになっているかどうかをチェックします。**

[120 ページの「BIOS からの Oracle System Assistant の有効化」](#)を参照してください。

Oracle System Assistant が無効で、オフラインになっている場合は、有効にして、表示され、ブート可能になるようにします。

**5 サーバーの物理的なチェックを実行します。**

Oracle System Assistant は、サーバーの内蔵 USB デバイスにインストールされません。使用しているサーバーの内蔵 USB ポートの場所については、『サービス』の「USB フラッシュドライブ (CRU) の保守」を参照してください。

- デバイスが存在する場合は、アプリケーションを起動してみます。[23 ページの「Oracle System Assistant へのアクセス」](#)を参照してください。

- デバイスが存在するのに、オペレーティングシステムから表示できない場合は、無効でオフラインになっている可能性があります。120 ページの「[BIOS からの Oracle System Assistant の有効化](#)」を参照してください。
- アプリケーションが起動しない場合は、破損したデータが含まれている可能性があります。114 ページの「[Oracle System Assistant ソフトウェアの復元](#)」を参照してください。

## 参考 関連情報

- 33 ページの「[Oracle System Assistant の概要](#)」

## ▼ Oracle System Assistant ソフトウェアの復元

Oracle System Assistant が消去された、または壊れた場合、My Oracle Support サイトから利用可能なイメージファイルをダウンロードして、USB デバイスに復元することができます。USB ドライブを交換したあとや必要なときに、Oracle System Assistant ソフトウェアを復元します。

- 1 **My Oracle Support の Web サイト**から適切なイメージファイルをダウンロードします。使用しているサーバーに固有のイメージをダウンロードします。サーバーの更新イメージのパッケージ名は次のとおりです: X6270 M3 SW version -- Oracle System Assistant

たとえば、Netra Blade X3-2B の場合は、次の更新イメージをダウンロードできます: Sun\_Blade\_X6270\_M3-1.0.0.75555-ORACLE\_SYSTEM\_ASSISTANT\_UPDATER\_4G.iso。このファイル名は例です。正しいファイルをダウンロードする必要があります。

My Oracle Support へのアクセスおよびこのイメージのダウンロードについては、『*Netra Blade X3-2B* プロダクトノート』を参照してください。

- 2 更新イメージをブレードで使用可能にします。次のいずれかを実行します。
  - イメージファイルを使用して、物理 DVD イメージを作成します。サーバーに取り付けられている DVD ドライブに DVD を挿入します。

---

注 - Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、DVD をリダイレクトされた DVD としてサーバーで使用可能にすることもできます。

---

- **Oracle ILOM** リモートコンソールアプリケーションを使用して、更新イメージファイルを ISO イメージとしてサーバーで使用可能にします。

- 3 サーバーをリセットまたは電源投入します。  
次のいずれかの方法を選択します。
- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) 電源を切り、再度電源ボタンを押して、サーバーの電源を投入します。
  - Oracle ILOM Web インタフェースで、「Host Management」 > 「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
  - サーバー SP の Oracle ILOM CLI から、「reset /System」と入力します。
- BIOS 画面が表示されます。



---

注- 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。

---

- 4 BIOS 画面で、F8 キーを押して、Oracle System Assistant のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」画面が表示されます。



- 5 復旧イメージをサーバーで使用可能にしたときに使用した方法に応じて、次のステップのいずれかを実行します。

注 - 「Please Select Boot Device」メニューに一覧表示される項目は、システムがレガシー BIOS でブートされたか、UEFI ブートモードでブートされたかによって異なります。

- 復旧 DVD を作成し、その DVD を接続された DVD ドライブに挿入するように選択した場合は、次の「Please Select Boot Device」メニューに示されている **SATA:HDD:P4:TSSTcorp CDDVDW TS-T633C** を選択してから、Enter キーを押します。
- Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、復旧イメージをリダイレクトされた DVD または ISO イメージとしてサーバーで使用可能にするよう

に選択した場合は、次の「Please Select Boot Device」メニューに示すように、**USB:VIRTUAL:AMI Virtual CDROM 1.00** を選択してから、**Enter** キーを押します。



メッセージが表示され、復旧プロセスを続行するかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。

- 6 **Oracle System Assistant** イメージを復旧するには、「yes」と入力してから、Enter キーを押します。

次のメッセージが表示され、復旧プロセスの進捗を示します。完了すると、復旧された Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブを検証して正しくプログラムされたことを確認する必要があるかどうかを尋ねられます。

```
This program will restore your Oracle System Assistant embedded
storage device to the version contained on the recovery media.
It will overwrite any existing content on the embedded storage
device.
```

```
Would you like to proceed? [yes or no]
```

- 7 **USB デバイスの整合性のチェック**を実行するには、「yes」を入力してから、Enter キーを押します。

```
The embedded storage device is being recovered.
Please do not reboot or power off the server
during this process
```

```
[=====>] 100%
```

```
Recovery is complete, you may optionally perform an integrity verification
of the device to insure that it was correctly programmed.
```

```
Would you like to verify the device? [yes or no]
```

次の画面が表示され、Oracle System Assistant の USB デバイスが正常に検証されたことを示します。その後、システムがリブートし、Oracle System Assistant アプリケーションが起動します。

```
The embedded storage device is being recovered.
Please do not reboot or power off the server
during this process

[=====>] 100%

Recovery is complete, you may optionally perform an integrity verification
of the device to insure that it was correctly programmed.

Would you like to verify the device? [yes or no] yes

Verifying...
[=====>] 100%

Verification Succeeded.

Rebooting to start Oracle System Assistant...
Connected. Use ^D to exit.
-> set /HOST/provisioning/system-assistant _setboot=system-assistant
```

- USB デバイスの整合性チェックを実行しない場合は、「no」と入力してから、Enter キーを押します。

確認画面が表示され、復旧が完了したことを示します。その後、システムがリブートし、Oracle System Assistant アプリケーションが起動します。

```
The embedded storage device is being recovered.
Please do not reboot or power off the server
during this process

[=====>] 100%

Recovery is complete, you may optionally perform an integrity verification
of the device to insure that it was correctly programmed.

Would you like to verify the device? [yes or no] no

Rebooting to start Oracle System Assistant...
Connected. Use ^D to exit.
```

## 参考 関連情報

- [33 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

## ▼ BIOS からの Oracle System Assistant の有効化

Oracle System Assistant の USB デバイスをオンライン状態で有効にする (OS で使用可能にする) には、サーバーの BIOS 設定ユーティリティの「Boot」メニューで「Configure OSA」設定を使用します。

USB デバイスをオフライン状態で無効にして、サーバー OS から使用できないようにすることもできます。これにより、誤ってデバイスを消去および上書きしてしまうことが回避されます。デバイスをオフラインにするとブート可能ではなくなり、Oracle System Assistant デバイ스에搭載されたツール、ドライバ、およびファイルにはアクセスできなくなります。これを、Oracle System Assistant のメニュー画面から行うこともできます。

Oracle System Assistant の USB デバイスを有効にする (または無効にする) には:

- 1 サーバーの BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。  
149 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス」を参照してください。
- 2 「Boot」画面に移動します。



- 3 「OSA Configuration」画面に移動します。



- 4 「OSA Internal Support」設定で「Enabled」(または「Disabled」)を選択してから、Enter キーを押します。
- 5 BIOS ユーティリティを保存して終了するには、F10 キーを押します。サーバーがブートします。

#### 参考 関連情報

- 149 ページの「BIOS 設定ユーティリティによるブレードの設定」

## ▼ Oracle System Assistant ファイルシステムへのアクセス

- 1 「Advanced Tasks」をクリックしてから、「Shell」タブをクリックします。
- 2 「Start Shell」をクリックします。CLI プロンプトが表示されます。

- 3 ファイルシステムのルートディレクトリにアクセスするには、次のように入力します。  
`cd \sysroot`
- 4 シェルを終了するには、「**exit**」と入力します。

#### 参考 関連情報

- 107 ページの「Oracle System Assistant シェルにアクセスするための高度なタスクの実行」

## Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント

Oracle VM 3.0 または Oracle Solaris 10 および Linux オペレーティングシステムで Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブにアクセスする前に、まず USB フラッシュドライブをマウントする必要があります。

次の手順のいずれかを選択して、Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブをマウントします。

---

注 - 現時点では、システムが VMware ESXi 5.0 仮想マシンソフトウェアを使用している場合、Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブを直接マウントすることはできません。My Oracle Support に移動して、VMware ESXi ソフトウェアに必要なドライバを取得します。

---

- 123 ページの「Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント (Oracle VM 3.0)」
- 124 ページの「Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント (Linux OS)」
- 125 ページの「Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント (Oracle Solaris 10 OS)」
- 126 ページの「Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブ上のファームウェアとソフトウェアへのアクセス」

### 関連情報

- 126 ページの「Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブ上のファームウェアとソフトウェアへのアクセス」
- 23 ページの「システム管理ツールへのアクセス」

## ▼ Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント (Oracle VM 3.0)

- 1 Oracle VM 3.0 サーバーに **root** ユーザーとして接続します。
- 2 Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブのデバイスマッピングを確認するには、**lsscsi** コマンドを入力します。

このコマンドによるサーバー上のストレージデバイスの表示例は、次のとおりです。

```
# lsscsi
[0:0:0:0] disk SEAGATE ST360057SSUN600G 0805 /dev/sda
[0:0:1:0] disk SEAGATE ST32000SSUN2.0T 0313 /dev/sdb
[0:0:2:0] disk SEAGATE ST32000SSUN2.0T 0313 /dev/sdc
[0:0:3:0] disk ATA INTEL HDDSA2BZ30 0362 /dev/sdd
[0:0:4:0] enclosu ORACLE BLADE14 0903 -
[7:0:0:0] disk SUN StorEdge 3511 421F /dev/sde
[7:0:0:1] disk SUN StorEdge 3511 421F /dev/sdf
[7:0:0:2] disk SUN StorEdge 3511 421F /dev/sdg
[7:0:0:3] disk SUN StorEdge 3511 421F /dev/sdh
[9:0:0:0] disk SUN CSM200_R 0660 /dev/sdi
[9:0:0:1] disk SUN CSM200_R 0660 /dev/sdj
[9:0:0:2] disk SUN CSM200_R 0660 /dev/sdk
[9:0:0:3] disk SUN CSM200_R 0660 /dev/sdl
[9:0:0:4] disk SUN CSM200_R 0660 /dev/sdm
[9:0:0:5] disk SUN CSM200_R 0660 /dev/sdn
[11:0:0:0] disk ORACLE SSM PMAP /dev/sdo
```

Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブは、ORACLE SSM というラベルの付いたディスクであり、この例では /dev/sdo にマップされています。

- 3 Oracle System Assistant の USB デバイス上のパーティションの名前を確認するには、**fdisk -l /dev/sdo** コマンドを入力します。

このコマンドで生成される出力例は、次のとおりです。

```
# fdisk -l /dev/sdo
Disk /dev/sdo: 3880 MB, 3880452096 bytes
4 heads, 32 sectors/track, 59211 cylinders
Units = cylinders of 128 * 512 = 65536 bytes
Device Boot Start End Blocks Id System
/dev/sdo1 * 17 57344 3668992 ef EFI (FAT-12/16/32)
```

- 4 (オプション) Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブをマウントするとき使用するマウントポイントを作成します。

例:

```
# mkdir /mnt/OSA
```

- 5 **Oracle System Assistant** の USB デバイスをマウントするには、ステップ 3 で確認したパーティション名、および既存のマウントポイントまたはステップ 4 で作成したマウントポイントを使用します。

マウントコマンドの例は次のとおりです:

```
# mount -t vfat -o codepage=850 /dev/sdo1 /mnt/OSA
# ls /mnt/OSA
boot          Firmware      LiveOS        OracleVM      syslinux.cfg
Documentation ldlinux.sys  manifest.xml  readme.html  Versions.txt
EFI           Linux         Oracle        Solaris       Windows
#
```

指定された mount の場所に、Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブがマウントされます。

参考 **関連情報**

- [126 ページの「Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブ上のファームウェアとソフトウェアへのアクセス」](#)
- [23 ページの「システム管理ツールへのアクセス」](#)

## ▼ Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント (Linux OS)

サーバーで Linux オペレーティングシステムが動作している場合は、ファイルシステムを使用して内容を表示またはアクセスする前に、Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブをマウントする必要があります。

この手順では、Linux オペレーティングシステムで Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブをマウントする方法を示します。

- **Oracle System Assistant** の USB フラッシュドライブをマウントするには、次に示すコマンドを入力します。

```
#>mkdir /mnt/OSA
#>mount LABEL=ORACLE_SSM /mnt/OSA
#>cd /mnt/OSA
#>ls -l
total 916
drwxr-xr-x 2 root root 4096 Nov 21 07:42 boot
drwxr-xr-x 3 root root 4096 Nov 21 07:42 Documentation
drwxr-xr-x 3 root root 4096 Oct 26 21:05 EFI
drwxr-xr-x 16 root root 4096 Nov 21 07:42 Firmware
-r-xr-xr-x 1 root root 15218 Oct 26 19:10 ldlinux.sys
drwxr-xr-x 5 root root 4096 Nov 21 07:41 Linux
drwxr-xr-x 2 root root 4096 Oct 26 21:05 LiveOS
-rwxr-xr-x 1 root root 787672 Nov 21 08:17 manifest.xml
drwxr-xr-x 2 root root 4096 Nov 21 08:00 Oracle
-rwxr-xr-x 1 root root 78879 Nov 21 07:42 readme.html
drwxr-xr-x 4 root root 4096 Nov 21 07:41 Solaris
```

```
-rwxr-xr-x 1 root root 263    Oct 26 21:05 syslinux.cfg
-rwxr-xr-x 1 root root 3755   Nov 21 07:42 Versions.txt
drwxr-xr-x 3 root root 4096   Nov 21 07:42 VMware
drwxr-xr-x 4 root root 4096   Nov 21 07:42 Windows
#>
```

指定された場所に、Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブがマウントされます。

## 参考 関連情報

- 126 ページの「Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブ上のファームウェアとソフトウェアへのアクセス」
- 23 ページの「システム管理ツールへのアクセス」

## ▼ Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント (Oracle Solaris 10 OS)

サーバーで Oracle Solaris 10 が動作している場合は、ファイルシステムを使用して内容を表示またはアクセスする前に、Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブをマウントする必要があります。

Oracle Solaris 10 オペレーティングシステムで Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブをマウントするには:

- 1 **volfs** サービスをオフにするには、次のように入力します。

```
# svcadm disable volfs
```

- 2 **USB** フラッシュドライブを識別するには、次のように入力します。

```
# rmformat -l
```

デバイスのリストが表示されます。

```
Looking for devices...
1. Logical Node: /dev/rdisk/c1t0d0p0
   Physical Node:
   /pci@0,0/pci108e,484e@1a/hub@1/storage@2/disk@0,0
   Connected Device: ORACLE    SSM    PMAP
   Device Type: Removable
#
```

- 3 **USB** フラッシュドライブを読み取り専用で手動でマウントするには、次のように入力します。

```
# mount -F pcfs -o ro /dev/dsk/c1t0d0p1 /mnt
```

- 4 **Oracle Solaris 10** の内容を取得するには、次を入力します:

```
# cd /mnt/Solaris
```

```
# ls
```

次のように表示されます:

```
10U10 11
#
```

- 5 OSA デバイスのマウントを解除するには、次を入力します:

```
# cd /
```

```
# umount /mnt
```

- 6 volfs を再起動するには、次を入力します:

```
# svcadm enable volfs
```

Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブがマウントされます。

#### 参考 関連情報

- [126 ページの「Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブ上のファームウェアとソフトウェアへのアクセス」](#)
- [23 ページの「システム管理ツールへのアクセス」](#)

## ▼ Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブ上のファームウェアとソフトウェアへのアクセス

Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブには、サーバー用のファームウェアとソフトウェアが含まれています。USB フラッシュドライブには、オペレーティングシステムまたは仮想マシンのソフトウェアファイルシステムからアクセス可能です。Oracle System Assistant 内で更新の取得タスクを使用すると、すべてのソフトウェアリリースの更新とともに、更新済みのファームウェアおよびソフトウェアがダウンロードされます。

この手順では、Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブに搭載されているファームウェアおよびソフトウェアにアクセスして表示する方法について説明します。

- 1 サーバーの電源が投入され、オペレーティングシステムが動作していることを確認します。
- 2 Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブをマウントします。  
OS 固有のマウント手順については、次を参照してください。
  - [Oracle VM: 123 ページの「Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント \(Oracle VM 3.0\)」](#)

- [Linux OS: 124 ページの「Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント \(Linux OS\)」](#)
  - [Oracle Solaris 10 OS: 125 ページの「Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのマウント \(Oracle Solaris 10 OS\)」](#)
- 3 ファイルシステムブラウザを使用して、**Oracle System Assistant** の内蔵 USB フラッシュドライブまで移動します。
- USB フラッシュドライブのラベルは、Oracle VM オペレーティングシステムでは ORACLE\_SSM、Oracle Solaris 10 オペレーティングシステムおよび Linux オペレーティングシステムでは ORACLE\_SSM です。

---

注 - Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブがマウントされているのに表示されない場合は、Oracle System Assistant が無効になっている可能性があります。Oracle System Assistant を有効にするには、BIOS 設定ユーティリティから「Boot」 > 「OSA Configuration」画面の順にアクセスし、設定を「Enabled」に変更します。Oracle System Assistant を有効にする手順については、[120 ページの「BIOS からの Oracle System Assistant の有効化」](#)を参照してください。

---

- 4 **Oracle\_SSM** ドライブの内容を表示するには、そのドライブをダブルクリックします。
- Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブのディレクトリが表示され、そのドライブの内容が一覧表示されます。



# ソフトウェアとファームウェアの設定

---

このセクションでは、Oracle System Assistant、Oracle ILOM、およびOracle Hardware Management Pack を使用してサーバーのソフトウェアとファームウェアを設定する方法について説明します。

ほとんどの場合、Oracle System Assistant を使用して、サーバーのソフトウェアとファームウェアを設定します。サーバーに Oracle System Assistant が組み込まれていない場合、または Oracle System Assistant を使用しない場合は、Oracle ILOM または Oracle Hardware Management Pack のいずれかを使用してサーバーのソフトウェアおよびファームウェアを設定できます。

ここでは、次のトピックを取り上げます。

説明	リンク
Oracle System Assistant を使用してソフトウェアとファームウェアを設定します。(推奨)	<a href="#">129 ページの「ソフトウェアおよびファームウェアの設定 (OSA)」</a>
Oracle ILOM を使用してソフトウェアとファームウェアを設定します。	<a href="#">131 ページの「ソフトウェアとファームウェアの設定 (Oracle ILOM)」</a>
Oracle Hardware Management Pack を使用してソフトウェアとファームウェアを設定します。	<a href="#">132 ページの「使用したソフトウェアとファームウェアの設定 (Oracle Hardware Management Pack)」</a>

## ▼ ソフトウェアおよびファームウェアの設定 (OSA)

### 1 Oracle System Assistant に接続します。

[26 ページの「Oracle ILOM \(Web\) からの Oracle System Assistant へのアクセス」](#) を参照してください。

**2 Oracle System Assistant** を使用して設定タスクを実行します。

38 ページの「サーバー構成のための Oracle System Assistant の使用」を参照してください。

- a. ブレードのファームウェア、ドライバ、ソフトウェア、およびドキュメントに対応した更新を取得します。

43 ページの「プラットフォームソフトウェアリリースの更新の取得」を参照してください。

- b. ブレードのネットワーク設定を構成します。

42 ページの「ネットワーク設定の構成」を参照してください。

- c. ブレードファームウェアを更新します。

HBA ファームウェアを更新します。

---

注-シャーシ CMM またはホストから HBA エクスパンダファームウェアをアップグレードするには、Hardware Management Pack アプリケーションの fwupdate を使用します。

---

47 ページの「ファームウェアの更新」を参照してください。

- d. ブレード SP のネットワーク設定、ユーザーアカウント、およびクロック設定を構成します。

52 ページの「Oracle ILOM SP 用のハードウェア構成」を参照してください。

- e. RAID を構成します。

49 ページの「RAID 用のハードウェア構成」を参照してください。

- f. オペレーティングシステムをインストールします。

57 ページの「オペレーティングシステムのインストール」を参照してください。

参考 **関連情報**

- 33 ページの「Oracle System Assistant によるブレードの設定」

## ▼ ソフトウェアとファームウェアの設定 (Oracle ILOM)

- 1 ブレードがスタンバイモードであること、およびファームウェアのアップロードが進行中でないことを確認します。  
サーバーがスタンバイモードの場合、電源/OK LED はゆっくり (約 3 秒ごとに) 点滅し、ホストは電源が切られています。
- 2 Oracle ILOM に接続します。  
手順については、29 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」、詳細については、『Netra Blade X3-2B 設置ガイド』を参照してください。
- 3 ブレードに全電力を供給します。次のいずれかを実行します。
  - Oracle ILOM の Web インタフェースを使用: 「System Information」 > 「Summary」画面で、「Power State」の横にある「Turn On」をクリックします。
  - Oracle ILOM コマンド行インタフェース (CLI) を使用: サーバー SP CLI から、「start /System」と入力します。  
『サービス』の「ブレードへの電源投入」を参照してください。
- 4 サーバーの電源が正常に投入されたあと、サーバーのフロントパネルにある電源/OK LED が緑色に常時点灯することを確認します。  
常時点灯の緑色の電源/OK LED は、ホストが OS へと完全にブートされ、通常動作の準備ができていることを示します。  
『サービス』の「フロントパネル LED」を参照してください。
- 5 Oracle ILOM と BIOS を更新します。  
<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31> を参照してください。
- 6 Oracle ILOM を構成します。  
<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31> を参照してください。
- 7 Oracle ILOM から使用できない追加の設定タスクを実行します。
  - a. エクスパンダまたは HBA ファームウェアを更新します。  
『インストール』の「ブレードの機能」を参照してください。
  - b. RAID を構成します。  
145 ページの「RAID の構成」を参照してください。

- c. オペレーティングシステムをインストールするか、インストール済みのオペレーティングシステムを構成します。
- インストールするオペレーティングシステムの OS インストールガイドを参照してください。
- 『Netra Blade X3-2B Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』
  - 『Netra Blade X3-2B Linux オペレーティングシステムインストールガイド』
  - 『Netra Blade X3-2B Oracle VM オペレーティングシステムインストールガイド』
  - 『Netra Blade X3-2B Windows オペレーティングシステムインストールガイド』
  - 『Netra Blade X3-2B ESX ソフトウェアインストールガイド』

参考 関連情報

- 『サービス』の「フロントパネル LED」
- 『Netra Blade X3-2B 設置ガイド』
- Oracle ILOM のドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>)

## ▼ 使用したソフトウェアとファームウェアの設定 (Oracle Hardware Management Pack)

始める前に この手順では、次を想定しています。

- オペレーティングシステムがインストールされている。
  - オプションで RAID が構成されている。145 ページの「RAID の構成」を参照してください。
  - Oracle Hardware Management Pack がインストールされている。31 ページの「Oracle Hardware Management Pack (OSA) へのアクセス」を参照してください。
- 1 まだ行っていない場合は、ブレードに接続します。  
手順については、『Netra Blade X3-2B 設置ガイド』を参照してください。
  - 2 サーバーの電源が投入されていない場合は、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して、サーバーの電源を全電力モードで投入します。  
サーバーの電源が正常に投入されると、サーバーのフロントパネルにある電源/OK LED が緑色に常時点灯し、ホストが通常の操作を行う準備ができていることを示します。  
『サービス』の「フロントパネル LED」を参照してください。

- 3 ホストオペレーティングシステムをインストールまたは構成し、必要なドライバをインストールします。  
インストールするオペレーティングシステムの OS インストールガイドを参照してください。
  - 『Netra Blade X3-2B Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』
  - 『Netra Blade X3-2B Linux オペレーティングシステムインストールガイド』
  - 『Netra Blade X3-2B Oracle VM オペレーティングシステムインストールガイド』
  - 『Netra Blade X3-2B Windows オペレーティングシステムインストールガイド』
  - 『Netra Blade X3-2B ESX ソフトウェアインストールガイド』
  
- 4 **Oracle Hardware Management Pack** がインストールされていない場合はインストールします。  
次のサイトで手順を参照してください: <http://www.oracle.com/goto/system-management>。
  
- 5 **Oracle ILOM** と BIOS ファームウェアを更新します。  
必要に応じて、Oracle Hardware Management Pack の fwupdate ツールを使用します。

---

注 - ILOM および BIOS ファームウェアを更新する代替の方法として、Oracle System Assistant、Oracle ILOM (CLI と Web ブラウザ)、および ipmiflash があります。

---
  
- 6 **Oracle ILOM** を構成します。  
必要に応じて、Oracle Hardware Management Pack の ilomconfig ツールを使用します。

---

注 - Oracle ILOM を構成する代替の方法として、Oracle System Assistant および Oracle ILOM (CLI と Web ブラウザ) があります。

---
  
- 7 (オプション) **BIOS** を構成します。  
必要に応じて、Oracle Hardware Management Pack の ubiosconfig ツールを使用します。

---

注 - BIOS ファームウェアを構成する代替の方法として、Oracle System Assistant および Oracle ILOM (CLI と Web ブラウザ) があります。

---
  
- 8 (オプション) **RAID** を検索して構成します。  
必要に応じて、Oracle Hardware Management Pack の raidconfig ツールを使用します。

---

注 - RAID を構成する代替の方法として、Oracle System Assistant、Oracle ILOM (CLI と Web ブラウザ)、LSI MSM アプリケーション、および LSI HBA BIOS ユーティリティ (WebBIOS 構成ユーティリティ、MegaCLI、および sas2ircu) があります。

---

- 9 サポートされる SAS ストレージドライブ、組み込み SAS ストレージコントローラ、LSI SAS ストレージエクspand、およびストレージドライブのファームウェアバージョンを照会、更新、検証します。
- 必要に応じて、Oracle Hardware Management Pack の fwupdate ツールを使用します。

## 参考 関連情報

- Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp>)
- 『Netra Blade X3-2B 設置ガイド』
- 『Netra Blade X3-2B Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』
- 『Netra Blade X3-2B Linux オペレーティングシステムインストールガイド』
- 『Netra Blade X3-2B Oracle VM オペレーティングシステムインストールガイド』
- 『Netra Blade X3-2B Windows オペレーティングシステムインストールガイド』
- 『Netra Blade X3-2B ESX ソフトウェアインストールガイド』
- 『Netra Blade X3-2B サービスマニュアル』

# Oracle ILOM を使用したサーバーポリシーの管理

---

Oracle Integrated Lights Out Manager (Oracle ILOM) を使用して、Netra Blade X3-2B の電源投入およびその他のポリシーを設定できます。

ここでは、次のトピックを取り上げます。

説明	リンク
サービスプロセッサの電源投入ポリシーを確認します。	<a href="#">138 ページの「サービスプロセッサの電源投入ポリシー」</a>
Oracle ILOM Web インタフェースを使用して管理ポリシーを構成します。	<a href="#">143 ページの「Oracle ILOM (Web) インタフェースを使用した管理ポリシーの構成」</a>
Oracle ILOM CLI インタフェースを使用して管理ポリシーを構成します。	<a href="#">144 ページの「Oracle ILOM (CLI) を使用した管理ポリシーの構成」</a>
次のタスクについては、Oracle ILOM 3.1 のドキュメントコレクションを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ ブレードのハードウェアを構成します。</li><li>■ ブレードの電源投入ポリシーを設定します。</li><li>■ ブレードの冷却ポリシーを設定します。</li><li>■ ハードウェアで発生しているエラーおよび障害を監視します。</li><li>■ 障害発生時に SNMP トラップまたは電子メール警告を使用してイベントを送信します。</li><li>■ ブレードの電源状態をリモートから制御します。</li></ul>	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31</a>

---

## 関連情報

- 29 ページの「Oracle ILOM (Web) へのアクセス」
- 30 ページの「Oracle ILOM (CLI) へのアクセス」
- Oracle ILOM のドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>)
- 249 ページの「ハードウェアコンポーネントおよび SNMP メッセージの識別」

## Oracle ILOM の機能

Oracle Integrated Lights Out Manager (Oracle ILOM) は、Oracle Sun サーバーの監視と管理に使用できる機能およびプロトコルの完全なセットを備えています。Oracle ILOM 機能の一部には次が含まれます。

- ブラウザベースの Web インタフェースと SSH コマンド行インタフェース
- ファームウェア更新のダウンロード
- リモートハードウェアの監視
- ハードウェア現場交換可能ユニットの目録と存在検出
- リモートのキーボード、ビデオ、マウス、およびストレージ (KVMS) のリダイレクト
- システムの電源制御と監視
- ユーザーアカウントの構成と管理
- エラーと障害の管理
- SNMP トラップ、IPMI PET、リモート syslog、電子メール警告などのシステム警告

これらの Oracle ILOM 機能の詳細、および Oracle ILOM を使用して手順を実行する方法については、[Oracle ILOM ドキュメントライブラリ \(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31\)](http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31) を参照してください。

## x86 Sun サーバー向けの Oracle ILOM 機能

Netra Blade X3-2B は、Oracle Integrated Lights Out Manager (Oracle ILOM) 3.1 ファームウェアのすべての標準機能をサポートします。また、Oracle ILOM 3.1 は、x86 Sun サーバー専用設計された機能を提供します。

次の表に、x86 Sun サーバーに固有、および x86 Sun サーバーでサポートされる Oracle ILOM 3.1 機能を示します。これらの機能の詳細については、Oracle ILOM 3.1 ドキュメントコレクションのドキュメントを参照してください。

Oracle ILOM 3.1 の機能	詳細情報および手順の参照先:
サイドバンド管理	『Oracle ILOM 3.1 構成および保守ガイド』の「Oracle ILOM への管理接続の確立」
電源管理ポリシー	<p>138 ページの「サポートされる電源管理ポリシー」</p> <p>サポートされる電源管理ポリシー:</p> <p>『Oracle ILOM 3.1 構成および保守ガイド』の「管理対象デバイスの電源状態を変更する」</p> <p>注-x86 Sun サーバー向けの Oracle ILOM 3.1 でサポートされていない機能:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 『Oracle ILOM 3.1 構成および保守ガイド』の管理対象デバイスの電源状態の変更に関するセクション</li> <li>■ 『Oracle ILOM 3.1 ユーザーズガイド』の「Oracle ILOM インタフェースを介したリアルタイム電力監視」</li> </ul>
Pc_Check による診断とマスキング不可割り込み	<p>『Oracle ILOM 3.1 ユーザーズガイド』の「Oracle ILOM 管理対象デバイスのトラブルシューティング」</p> <p>『Oracle x86 サーバー診断ガイド Oracle ILOM 3.1 を使用するサーバー向け』の「Pc-Check 診断テストの実行」</p>
次のブートデバイスの制御	『Oracle ILOM 3.1 構成および保守ガイド』の「x86 ホストサーバーの次のブートデバイスの設定」
FRU トップレベルインジケータの自動更新	140 ページの「FRU TLI の自動更新」
ホスト管理コンソールへのシリアルポート出力の切り替え	『Oracle ILOM 3.1 構成および保守ガイド』のホストシリアルコンソールへのシリアルポート管理出力の切り替えに関するセクション。
BIOS 構成のバックアップと復元	『Oracle ILOM 3.1 構成および保守ガイド』の「x86 BIOS 構成パラメータの保守」
未解決問題の管理とサーバー障害のクリア	<p>『Oracle ILOM 3.1 ユーザーズガイド』の「未解決の問題の管理」</p> <p>『Oracle ILOM 3.1 ユーザーズガイド』の「Oracle ILOM 障害管理シナリオによる Sun ハードウェア障害の管理」</p>

## サイドバンド管理

サイドバンド管理機能は、Oracle ILOM への管理接続を確立できる 4 つの方法のうちの 1 つです。デフォルトでは、Oracle ILOM は、Sun サーバーのシャーシにあるセキュア専用管理ポート (NET MGT) 経由ですべてのトラフィックを送信するように設定されています。ただし、管理トラフィックとホストトラフィックの両方で Oracle ILOM へのネットワーク接続を 1 つだけサポートする場合は、サイドバンド管理接続を構成できます。

Oracle ILOM でサイドバンド管理を構成するための特別な検討事項、要件、および手順については、『Oracle ILOM 3.1 構成および保守ガイド』の「Oracle ILOM への管理接続の確立」を参照してください。

## サービスプロセッサの電源投入ポリシー

ブレード上でコールドブートを行うと、サービスプロセッサ (SP) の電源投入ポリシーによって、ブレードの電源状態が判断されます。サーバーのコールドブートは、ブレードに AC 電源が供給されている場合にのみ行われます。

サービスプロセッサの電源投入ポリシーは相互排他的であり、1つのポリシーが有効になると、ほかのポリシーはデフォルトで無効になります。両方のポリシーが無効になると、ブレード SP はブート時のブレードに主電源を供給しません。次の表では、2つの電源投入ポリシーについて説明します。

ポリシー	有効	無効
<b>Auto Power-On Host On Boot</b>	有効の場合、サービスプロセッサは自動的に主電源をブレードに供給します。	無効 (デフォルト) の場合には、ブレードに主電源が供給されません。
<b>Set Host Power to Last Power State On Boot</b>	有効の場合、サービスプロセッサは、ブレードの最後の電源状態に基づいて、自動的に主電源をサーバーに供給します。	無効 (デフォルト) の場合は、前回の電源状態はブレードに適用されません。
	SP によって最後の電源状態が自動的に追跡され、前回記憶されたサーバーの電源状態 (少なくとも 10 秒間持続した電源状態変更) が復元されます。	

### 関連情報

- 143 ページの「Oracle ILOM (Web) インタフェースを使用した管理ポリシーの構成」
- 144 ページの「Oracle ILOM (CLI) を使用した管理ポリシーの構成」

## サポートされる電源管理ポリシー

Oracle ILOM 3.1 では、次の電源機能を x86 Sun サーバーに対して使用できます。

電源機能	説明
リモート電源制御	<p>Oracle ILOM インタフェースからリモートでサーバーの電源状態を構成します。使用可能な電源状態は次のとおりです。</p> <p>システムへの電源を削減する</p> <p>システムを正常に停止する</p> <p>システムの電源を投入して電源を完全に供給する</p> <p>これらの操作の手順については、『Oracle ILOM 3.1 構成および保守ガイド』の「管理対象デバイスの電源状態を変更する」を参照してください。</p>
電源投入ポリシー	<p>サービスプロセッサ (SP) の電源投入ポリシーによって、AC 電源がサーバーに供給されているときのサーバーの電源状態が決まります (コールドブート)。サービスプロセッサの電源投入ポリシーは相互排他的であるため、1 つのポリシーが有効になると、ほかのポリシーはデフォルトで無効になります。両方のポリシーが無効になると、サーバー SP はブート時にサーバーに主電源を供給しません。</p> <p>2 つの電源投入ポリシー:</p> <p><b>Auto Power-On Post on Boot</b> - このオプションを有効にすると、SP によってサーバーに主電源が自動的に供給されます。無効 (デフォルト) の場合、主電源はサーバーに供給されません。</p> <p><b>Set Host Power to Last Power State on Boot</b> -- このオプションを有効にすると、SP によって最後の電源状態が自動的に追跡され、この最後の電源状態 (少なくとも 10 秒間持続した電源状態変更) が復元されます。無効 (デフォルト) の場合は、最後の電源状態はサーバーに適用されません。</p> <p>電源投入ポリシーを設定する方法については、『Oracle ILOM 3.1 構成および保守ガイド』の「管理対象デバイスの電源状態を変更する」を参照してください。</p>

## Pc-Check による診断とマスク不可能割り込み (NMI)

Pc-Check は、Oracle ILOM に統合されている DOS ベースの診断ユーティリティで、すべてのマザーボードコンポーネント、ポート、およびスロットを検出してテストできます。Pc-Check には、Oracle ILOM から実行できる次の 4 つの動作モードがあります。

- **Enabled** -- サーバーの起動時に定義済みの診断を実行します。
- **Extended** -- サーバーの起動時に包括的な診断テストスイートを実行します。
- **Manual** -- サーバーの起動時に指定の診断のみを実行します。
- **Disabled** -- サーバーの起動時に Pc-Check 診断を実行しません。

また、Oracle ILOM を使用して、ホストのオペレーティングシステムにマスク不可能割り込み (NMI) を送信できます。NMI は、ほかの割り込みが無視できないシステムエラーを報告する高優先度の割り込みです。ホストのオペレーティングシステムに NMI を送信すると、ホストが応答を停止し、外部デバッグからの入力を待機する場合があります。そのため、この機能は、Oracle 保守担当者から指示があった場合のみ使用してください。

Pc-Check 診断の詳細については、『Oracle x86 サーバー診断ガイド Oracle ILOM 3.1 を使用するサーバー向け』を参照してください。Pc-Check を実行する手順と、Oracle ILOM から NMI を生成する方法については、『Oracle ILOM 3.1 ユーザーズガイド』の「Oracle ILOM 管理対象デバイスのトラブルシューティング」を参照してください。

## 次のブートデバイスの制御

Oracle ILOM を使用して、次の電源投入時における次のブートデバイスは何かをリモート制御できます。次のブートデバイスの設定に使用できる状態は、次のとおりです。これらの設定は次のホストのブート時に適用され、現在の BIOS のブート順序設定をバイパスします。

- **Default** -- BIOS 設定はオーバーライドされません。また、以前に選択した内容がクリアされます。
- **PXE** - ホストは、PXE の仕様に従って、ネットワークからブートします。
- **Disk** - ホストは、BIOS で指定された最初のディスクからブートします。
- **Diagnostic** - ホストは、構成されている場合は、診断パーティションでブートします。
- **CD-ROM** - ホストは、接続されている CD-ROM デバイスまたは DVD デバイスからブートします。
- **BIOS** - ホストは、BIOS 設定画面にブートします。

Oracle ILOM で次のブートデバイス設定を構成する方法については、『Oracle ILOM 3.1 構成および保守ガイド』の「x86 ホストサーバーの次のブートデバイスの設定」を参照してください。

## FRUTLI の自動更新

ILOM は、サーバーの現場交換可能ユニット (Field-Replaceable Unit、FRU) に保存された TLI が常に正しいことを保証する、トップレベルインジケータ (Top-Level Indicator、TLI) の自動更新機能を備えています。TLI は各サーバーで一意であり、サーバーのサービス資格と保証範囲を追跡するために使用されます。サーバーでサービスが必要になると、サーバーの TLI を使用して、サーバーの保証が期限切れでないことが確認されます。

TLI は、配電盤 (PDB)、マザーボード (MB)、およびディスクバックプレーン (DBP) の 3 つのコンポーネントの FRUID (現場交換可能ユニット識別子) に保存されます。各コンポーネントの FRUID に保存される TLI コンポーネントは次のとおりです。

- PPN (製品パーツ番号)
- PSN (製品シリアル番号)
- WWN (World Wide Name)

TLI が含まれているサーバーの FRU を取り外して交換モジュールを取り付けるときに、ほかの 2 つのモジュールと同じ TLI を含むように、交換モジュールの TLI は Oracle ILOM によってプログラムされます。

## ホスト管理コンソールへのシリアルポート出力の切り替え

Oracle ILOM は、デフォルトでは、シリアル管理ポート (SER MGT) 経由でローカル管理トラフィックを送信します。ただし、コンソールの出力をホストコンソールポート (COM1) に直接送信するように Oracle ILOM を構成できます。この機能を使用すると、ホストコンソールから ASCII 文字以外のトラフィックを表示できるため、Windows カーネルのデバッグに役立ちます。

シリアルポートとホストコンソールとの間でシリアルポート出力を切り替えるための前提条件と手順の詳細については、『Oracle ILOM 3.1 構成および保守ガイド』のホストコンソールへのシリアル管理ポート出力の切り替えに関するセクションを参照してください。

## BIOS 構成のバックアップと復元

Oracle ILOM の BIOS 構成のバックアップと復元機能は、ホストのデータストア BIOS 構成パラメータの保守を容易にします。この機能により、ホストのデータストアの BIOS パラメータを Oracle ILOM にバックアップしたり、Oracle ILOM に保存したパラメータをホストのデータストアに復元したりできます。BIOS 構成設定を出荷時のデフォルトにリセットすることもできます。

この機能の詳細、および Oracle ILOM でこれらの操作を実行する方法の手順については、『Oracle ILOM 3.1 構成および保守ガイド』の「x86 BIOS 構成パラメータの保守」を参照してください。

## 未解決の問題の管理

Oracle ILOM は、システムのハードウェア障害と管理対象システム的环境条件を自動的に検出します。管理対象システムに問題が発生すると、Oracle ILOM は自動的に次を実行します。

- 管理対象デバイスのサービス動作インジケータ (LED) を点灯します。
- 読みやすい「Open Problems」表で障害の状態を報告します。
- 障害の状態に関するシステム情報をイベントログに記録します。

コンポーネントの修理または交換が完了すると、Oracle ILOM はその障害の状態を「Open Problems」表からクリアします。

Oracle ILOM のインタフェースで検出および報告されるハードウェアの障害の管理の詳細については、『Oracle ILOM 3.1 ユーザーズガイド』の「管理対象デバイスに検出された未解決の問題を表示する」と「Oracle ILOM 障害管理シェルによる Sun ハードウェア障害の管理」を参照してください。

## ブレード障害のクリア

サーバーコンポーネントで障害が発生した場合は、サーバーがコンポーネント固有の障害を生成し、その障害を Oracle ILOM SP が収集します。一部の障害は、障害が発生したコンポーネントを交換するときに自動的にクリアされますが、ホットサービスに対応していないコンポーネントで生成された障害は、手動でクリアする必要があります。Oracle ILOM を使用して、障害をクリアできます。

Netra Blade X3-2B では、障害が発生したコンポーネントの交換後に、次の種類の障害を手動でクリアする必要があります。

- DIMM (メモリーモジュール) 障害
- プロセッサ (CPU) の障害
- PCIe 障害 (ネットワークポートおよびホットプラグ対応 PCI-Express Module (PEM))
- マザーボードの障害 (Netra Blade X3-2B を交換する場合は必ずしも必要なし)

DIMM、プロセッサ、PCIe、およびマザーボードの障害を解決するには、Oracle ILOM CLI にアクセスし、障害をクリアします。手順については、『サービス』の「ブレードコンポーネントの保守」『』を参照してください。

### 上部カバーのブレード障害のクリア

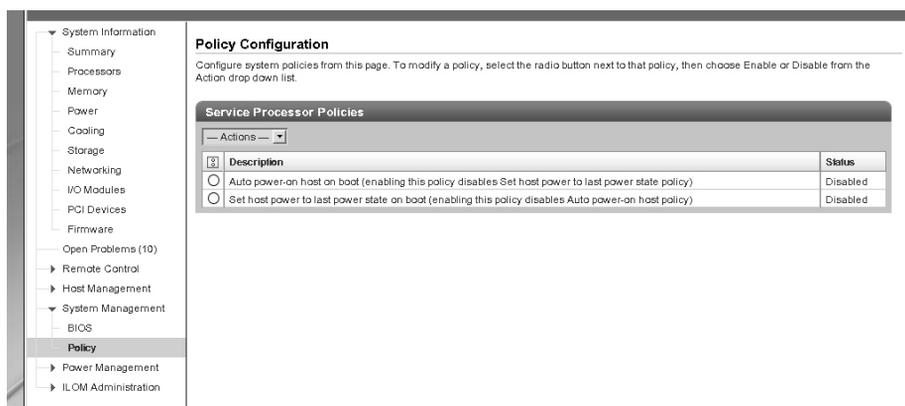
さらに、次の障害では、障害が発生したコンポーネントを交換する必要はありませんが、ユーザーの操作により障害をクリアする必要があります。

**fault.security.integrity-compromised@sys/sp**

この障害は、AC電源コードが電源に接続されたままの状態、つまり、電力がサーバーから完全に切り除かれていない状態でサーバーの上面カバーが取り外された場合に生成されます。**fault.security.integrity-compromised@sys/sp** 障害をクリアするには、サーバーの上部カバーを取り付け、サーバーのSPをリブートします。

## ▼ Oracle ILOM (Web) インタフェースを使用した管理ポリシーの構成

- 1 Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。  
30 ページの「Oracle ILOM (CLI) へのアクセス」を参照してください。
- 2 「System Management」 > 「Policy」をクリックします。  
「Policy Configuration」ページが表示されます。



- 3 構成するポリシーの横にあるラジオボタンをクリックします。
- 4 ドロップダウンリストをクリックして、「Enable」または「Disable」を選択します。  
選択を確認するよう指示されます。
- 5 「OK」をクリックすると、ポリシーが無効または有効になります。

### 参考 関連情報

- 144 ページの「Oracle ILOM (CLI) を使用した管理ポリシーの構成」
- 30 ページの「Oracle ILOM (CLI) へのアクセス」
- 138 ページの「サービスプロセッサの電源投入ポリシー」

## ▼ Oracle ILOM (CLI) を使用した管理ポリシーの構成

- 1 CLIを使用してOracle ILOMにログインします。  
[30 ページの「Oracle ILOM \(CLI\) へのアクセス」](#)を参照してください。

- 2 現在のポリシーを表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/policy
```

SP ポリシーのプロパティが表示されます。次に例を示します。

```
/SP/policy
Targets:
Properties:
  HOST_AUTO_POWER_ON = disabled
  HOST_LAST_POWER_STATE = disabled
Commands:
  cd
  set
  show
```

- 3 ポリシーを有効または無効にするには、次の形式を使用してコマンドを入力します。

```
-> set /SP/policy policy_name = enabled
```

たとえば、ブート時にホストの電源を最後の電源状態にするポリシーを有効にするには、次のように入力します。

```
-> set /SP/policy/ HOST_LAST_POWER_STATE=enabled
```

次に、show /SP/policy をふたたび入力して、新しい設定を確認します。

```
/SP/policy
Targets:
Properties:
  HOST_AUTO_POWER_ON = disabled
  HOST_LAST_POWER_STATE = enabled
```

### 参考 関連情報

- [143 ページの「Oracle ILOM \(Web\) インタフェースを使用した管理ポリシーの構成」](#)
- [30 ページの「Oracle ILOM \(CLI\) へのアクセス」](#)
- [138 ページの「サービスプロセッサの電源投入ポリシー」](#)

# RAID の構成

---

このセクションでは、ブレードでの RAID デバイスの構成に関する情報を示します。  
ここでは、次のトピックを取り上げます。

説明	リンク
HBA REM がブレードでサポートされていることを確認します。	<a href="#">145 ページの「サポートされている HBA REM」</a>
M2 RAID の考慮事項を確認します。	<a href="#">146 ページの「RAID の考慮事項」</a>
オペレーティングシステムをインストールする前に RAID ボリュームを作成します。	<a href="#">146 ページの「オペレーティングシステムをインストールする前」</a>
オペレーティングシステムをインストールしたあとで RAID ボリュームを作成します。	<a href="#">147 ページの「オペレーティングシステムをインストールしたあと」</a>

## サポートされている HBA REM

Netra Blade X3-2B は、2つのホストバスアダプタ (HBA) RAID 拡張モジュール (REM) をサポートします。これらの REM は、サーバーと一緒に注文することも、個別に注文することもできます。REM の取り付けおよびハードドライブの接続の手順については、『*Netra Blade X3-2B* サービスマニュアル』を参照してください。

次の表に、Netra Blade X3-2B で使用可能な HBA Express Module ディスクコントローラと、各コントローラで使用可能な RAID レベルを示します。

ディスクコントローラ	REM のパート番号	サポートされている RAID レベル
オプションの Sun Storage 6Gb/s SAS REM HBA、LSI Fusion-MPT IR SAS2	SGX-SAS6-REM-Z	ハードウェア 0、1、10
オプションの Sun Storage 6Gb/s SAS REM RAID HBA、LSI MegaRAID SAS2	SGX-SAS6-R-REM-Z	ハードウェア 0、1、5、6、10、50、60

## RAID の考慮事項

Netra Blade X3-2B 内にあるドライブは、ストレージモジュール M2 ディスク格納装置内にあるドライブとは別の「障害ドメイン」内にあると見なされます。障害ドメインは、同じ方法でドライブに接続する格納装置または格納装置のグループです。

ブレードは単一の配線を使用してドライブに接続し、ストレージモジュール M2 は 2 つの配線を使用してドライブに接続するため、これらは異なる障害ドメインです。次のようになります。

- 異なる障害ドメイン内にあるドライブは、同じ RAID ボリュームの一部(またはそのボリューム用のホットスペア)にしないでください。
- 2 つ以上のブレード M2 ディスク格納装置は同じ障害ドメイン内にあると見なされるため、RAID ボリュームおよびホットスペアを、複数のストレージモジュールからのドライブで構成できます。
- 単一の配線(ポート)接続のみを使用するディスクは、2 つの配線を使用してディスクに接続するストレージモジュール M2 ではサポートされません。これらのサポートされないドライブの種類には、SATA ドライブと SATA SSD ドライブが含まれます。単一の配線と 2 つの配線の両方に対応するドライブは、Netra Blade X3-2B でサポートされます。

## RAID ボリュームの作成

- [146 ページの「オペレーティングシステムをインストールする前」](#)
- [147 ページの「オペレーティングシステムをインストールしたあと」](#)

## オペレーティングシステムをインストールする前

次のガイドラインは、サポート対象の HBA に接続されたストレージドライブを使用してオペレーティングシステム(OS)をインストールする場合に適用されます。

- SGX-SAS6-REM-Z の場合、RAID ボリュームを作成せずに OS をドライブにインストールできます。ただし、OS インストールディスクから OS をインストールする場合は、OS をインストールする前に RAID ボリュームを作成する必要があります。
- SGX-SAS6-R-REM-Z の場合、OS をドライブにインストールする前に、RAID ボリュームを作成する必要があります。また、ドライブをブート可能にする必要があります。

RAID ボリュームを作成する方法および OS をインストールする前にドライブをブート可能にする方法については、[Installation, Preparing the Storage Drives to Install an Operating System](#)を参照してください。

## オペレーティングシステムをインストールしたあと

ほとんどの場合、RAIDの構成は、オペレーティングシステムをインストールする前にブートディスクに対して実行します。ただし、オペレーティングをインストールしたあとに、ほかの非ブートディスク上でRAIDボリュームを作成できます。

OSがインストールされたあとでRAIDボリュームを作成し、ブレードRAIDリソースを管理するには、次のツールのいずれかを選択します。

- **Oracle System Assistant** を使用して、RAID 0 または 1 レベルボリュームを作成し、OS インストールのためにドライブを準備できます。23 ページの「[Oracle System Assistant へのアクセス](#)」を参照してください。
- **Oracle Hardware Management Pack 2.2:** このソフトウェアの Oracle Server CLI Tools コンポーネントに含まれる `raidconfig` コマンドを使用して、サーバーでRAIDボリュームを作成および管理できます。Oracle Hardware Management Pack へのアクセスの詳細については、31 ページの「[Oracle Hardware Management Pack へのアクセス](#)」を参照してください。

- **(SGX-SAS6-REM-Z のみ) LSI SAS2 2008 RAID Management Utility:** LSI SAS2 Integrated Configuration Utility に含まれる `sas2ircu` コマンドを使用して、サーバーでRAIDボリュームを構成および管理できます。

使用しているオペレーティングシステム用の SAS2IRCUCI ソフトウェアは、次の場所の「Utilities」セクションからダウンロードできます：[http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sg\\_x\\_sas6-rem-z.aspx](http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sg_x_sas6-rem-z.aspx)

- **(SGX-SAS6-R-REM-Z のみ) LSI MegaCLI または MegaRAID Storage Manager:** LSI MegaCLI コマンド行ツールまたは MegaRAID Storage Manager Web ブラウザを使用すると、SGX-SAS6-R-REM-Z の RAID ボリュームを構成および管理できます。

使用しているオペレーティングシステム用の MegaCLI および MegaRAID Storage Manager ソフトウェアは、次の場所の「Utilities」セクションからダウンロードできます：[http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sg\\_x\\_sas6-r-rem-z.aspx](http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sg_x_sas6-r-rem-z.aspx)



# BIOS 設定ユーティリティによるブレードの設定

---

次のセクションでは、BIOS 設定ユーティリティについて説明します。

次のトピックで構成されています。

説明	リンク
BIOS 設定ユーティリティのメニューにアクセスします。	<a href="#">149 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス」</a>
メニューまたはメニューに一覧表示されるオプションを移動します。	<a href="#">151 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューの移動」</a>
ファンクションキーの Control キーへのマッピングを確認します。	<a href="#">153 ページの「BIOS のキーマッピング」</a>
BIOS 設定ユーティリティのメニューツリーを確認します。	<a href="#">154 ページの「BIOS 設定ユーティリティメニューの概要」</a>

## 関連情報

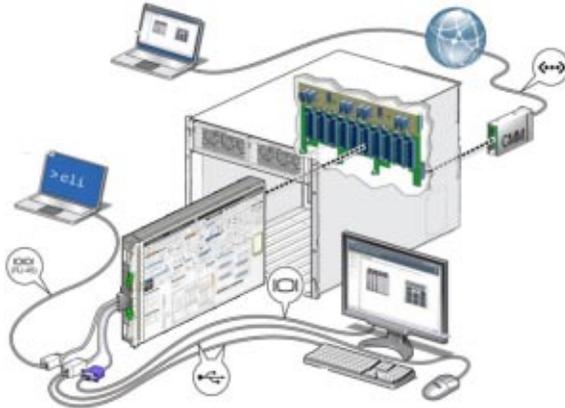
- [157 ページの「UEFI BIOS ブートモードの構成」](#)
- [163 ページの「BIOS 設定ユーティリティでよく実行するタスク」](#)
- [187 ページの「BIOS 設定ユーティリティの画面リファレンス」](#)
- [227 ページの「BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の画面リファレンス」](#)

## ▼ BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス

始める前に 次のインタフェースのいずれかを選択して、BIOS 設定ユーティリティ画面にアクセスします。

- サーバーに直接接続されている USB キーボードおよび VGA モニターを使用します。(BIOS 設定ユーティリティの操作にマウスは必要ありません。)
- サーバーのバックパネルにあるシリアルポートから端末(またはコンピュータに接続された端末エミュレータ)を使用する。

- Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用してサーバーに接続する。  
『設置』の「Oracle ILOM への接続」を参照してください。



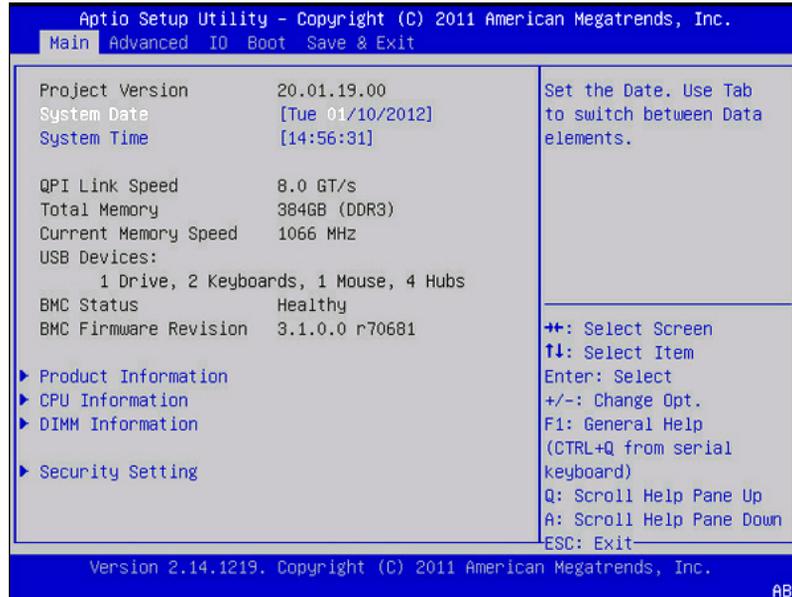
- 1 サーバーをリセットまたは電源投入します。次のいずれかの方法を選択します。
  - ローカルサーバーから --サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押してサーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
  - *Oracle ILOM Web* インタフェースから -- 「Host Management」 > 「Power Control」をクリックし、「Reset from the Select Action」リストボックスを選択します。
  - サーバー *SP* の *Oracle ILOM CLI* から -- 「reset /System」と入力します。

POST シーケンスが開始されます。

『サービス』の「ブレードへの電源投入」を参照してください。

- 2 BIOS 設定ユーティリティを開始するには、BIOS による電源投入時自己診断 (POST) の実行中、プロンプトが表示されたときに F2 キー (シリアル接続からは Ctrl+E) を押します。

BIOS 設定ユーティリティのメイン画面が表示されます。



#### 参考 関連情報

- 149 ページの「BIOS 設定ユーティリティによるブレードの設定」
- 187 ページの「BIOS 設定ユーティリティの画面リファレンス」
- 153 ページの「BIOS のキーマッピング」

## ▼ BIOS 設定ユーティリティのメニューの移動

メニュー上に表示される個々のメニューまたはオプション間を移動するには、矢印キーを使用します。構成が可能なオプションまたはフィールドは、メニュー上では色付きで表示されます。

BIOS 設定ユーティリティ内で移動する方法や設定を変更する方法の詳細については、メニューの右下に表示されるオンラインの移動情報を参照してください。メニューの右上には、メニュー選択に関する情報が表示されます。

- 1 BIOS 設定ユーティリティの画面にアクセスします。

149 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス」を参照してください。

- 2 別の各プライマリメニューオプションを選択するには、左右の矢印キーを使用します。  
各メニューオプションを選択すると、そのメニューオプションのトップレベルの画面が表示されます。
- 3 トップレベルの画面でオプションを選択するには、上下の矢印キーを使用して、表示されているオプションを移動します。
  - 上下の矢印キーを押すと、変更可能なオプションのみが強調表示されます。
  - フィールドが変更可能な場合、オプションを選択すると、そのオプションの変更方法が画面の右側の列に表示されます。
  - フィールドがサブ画面へのリンクである場合、そのサブメニューコンテンツの説明が右側の列に表示されます。
- 4 設定フィールドを変更するには、+(プラス)キーまたは-(マイナス)キーを押すか、**Enter** キーを押してダイアログボックスメニューから目的のオプションを選択します。
- 5 サブメニューから前のメニュー画面に戻るには、**Esc** キーを押します。  
トップレベルメニューで **Esc** キーを押すことは、「Save and Exit」メニューで「Discard Changes and Exit」オプションを選択することと同じです。
- 6 必要に応じてパラメータを変更します。
- 7 変更内容を保存または破棄して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、**F10** キーを押します。
  - 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、「Save & Exit」メニューを選択し、「Save Changes and Reset」を選択できます。

---

注 - BIOS 設定を変更してから「Save & Exit」メニューで「Save Changes and Reset」を選択してリブートすると、設定の変更をしなかった場合の通常のリブートに比べて時間がかかる場合があります。この遅れは、BIOS 設定の変更内容を Oracle ILOM と同期させるために発生します。

---

---

注 - BIOS 設定ユーティリティの設定データが無効になると、BIOS 設定はそれぞれデフォルトの最適値に戻されます。

---

## 参考 関連情報

- 149 ページの「BIOS 設定ユーティリティによるブレードの設定」
- 187 ページの「BIOS 設定ユーティリティの画面リファレンス」

## BIOSのキーマッピング

シリアルコンソールリダイレクト機能を使用して端末から BIOS 出力を表示する場合、一部の端末はファンクションキーをサポートしません。シリアルリダイレクトが有効になっている場合、BIOS は Control キーシーケンスへのファンクションキーのマッピングをサポートします。次の表に、ファンクションキーの Control キーへのマッピングの説明を示します。

ファンクションキー	Ctrl キーシーケンス	BIOS POST 機能	BIOS 設定機能
F1	Ctrl + Q	該当なし。	設定ユーティリティの Help メニューを起動します。
F2	Ctrl + E	システムが電源投入時自己診断 (POST) を実行している間に、BIOS 設定ユーティリティを開始します。	該当なし。
F7	Ctrl + D	該当なし。	変更内容を破棄します。 「UEFI Driver Control」メニューでは該当なし。
F8	Ctrl + P	BIOS の「Boot」メニューを起動します。	該当なし。
F9	Ctrl + O	Oracle System Assistant を起動します。BIOS は、このワнтаイトブート方式のために、現在の「Boot Option Priority」リストをバイパスして Oracle System Assistant でブートします。	「Load Optimal Values」ダイアログボックスメニューを起動します。 「UEFI Driver Control」メニューでは該当なし。
F10	Ctrl + S	該当なし。	「Save and Exit」ダイアログボックスメニューを起動します。 「UEFI Driver Control」メニューでは該当なし。
F12	Ctrl + N	ネットワークブートをアクティブ化します。	該当なし。

## 関連情報

- [149 ページの「BIOS 設定ユーティリティーのメニューへのアクセス」](#)

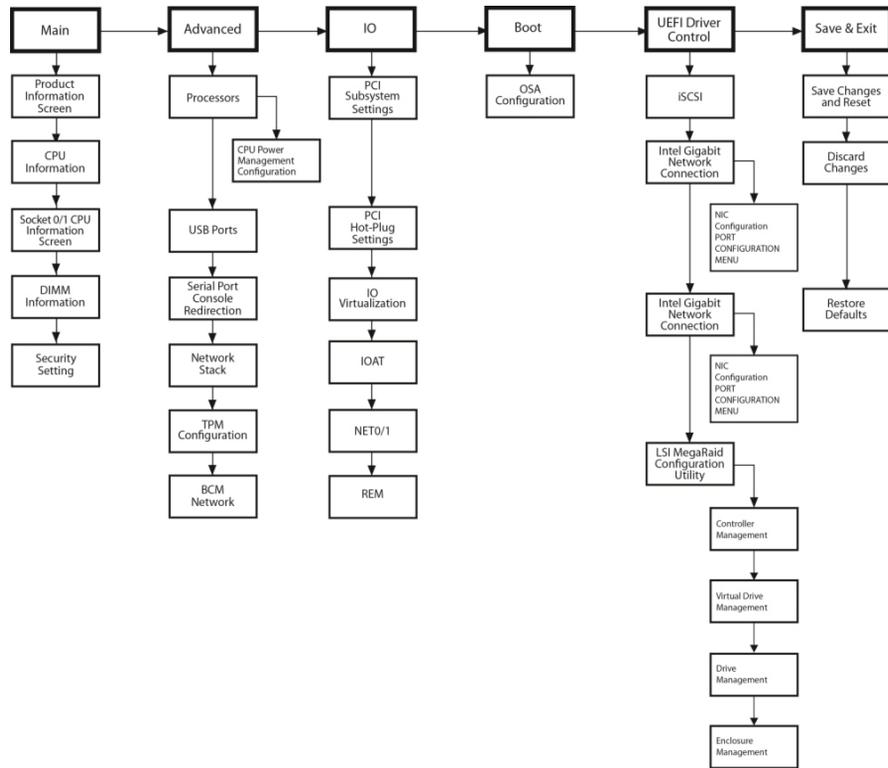
# BIOS 設定ユーティリティーメニューの概要

次の表で、BIOS 設定ユーティリティーのトップレベルのメニュータブについて説明します。

メニュー	説明	参照先:
Main	メモリー、時間と日付、セキュリティー設定、システムのシリアル番号、CPU と DIMM の情報など、一般的な製品情報。	<a href="#">187 ページの「BIOS の「Main」メニューの選択」</a>
Advanced	CPU、信頼できるコンピューティング、USB、およびその他の情報に関する構成情報。サーバー SP の IP アドレスを設定します。	<a href="#">194 ページの「BIOS の「Advanced」メニューの選択」</a>
IO	オプション ROM を有効または無効にします。	<a href="#">206 ページの「BIOS の「IO」メニューの選択」</a>
Boot	OSA の内部サポートを有効または無効にしたり、ブートモードをレガシー BIOS または UEFI に設定したり、ブートデバイスの優先順位を構成したりします。	<a href="#">213 ページの「BIOS の「Boot」メニューの選択」</a>
UEFI Driver Control	UEFI/BIOS ブートモードが UEFI に設定されている場合のみ表示されます。UEFI ブートオプションのみがユーザーに提示されます。	<a href="#">216 ページの「BIOS の「UEFI Driver Control」メニューの選択」</a>
Save and Exit	変更を保存して終了、変更を破棄して終了、変更を破棄、最適デフォルトをロード、フェイルセーフなデフォルトをロード、のいずれかを実行できます。	<a href="#">222 ページの「BIOS の「Save &amp; Exit」メニューの選択」</a>

各画面の例については、[187 ページの「BIOS 設定ユーティリティーの画面リファレンス」](#)を参照してください。

次の図に、各トップレベルメニューからアクセスできるサブメニューを示します。



## 関連情報

- 187 ページの「BIOS 設定ユーティリティの画面リファレンス」
- 227 ページの「BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の画面リファレンス」



# レガシーおよびUEFI BIOSの選択

---

次のセクションでは、UEFI BIOS ブートイベントの設定方法について説明します。  
ここでは、次のトピックを取り上げます。

説明	リンク
BIOS について理解します。	<a href="#">157 ページの「UEFI BIOS ブートモードの構成」</a>
レガシー BIOS ブートモードに対する UEFI ベースの BIOS の利点について理解します。	<a href="#">158 ページの「サポートされるブートモード」</a>
使用する BIOS のモード (レガシー BIOS または UEFI ブートモード) を指定します。	<a href="#">159 ページの「UEFI BIOS の利点」</a>
アドインカードの構成ユーティリティについて理解します。	<a href="#">160 ページの「アドインカードの構成ユーティリティ」</a>
BIOS 設定ユーティリティを使用してブートモードを選択します。	<a href="#">160 ページの「UEFI またはレガシー BIOS ブートモードの選択」</a>

## 関連情報

- [157 ページの「レガシーおよびUEFI BIOSの選択」](#)
- [187 ページの「BIOS 設定ユーティリティの画面リファレンス」](#)
- [227 ページの「BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の画面リファレンス」](#)

## UEFI BIOS ブートモードの構成

UEFI BIOS は、システムの起動時にレガシーと UEFI の両方のブートモードをサポートします。UEFI BIOS 設定ユーティリティを使用すると、UEFI-BIOS ブートモードを設定できます。UEFI BIOS ブートモードオプションの選択は、サーバーにインストールされているオペレーティングシステムの種類および構成によって決まります。HBA および Express Module デバイスがオプション ROM を使用できるようにするには、レガシー BIOS ブートモードを選択します。UEFI ドライバを使用するには、UEFI ブートモードを選択します。

BIOS ファームウェアは、電源投入からオペレーティングシステムがブートされるまで、システムを制御します。BIOS は、UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) 仕様に基づいています。

## サポートされるブートモード

UEFI BIOS は、レガシー BIOS ブートモードと UEFI ブートモードの2つのブートモードをサポートします。デバイスおよびオペレーティングシステムによっては、UEFI ベースの BIOS をまだサポートしておらず、レガシー BIOS ブートモードからのみブートできるものがあります。状況によっては、レガシー BIOS ブートモードと UEFI ブートモードのうち、UEFI BIOS のどちらのブートモードを使用するかの指定が必要になる場合があります。HBA および Express Module デバイスがオプション ROM を使用できるようにするには、レガシー BIOS ブートモードを選択します。UEFI ドライバを使用するには、UEFI ブートモードを選択します。

選択したブートモードをサポートするデバイスのみが、BIOS の「Boot」画面に一覧表示されます。UEFI ブートモードを選択すると、UEFI BIOS ブートモードをサポートするブート候補のみが BIOS 設定ユーティリティの画面の「Boot Options Priority」リストに一覧表示されます。レガシー BIOS ブートモードを選択すると、レガシー BIOS ブートモードをサポートするブート候補のみが「Boot Options Priority」リストに一覧表示されます。

---

注-ブートモードを変更すると、以前のブートモードのブート候補は表示されなくなります。新しく変更したブートモードのブート候補は、「Save Changes and Reset」の BIOS コマンドが発行されたあとで表示され、次に BIOS 設定ユーティリティをブートしたあとにも画面に表示されます。

---

レガシー BIOS モードと UEFI ブートモードを切り替えると(いずれの方向であれ)、「Boot Options Priority」リストの設定に影響を与える BIOS 設定が変更されます。あるモード用の設定はモードを切り替えたときに失われてしまうため、前の BIOS モードに戻ったときに以前の BIOS 設定が保持されるようにする場合は、Oracle ILOM の BIOS 構成のバックアップおよび復元機能を使用して、BIOS 構成を取得および保存する必要があります。詳細については、[Oracle Integrated Lights Out Manager ドキュメントライブラリ \(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31\)](http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31) で、『Oracle ILOM 3.1 構成および保守ガイド』の「x86 BIOS 構成パラメータの保守」を参照してください。

Netra Blade X3-2B の最初のリリースでは、次のオペレーティングシステムが UEFI BIOS ブートモードをサポートしています。

- Oracle Enterprise Linux
- SUSE Linux Enterprise Server SP1
- RedHat Enterprise Linux

- Microsoft Windows

このリストの更新については、『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』を参照してください。

レガシー BIOS からのブートのみをサポートするオペレーティングシステムを使用するときは、レガシー BIOS ブートモードを使用する必要があります。レガシー BIOS または UEFI BIOS からのブートをサポートするオペレーティングシステムを使用するときは、どちらのブートモードも使用できます。ただし、いったんブートモードを選択してオペレーティングシステムをインストールすると、インストールに使用したのと同じモードでしか起動できなくなります。

- オペレーティングシステムをレガシー BIOS ブートモードでインストールした場合、そのオペレーティングシステムはレガシー BIOS ブートモードでのみ起動できます。
- オペレーティングシステムを UEFI ブートモードでインストールした場合、そのオペレーティングシステムは UEFI ブートモードでのみ起動できます。

## UEFI BIOS の利点

レガシー BIOS ブートモードまたは UEFI ブートモードのオペレーティングシステムインストールを選択することができる場合、UEFI ブートモードのインストールを選択することの利点は次のとおりです。

- レガシーオプション ROM のアドレスの制約を受けません。詳細については、[173 ページの「レガシー BIOS オプション ROM の割り当てに関する検討事項」](#)を参照してください。
- サイズが 2 テラバイト (2TB) を超えるオペレーティングシステムブートパーティションがサポートされます。サポートされるオペレーティングシステムでの制限に関する詳細については、『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』を参照してください。
- PCIe デバイス構成ユーティリティが設定ユーティリティのメニューに統合されます。詳細については、[187 ページの「BIOS 設定ユーティリティの画面リファレンス」](#)を参照してください。
- ブート可能なオペレーティングシステムのイメージが、Windows ブートマネージャのラベルなどが付いたラベル付きの項目として、raw デバイスのラベルと対比する形でブートリストに表示されます。

レガシー BIOS ブートモードよりも優れた UEFI ブートモードの利点は次のとおりです。

- 2 テラバイトを超えるハードドライブパーティションのサポート
- ドライブでの 4 を超えるパーティション数のサポート
- 高速ブート

- 効率的な電源およびシステム管理
- 確実な信頼性および障害管理

## アドインカードの構成ユーティリティ

アドインカードおよび(システム常駐) I/O アダプタの構成ユーティリティを操作する方法は、レガシー BIOS ブートモードと UEFI ブートモードのいずれが使用されるかによって異なります。

レガシー BIOS ブートモードで、I/O アダプタユーティリティを BIOS POST の実行中に起動するには、POST 中にアダプタのオプション ROM によって識別されたホットキーを使用します。ホットキーを押すと、アダプタに固有の構成ユーティリティインタフェースが表示されます。多くの場合、インタフェースはベンダー固有のデザインです。

UEFI ブートモードでは、アドインカードの構成画面は、標準の BIOS 設定ユーティリティ画面の一部である「IO」メニューにメニュー項目として表示されます。たとえば、Oracle Sun Storage 6Gb/s PCIe RAID ホストバスアダプタがサーバーに取り付けられている場合、その構成ユーティリティは、BIOS の「UEFI Driver Control」メニューのメニュー項目として表示されます。

LSI MegaRAID 構成ユーティリティの詳細については、[227 ページの「BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の画面リファレンス」](#)を参照してください。

### ▼ UEFI またはレガシー BIOS ブートモードの選択

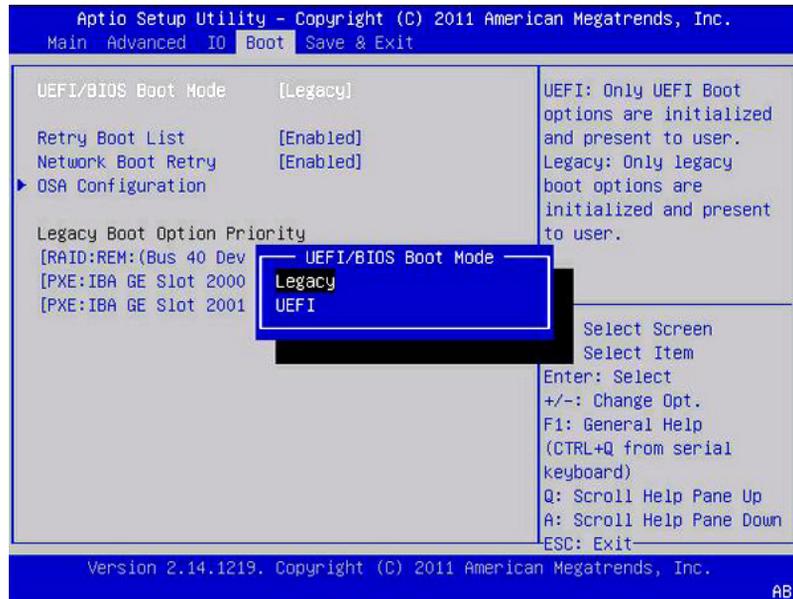
始める前に [157 ページの「UEFI BIOS ブートモードの構成」](#)を参照してください。

- 1 BIOS 設定ユーティリティのメニューにアクセスします。  
[149 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス」](#)を参照してください。
- 2 BIOS の「Main」メニュー画面で、「Boot」を選択します。
- 3 ブート画面から、「UEFI/BIOS Boot Mode」を選択し、Enter キーを押します。  
「UEFI/BIOS Boot Mode」ダイアログボックス画面が表示されます。

---

注- ブートモードの切り替え後にブートデバイスの優先順位を構成することはできません。選択したブートモードをサポートするデバイスをブートデバイスリストに正しく設定するには、システムをリブートする必要があります。

---



- 4 上下の矢印を使用してレガシーブートモードとUEFIブートモードから適切なモードを選択し、**Enter** キーを押します。
- 5 **F10** キーを押して変更内容を保存し、画面を終了します。

#### 参考 関連情報

- 157 ページの「UEFI BIOS ブートモードの構成」



# BIOS 設定ユーティリティーでよく実行するタスク

---

このセクションでは、BIOS 設定ユーティリティーのタスクの概要を示します。

ここでは、次のトピックを取り上げます。

説明	リンク
BIOS の出荷時のデフォルト設定を確認します。	<a href="#">164 ページの「BIOS の出荷時のデフォルト設定の確認」</a>
ブートデバイスを選択します。	<a href="#">165 ページの「ブートデバイスの選択」</a>
TPM サポートを構成します。	<a href="#">166 ページの「TPM サポートの構成」</a>
SP ネットワーク設定を構成します。	<a href="#">170 ページの「SP ネットワーク設定の構成」</a>
レガシー BIOS オプション ROM の割り当て。	<a href="#">173 ページの「レガシー BIOS オプション ROM の割り当てに関する検討事項」</a>
デバイス構成を変更します。	<a href="#">175 ページの「デバイス構成の変更」</a>
IO リソースを割り当てます。	<a href="#">177 ページの「I/O リソースの割り当て」</a>
IO リソースの割り当てを有効または無効にします。	<a href="#">177 ページの「IO リソース割り当ての有効化または無効化」</a>
iSCSI 仮想ドライブを構成します。	<a href="#">178 ページの「iSCSI 仮想ドライブの構成」</a>
BIOS 設定ユーティリティーを終了します。	<a href="#">184 ページの「BIOS 設定ユーティリティーの終了」</a>

## 関連情報

- [157 ページの「UEFI BIOS ブートモードの構成」](#)
- [187 ページの「BIOS 設定ユーティリティーの画面リファレンス」](#)
- [227 ページの「BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の画面リファレンス」](#)

## ▼ BIOS の出荷時のデフォルト設定の確認

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。BIOS 設定ユーティリティ (F2 キー) で変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

始める前に 次の要件が満たされていることを確認します。

- ハードディスクドライブがサーバーに正しく取り付けられている。
- サーバーへのコンソール接続が確立されている。

### 1 サーバーをリセットまたは電源投入します。

次のいずれかの方法を選択します。

- ローカルサーバーから -- サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して、サーバーの電源を切ります。もう一度電源ボタンを押して、サーバーの電源を入れます。
- Oracle iLOM Web インタフェースから -- 「Host Management」 > 「Power Control」をクリックし、「Reset from the Select Action」リストボックスを選択します。
- サーバー SP の Oracle iLOM CLI から -- 「reset /System」と入力します。

サーバーがリセットされます。

### 2 プロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。



### 3 出荷時のデフォルト値が設定されるようにするには:

#### a. F9 キーを押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。

メッセージが表示され、「OK」を選択してこの操作を続けるか、「Cancel」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。

- b. メッセージで「OK」を強調表示して、**Enter** キーを押します。  
BIOS 設定ユーティリティー画面が表示され、画面の最初の値でカーソルが強調表示されます。
- 4 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、**F10** キーを押します。
    - または、「**Save & Exit**」メニューに移動して「**Save Changes and Reset**」を選択すると、変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了できます。

## 参考 関連情報

- 149 ページの「BIOS 設定ユーティリティーのメニューへのアクセス」
- 153 ページの「BIOS のキーマッピング」
- 184 ページの「BIOS 設定ユーティリティーの終了」

## ▼ ブートデバイスの選択

「Boot Option Priority」リストの内容は、選択されている BIOS ブートモードによって異なります。UEFI ブートモードが選択されている場合は、UEFI ブート候補のみが初期化され、「Boot Option Priority」リストに表示されます。レガシー BIOS モードが選択されている場合は、レガシー BIOS ブート候補のみが初期化され、「Boot Option Priority」リストに表示されます。

F2 キーを使用してシステム BIOS 設定を表示または編集するだけでなく (164 ページの「BIOS の出荷時のデフォルト設定の確認」を参照)、BIOS の起動中に F8 キーを使用して一時ブートデバイスを指定できます。ここで選択したブートデバイスは、現在のシステムブートでのみ有効です。一時ブートデバイスからシステムがブートしたあとは、F2 キーを使用して指定した常時ブートデバイスが有効になります。

- 1 サーバーをリセットまたは電源投入します。  
次のいずれかの方法を選択します。
  - ローカルサーバーから --サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押してサーバーの電源を切り、ふたたび電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
  - Oracle ILOM Web インタフェースから -- 「Host Management」 > 「Power Control」をクリックし、「Reset from the Select Action」リストボックスを選択します。
  - サーバー SP の Oracle ILOM CLI から -- 「reset /System」と入力します。  
サーバーがリセットされます。

- 2 BIOS による電源投入時自己診断 (POST) の実行中にプロンプトが表示されたら、F8 キー (シリアル接続からは **Ctrl+P**) を押します。

「Please Select Boot Device」ダイアログボックスが表示されます。

- 3 インストールされているオペレーティングシステムおよび選択された BIOS ブートモードに適したブートデバイスオプションを選択し、**Enter** キーを押します。

上下の矢印を使用して、ブートデバイスを選択します。

選択したブートモード (UEFI ブートモードまたはレガシー BIOS ブートモード) に応じて、該当するブートデバイスのみが「Please Select Boot Device」ダイアログに表示されます。たとえば、UEFI ブートモードを選択した場合は、UEFI ブートデバイスのみが表示されます。

#### 参考 関連情報

- [149 ページの「BIOS 設定ユーティリティーのメニューへのアクセス」](#)
- [153 ページの「BIOS のキーマッピング」](#)
- [184 ページの「BIOS 設定ユーティリティーの終了」](#)

## ▼ TPM サポートの構成

Windows Server 2008 TPM 機能セットを使用する場合は、この機能をサポートするようにサーバーを構成する必要があります。

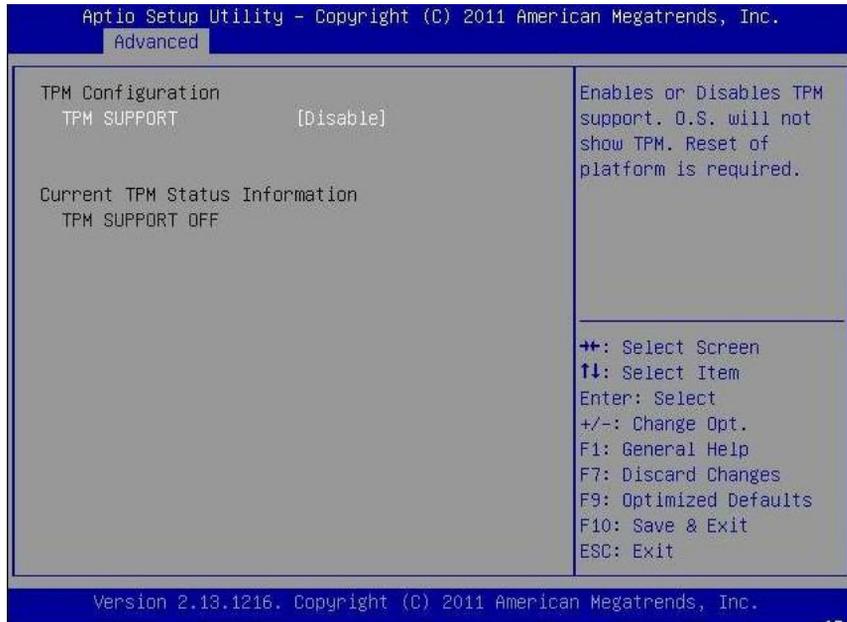
---

注 - TPM を使用すると、サーバーの TPM セキュリティーハードウェアを管理できません。この機能の実装の詳細については、Microsoft が提供する Windows Trusted Platform Module Management のドキュメントを参照してください。

---

- 1 BIOS 設定ユーティリティーのメニューにアクセスします。  
[149 ページの「BIOS 設定ユーティリティーのメニューへのアクセス」](#) を参照してください。
- 2 BIOS の「Main」メニュー画面で、「Advanced」を選択します。

- 3 「Advanced Settings」画面で「Trusted Computing」を選択します。  
「TPM Configuration」画面が表示されます。

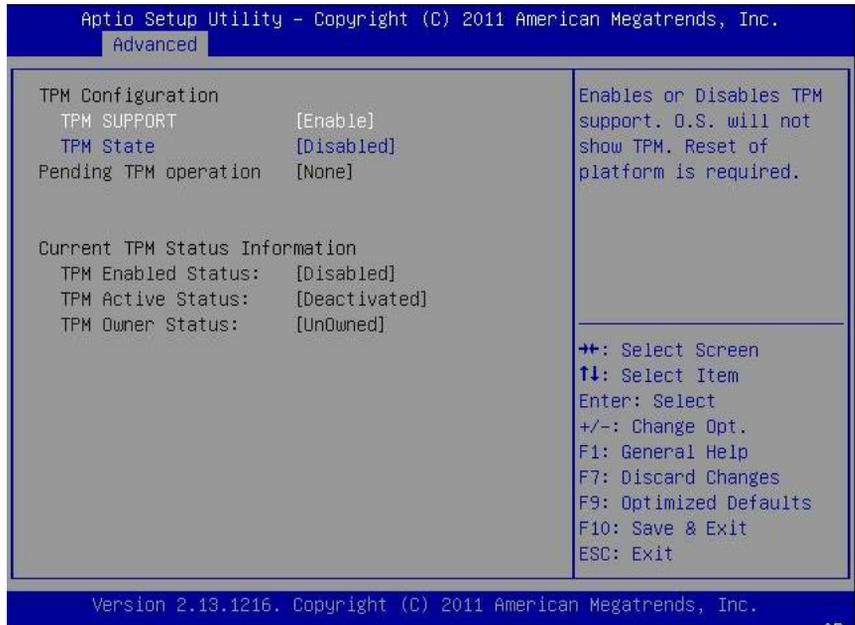


- 4 TPMの状態が「Disable」になっている場合は、「TPM Support」を選択してEnterキーを押します。

「TPM Support」ダイアログボックスが表示されます。



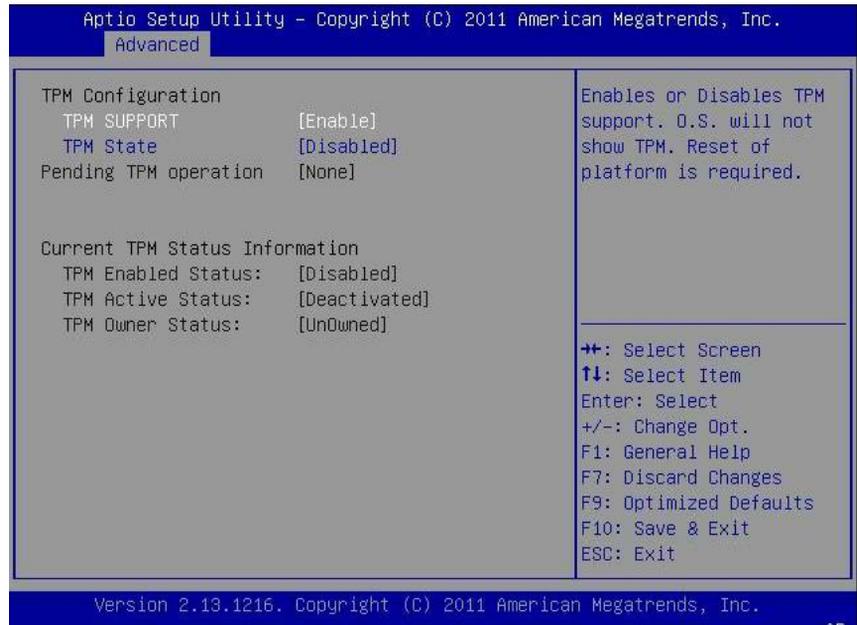
- 5 「TPM Support」を「Enable」に設定し、Enterキーを押します。  
更新された「TPM Configuration」画面が表示されます。



- 6 TPMサポートが構成されていることを確認します。次を実行します。
- サーバーの電源を切り、電源を入れます。
  - BIOS設定ユーティリティのメニューにアクセスします。

- c. 「Advanced」 > 「Trusted Computing」を選択します。

「TPM Configuration」画面で、「TPM Support」設定が「Enable」に設定されていることを確認します。



参考 関連情報

- 149 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス」
- 184 ページの「BIOS 設定ユーティリティの終了」
- Microsoft が提供する Windows Trusted Platform Module Management のドキュメント

## ▼ SP ネットワーク設定の構成

次の方法のいずれかを選択して、サービスプロセッサ (SP) のネットワーク設定を指定します。

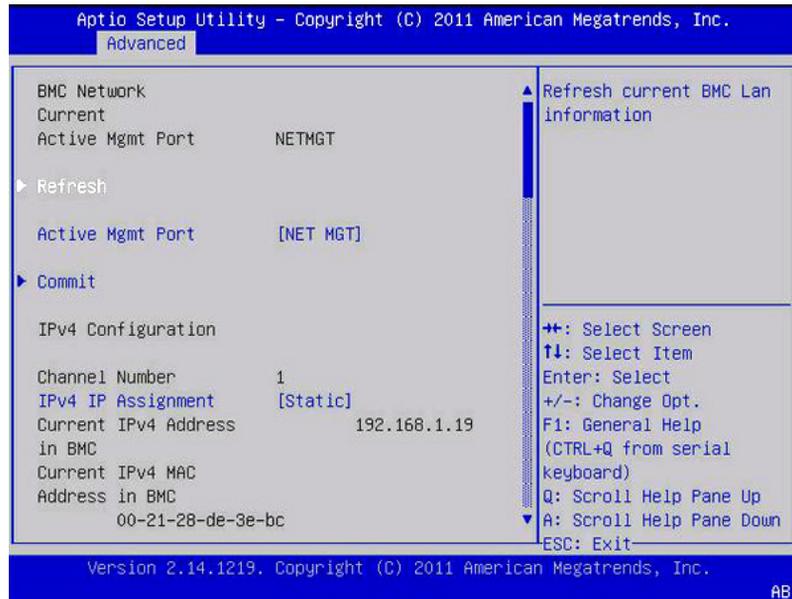
- *Oracle System Assistant* -- Oracle System Assistant を使用してネットワーク設定を構成する手順については、42 ページの「ネットワーク設定の構成」を参照してください。
- *Oracle ILOM* -- Oracle ILOM を使用したサーバー SP の IP アドレスの設定方法については、次を参照してください。

Oracle Integrated Lights Out Manager ドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>)

- BIOS-- 次のように、BIOS 設定ユーティリティの「Advanced」メニューからサーバー SP の IP アドレスを割り当てます。

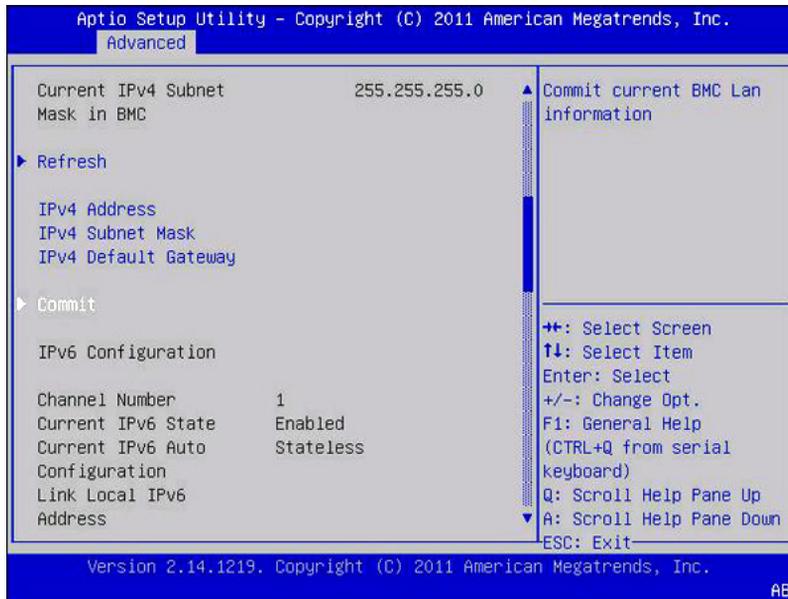
BIOS 設定ユーティリティからサーバー SP の IP アドレスを割り当てるには:

- 1 BIOS 設定ユーティリティのメニューにアクセスします。  
149 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス」を参照してください。
- 2 BIOS 設定ユーティリティのメニューで、「Advanced」メニューに移動します。



- 3 「BMCNetwork」画面に移動します。  
BMC とは、ベースボード管理コントローラ (Baseboard Management Controller) のことです。

「BMC Network」画面が表示されます。



- 4 「BMC Network Configuration」画面で、IPv4の割り当てまたはIPv6の割り当て用の設定を表示および構成できます。



- 5 構成設定を最新の値に更新するには、「**Refresh**」を選択します。
- 6 最新の値に変更を加えるには、「**Commit**」を選択します。
- 7 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、**F10** キーを押します。

#### 参考 関連情報

- 149 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス」
- 194 ページの「BIOS の「Advanced」メニューの選択」
- 184 ページの「BIOS 設定ユーティリティの終了」

## レガシー BIOS オプション ROM の割り当てに関する検討事項

レガシー BIOS ブートモードでは、レガシーオプション ROM 割り当ては PC アーキテクチャーの制約を受けます。一般的に UEFI ドライバと呼ばれる UEFI オプション ROM はこの制約を受けません。

システム BIOS は、128K バイトのアドレス空間をオプション ROM に割り当てます。このアドレス空間は、オンボードデバイスと PCIe プラグインカードが共有します。この固定アドレス空間の制約は、PC のアーキテクチャーによるものであり、BIOS 自体によるものではありません。PCIe プラグインカードを取り付けると、使用可能なアドレス空間が不足する可能性があります。アドレス空間が不足すると、BIOS は「Option ROM Space Exhausted」というメッセージを表示し、1 つ以上のデバイスでオプション ROM を読み込めないことを通知します。

たとえば、SCSI PCIe カードを取り付けると、Oracle ILOM のイベントログに次のメッセージが記録される場合があります。

Option ROM Space Exhausted - Device XXX Disabled

デフォルトでは、すべてのオンボードのオプション ROM が BIOS で有効にされています。ただし、関連付けられているデバイスからのブートをサポートするため、またはほかの一部のブート時間機能を提供するために必要にならないかぎり、これらのオプション ROM のほとんどは無効にできます。たとえば、1 つ以上のネットワークポートからブートする(その場合でも、残りのポートのオプション ROM は無効にできます)ことがないかぎり、オンボードのネットワークポート用にオプション ROM を読み込む必要はありません。

サーバーのブート時間を最小化し、利用可能なオプション ROM アドレス空間不足の可能性を少なくするには、ブートしないすべてのデバイスのオプション ROM を無効にします。ブートするデバイスのオプション ROM のみを有効にしてください。

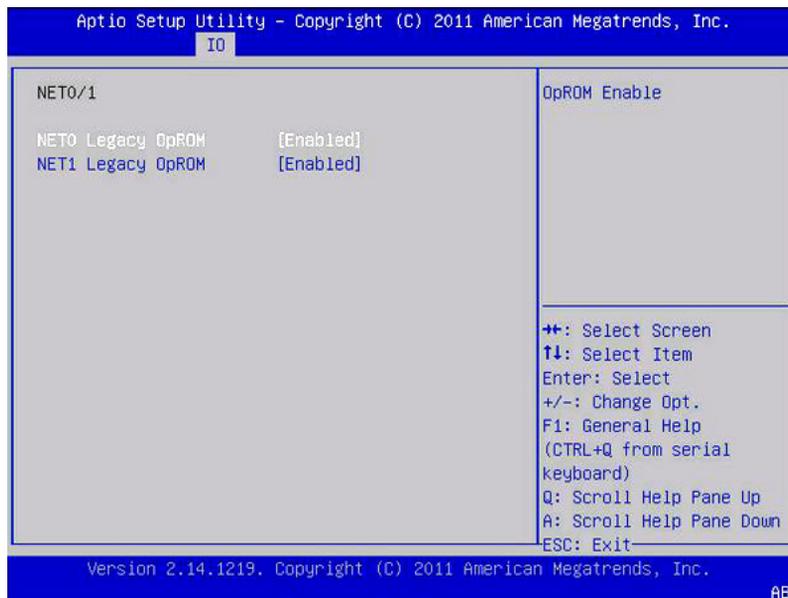
ブートしないすべてのデバイスを無効にしたあともオプション ROM 空間不足の状況が発生した場合は、さらにオプション ROM を無効にします。状況によっては、プライマリブートデバイスを除くすべてのデバイスのオプション ROM を無効にすることが必要になる場合があります。

## 関連情報

- 163 ページの「BIOS 設定ユーティリティでよく実行するタスク」
- 174 ページの「オプション ROM 設定の構成」
- 175 ページの「デバイス構成の変更」

## ▼ オプション ROM 設定の構成

- 1 BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。  
149 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス」を参照してください。
- 2 「IO」を選択します。  
「NET0/1」画面が表示されます。



- 3 「Internal Devices」または「Add-In Cards」からデバイスを選択します。

- 4 「Option ROM」設定を有効または無効にします。  
次のいずれかを実行します。
  - I/O カード用の I/O リソースの割り当てを有効にするには、「Enabled」を選択します。
  - アドインカードを無効にするには、「Disabled」を選択します。
- 5 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。

## ▼ デバイス構成の変更

「UEFI Driver Control」メニューは UEFI ブートモードが選択されている場合のみ表示されます。

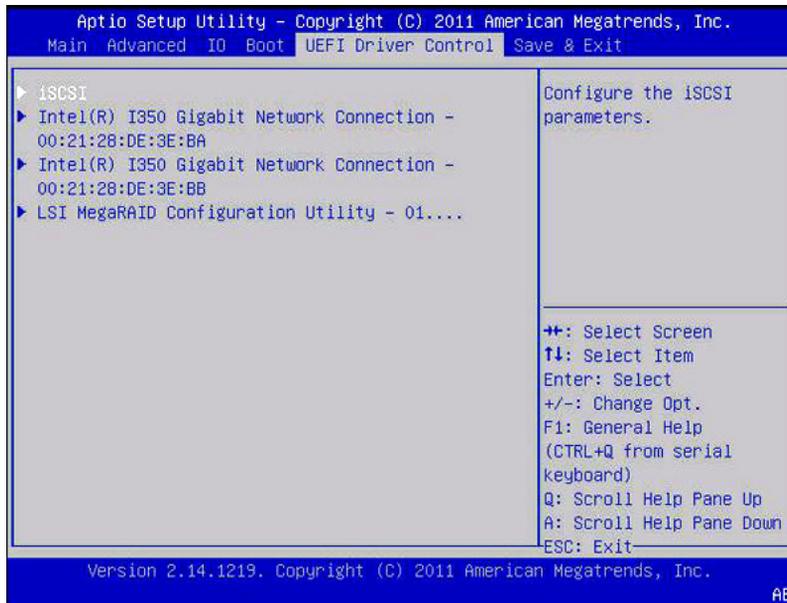
- 1 BIOS 設定ユーティリティのメニューにアクセスします。  
[149 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス」](#)を参照してください。
- 2 BIOS 設定ユーティリティのメニューで、矢印キーを使用して「UEFI Driver Control」メニューに移動します。

---

注-レガシーモードが有効になっていないことを確認します。

---

制御可能なデバイスのリストが表示されます。



- 3 デバイスを選択します。  
例: Intel(R) I350 Gigabit Network Connection -
- 4 次のいずれかのオプションを選択します。
  - View controller and device properties
  - Change controller and device properties
  - Save changes
- 5 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、**F10** キーを押します。

#### 参考 関連情報

- 149 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス」
- 216 ページの「BIOS の「UEFI Driver Control」メニューの選択」
- 184 ページの「BIOS 設定ユーティリティの終了」

## I/O リソースの割り当て

1つ以上の Sun Quad Port Gigabit Ethernet PCIe Low Profile Adapter Card がサーバーに取り付けられていると、レガシー I/O アドレス空間のリソースが不足している状況であることを BIOS が検出する場合があります。次の例のようなエラーがログに記録されることがよくあります。

```
6491 Tue Dec 7 14:19:57 2010 IPMI Log minorID = a5a9 : 12/07/2010 : 14:19:57 :  
System Firmware Error :sensor number= 0x00 : PCI resource exhaustion: Bus 147  
Device 0 Func 06490 Tue Dec 7 14:19:57 2010 IPMI Log minorID = a5a8 : 12/07/2010  
: 14:19:57 : System Firmware Error :sensor number= 0x00 : PCI resource  
exhaustion: Bus 147 Device 0 Func 1
```

PCI リソース不足状態が発生しないようにするには、Quad Gigabit Ethernet カードをブート可能デバイスとして使用する場合を除き、同カードが取り付けられているすべてのスロットで I/O リソースの割り当てを無効にします。

Quad Gigabit Ethernet カードをブート可能デバイスとして使用しようとしたものの、その特定のデバイスで PCI リソース不足が発生している場合は、システムに取り付けられている別のカードスロットの I/O 割り当てを無効にする必要があります。オプション ROM を無効にするのと同じく、ブート可能デバイスとして使用する予定のないカードに対して I/O リソースの割り当てを無効にするほうが確実ですが、通常は特にそうする必要はありません。

- [177 ページの「IO リソース割り当ての有効化または無効化」](#)

## 関連情報

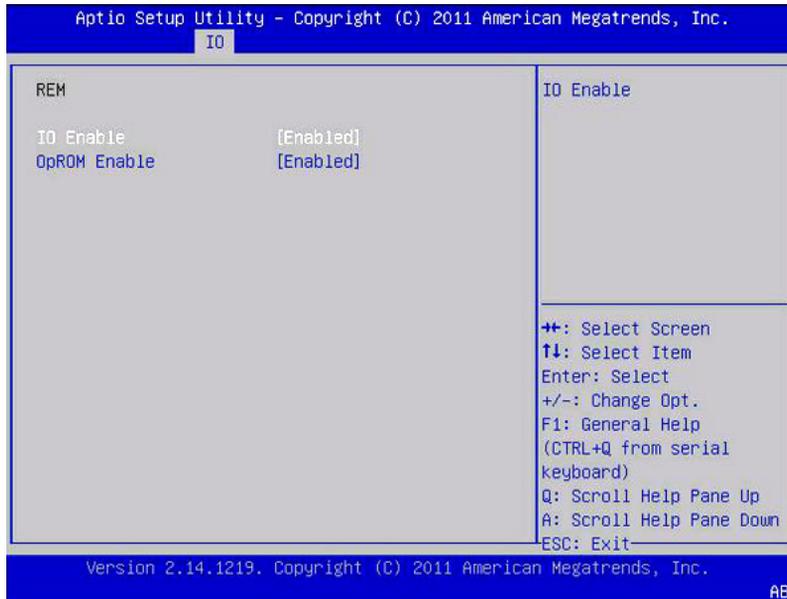
- [149 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス」](#)
- [206 ページの「BIOS の「IO」メニューの選択」](#)

### ▼ IO リソース割り当ての有効化または無効化

始める前に [177 ページの「I/O リソースの割り当て」](#) を参照してください。

- 1 BIOS 設定ユーティリティのメニューにアクセスします。  
[149 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス」](#) を参照してください。

- 2 BIOS 設定ユーティリティのメニューで、矢印キーを使用して「IO」メニューに移動します。



- 3 次のいずれかを実行します。
  - I/O カード用の I/O リソースの割り当てを有効にするには、「Enabled」を選択します。
  - アドインカードを無効にするには、「Disabled」を選択します。
- 4 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。

#### 参考 関連情報

- 149 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス」
- 206 ページの「BIOS の「IO」メニューの選択」

## ▼ iSCSI 仮想ドライブの構成

iSCSI 仮想ドライブは、Netra Blade X3-2B ホストオペレーティングシステムとして機能する、外部サーバーに搭載されたサポート対象オペレーティングシステムを実行するために主に使用されます。

iSCSI 仮想ドライブは、iSCSI BIOS 設定ユーティリティの画面で構成する必要があります。選択したポートで iSCSI パラメータを設定する必要があります。

- 始める前に
- 選択した OS での iSCSI 動作理論に精通しているようにしてください。
  - OS のドキュメントを参照して、iSCSI ターゲットをクライアントでマウントできることを検証してください。
  - サポートされている OS で実行されている外部 iSCSI サーバーへのアクセスが必要になります。
  - Netra Blade X3-2B は、レガシーブートモードではなく UEFI ブートモードである必要があります。163 ページの「[BIOS 設定ユーティリティでよく実行するタスク](#)」を参照してください。
  - iSCSI ターゲットサーバーから次の情報を指定する必要があります。次の項目が Netra Blade X3-2B iSCSI BIOS 設定ユーティリティの画面で入力されます。

項目	例
1 ターゲット名	iqn.1988-12.com.oracle:x6270-m3-target
2 iSCSI イニシエータ名	iqn.1988-12.com.oracle:002222de444e
3 仮想デバイス	Virtual Disk 0
4 論理ユニット番号	LUN 0
追加情報:	
5 iSCSI サーバーの IP アドレス	111.111.1.11 (ipv4)
6 ポート番号	3210

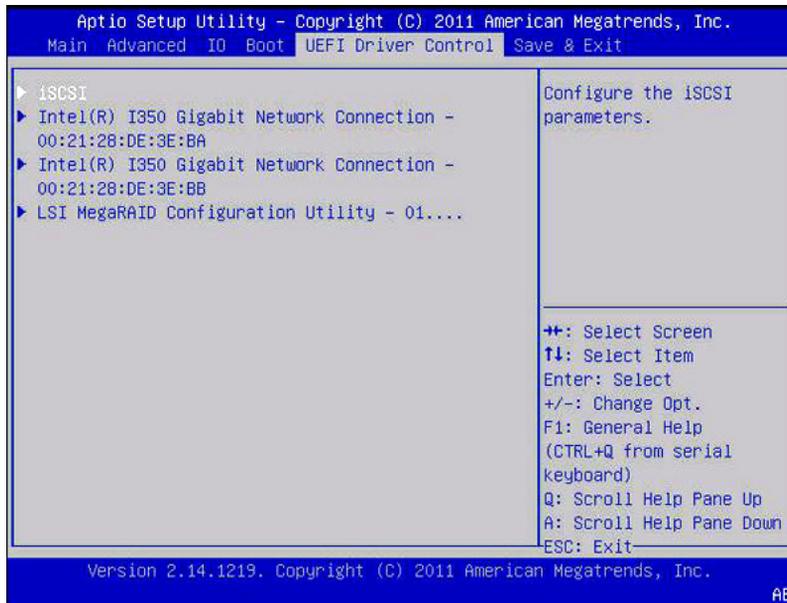
注-iSCSI は、イニシエータおよびターゲットの名前について iqn 形式を要求しません。

iSCSI BIOS 設定ユーティリティで iSCSI 仮想ドライブを構成するには:

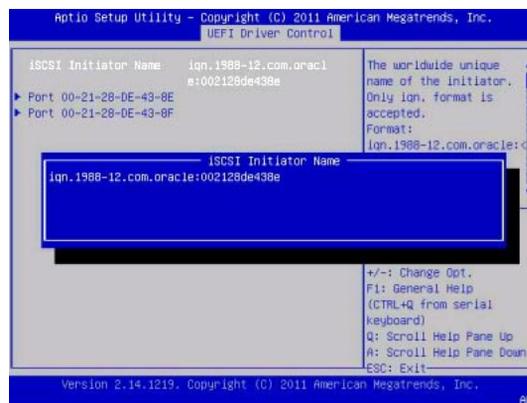
- 1 **BIOS 設定ユーティリティのメニューにアクセスします。**  
149 ページの「[BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 **BIOS 設定ユーティリティのメニューで、矢印キーを使用して「UEFI Driver Control」メニューに移動します。**

注-レガシーブートモードが有効になっていないことを確認します。

制御可能なデバイスのリストが表示されます。



- 3 「iSCSI」画面にアクセスするには、「iSCSI」を選択します。
- 4 iSCSI イニシエータ名を入力します。
  - a. 「iSCSI Initiator Name」を選択します。  
「iSCSI Initiator Name」ダイアログが表示されます。

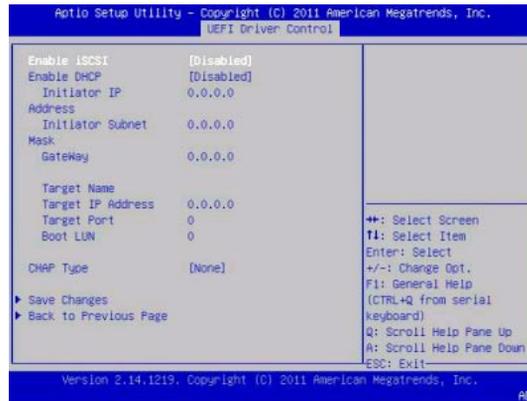


- b. イニシエータ名を iqn 形式で入力します。  
例: iqn.1988-12.com.oracle:000000000000

- 5 iSCSI ドライブを接続する NIC ポート MAC アドレスを選択します。

例: Port 00-11-22-DD-2E-AB

ポート構成画面が表示されます。



- 6 「Enable iSCSI」を「Enabled」に設定します。  
「Enable iSCSI」を選択し、「Enabled」または「Disabled」を選択します。
- 7 必要に応じて、「Enable DHCP」を「Enabled」に設定します。  
イニシエータ IP アドレス、イニシエータサブネットマスク、ゲートウェイ設定が削除されます。

DHCP を無効に設定した場合:

- イニシエータ IP アドレスを入力します。
- イニシエータサブネットマスクを入力します。
- ゲートウェイを入力します。

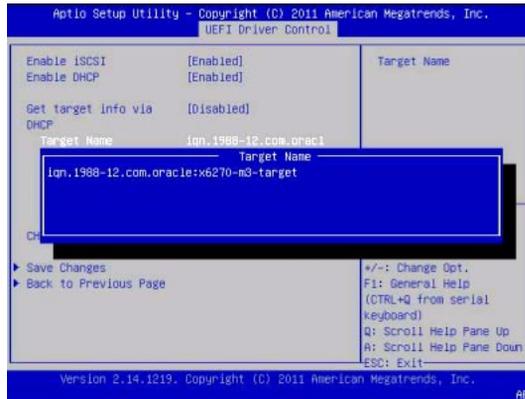
---

注-同じサブネットを使用してください。

---

- 8 必要に応じて、「Get target info via DHCP」を「Disabled」に設定します。

- 9 ターゲット名を設定します。
  - a. 「Target Name」を選択します。  
「Target Name」ダイアログが表示されます。



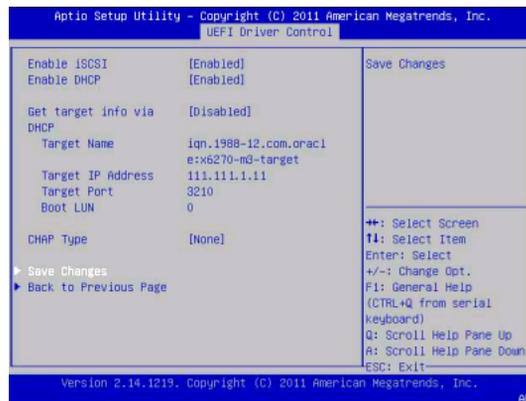
- b. iqn ターゲット名を入力します。  
例: iqn.1988-12.com.oracle:x6270-m3-target
- 10 ターゲット IP アドレスを設定します。
  - a. 「Target IP address」を選択します。  
「Target IP address」ダイアログが表示されます。
  - b. iSCSI サーバーのターゲット IP アドレスをドット区切りの 10 進表記で入力します。  
例: 111.111.1.11
- 11 ターゲットポートを設定します。
  - a. 「Target Port」を選択します。
  - b. iSCSI サーバーのターゲットポートを入力します。  
例: 3210

---

注 - ネットワークポートで iSCSI が有効にされると、そのポートで PXE は無効になります。

---

- 12 論理ユニット番号を設定します。
  - a. 「Boot LUN」を選択します。  
「Boot LUN」ダイアログが表示されます。
  - b. 論理ユニット番号の16進表現を入力します。  
例:0
- 13 必要に応じて、「CHAP type」を「none」、「one way CHAP」、または「mutual CHAP」に設定します。
- 14 設定がiSCSIターゲットサーバー情報と一致することを確認します。



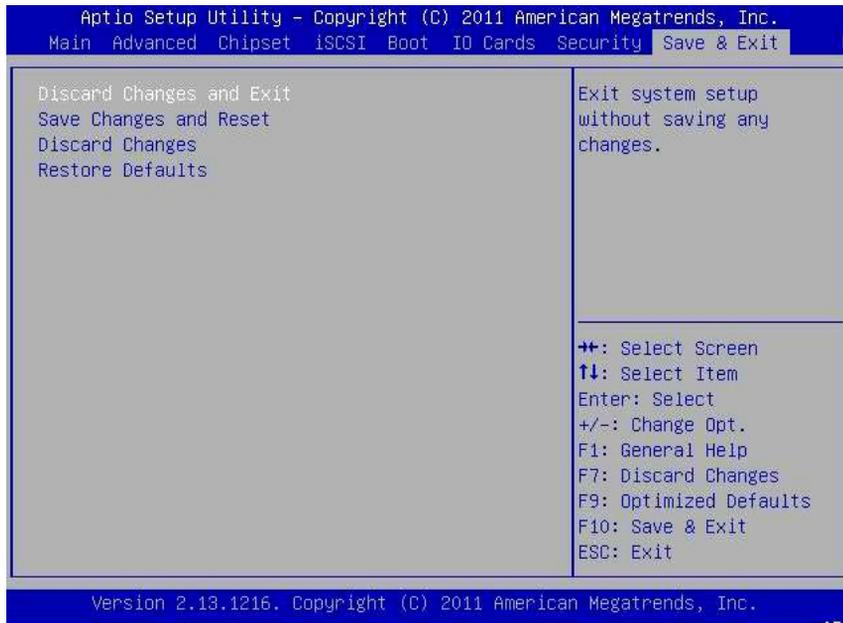
- 15 変更を保存し、BIOS設定ユーティリティを終了します。
- 16 サーバーを再起動します。
- 17 BIOSによる電源投入時自己診断(POST)チェックポイントの実行中にプロンプトが表示されたら、F8キー(シリアル接続からはCtrl+P)を押します。  
「Please Select Boot Device」ダイアログボックスが表示されます。
- 18 iSCSIターゲットエントリがブートリストに表示されることを確認します。
- 19 iSCSIドライブへのOSのインストール手順については、サポートされているOSのインストールドキュメントを参照してください。

## 参考 関連情報

- 149 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューへのアクセス」
- 216 ページの「BIOS の「UEFI Driver Control」メニューの選択」

## ▼ BIOS 設定ユーティリティの終了

- 1 トップレベルの「Save & Exit」メニューに移動します。
- 2 上下の矢印を使用して、目的の終了処理を選択します。
- 3 Enter キーを押してオプションを選択します。  
確認ダイアログボックスが表示されます。



- 4 確認ダイアログボックスで、「OK」を選択して続行し、BIOS 設定ユーティリティを終了します。  
変更を保存して設定ユーティリティを終了するか、代替の終了オプションを選択します。
  - または、「Save & Exit」メニューを選択してから「Save Changes and Reset」を選択すると、変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了できます。
  - または、「Cancel」を選択して終了処理を中止します。

---

注 - BIOS 設定を変更してから「Save & Exit」メニューで「Save Changes and Reset」を選択してリブートすると、設定の変更をしなかった場合の通常のリブートに比べて時間がかかる場合があります。この遅れは、BIOS 設定の変更内容を Oracle ILOM と同期させるために発生します。

---

参考 **関連情報**

- [149 ページの「BIOS 設定ユーティリティーのメニューへのアクセス」](#)
- [222 ページの「BIOS の「Save & Exit」メニューの選択」](#)



# BIOS 設定ユーティリティの画面リファレンス

---

このセクションでは、BIOS 設定ユーティリティのすべての画面について、Web ブラウザ表示と検索可能なテキストベースの表示を掲載します。

ここでは、次のトピックを取り上げます。

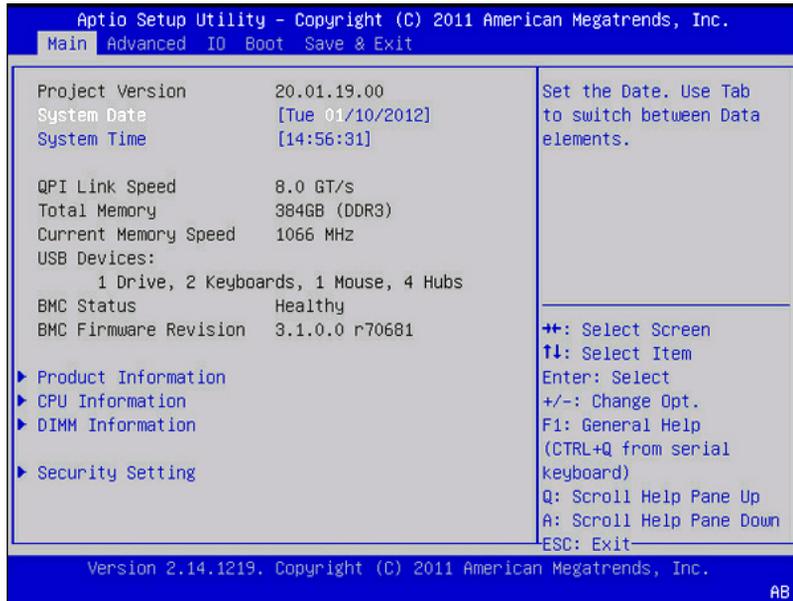
BIOSメニューの説明	リンク
BIOSの「Main」メニューの選択を確認します。	187 ページの「BIOSの「Main」メニューの選択」
BIOSの「Advanced」メニューの選択を確認します。	194 ページの「BIOSの「Advanced」メニューの選択」
BIOSの「IO」メニューの選択を確認します。	206 ページの「BIOSの「IO」メニューの選択」
BIOSの「Boot」メニューの選択を確認します。	213 ページの「BIOSの「Boot」メニューの選択」
BIOSの「UEFI Driver Control」メニューの選択を確認します。	216 ページの「BIOSの「UEFI Driver Control」メニューの選択」
BIOSの「Save & Exit」メニューの選択を確認します。	222 ページの「BIOSの「Save & Exit」メニューの選択」

## BIOSの「Main」メニューの選択

このセクションでは、BIOSの「Main」メニューの選択について、Web ブラウザ表示と検索可能なテキストベースの表示を掲載します。

- 188 ページの「「Main」メニュー」
- 189 ページの「「Main」 > 「Product Information」画面」
- 190 ページの「「Main」 > 「CPU Information」」
- 191 ページの「「Main」 > 「CPU Information」 > 「Socket 0 CPU Information」画面」
- 192 ページの「「Main」 > 「DIMM Information」」
- 193 ページの「「Main」 > 「Security Setting」」

# 「Main」メニュー



```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
  Main Advanced IO Boot Save & Exit
-----+-----
| Project Version      20.01.19.00      |Security Setting
| System Date         [Tue 01/10/2012] |
| System Time         [16:29:47]       |
|-----+-----|
| QPI Link Speed      8.0 GT/s         |
| Total Memory        384GB (DDR3)     |
| Current Memory Speed 1066 MHz        |
| USB Devices:       |
|   1 Drive, 2 Keyboards, 1 Mouse, 4 Hubs |
| BMC Status          Healthy          |
| BMC Firmware Revision 3.1.0.0 r70681 |
|-----+-----|
|> Product Information |
|> CPU Information    |
|> DIMM Information   |
|> Security Setting   |
|-----+-----|
|                                     |><: Select Screen
|                                     |^v: Select Item
|                                     |Enter: Select
|                                     |+/-: Change Opt.
|                                     |F1: General Help
|                                     |(CTRL+Q from serial
|                                     |keyboard)
|                                     |Q: Scroll Help Pane Up
|                                     |A: Scroll Help Pane Down
|-----+-----|
|                                     |+ESC: Exit-----
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
  
```





## 「Main」 > 「CPU Information」 > 「Socket 0 CPU Information」 画面

注 - 「Socket 0 CPU Information」 (表示) は、「Socket 1 CPU Information」 (表示なし) と同様です。

```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
Main
Socket 0 CPU Information

Intel(R) Xeon(R) CPU E5-2690 0 @ 2.90GHz
CPU Signature          206d6
Microcode Patch       610
Max CPU Speed         2900 MHz
Min CPU Speed         1200 MHz
Processor Cores       8
Intel HT Technology   Supported
Intel VT-x Technology Supported

L1 Data Cache         32 kB x 8
L1 Code Cache         32 kB x 8
L2 Cache              256 kB x 8
L3 Cache              20480 kB

**: Select Screen
↑↓: Select Item
Enter: Select
+/-: Change Opt.
F1: General Help
(CTRL+Q from serial
keyboard)
Q: Scroll Help Pane Up
A: Scroll Help Pane Down
ESC: Exit

Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
AB

```

```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
Main
/-----\
| Socket 0 CPU Information |
|                           |
| Genuine Intel(R) CPU @ 2.70GHz |
| CPU Signature          206d5 |
| Microcode Patch       512 |
| Max CPU Speed         2700 MHz |
| Min CPU Speed         1200 MHz |
| Processor Cores       8 |
| Intel HT Technology   Supported |
| Intel VT-x Technology Supported |
|                           |
| L1 Data Cache         32 kB x 8 |
| L1 Code Cache         32 kB x 8 |
| L2 Cache              256 kB x 8 |
| L3 Cache              20480 kB |
|                           |
|><: Select Screen |
|^v: Select Item |
|Enter: Select |
|+/-: Change Opt. |
|F1: General Help |
|F7: Discard Changes |
\-----/

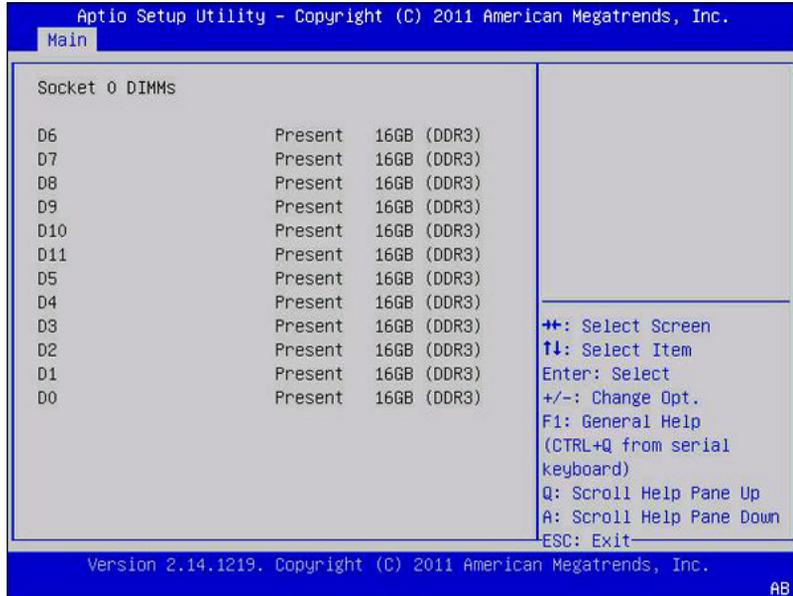
```

```

|F9: Optimized Defaults
|F10: Save & Exit
|ESC: Exit
-----
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```

## 「Main」 > 「DIMM Information」



```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
Main
-----
| Socket 0 DIMMs
|
| D6          Present  16GB  (DDR3)
| D7          Present  16GB  (DDR3)
| D8          Present  16GB  (DDR3)
| D9          Present  16GB  (DDR3)
| D10         Present  16GB  (DDR3)
| D11         Present  16GB  (DDR3)
| D5          Present  16GB  (DDR3)
| D4          Present  16GB  (DDR3)
| D3          Present  16GB  (DDR3)
| D2          Present  16GB  (DDR3)
| D1          Present  16GB  (DDR3)
| D0          Present  16GB  (DDR3)
|
|><: Select Screen
|^v: Select Item
|Enter: Select
|+/-: Change Opt.
|F1: General Help
|(CTRL+Q from serial
|keyboard)

```



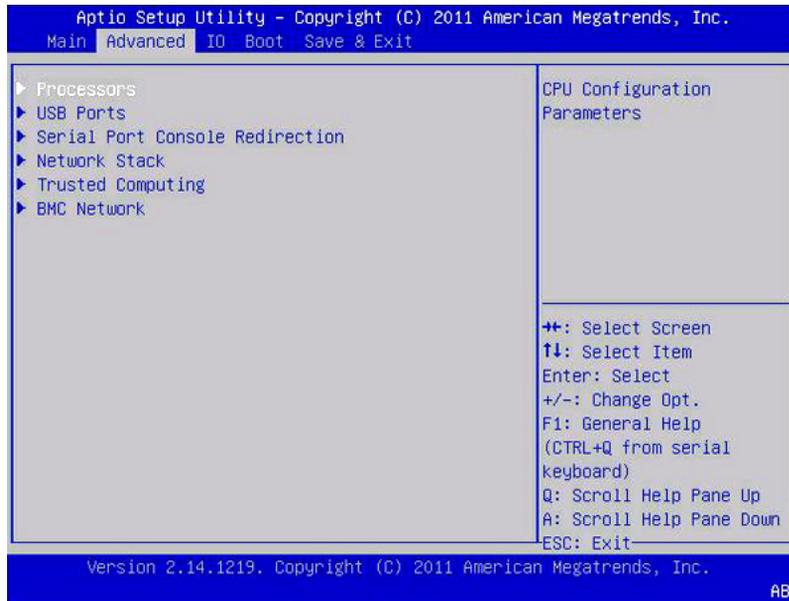
```
| |A: Scroll Help Pane Down |
\-----+ESC: Exit-----/
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
```

## BIOSの「Advanced」メニューの選択

このセクションでは、BIOS 設定ユーティリティーのすべての「Advanced」メニューの選択画面について、Web ブラウザ表示と検索可能なテキストベースの表示を掲載します。

- 194 ページの「Advanced」
- 195 ページの「「Advanced」 > 「Processors」」
- 196 ページの「「Advanced」 > 「Processors」 > 「CPU Power Management Configuration」」
- 197 ページの「「Advanced」 > 「USB Ports」」
- 198 ページの「「Advanced」 > 「Serial Port Console Redirection」」
- 199 ページの「「Advanced」 > 「Network Stack」」
- 200 ページの「「Advanced」 > 「TPM Configuration」」
- 201 ページの「「Advanced」 > 「BMC Network」」
- 202 ページの「「Advanced」 > 「BMC Network」 (続き)」
- 203 ページの「「Advanced」 > 「BMC Network」 (続き)」
- 204 ページの「「Advanced」 > 「BMC Network」 (続き)」

## Advanced



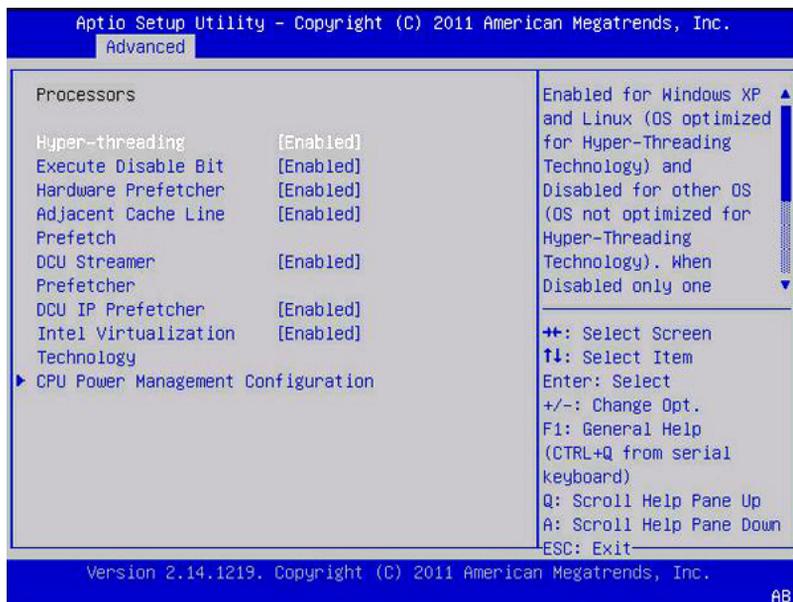
```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
Main Advanced IO Boot Save & Exit
/-----\
|> Processors                |CPU Configuration          |
|> USB Ports                 |Parameters                 |
|> Serial Port Console Redirection
|> Network Stack
|> Trusted Computing
|> BMC Network
|
|
|
|
|
|
|><: Select Screen
|^v: Select Item
|Enter: Select
|+/-: Change Opt.
|F1: General Help
|(CTRL+Q from serial
|keyboard)
|Q: Scroll Help Pane Up
|A: Scroll Help Pane Down
|+ESC: Exit
\-----/

Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```

## 「Advanced」 > 「Processors」

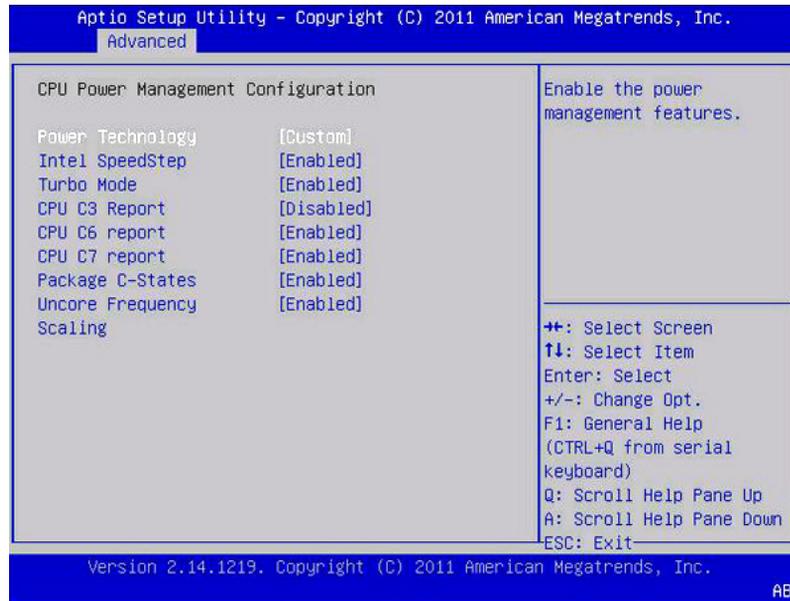


```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
Advanced
-----+-----\
| Processors                                     |Enabled for Windows XP ^|
| Hyper-threading [Enabled]                    |and Linux (OS optimized *|
| Execute Disable Bit [Enabled]                |for Hyper-Threading *|
| Hardware Prefetcher [Enabled]                |Technology) and *|
| Adjacent Cache Line Prefetch [Enabled]       |Disabled for other OS *|
| DCU Streamer Prefetcher [Enabled]            |(OS not optimized for +|
| DCU IP Prefetcher [Enabled]                  |Hyper-Threading +|
| Intel Virtualization Technology [Enabled]    |Technology). When +|
| CPU Power Management Configuration            |Disabled only one v|
|-----+-----|
|><: Select Screen                             |
|^v: Select Item                               |
|Enter: Select                                 |
|+/-: Change Opt.                             |
|F1: General Help                             |
|(CTRL+Q from serial                          |
|keyboard)                                    |
|Q: Scroll Help Pane Up                       |
|A: Scroll Help Pane Down                     |
|-----+-----|
|ESC: Exit|
-----+-----/
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```

## 「Advanced」 > 「Processors」 > 「CPU Power Management Configuration」



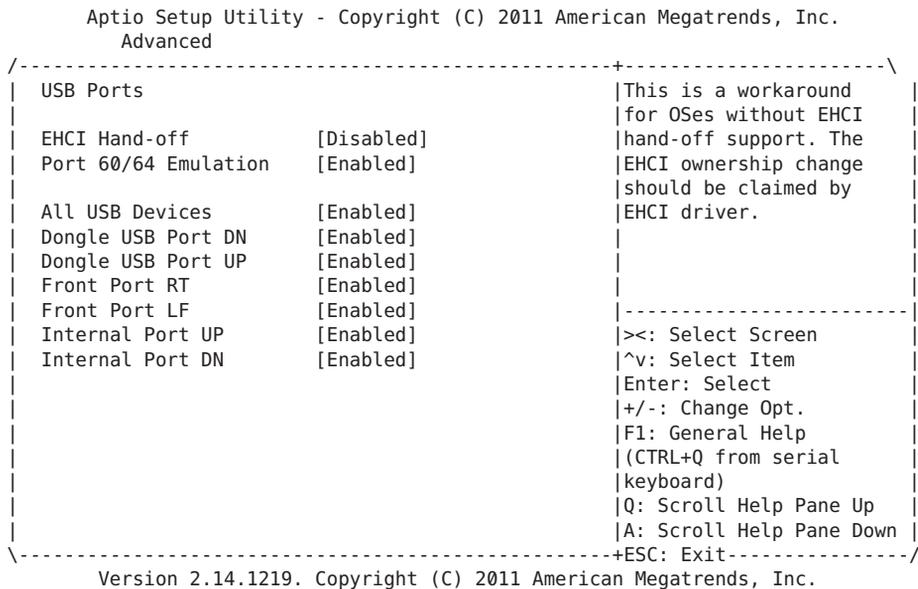
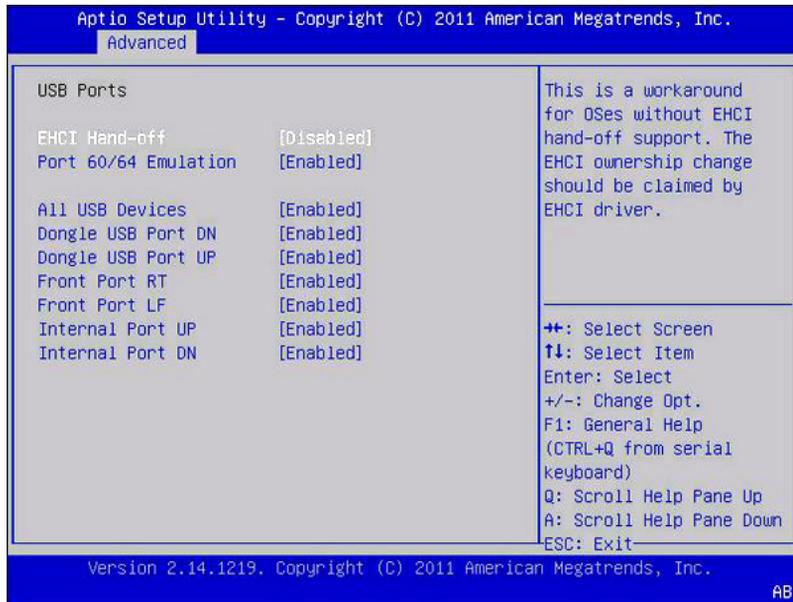
```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
  Advanced
/-----+-----\
| CPU Power Management Configuration | Enable the power | |
|                                     | management features. |
| Power Technology      [Custom]     |                   |
| Intel SpeedStep      [Enabled]     |                   |
| Turbo Mode           [Enabled]     |                   |
| CPU C3 Report        [Disabled]    |                   |
| CPU C6 report        [Enabled]     |                   |
| CPU C7 report        [Enabled]     |                   |
| Package C-States     [Enabled]     |                   |
| Uncore Frequency     [Enabled]     |                   |
| Scaling              |               |                   |
|                                     | ><: Select Screen |
|                                     | ^v: Select Item  |
|                                     | Enter: Select   |
|                                     | +/-: Change Opt. |
|                                     | F1: General Help |
|                                     | (CTRL+Q from serial |
|                                     | keyboard)        |
|                                     | Q: Scroll Help Pane Up |
|                                     | A: Scroll Help Pane Down |
|                                     | +ESC: Exit-----+ |
\-----+-----/

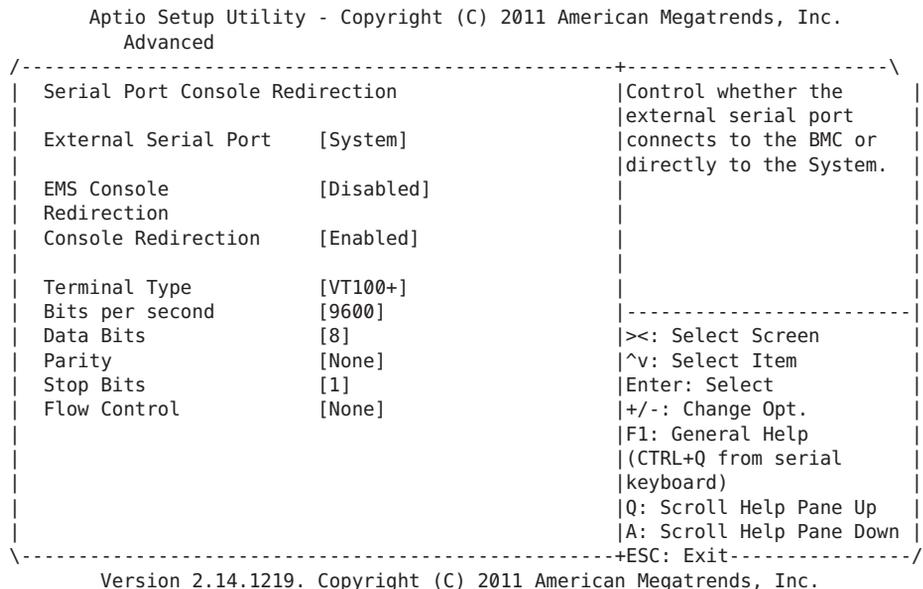
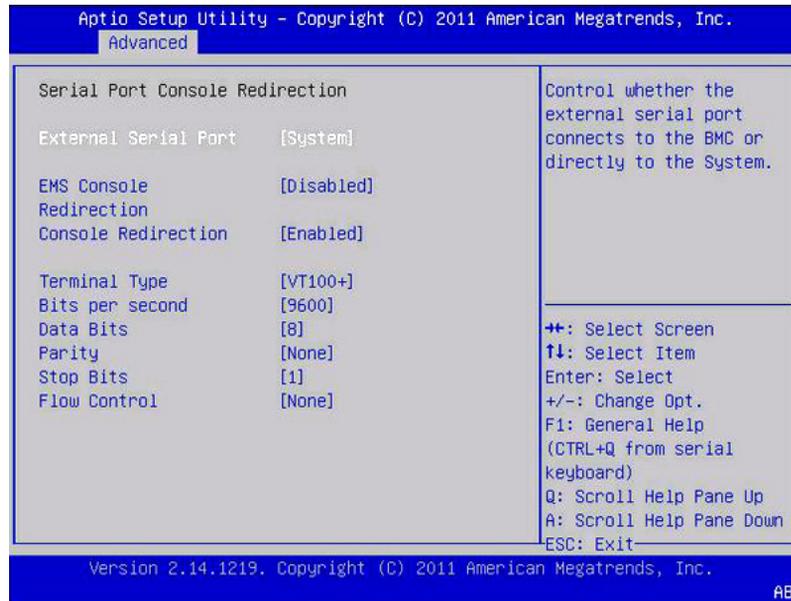
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```

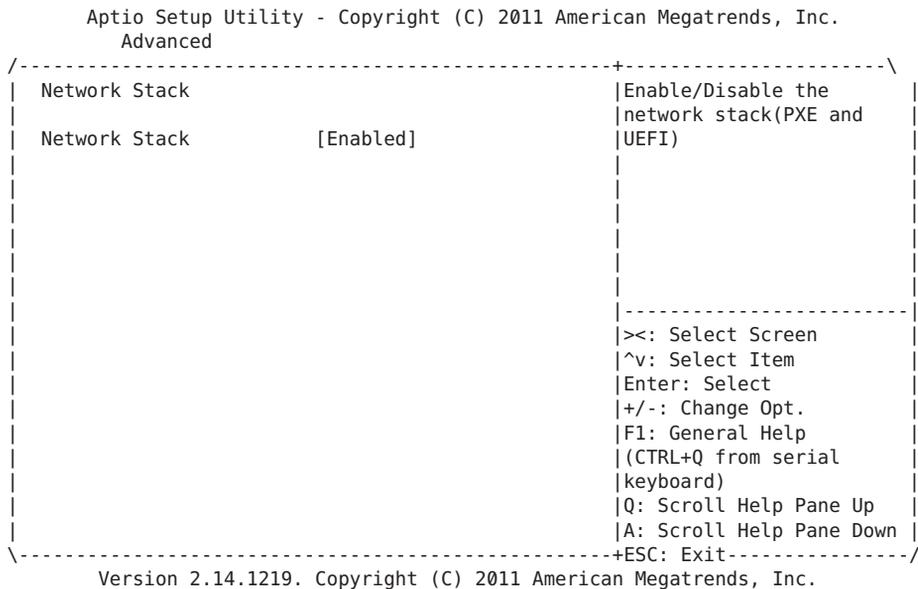
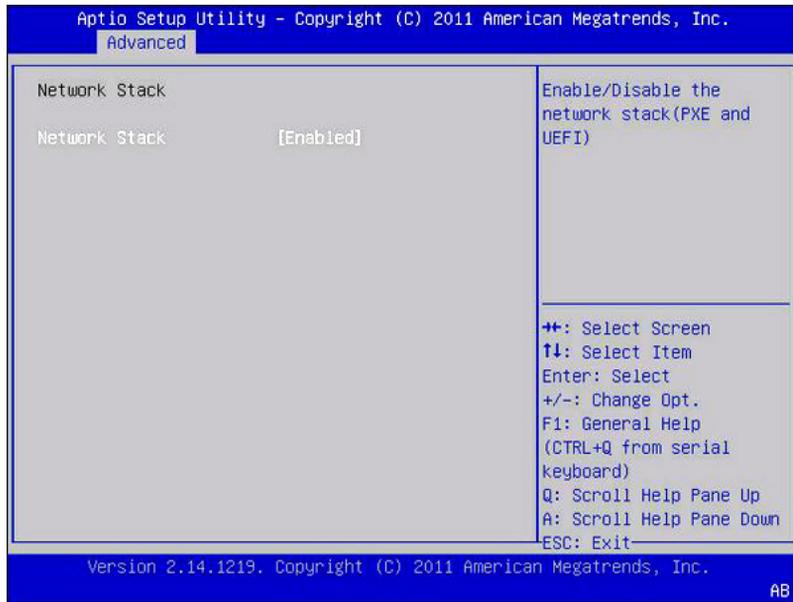
「Advanced」 > 「USB Ports」



## 「Advanced」 > 「Serial Port Console Redirection」

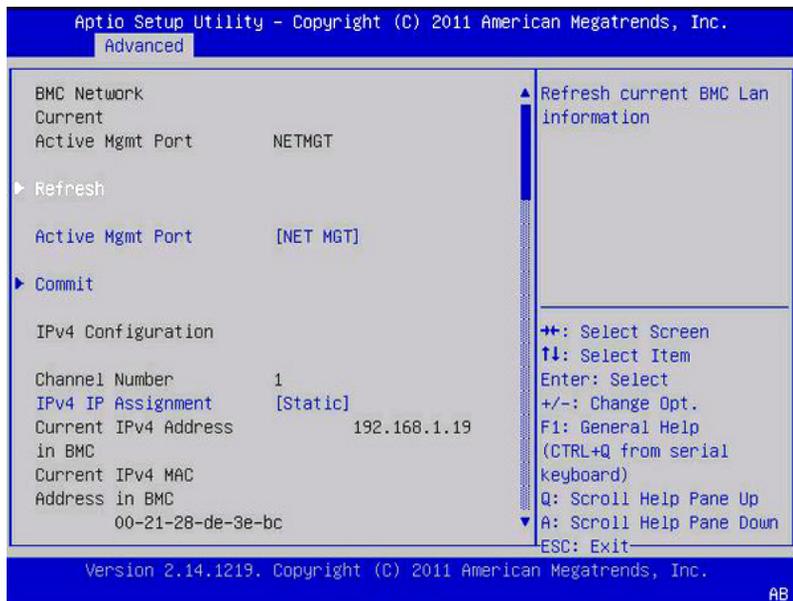


「Advanced」 > 「Network Stack」



## 「Advanced」 > 「TPM Configuration」

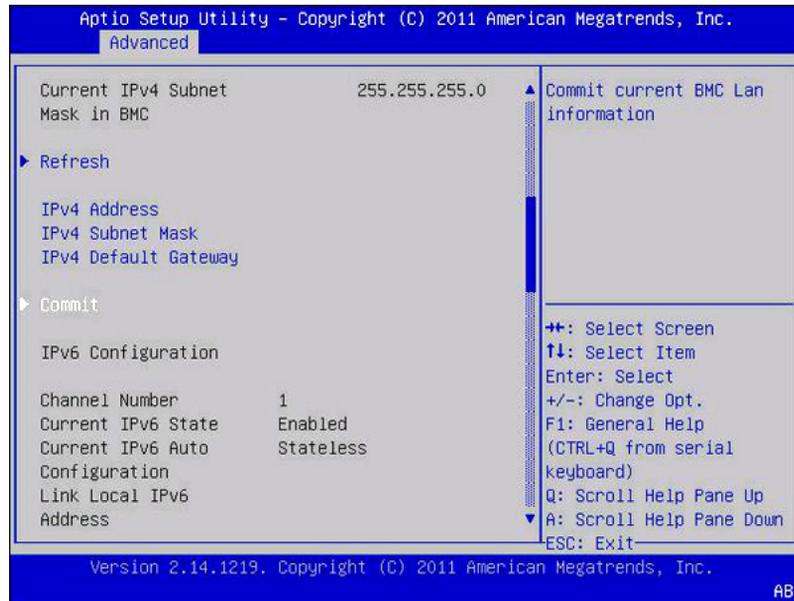




```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
Advanced
/-----\
| BMC Network          ^|Refresh current BMC Lan |
| Current              *|information              |
| Active Mgmt Port    NETMGT  *|                          |
|                      *|                          |
| > Refresh           *|                          |
|                      +|                          |
| Active Mgmt Port    [NET MGT] +|                          |
|                      +|                          |
| > Commit            +|                          |
|                      +|-----\
| IPv4 Configuration  +|><: Select Screen      |
| Channel Number      1      +|^v: Select Item        |
| IPv4 IP Assignment  [Static] +|Enter: Select         |
| Current IPv4 Address 192.168.1.19 +|+/-: Change Opt.     |
| in BMC              +|F1: General Help     |
| Current IPv4 MAC    +|(CTRL+Q from serial  |
| Address in BMC      +|keyboard)            |
|                    00-21-28-de-3e-bc +|Q: Scroll Help Pane Up |
|                      +|A: Scroll Help Pane Down |
\-----+ESC: Exit-----/
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
    
```

## 「Advanced」 > 「BMC Network」 (続き)



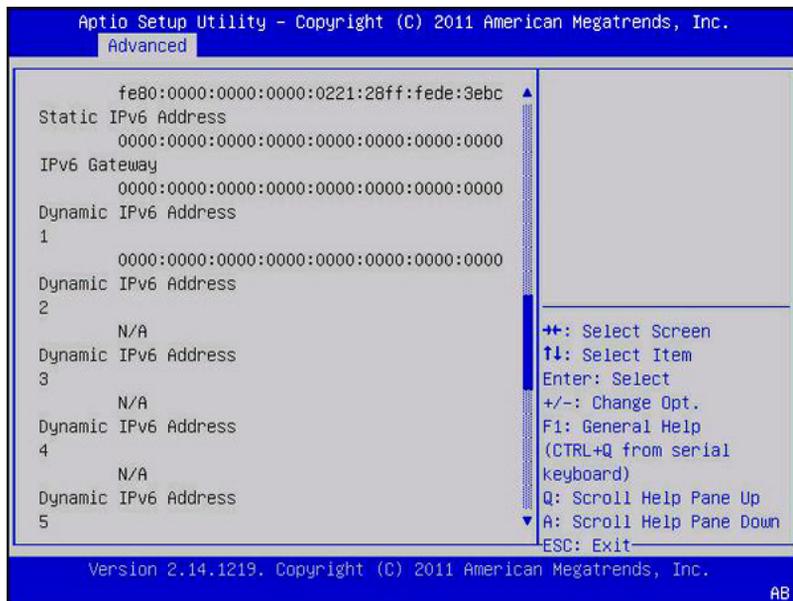
```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
Advanced
/-----+-----\
| Current IPv4 Subnet          255.255.255.0 ^|Commit current BMC Lan
| Mask in BMC                                     +|information
|                                     +|
| > Refresh                                     +|
|                                     +|
| IPv4 Address                                     *|
| IPv4 Subnet Mask                                     *|
| IPv4 Default Gateway                                     *|
|                                     +|
| > Commit                                     +|-----+-----\
|                                     +|><: Select Screen
| IPv6 Configuration                             +|^v: Select Item
|                                     +|Enter: Select
| Channel Number          1                     +|+/-: Change Opt.
| Current IPv6 State      Enabled                 +|F1: General Help
| Current IPv6 Auto      Stateless                +|(CTRL+Q from serial
| Configuration                                     +|keyboard)
| Link Local IPv6                                     +|Q: Scroll Help Pane Up
| Address                                               v|A: Scroll Help Pane Down
|-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

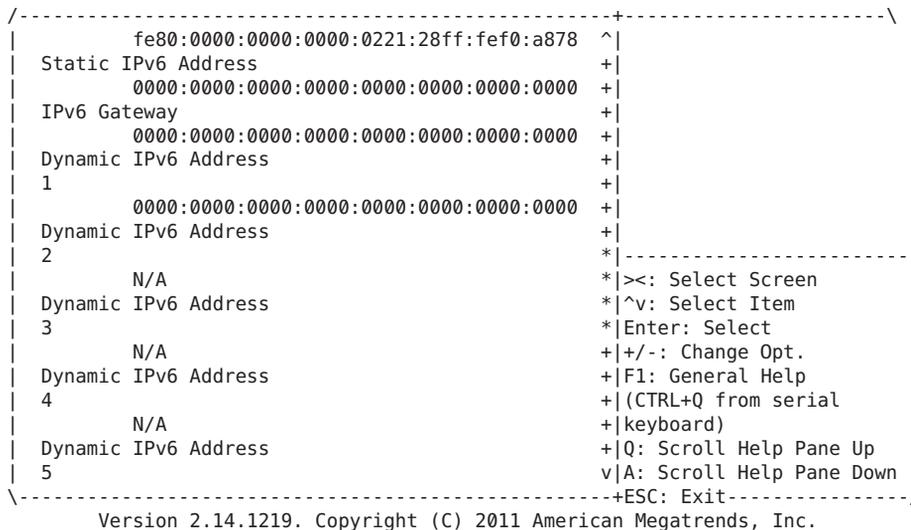
```

AB

「Advanced」 > 「BMC Network」 (続き)

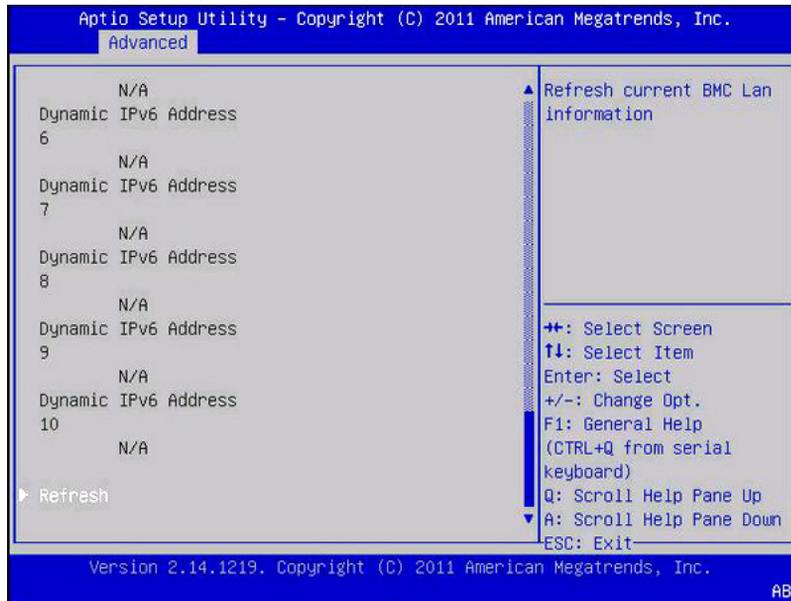


Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.  
Advanced



AB

## 「Advanced」 > 「BMC Network」 (続き)



```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
Advanced
/-----+-----\
|      N/A      | ^|Refresh current BMC Lan
| Dynamic IPv6  | +|information
| Address      | +|
| 6            | +|
|      N/A      | +|
| Dynamic IPv6  | +|
| Address      | +|
| 7            | +|
|      N/A      | +|
| Dynamic IPv6  | +|
| Address      | +|
| 8            | +|
|      N/A      | +|-----+-----\
| Dynamic IPv6  | +|><: Select Screen
| Address      | +|^v: Select Item
| 9            | +|Enter: Select
|      N/A      | +|+/-: Change Opt.
| Dynamic IPv6  | *|F1: General Help
| Address      | *|(CTRL+Q from serial
| 10           | *|keyboard)
|      N/A      | *|Q: Scroll Help Pane Up
|> Refresh     | v|A: Scroll Help Pane Down
|              | +ESC: Exit-----+-----\
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```

AB

## BIOSの「IO」メニューの選択

このセクションでは、BIOSの「IO」メニューの選択について、検索可能なテキストベースの表示を掲載します。

- 206 ページの「 「IO」 メニュー画面」
- 207 ページの「 「IO」 > 「PCI Subsystem Settings」 」
- 208 ページの「 「IO」 > 「PCI Hot-Plug Settings」 」
- 209 ページの「 「IO」 > 「IO Virtualization」 」
- 210 ページの「 「IO」 > 「IOAT」 」
- 211 ページの「 「IO」 > 「NET0/1」 」
- 212 ページの「 「IO」 > 「REM」 」

### 「IO」メニュー画面



```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
Main Advanced IO Boot Save & Exit
/-----\
|> PCI Subsystem Settings          |PCI, PCI-X and PCI
|> IO Virtualization              |Express Settings.
|> IOAT                            |
| |                                |
| | Internal Devices              |
|> NET0/1                          |
| |                                |
\-----/

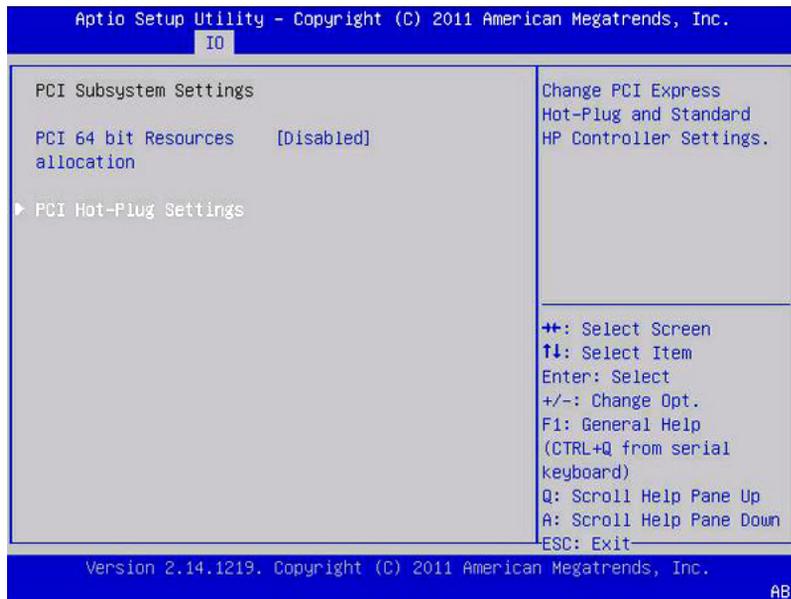
```

```

| Add-In Cards
| > REM
| > FEM 0
| > FEM 1
| > EM 0
| > EM 1
|-----|
|>: Select Screen
|^v: Select Item
|Enter: Select
|+/-: Change Opt.
|F1: General Help
|(CTRL+Q from serial
|keyboard)
|Q: Scroll Help Pane Up
|A: Scroll Help Pane Down
|+ESC: Exit-----|
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```

## 「IO」 > 「PCI Subsystem Settings」



Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.  
IO

```

|-----|-----|
| PCI Subsystem Settings | Enables or Disables |
| PCI 64 bit Resources   | 64bit capable Devices |
| allocation             | to be Decoded in Above |
| [Disabled]            | 4G Address Space (Only |
|                       | if System Supports 64 |
| > PCI Hot-Plug Settings | bit PCI Decoding).    |
|-----|-----|

```

```

-----
|><: Select Screen
|^v: Select Item
|Enter: Select
|+/-: Change Opt.
|F1: General Help
|(CTRL+Q from serial
|keyboard)
|Q: Scroll Help Pane Up
|A: Scroll Help Pane Down
+ESC: Exit
-----
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```

## 「IO」 > 「PCI Hot-Plug Settings」

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

IO

<p>PCI Hot-Plug Settings</p> <p>BIOS Hot-Plug Support [Enabled]</p> <p>PCI Buses Padding [Disabled]</p> <p>I/O Resources Padding [8 K]</p> <p>MMIO 32 bit [16 M]</p> <p>Resources Padding</p> <p>PFMMIO 32 bit [16 M]</p> <p>Resources Padding</p>	<p>If ENABLED allows BIOS build in Hot-Pug support. Use this feature if OS does not support PCI Express and SHPC hot-plug natively.</p> <hr/> <p>++: Select Screen  ↑↓: Select Item  Enter: Select  +/-: Change Opt.  F1: General Help  (CTRL+Q from serial keyboard)  Q: Scroll Help Pane Up  A: Scroll Help Pane Down  ESC: Exit</p>
--	--

Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

AB

```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
IO
-----
| PCI Hot-Plug Settings
|
| BIOS Hot-Plug Support [Enabled]
|
| PCI Buses Padding [Disabled]
| I/O Resources Padding [8 K]
| MMIO 32 bit [16 M]
|
| If ENABLED allows BIOS
| build in Hot-Pug
| support. Use this
| feature if OS does not
| support PCI Express and
| SHPC hot-plug natively.
|
-----

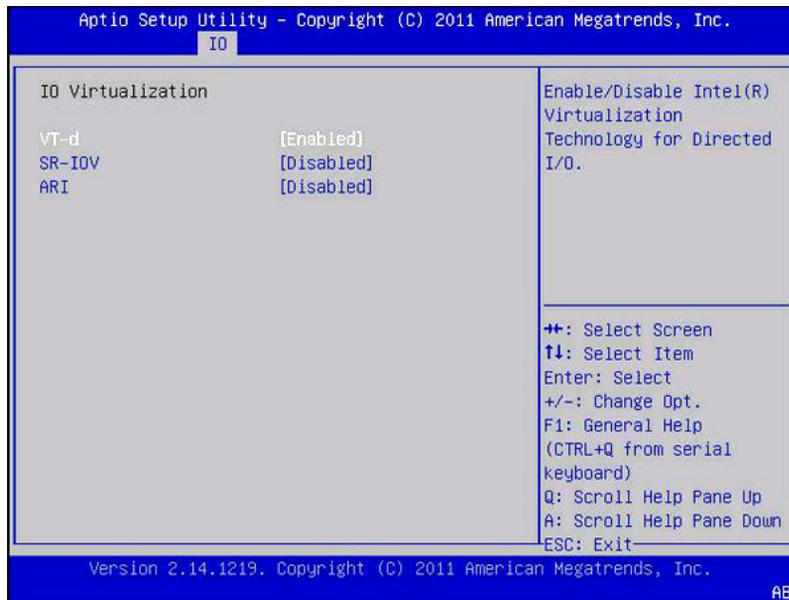
```

```

Resources Padding
PFMMIO 32 bit          [16 M]
Resources Padding
-----|-----
|>: Select Screen
|^v: Select Item
|Enter: Select
|+/-: Change Opt.
|F1: General Help
|(CTRL+Q from serial
|keyboard)
|Q: Scroll Help Pane Up
|A: Scroll Help Pane Down
|-----+ESC: Exit-----/
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```

## 「IO」 > 「IOVirtualization」



Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.  
IO

```

-----|-----
| IO Virtualization
|
| VT-d          [Enabled]
| SR-IOV       [Disabled]
| ARI          [Disabled]
|-----|-----
| Enable/Disable Intel(R)
| Virtualization
| Technology for Directed
| I/O.
|-----|-----

```

```

-----|
|><: Select Screen
|^v: Select Item
|Enter: Select
|+/-: Change Opt.
|F1: General Help
|(CTRL+Q from serial
|keyboard)
|Q: Scroll Help Pane Up
|A: Scroll Help Pane Down
+ESC: Exit-----|
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```

## 「IO」 > 「IOAT」

```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
  IO
-----|
|IOAT
|
|Intel(R) I/OAT          [Enabled]
|DCA Support            [Enabled]
|
|Enables/Disables
|Intel(R) I/O
|Acceleration Technology
|(I/OAT).
|
|+*: Select Screen
|↑↓: Select Item
|Enter: Select
|+/-: Change Opt.
|F1: General Help
|(CTRL+Q from serial
|keyboard)
|Q: Scroll Help Pane Up
|A: Scroll Help Pane Down
|ESC: Exit
-----|
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
  AB

```

```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
  IO
-----|
|IOAT
|
|Intel(R) I/OAT          [Enabled]
|DCA Support            [Enabled]
|
|Enables/Disables
|Intel(R) I/O
|Acceleration Technology
|(I/OAT).
|
|-----|
-----|

```

```

|><: Select Screen
|^v: Select Item
|Enter: Select
|+/-: Change Opt.
|F1: General Help
|(CTRL+Q from serial
|keyboard)
|Q: Scroll Help Pane Up
|A: Scroll Help Pane Down
|+ESC: Exit-----/
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```

## 「IO」 > 「NET0/1」



Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.  
IO

```

-----\
|NET0/1|OpROM Enable|
|NET0 Legacy OpROM [Enabled]|
|NET1 Legacy OpROM [Enabled]|
|-----|
|><: Select Screen|

```

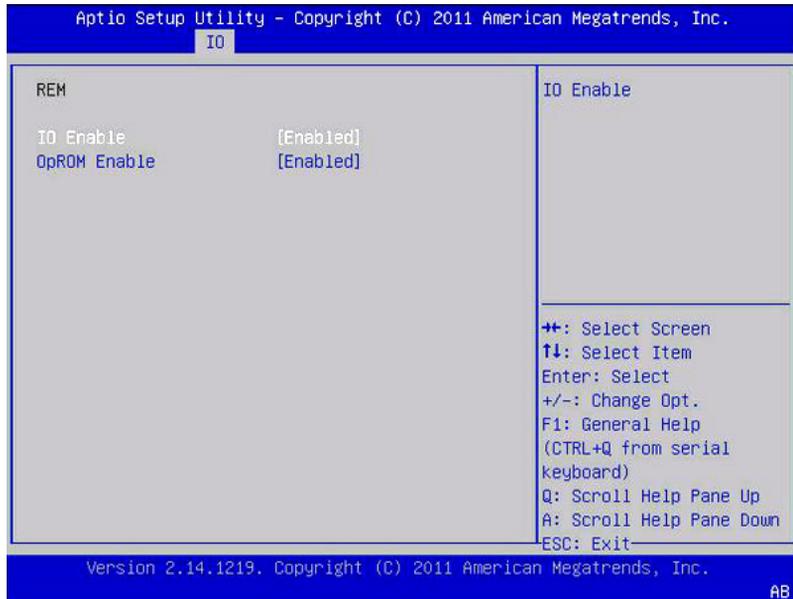
```

| ^v: Select Item
| Enter: Select
| +/-: Change Opt.
| F1: General Help
| (CTRL+Q from serial
| keyboard)
| Q: Scroll Help Pane Up
| A: Scroll Help Pane Down
| +ESC: Exit-----/
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```

## 「IO」 > 「REM」

REM 画面は、サンプルアドインカードとして表示されます。REM、FEM、および EM は同様です。



```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
IO
/-----\
| REM
|
| IO Enable          [Enabled]
| OpROM Enable      [Enabled]
|
| IO Enable
|
\-----/

```

```
|
|-----|
|><: Select Screen
|^v: Select Item
|Enter: Select
|+/-: Change Opt.
|F1: General Help
|(CTRL+Q from serial
|keyboard)
|Q: Scroll Help Pane Up
|A: Scroll Help Pane Down
|+ESC: Exit-----/
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
```

## BIOSの「Boot」メニューの選択

このセクションでは、BIOSの「Boot」メニューの選択について、検索可能なテキストベースの表示を掲載します。

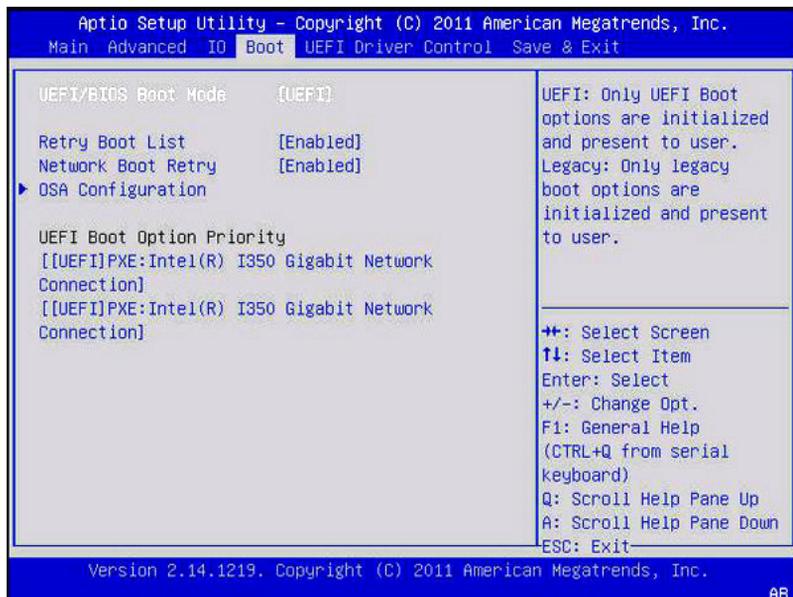
- [213 ページの「UEFI/BIOS Boot Mode」](#)
- [214 ページの「「Boot」 > 「OSA Configuration」](#)

## UEFI/BIOS Boot Mode

---

注 - 「UEFI Driver Control」メニューを表示するには、「UEFI/BIOS Boot Mode」画面でUEFIが選択されている必要があります。

---



```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
Main Advanced IO Boot UEFI Driver Control Save & Exit
-----\
| UEFI/BIOS Boot Mode      [UEFI]          |UEFI: Only UEFI Boot
|                           |              |options are initialized
| Retry Boot List         [Enabled]        |and present to user.
| Network Boot Retry      [Enabled]        |Legacy: Only legacy
| > OSA Configuration      |              |boot options are
|                           |              |initialized and present
| UEFI Boot Option Priority|              |to user.
| [[UEFI]PXE: Intel(R) I350 Gigabit Network|              |
| Connection]             |              |
| [[UEFI]PXE: Intel(R) I350 Gigabit Network|              |
| Connection]             |              |
|                           |              |-----\
|                           |              |>*: Select Screen
|                           |              |^v: Select Item
|                           |              |Enter: Select
|                           |              |+/-: Change Opt.
|                           |              |F1: General Help
|                           |              |(CTRL+Q from serial
|                           |              |keyboard)
|                           |              |Q: Scroll Help Pane Up
|                           |              |A: Scroll Help Pane Down
|                           |              |+ESC: Exit
|                           |              |-----/
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```

## 「Boot」 > 「OSA Configuration」



## BIOSの「UEFI Driver Control」メニューの選択

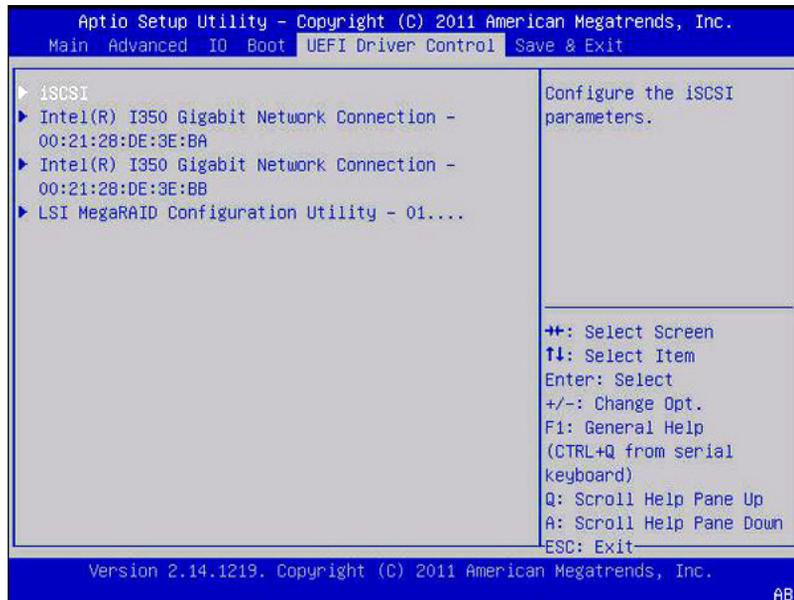
このセクションでは、「UEFI Driver Control」メニューの選択について、検索可能なテキストベースの表示を掲載します。

注- 「UEFI Driver Control」メニューを表示するには、「UEFI/BOIS Boot Mode」でUEFIが選択されている必要があります。

- 216 ページの「UEFI Driver Control」
- 217 ページの「「UEFI Driver Control」 > 「iSCSI」
- 218 ページの「「UEFI Driver Control」 > 「iSCSI」 > 「Gigabit Network Connection」 > 「PORT CONFIGURATION」メニュー」
- 219 ページの「「UEFI Driver Control」 > 「Gigabit Network Connection」 > 「NIC Configuration」

### UEFI Driver Control

「UEFI Driver Control」メニューを表示するには、「UEFI/BOIS Boot Mode」でUEFIが選択されている必要があります。



Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.  
Main Advanced IO Boot UEFI Driver Control Save & Exit

```

/-----+-----\
|> iSCSI                                     |Configure the iSCSI|
|> Intel(R) I350 Gigabit Network Connection - |parameters.       |
| 00:21:28:DE:3E:BA                          |                 |
|> Intel(R) I350 Gigabit Network Connection - |                 |
| 00:21:28:DE:3E:BB                          |                 |
|> LSI MegaRAID Configuration Utility - 01....|                 |
|                                             |                 |
|                                             |-----+-----|
|                                             |><: Select Screen |
|                                             |^v: Select Item  |
|                                             |Enter: Select    |
|                                             |+/-: Change Opt. |
|                                             |F1: General Help |
|                                             |(CTRL+Q from serial|
|                                             |keyboard)       |
|                                             |Q: Scroll Help Pane Up |
|                                             |A: Scroll Help Pane Down|
|                                             |+ESC: Exit       |
|-----+-----|
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```

## 「UEFI Driver Control」 > 「iSCSI」

```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
UEFI Driver Control
-----
iSCSI Initiator Name
▶ Port 00-21-28-DE-3E-BA
▶ Port 00-21-28-DE-3E-BB
-----
The worldwide unique
name of the initiator.
Only iqn. format is
accepted.
Format:
iqn.1988-12.com.oracle:<
OS><-target>
e.g.
For Windows Server 2008
-----
+<: Select Screen
↑↓: Select Item
Enter: Select
+/-: Change Opt.
F1: General Help
(CTRL+Q from serial
keyboard)
Q: Scroll Help Pane Up
A: Scroll Help Pane Down
ESC: Exit
-----
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
AB

```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.  
UEFI Driver Control

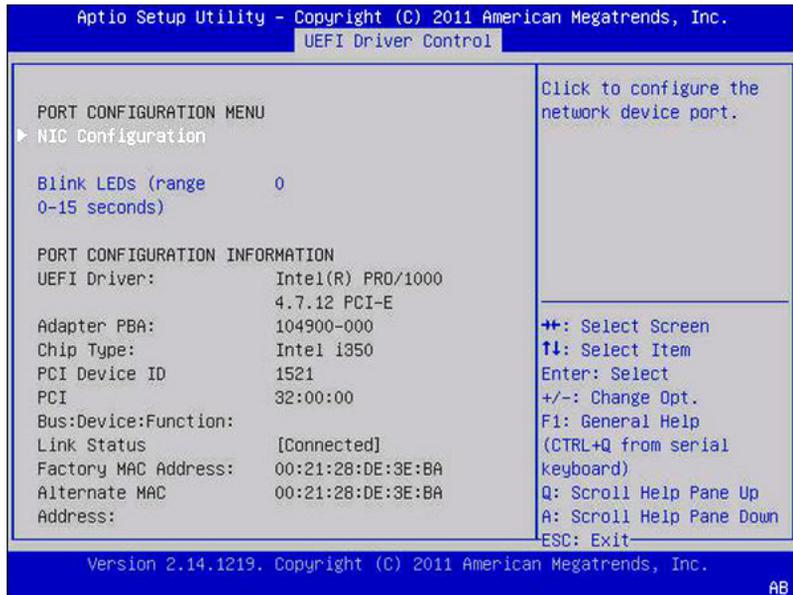
/-----+-----\

```

| iSCSI Initiator Name |The worldwide unique ^|
|> Port 00-21-28-DE-3E-BA |name of the initiator. *|
|> Port 00-21-28-DE-3E-BB |Only iqn. format is +|
| |accepted. +|
| |Format: +|
| |iqn.1988-12.com.oracle:<+|
| |OS><-target> +|
| |e.g. +|
| |For Windows Server 2008 v|
|-----|
|><: Select Screen
|^v: Select Item
|Enter: Select
|+/-: Change Opt.
|F1: General Help
|(CTRL+Q from serial
|keyboard)
|Q: Scroll Help Pane Up
|A: Scroll Help Pane Down
|-----+ESC: Exit-----/
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```

## 「UEFI Driver Control」 > 「iSCSI」 > 「Gigabit Network Connection」 > 「PORT CONFIGURATION」 メニュー



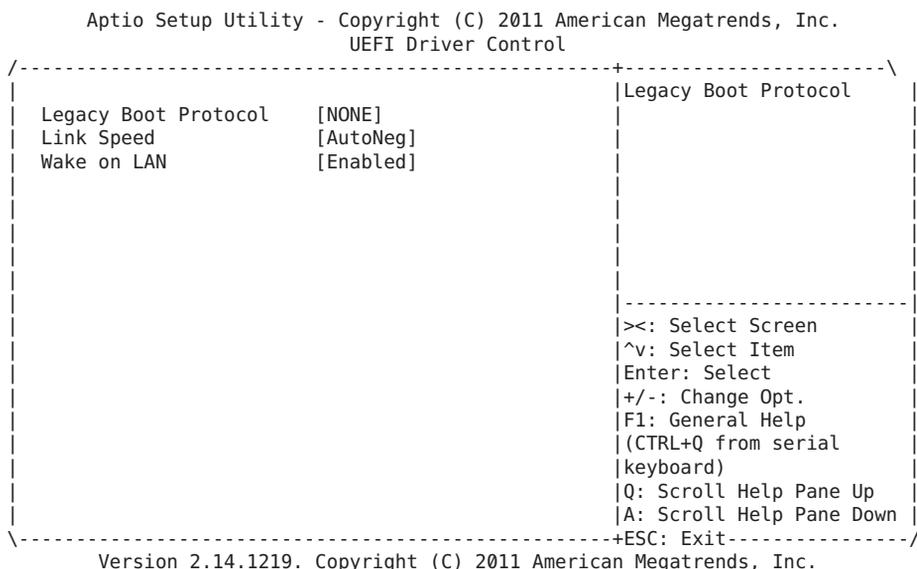
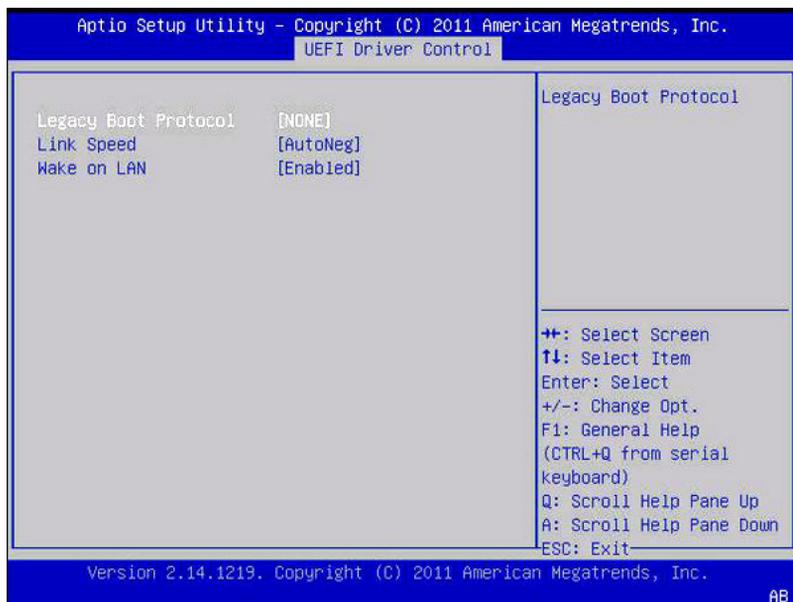
Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.  
 UEFI Driver Control

```

/-----\
| PORT CONFIGURATION MENU                                     |Click to configure the |
| > NIC Configuration                                       |network device port.  |
|                                                           |                       |
| Blink LEDs (range      0                                 |                       |
| 0-15 seconds)                                             |                       |
|                                                           |                       |
| PORT CONFIGURATION INFORMATION                             |                       |
| UEFI Driver:      Intel(R) PRO/1000                       |                       |
|                  4.7.12 PCI-E                             |-----|
| Adapter PBA:     104900-000                               |><: Select Screen     |
| Chip Type:       Intel i350                               |^v: Select Item       |
| PCI Device ID   1521                                     |Enter: Select         |
| PCI             32:00:00                                 |+/-: Change Opt.     |
| Bus:Device:Function:                                     |F1: General Help      |
| Link Status     [Connected]                              |(CTRL+Q from serial  |
| Factory MAC Address: 00:21:28:DE:3E:BA                   |keyboard)             |
| Alternate MAC    00:21:28:DE:3E:BA                       |Q: Scroll Help Pane Up|
| Address:                                                |A: Scroll Help Pane Down|
|-----\+ESC: Exit-----/
    
```

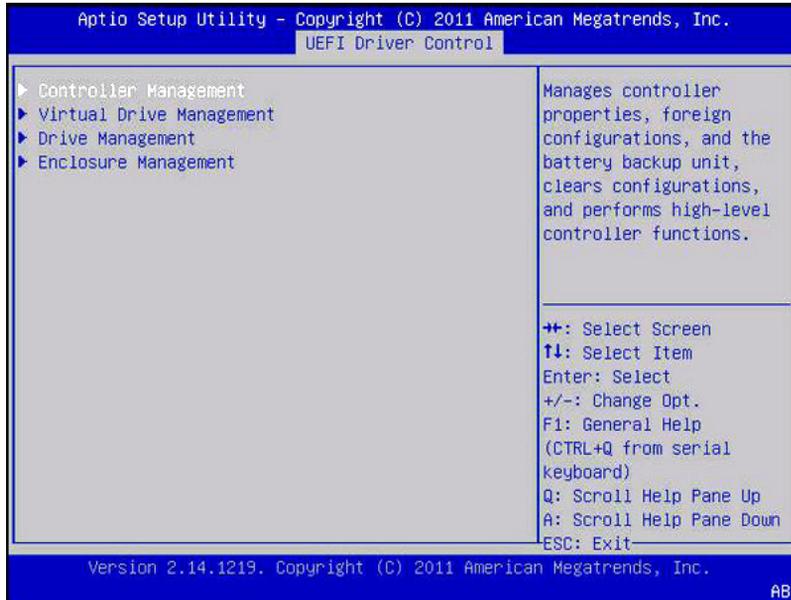
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

## 「UEFI Driver Control」 > 「Gigabit Network Connection」 > 「NIC Configuration」



## 「UEFI Driver Control」 > 「LSI MegaRAID Configuration Utility」

その他の画面については、227 ページの「BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の画面リファレンス」を参照してください。



Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.  
UEFI Driver Control

```

/-----\
|> Controller Management      |Manages controller      |
|> Virtual Drive Management  |properties, foreign    |
|> Drive Management          |configurations, and the|
|> Enclosure Management      |battery backup unit,   |
|                             |clears configurations, |
|                             |and performs high-level|
|                             |controller functions.  |
|                             |                       |
|                             |-----|
|                             |><: Select Screen     |
|                             |^v: Select Item       |
|                             |Enter: Select         |
|                             |+/-: Change Opt.     |
|                             |F1: General Help     |
|                             |(CTRL+Q from serial  |
|                             |keyboard)             |
|                             |Q: Scroll Help Pane Up|
|                             |A: Scroll Help Pane Down|
|                             |+ESC: Exit           |
\-----/

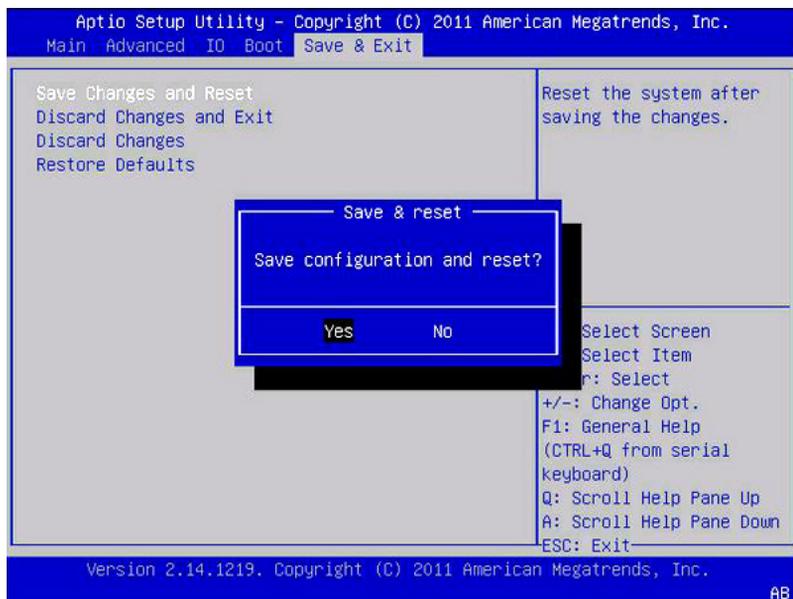
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
    
```

## BIOSの「Save & Exit」メニューの選択

このセクションでは、BIOSの「Exit」メニューの選択について、検索可能なテキストベースの表示を掲載します。

- 222 ページの「 「Save & Exit」 > 「Save Changes and Reset」 」
- 223 ページの「 「Save & Exit」 > 「Discard Changes and Exit」 」
- 224 ページの「 「Save & Exit」 > 「Discard Changes」 」
- 225 ページの「 「Save & Exit」 > 「Restore Defaults」 」

### 「Save & Exit」 > 「Save Changes and Reset」



```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
Main Advanced IO Boot Save & Exit
-----
| Save Changes and Reset | Reset the system after |
| Discard Changes and Exit | saving the changes. |
| Discard Changes |
| Restore Defaults |
|
| /----- Save & reset -----\
| Save configuration and reset? |
|-----\

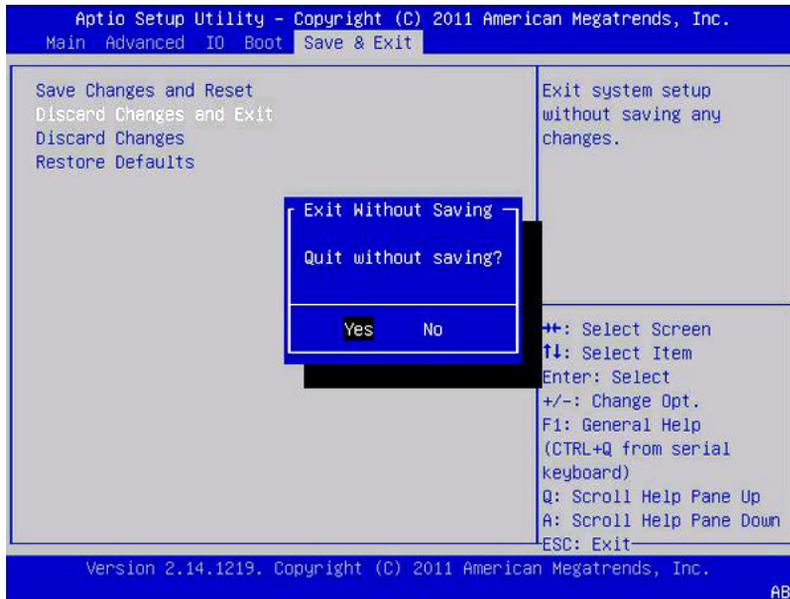
```

```

|                                     | Yes      No      | Select Screen
|-----|-----|-----|
|                                     |                                     | Select Item
|                                     |                                     | r: Select
|                                     |                                     | +/-: Change Opt.
|                                     |                                     | F1: General Help
|                                     |                                     | (CTRL+Q from serial
|                                     |                                     | keyboard)
|                                     |                                     | Q: Scroll Help Pane Up
|                                     |                                     | A: Scroll Help Pane Down
|                                     | +ESC: Exit-----|
|                                     |
|                                     | Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```

## 「Save & Exit」 > 「Discard Changes and Exit」



```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
Main Advanced IO Boot Save & Exit
-----|-----|-----|
Save Changes and Reset
Discard Changes and Exit
Discard Changes
Restore Defaults

|                                     | Exit system setup
|                                     | without saving any
|                                     | changes.
|                                     |
|                                     | <<: Select Screen
|                                     | <: Select Item
|                                     | Enter: Select
|                                     | +/-: Change Opt.
|                                     | F1: General Help
|                                     | (CTRL+Q from serial
|                                     | keyboard)
|                                     | Q: Scroll Help Pane Up
|                                     | A: Scroll Help Pane Down
|                                     | ESC: Exit
|                                     |
|                                     | Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
|                                     | AB

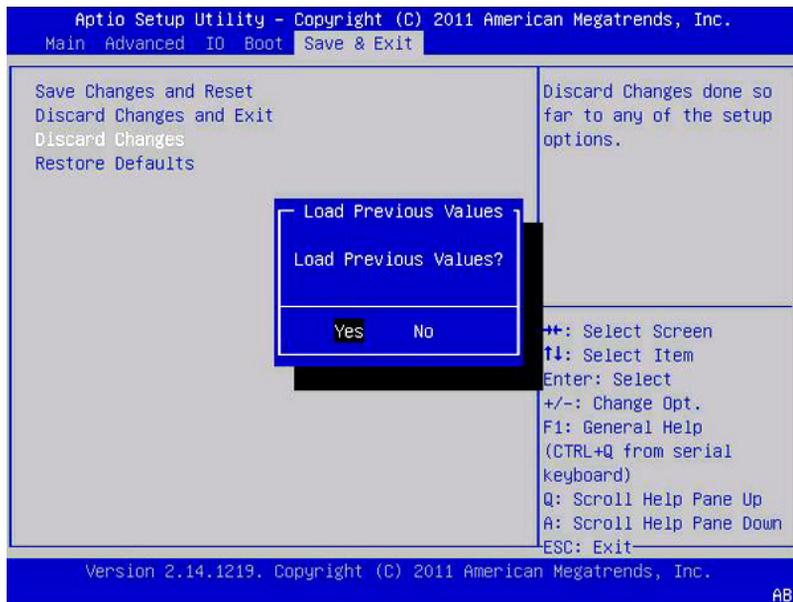
```

```

\-----/ ^v: Select Item
Enter: Select
|+/-: Change Opt.
|F1: General Help
|(CTRL+Q from serial
|keyboard)
|Q: Scroll Help Pane Up
|A: Scroll Help Pane Down
+ESC: Exit-----/
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```

## 「Save & Exit」 > 「Discard Changes」



```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
Main Advanced IO Boot Save & Exit
-----/
| Save Changes and Reset
| Discard Changes and Exit
| Discard Changes
| Restore Defaults
|
| /- Load Previous Values \
| Load Previous Values? |
|-----|
| Yes No |
|-----|
|><: Select Screen
| ^v: Select Item
|-----/
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
AB

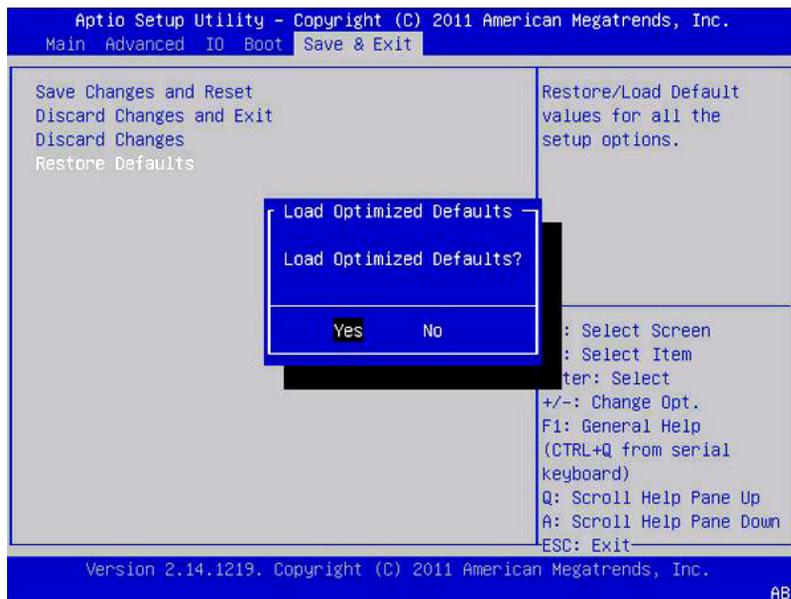
```

```

Enter: Select
|+/-: Change Opt.
|F1: General Help
|(CTRL+Q from serial
|keyboard)
|Q: Scroll Help Pane Up
|A: Scroll Help Pane Down
+ESC: Exit-----/
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```

## 「Save & Exit」 > 「Restore Defaults」



```

Aptio Setup Utility - Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
Main Advanced IO Boot Save & Exit
-----/
Save Changes and Reset      |Restore/Load Default
Discard Changes and Exit    |values for all the
Discard Changes             |setup options.
Restore Defaults
                             |
                             |
                             | / Load Optimized Defaults -\
                             | Load Optimized Defaults? |
                             |-----|
                             | Yes No |
                             |-----|
                             | : Select Screen
                             | : Select Item
                             | ter: Select
-----/
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

```



# BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の画面リファレンス

---

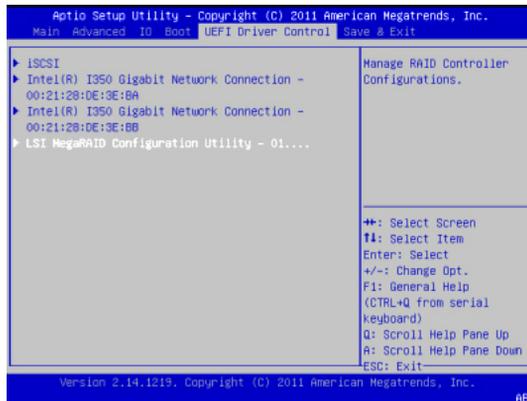
このセクションでは、BIOS 設定ユーティリティ、LSI MegaRaid Configuration Utility のメニューのすべての画面の表示を掲載します。

ここでは、次のトピックを取り上げます。

LSI MegaRAID Configuration Utility の説明	リンク
BIOS の「Controller Management」の選択を確認します。	<a href="#">227 ページの「BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の「Controller Management」メニューへのアクセス」</a>
BIOS の「Drive Management」メニューの選択を確認します。	<a href="#">241 ページの「BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の「Drive Management」メニューの選択」</a>
BIOS の「Virtual Drive Management」メニューの選択を確認します。	<a href="#">244 ページの「BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の「Virtual Drive Management」メニューの選択」</a>
BIOS の「Enclosure Management」メニューの選択を確認します。	<a href="#">247 ページの「BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の「Enclosure Management」メニューの選択」</a>

## BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の「Controller Management」メニューへのアクセス

BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility には、「UEFI Driver Control」メニューからアクセスします。「UEFI Driver Control」メニューは、システムが UEFI ブートモードの場合にのみ「BIOS」メニューに表示されます。



LSI MegaRAID Configuration Utility にアクセスするには、「UEFI Driver Control」 > 「LSI MegaRAID Configuration Utility」に移動し、次のオプションのいずれかを選択します。

- 227 ページの「BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の「Controller Management」メニューへのアクセス」
- 241 ページの「BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の「Drive Management」メニューの選択」
- 244 ページの「BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の「Virtual Drive Management」メニューの選択」
- 247 ページの「BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の「Enclosure Management」メニューの選択」

詳細については、LSI MegaRAID Configuration Utility のドキュメントを参照してください。

## 関連情報

- 216 ページの「BIOS の「UEFI Driver Control」メニューの選択」を参照してください。

# BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の「Controller Management」の選択

このセクションでは、BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の「Controller Management」メニューの選択の表示を掲載します。

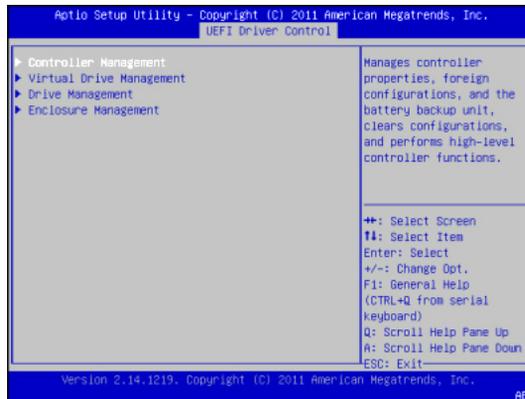
BIOS LSI MegaRAID Configuration Utility にアクセスするには、「UEFI Driver Control」 > 「LSI MegaRAID Configuration Utility」 > 「Controller Management」に移動し、次の項目のいずれかを選択します。

- Controller Management
- Drive Management
- Virtual Drive Management
- Enclosure Management

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- 229 ページの「「Controller Management」メニュー」
- 230 ページの「View Controller Information」
- 231 ページの「Change Controller Properties」
- 237 ページの「Battery Management」
- 238 ページの「Schedule Consistency Check」
- 239 ページの「Clear Configuration」
- 239 ページの「Save Controller Events」
- 240 ページの「Clear Controller Events」
- 240 ページの「Save TTY Log」

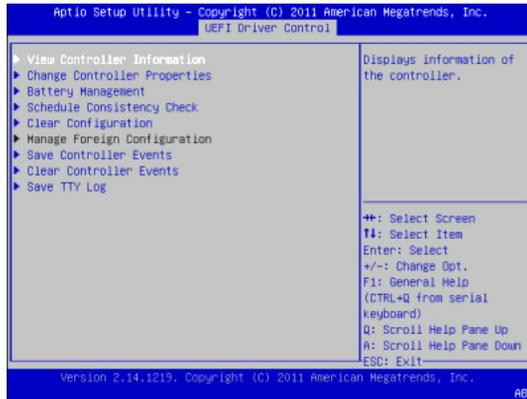
## 「Controller Management」メニュー



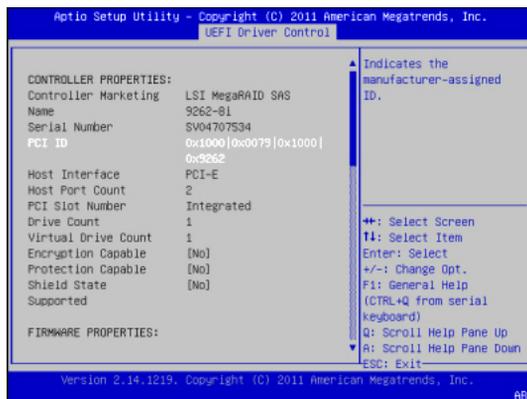
BIOS LSI MegaRAID Configuration Utility にアクセスするには、「UEFI Driver Control」メニュー>「LSI MegaRAID Configuration Utility」>「Controller Management」に移動し、次の項目のいずれかを選択します。

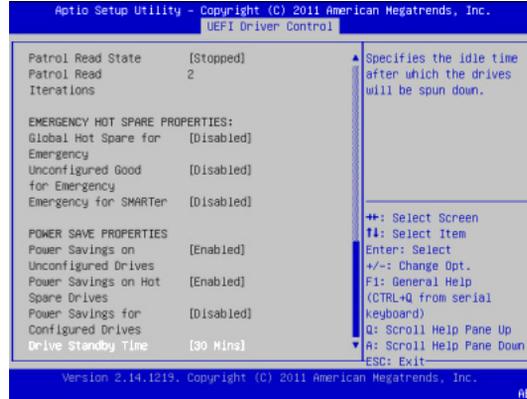
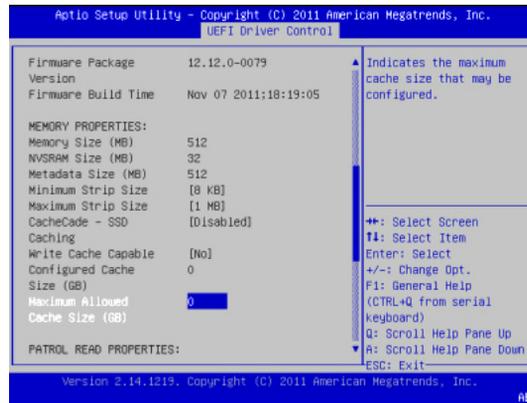
- View Controller Information
- Change Controller Properties
- Battery Management
- Schedule Consistency Check
- Clear Configuration
- Manage Foreign Configuration (表示なし)

- Save Controller Events
- Clear Controller Events
- Save TTY Log

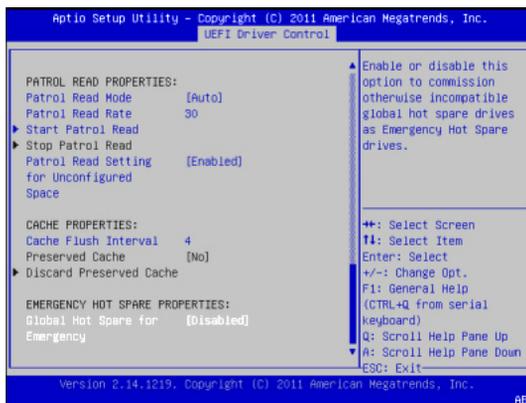
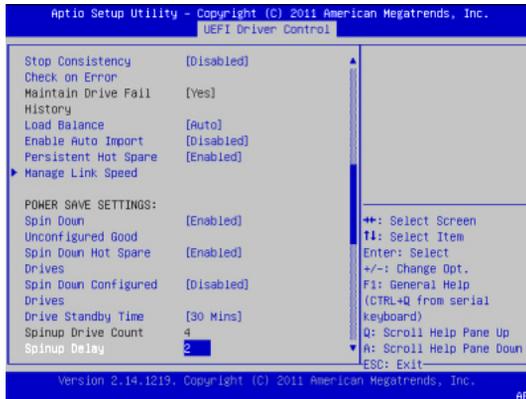
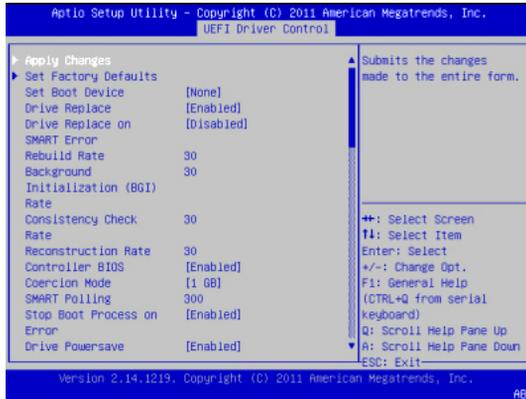


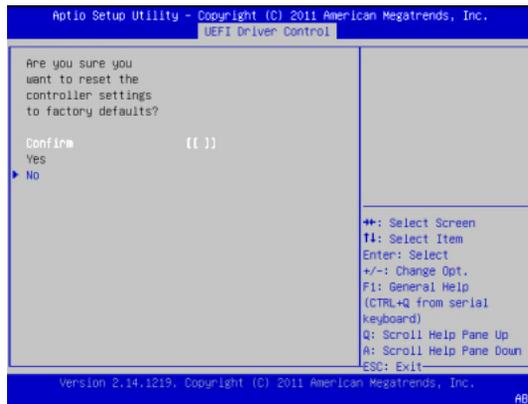
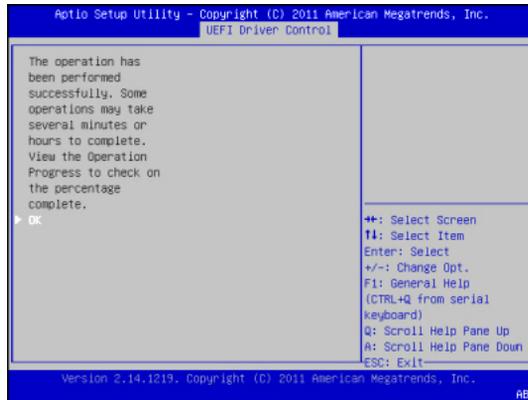
## View Controller Information

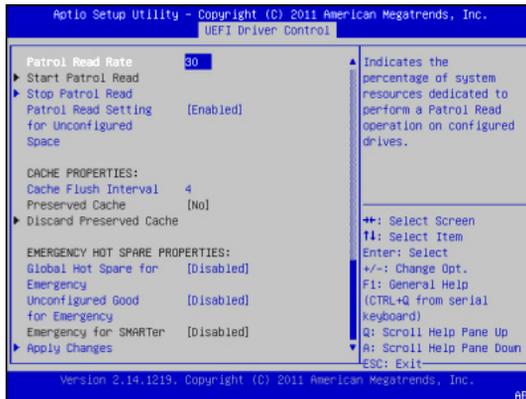
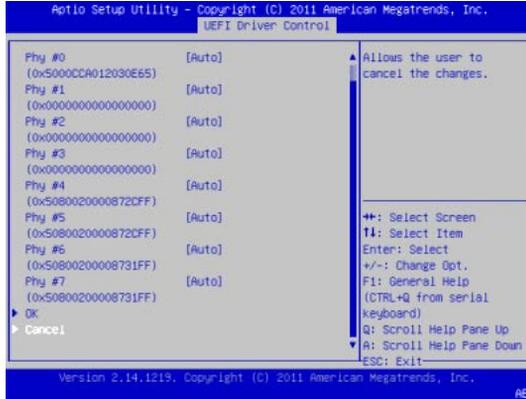
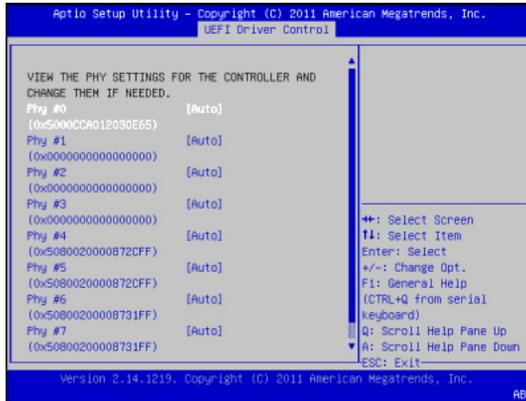


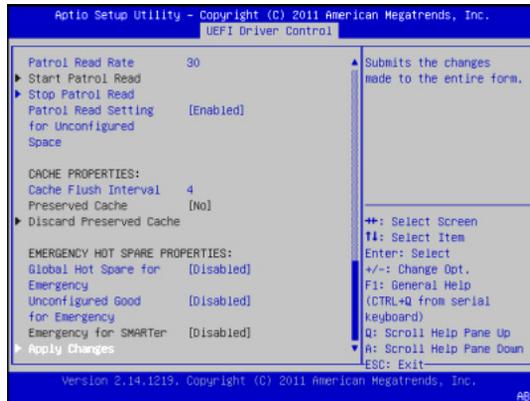


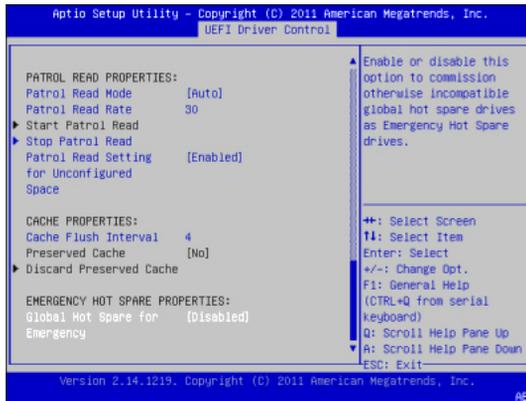
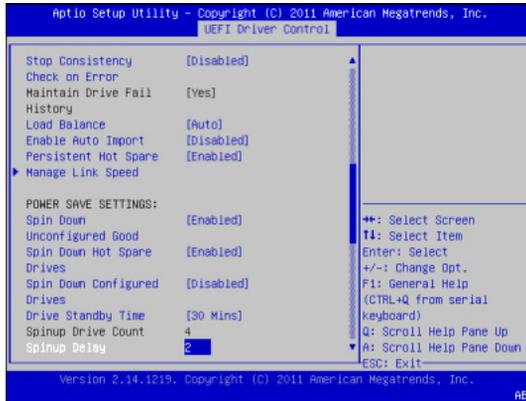
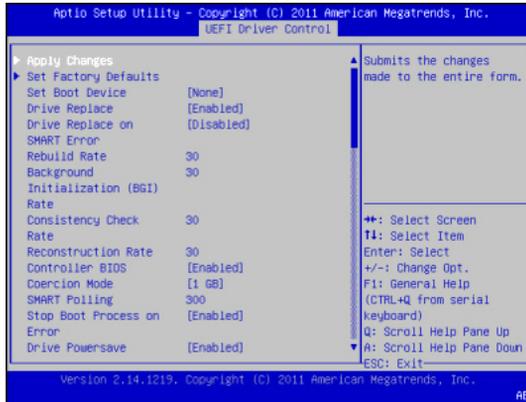
## Change Controller Properties



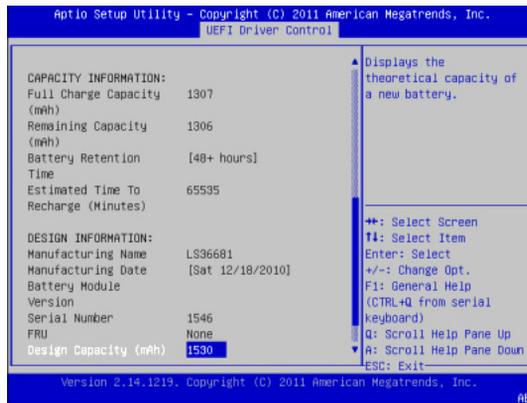
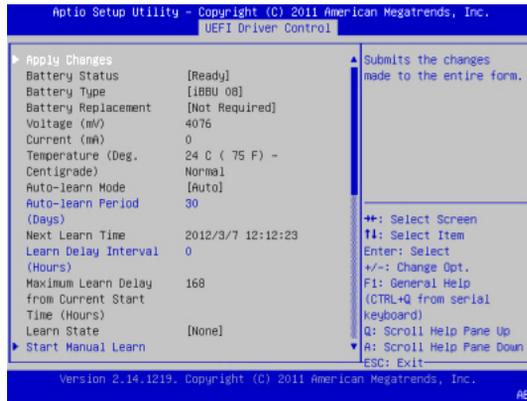


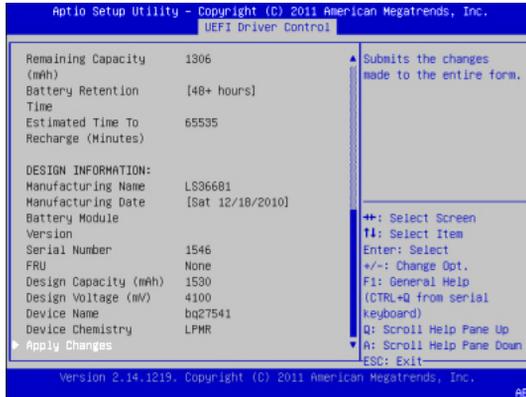




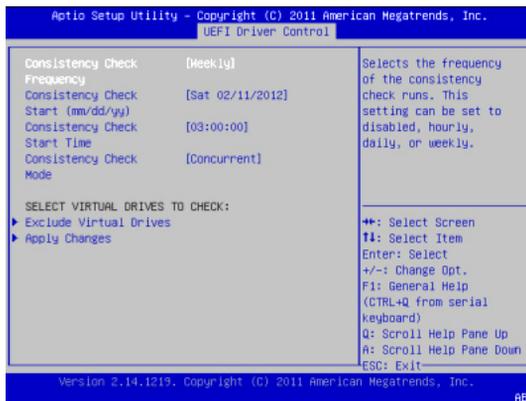


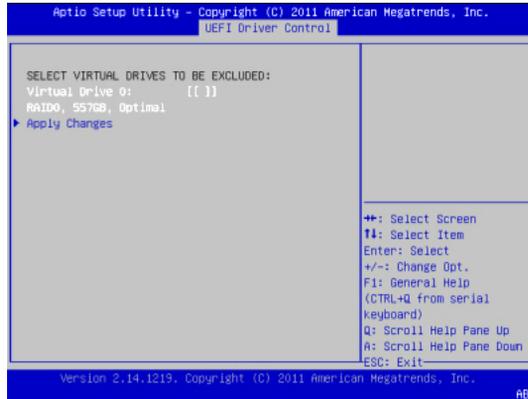
# Battery Management





## Schedule Consistency Check

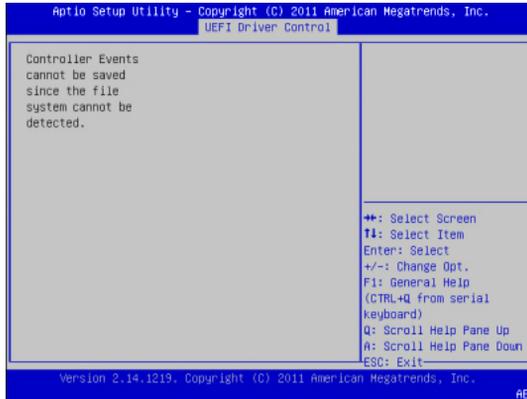




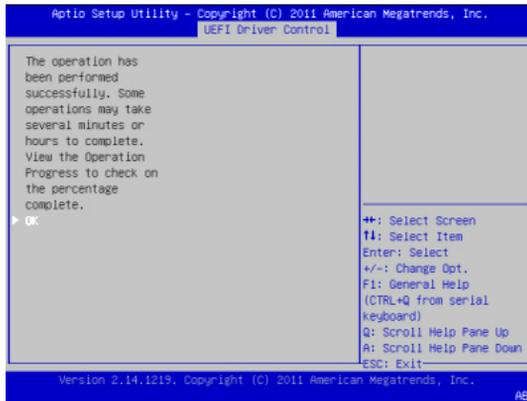
## Clear Configuration



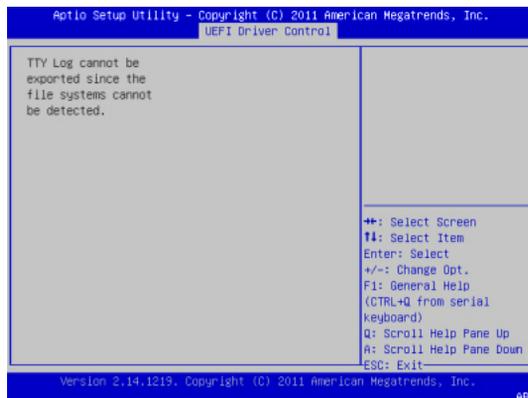
## Save Controller Events



## Clear Controller Events



## Save TTY Log



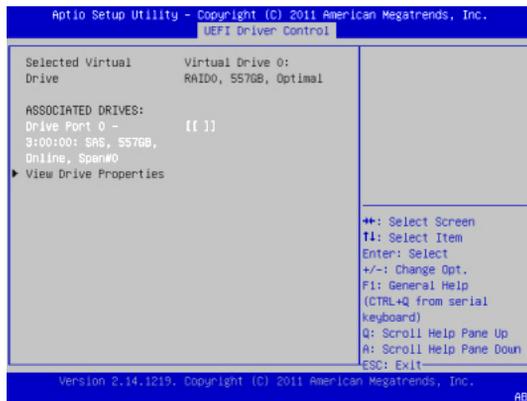
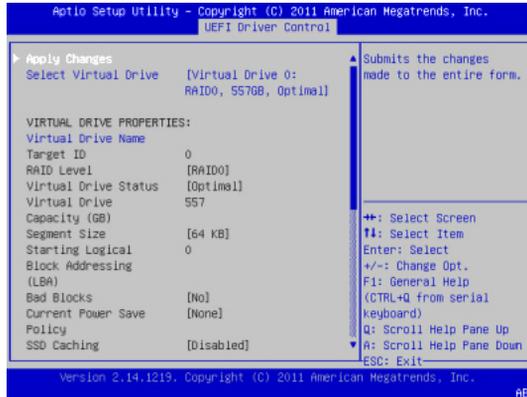
## BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の「Drive Management」メニューの選択

このセクションでは、BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の「Drive Management」メニューの選択の表示を掲載します。

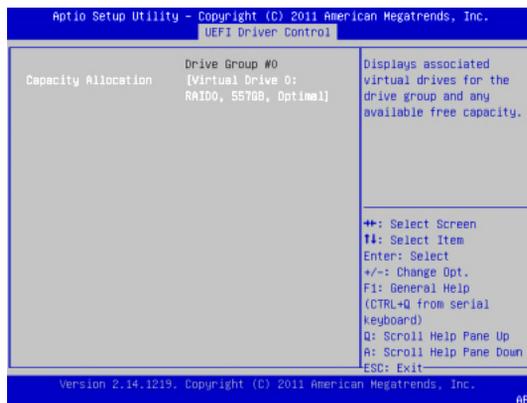
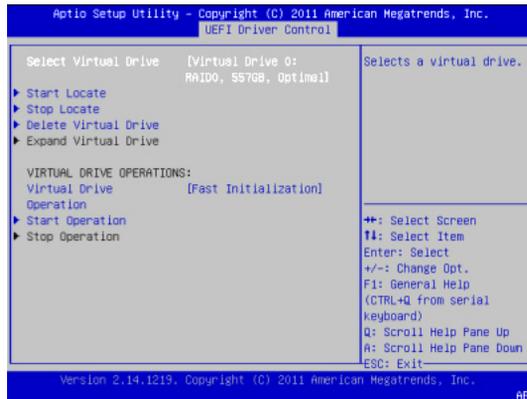
BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility にアクセスするには、「UEFI Driver Control」>「LSI MegaRAID Configuration Utility」>「Drive Management」に移動し、「View Associated Drives」項目を選択します。

- 241 ページの「「Drive Management」メニュー」
- 243 ページの「View Associated Drives」

## 「Drive Management」メニュー



# View Associated Drives





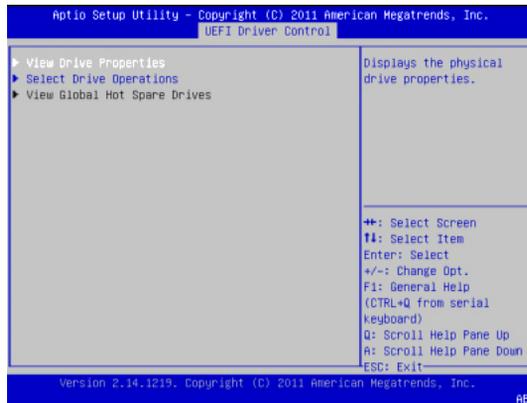
## BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の 「Virtual Drive Management」 メニューの選択

このセクションでは、BIOS の LSI MegaRaid Configuration Utility の 「Virtual Drive Management」 メニューの選択の表示を掲載します。

BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の 「Virtual Drive Management」 にアクセスするには、「UEFI Driver Control」 > 「LSI MegaRAID Configuration Utility」 > 「Virtual Drive Management」 に移動し、必要に応じて、次の項目のいずれかを選択します。

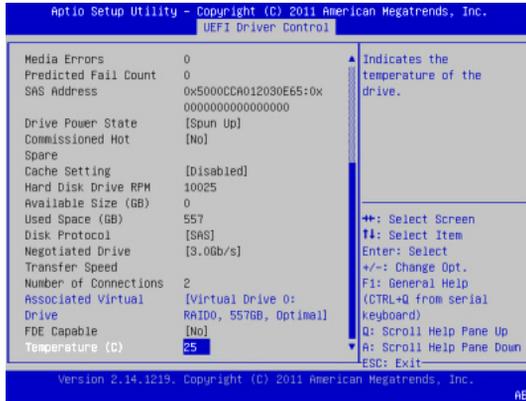
- Create Configuration
- Manage Virtual Drive Properties
- Select Virtual Drive Operations
- View Drive Group Properties
- Reconfigure Virtual Drives
  
- 244 ページの 「Virtual Drive Management」
- 245 ページの 「View Drive Properties」
- 246 ページの 「Select Drive Operations」
- 246 ページの 「View Global Hot Spare Drives」

## Virtual Drive Management



## View Drive Properties

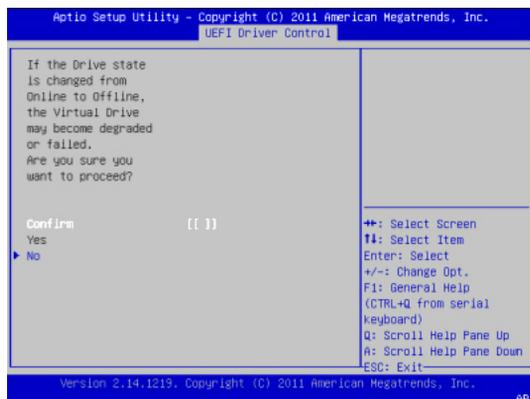




## Select Drive Operations



## View Global Hot Spare Drives



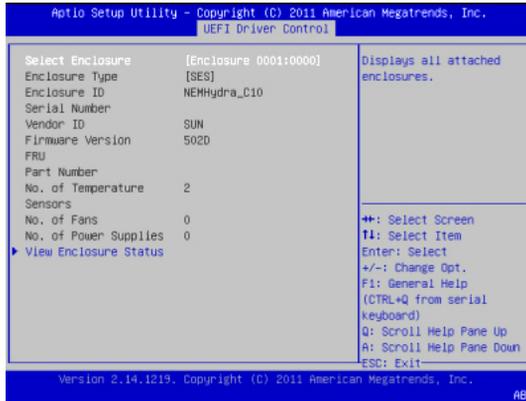
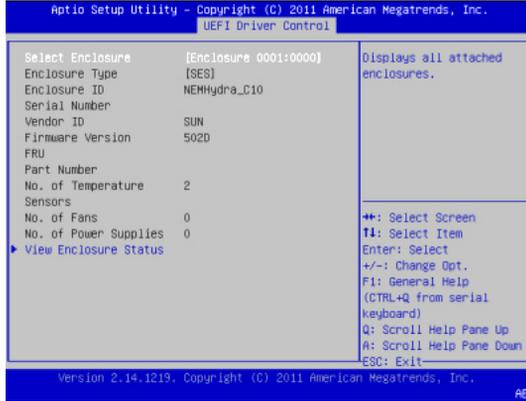
## BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の 「Enclosure Management」 メニューの選択

このセクションでは、BIOS の LSI MegaRaid Configuration Utility の 「Enclosure Management」 メニューの選択の表示を掲載します。

BIOS の LSI MegaRAID Configuration Utility の 「Enclosure Management」 にアクセスするには、「UEFI Driver Control」 > 「LSI MegaRAID Configuration Utility」 > 「Enclosure Management」 に移動し、「View Enclosure Status」を選択します。

- [248 ページの「Enclosure Management」](#)

# Enclosure Management



# ハードウェアコンポーネントおよび SNMP メッセージの識別

このセクションでは、Netra Blade X3-2B のコンポーネント名および SNMP メッセージについて説明します。

ここでは、次のトピックを取り上げます。

説明	リンク
システムコンポーネントと命名方法について確認します。	<a href="#">249 ページの「システムハードウェアコンポーネントの識別」</a>
表の主な項目の説明を確認します。	<a href="#">250 ページの「表の説明」</a>
センサー情報を参照します。	<a href="#">250 ページの「システムボードコンポーネント (センサー)」</a>
FRU 情報を参照します。	<a href="#">254 ページの「現場交換可能ユニット (FRU)」</a>
サーバーによって生成される SNMP トラップを確認します。	<a href="#">255 ページの「SNMP および PET トラップ」</a>

## 関連情報

- [Oracle ILOM のドキュメントライブラリ \(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31\)](http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31)

## システムハードウェアコンポーネントの識別

このセクションの表では、Netra Blade X3-2B のコンポーネントに適用される、NAC (Nomenclature Architecture Council) 命名規則について説明します。各セクションは、次の IPMI エンティティ ID に対応し、センサー、インジケータ、および FRU を一覧表示します。

- [250 ページの「表の説明」](#)
- [250 ページの「システムボードコンポーネント \(センサー\)」](#)
- [252 ページの「センサー」](#)
- [254 ページの「現場交換可能ユニット \(FRU\)」](#)

- 255 ページの「SNMP および PET トラップ」

## 表の説明

次のリストでは、後続のセクションに含まれている表のフィールドについて説明します。

- **コンポーネント名**: 特定のセンサー、インジケータ、または FRU を指すために管理インタフェースで使用される、ユーザーから見える NAC 名。IPMI 名は NAC 名の短縮形式で、NAC 名の太字部分で示されます。
- **IPMI の種類**: 表示されているセンサー、インジケータ、または FRU の種類を示します。
- **説明**: 特定の NAC 参照に関する説明文です。
- **値**: センサー、インジケータ、または FRU のエンティティの状態、および該当する場合には、デバイスを読み取るときに使用される特定の単位または値を定義します。

---

注 - 一部の NAC 名 (および IPMI 名) は、Oracle ILOM のユーザーインタフェースでは表示されません。これらの名前は、表内で非表示のマークが付けられています。

---

## システムボードコンポーネント (センサー)

次の表は、システムボードコンポーネント名、IPMI 名、種類、説明、およびイベントを示します。

---

注 - コンポーネント名は、/SYS/ プレフィックス付きで表示される場合があります。読みやすくするため、/SYS/ は省略されています。

---

コンポーネント名	IPMI 名	種類	説明	イベント
/ACPI	ACPI	ACPI	ホストの電源状態	動作中、オフ
/HOT	HOT	表明/表明停止	ブレードがファン送風を要求するときに表明します	なし
/PWRBS	PWRBS	表明/表明停止	電力割当量のステータス	なし
/SLOTID	SLOTID	OEM	このブレードのスロット、0-9	なし

コンポーネント名	IPMI名	種類	説明	イベント
/VPS	VPS	電力	ブレード電力消費	なし
/MB/P[0-1]/PRSNT	P[0-1]/PRSNT	取り外し/挿入	プロセッサの存在	なし
/MB/P[0-1]/D[0-11]/PRSNT	P[0-1]/Dy/PRSNT	取り外し/挿入	DIMM の存在	なし
/MB/T_AMB	MB/T_AMB	温度	吸気温度	unr、ucr、lcr、lnr
/MB/T_AMB_FEM	MB/T_AMB_FEM	温度	FME 下での吸気温度	unr、ucr、lcr、lnr
/MB/T_AMB_REAR	MB/T_AMB_REAR	温度	排気温度	unr、ucr、lcr、lnr
/BLx/ERR	BLx/ERR	障害予測	ブレードエラー (C10 では x=0-9、	あり
/BLx/PRSNT	BLx/PRSNT	取り外し/挿入	ブレードの存在 (x=0-9)	あり
/BLx/STATE	BLx/STATE	可用性状態	ブレード状態 (x=0-9)	あり
/CMM/ERR	CMM/ERR	障害予測	CMM エラー	あり
/CMM/PRSNT	CMM/PRSNT	取り外し/挿入	CMM の存在	あり
/FMx/ERR	FMx/ERR	障害予測	ファンモジュールエラー (x=0-5)	あり
/FMx/F[0-1]/TACH	FMx/F[0-1]/TACH	RPM	ファンモジュールのファン速度 (x=0-5)	なし
/NEM[0-1]/ERR	NEM[0-1]/ERR	障害予測	NEM エラー	あり
/NEM[0-1]/PRSNT	NEM[0-1]/PRSNT	取り外し/挿入	NEM の存在	あり
/NEM[0-1]/STATE	NEM[0-1]/STATE	可用性状態	NEM の状態	あり
/PEM[0-1]/PRSNT	PEM[0-1]/PRSNT	取り外し/挿入	PEM の存在 (0-1)	あり
/PS[0-1]/PRSNT	PS[0-1]/PRSNT	取り外し/挿入	電源装置 x の存在	あり
/PS[0-1]/Sx/V_IN_ERR	PS[0-1]/Sx/V_IN_ERR	障害予測	電源装置サイド x の入力電圧損失 (x=0-1)	あり
/PS[0-1]/Sx/V_OUT_OK	PS[0-1]/Sx/V_OUT_OK	表明/表明停止	電源装置サイド x の出力が有効 (x=0-1)	あり

# センサー

センサーは、電圧、温度、ファンの速度、コンポーネントの取り付けと取り外しなど、サーバーについての物理的な情報を報告します。

注-センサー名は、/SYS/プレフィックス付きで表示される場合があります。読みやすくするため、/SYS/は省略されています。

- [表 1](#)
- [表 2](#)
- [表 3](#)
- [表 4](#)
- [表 5](#)

表1 温度センサー

センサー名	センサーの種類	説明
/MB/T_AMB	温度	マザーボード周辺温度センサー
/MB/T_AMB_FEM	温度	FEM 下でのマザーボード周辺温度センサー

表2 ファンセンサー

センサー名	センサーの種類	説明
/FM[0-5]/F[0-1]/TACH Speed Fan speed sensor	速度	ファン速度センサー
/FM[0-5]/ERR	障害	ファンモジュールエラー

表3 電源装置の電流、電圧、および電源センサー

センサー名	センサーの種類	説明
/PS[0-1]/PRSNT	存在	電源装置の存在センサー
/PS[0-1]/S[0-1]/V_IN_ERR	障害	電源装置の入力電圧センサー
/PS[0-1]/S[0-1]/V_OUT_OK	障害	電源装置の出力電圧障害センサー
/VPS	障害	電圧および電流モニター

表4 存在センサー

センサー名	センサーの種類	説明
/HDD[0-3]/PRSNT	エンティティの存在	ストレージデバイスの存在センサー
/PS[0-1]/PRSNT	エンティティの存在	電源装置の存在センサー
/PEM[0-1]/PRSNT	エンティティの存在	PCI Express Module の存在センサー
/NEM[0-1]/PRSNT	エンティティの存在	Network Express Module (NEM) の存在センサー
/CMM/PRSNT	エンティティの存在	シャーシ監視モジュール (CMM) の存在センサー
/BL[0-9]/PRSNT	エンティティの存在	ブレードの存在センサー
/SLOTID	エンティティの存在	ブレードのスロット ID
/MB/P[0-1]/PRSNT	エンティティの存在	CPU の存在センサー
/MB/P[0-1]/D[0-8]/PRSNT	エンティティの存在	DIMM の存在センサー
/MB/FEM[0-1]/PRSNT	エンティティの存在	ファブリック拡張モジュール (Fabric Expansion Module、FEM) の存在センサー
/MB/REM/PRSNT	エンティティの存在	RAID 拡張モジュール (RAID Expansion Module、REM) の存在センサー

表5 システムインジケータ

インジケータ NAC 名	IPMI 名	色	位置	説明
/OK	OK	緑色	フロントパネル	消灯: 電源が入っていません。速い点滅: SP をブートしています。遅い点滅: ホストがブート中です/BIOS を表示しています。点灯: ホストが OS のブートを開始しました。
/LOCATE	LOCATE	白色	フロントパネル	消灯: 正常。速い点滅: 検出機能が動作しています。30 秒後に自動消灯します。
/SERVICE	SERVICE	オレンジ色	フロントパネル	消灯: ブレードは OK です。点灯: ブレードは保守を必要とします。

表5 システムインジケータ (続き)

インジケータ NAC名	IPMI名	色	位置	説明
/OK2RM	OK2RM	青色	フロントパネル	消灯: ブレードを取り外してはいけません。点灯: ブレードを取り外すことができます。
/HDD[0-3]/OK2RM	HDD[0-3]/OK2RM			ストレージドライブの取り外し可能LED - 青色。
/HDD[0-3]/SERVICE	HDD[0-3]/SERVICE			ストレージドライブの保守LED - オレンジ色。
/MB/P[0-1]/Dx/SERVICE	P[0-1]/Dx/SERVICE	オレンジ色	MB (x = 0 - 11)	消灯: 正常。点灯: DIMM に障害があると診断されました。
/MB/P[0-1]/SERVICE	P[0-1]/SERVICE	オレンジ色	MB	消灯: 正常。点灯: プロセッサに障害があると診断されました。

## 現場交換可能ユニット (FRU)

次の表に、現場交換可能ユニット (FRU) を示します。

FRU NAC名	IPMI名	説明
/SYS	/SYS	製品情報のみ
/UUID (非表示)	UUID	ホスト MAC アドレスに基づく、サーバーの UUID。
/CMM	CMM	CMM FRUID データ
/MIDPLANE	MIDPLANE	ミッドプレーン FRUID データ、シャーシ製品情報
/MB	MB	マザーボード FRUID
/MB/BIOS	MB/BIOS	BIOS バージョン
/MB/CPLD	MB/CPLD	CPLD ファームウェアバージョン
/MB/NET[0-3]	MB/NET[0-3]	ホスト NIC の MAC アドレス (0 - 3)
/MB/P[0-1]	MB/P[0-1]	プロセッサ FRUID データ
/MB/P[0-1]/Dx	MB/P[0-1]/Dx	DIMM FRUID データ (x = 0 - 11)
/NEM[0-1]	NEM[0-1]	NEM FRUID データ
/PS[0-1]	PS[0-1]	電源装置 FRUID データ

FRU NAC 名	IPMI 名	説明
/SP	SP	SP MAC アドレス
/SP/NET[0-1]	SP/NET[0-1]	SP MAC アドレス

## SNMP および PET トラップ

このセクションでは、Oracle ILOM が監視しているデバイスから生成される簡易ネットワーク管理プロトコル (Simple Network Management Protocol、SNMP) および Platform Event Trap (PET) のメッセージについて説明します。

SNMP トラップは、Oracle ILOM の管理下にある SNMP デバイスで有効になっている SNMP エージェントによって生成されます。Oracle ILOM は SNMP トラップを受信して、これらをイベントログに表示される SNMP イベントメッセージに変換します。

- 表 6
- 表 7
- 表 8
- 表 9
- 表 10
- 表 11
- 表 12
- 表 13
- 表 14
- 表 15

表 6 メモリーに関する SNMP イベント

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
sunHwTrapMemoryFault	fault.memory.channel.misconfigured	メジャー -- メモリーコンポーネントで障害が発生した疑いがあります。	/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFault Cleared	fault.memory.channel.misconfigured	情報 -- メモリーコンポーネントの障害がクリアされました。	/MB/P/D
sunHwTrapComponentFault	fault.memory.intel.dimm.none	メジャー -- メモリーコンポーネントで障害が発生した疑いがあります。	/MB
	fault.memory.controller.inputinvalid		
	fault.memory.controller.initfailed		
	fault.memory.intel.dimm.population-invalid		

表6 メモリーに関する SNMP イベント (続き)

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
sunHwTrapComponentFault Cleared	fault.memory.intel.dimm.none  fault.memory.conroller.inputinvalid fault.memory.controller.initfailed fault.memory.intel.dimm.popul ation-invalid	情報 -- メモリーコンポーネ ントの障害がクリアされま した。	/MB
sunHwTrapMemoryFault	fault.memory.intel.dimm.incom patible  fault.memory.intel.dimm.incom patible-maxranks fault.memory.intel.dimm.incom patible-quadrank	メジャー -- メモリーコン ポーネントで障害が発生し た疑いがあります。	/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFault Cleared	fault.memory.intel.dimm.incom patible  fault.memory.intel.dimm.incom patible-maxranks fault.memory.intel.dimm.incom patible-quadrank	情報 -- メモリーコンポーネ ントの障害がクリアされま した。	/MB/P/D

表7 環境に関する SNMP イベント

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
sunHwTrapPower SupplyFault	fault.chassis.env.power.loss	メジャー -- 電源装置コンポーネント で障害が発生した疑いがあります	/PS
sunHwTrapPower SupplyFault Cleared	Cleared fault.chassis.env.power.loss	情報 -- 電源装置コンポーネントの障 害がクリアされました	/PS
sunHwTrap ComponentFault	fault.chassis.env.temp.over-fail	メジャー -- コンポーネントで障害が 発生した疑いがあります	/SYS/
sunHwTrap ComponentFault Cleared	fault.chassis.env.temp.over-fail	情報 -- コンポーネントの障害がクリ アされました	/SYS/

表7 環境に関する SNMP イベント (続き)

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
sunHwTrapTempCrit Threshold Exceeded	Lower critical threshold exceeded	メジャー -- 温度センサーは、測定値がクリティカルなしきい値設定の上限を上回ったか、クリティカルなしきい値設定の下限を下回ったことを報告しています	/DBP/T_A MB
sunHwTrapTempCrit Threshold Deasserted	Lower critical threshold no longer exceeded	情報 -- 温度センサーは、測定値が正常な動作範囲内にあることを報告しています	/DBP/T_A MB
sunHwTrapTempNonCrit ThresholdExceeded	Upper noncritical threshold exceeded	マイナー -- 温度センサーは、測定値がクリティカルなしきい値設定の上限を上回ったか、クリティカルなしきい値設定の下限を下回ったことを報告しています	/DBP/T_A MB
sunHwTrapTempOk	Upper noncritical threshold no longer exceeded	情報 -- 温度センサーは、測定値が正常な動作範囲内にあることを報告しています	/DBP/T_A MB
sunHwTrapTempFatal ThresholdExceeded	Lower fatal threshold exceeded	クリティカル -- 温度センサーは、測定値が致命的なしきい値設定の上限を上回ったか、致命的なしきい値設定の下限を下回ったことを報告しています	/DBP/T_A MB
sunHwTrapTempFatal ThresholdDeasserted	Lower fatal threshold no longer exceeded	情報 -- 温度センサーは、測定値が致命的なしきい値設定の上限を下回ったか、致命的なしきい値設定の下限を上回ったことを報告しています	/DBP/T_A MB
sunHwTrapTempFatal ThresholdExceeded	Upper fatal threshold exceeded	クリティカル -- 温度センサーは、測定値が致命的なしきい値設定の上限を上回ったか、致命的なしきい値設定の下限を下回ったことを報告しています	/T_AMB
sunHwTrapTempCrit Threshold Exceeded	Upper critical threshold exceeded	メジャー -- 温度センサーは、測定値がクリティカルなしきい値設定の上限を上回ったか、クリティカルなしきい値設定の下限を下回ったことを報告しています	/T_AMB
sunHwTrapTempCrit Threshold Deasserted	Upper critical threshold no longer exceeded	情報 -- 温度センサーは、測定値が正常な動作範囲内にあることを報告しています	/T_AMB

表7 環境に関する SNMP イベント (続き)

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
sunHwTrapTempFatal ThresholdDeasserted	Upper fatal threshold no longer exceeded	情報 -- 温度センサーは、測定値が致命的なしきい値設定の上限を下回ったか、致命的なしきい値設定の下限を上回ったことを報告していません	/T_AMB
sunHwTrap ComponentError	Assert	メジャー -- 電源装置センサーがエラーを検出しました	/HOT /PSn/Sn/V_ OUT_OK /PSn/Sn/V_ OUT_OK /PSn/Sn/V_ OUT_OK
sunHwTrap ComponentOk	Deassert	情報 -- 電源装置センサーは正常な状態に戻りました	/PSn/Sn/V_ OUT_OK /PSn/Sn/V_ OUT_OK /PSn/Sn/V_ OUT_OK

表8 デバイスに関する SNMP イベント

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
sunHwTrapComponentFault	fault.chassis.device.missing	メジャー。コンポーネントで障害が発生した疑いがあります	/SYS/
sunHwTrapComponentFault Cleared	fault.chassis.device.missing	情報。コンポーネントの障害がクリアされました	/SYS/
sunHwTrapComponentFault	fault.chassis.device.fail	メジャー。コンポーネントで障害が発生した疑いがあります	/CMM
sunHwTrapComponentFault Cleared	fault.chassis.device.fail	情報。コンポーネントの障害がクリアされました	/CMM
sunHwTrapIOFault	fault.chassis.device.fail	メジャー。IO サブシステム内のコンポーネントで障害が発生した疑いがあります	/NEM

表 8 デバイスに関する SNMP イベント (続き)

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
sunHwTrapIOFaultCleared	fault.chassis.device.fail	情報。IO サブシステムコンポーネントの障害がクリアされました	/NEM

表 9 電源装置に関する SNMP イベント

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
sunHwTrapPowerSupplyError	Assert	メジャー。電源装置センサーがエラーを検出しました	/PWRBS
sunHwTrapPowerSupplyOk	Deassert	情報。電源装置センサーは正常な状態に戻りました	/PWRBS
sunHwTrapPowerSupplyFault	fault.chassis.env.power.loss	メジャー。電源装置コンポーネントで障害が発生した疑いがあります	/PS
sunHwTrapPowerSupplyFaultCleared	fault.chassis.env.power.loss	情報。電源装置コンポーネントの障害がクリアされました	/PS

Platform Event Trap (PET) イベントは、Alert Standard Format (ASF) または IPMI ベースボード管理コントローラを備えたシステムによって生成されます。PET イベントは、発生する可能性があるシステムの障害を事前に報告します。

表 10 システムの電源に関するイベント

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
petTrapPowerUnitStateDeassertedAssert	PowerSupply sensor ASSERT	クリティカル。実行時の電源障害が発生しました	/PWRBS
petTrapPowerSupplyStateAssertedAssert	PowerSupply sensor DEASSERT	情報。電源装置は AC 電源に接続されています	/PWRBS

表11 エンティティの存在に関するイベント

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
petTrapProcessorPresence DetectedDeassert	EntityPresence Insert	クリティカル。プロセッサが存在しないか、削除されました。	/HOSTPOWER
			/CMM/PRSNT
			/MB/REM/PRSNT
			/MB/FEM0/PRSNT
			/MB/FEM1/PRSNT
			/PEM0/PRSNT
			/PEM1/PRSNT
			/MB/P0/PRSNT
			/MB/P1/PRSNT
			/MB/P0/D0/PRSNT
			/MB/P0/D1/PRSNT
			/MB/P0/D2/PRSNT
			/MB/P0/D3/PRSNT
			/MB/P0/D4/PRSNT
			/MB/P0/D5/PRSNT
			/MB/P0/D6/PRSNT
			/MB/P0/D7/PRSNT
			/MB/P0/D8/PRSNT
			/MB/P1/D0/PRSNT
			/MB/P1/D1/PRSNT
/MB/P1/D2/PRSNT			
/MB/P1/D3/PRSNT			
/MB/P1/D4/PRSNT			
/MB/P1/D5/PRSNT			
/MB/P1/D6/PRSNT			

表 11 エンティティの存在に関するイベント (続き)

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
			/MB/P1/D7/PRSNT
			/MB/P1/D8/PRSNT
			/HDD0/PRSNT
			/HDD1/PRSNT
			/HDD2/PRSNT
			/HDD3/PRSNT/NEM0/PRSNT /NEM1/PRSNT
			/BL0/PRSNT /BL1/PRSNT
			/BL2/PRSNT /BL3/PRSNT
			/PS0/PRSNT /PS1/PRSNT
			/PS2/PRSNT /PS3/PRSNT

表 11 エンティティの存在に関するイベント (続き)

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
petTrapEntityPresenceDe viceInsertedAssert	EntityPresence Remove	情報。デバイスが存在し ているか、挿入されまし た	/HOSTPOWER
			/CMM/PRSNT
			/MB/REM/PRSNT
			/MB/FEM0/PRSNT
			/MB/FEM1/PRSNT
			/PEM0/PRSNT
			/PEM1/PRSNT
			/MB/P0/PRSNT
			/MB/P1/PRSNT
			/MB/P0/D0/PRSNT
			/MB/P0/D1/PRSNT
			/MB/P0/D2/PRSNT
			/MB/P0/D3/PRSNT
			/MB/P0/D4/PRSNT
			/MB/P0/D5/PRSNT
			/MB/P0/D6/PRSNT
/MB/P0/D7/PRSNT			
/MB/P0/D8/PRSNT			
/MB/P1/D0/PRSNT			
/MB/P1/D1/PRSNT			
/MB/P1/D2/PRSNT			
/MB/P1/D3/PRSNT			
/MB/P1/D4/PRSNT			

表11 エンティティの存在に関するイベント (続き)

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
			/MB/P1/D5/PRSNT
			/BL0/PRSNT
			/MB/P1/D6/PRSNT
			/MB/P1/D7/PRSNT
			/MB/P1/D8/PRSNT
			/HDD0/PRSNT
			/HDD1/PRSNT
			/HDD2/PRSNT
			/HDD3/PRSNT
			/NEM0/PRSNT
			/NEM1/PRSNT /BL1/PRSNT
			/BL2/PRSNT /BL3/PRSNT
			/PS0/PRSNT /PS1/PRSNT
			/PS2/PRSNT /PS3/PRSNT

表12 環境に関するイベント

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
petTrapTemperatureStateDeassertedDeassert	Temperature sensor ASSERT	情報。温度イベントが発生しました	/HOT
petTrapTemperatureStateDeassertedDeassert	Temperature sensor DEASSERT	クリティカル。温度イベントが発生しました	/HOT
petTrapTemperatureUpperNonRecoverableGoingLowDeassert	Temperature Upper non-critical threshold has been exceeded	メジャー。温度が復旧不可能なしきい値の上限を下回りました	/MB/T_AMB
petTrapTemperatureStateAssertedAssert	Temperature Upper non-critical threshold no longer exceeded	クリティカル。温度イベントが発生しました。可能性のある原因は、CPUの過熱です。	/MB/T_AMB
petTrapTemperatureUpperCriticalGoingHigh	Temperature Lower fatal threshold has been exceeded	メジャー。温度がクリティカルなしきい値の上限を上回っています	/MB/T_AMB
petTrapTemperatureUpperCriticalGoingLowDeassert	Temperature Lower fatal threshold no longer exceeded	警告。温度がクリティカルなしきい値の上限を下回りました	/MB/T_AMB
petTrapTemperatureLowerNonCriticalGoingLow	petTrapTemperatureLowerNonCriticalGoingLow	警告。温度がクリティカルでないしきい値の上限を下回りました	/MB/T_AMB

表 12 環境に関するイベント (続き)

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
警告。温度がクリティカルでないしきい値の上限を下回りました	Temperature Lower critical threshold no longer exceeded	情報。温度が正常に戻りました	/MB/T_AMB
petTrapTemperatureUpperNonCriticalGoingHigh	Temperature Upper critical threshold has been exceeded	警告。温度がクリティカルでないしきい値の上限を上回っています	/MB/T_AMB
petTrapTemperatureUpperNonCriticalGoingLowDeassert	Temperature Upper critical threshold no longer exceeded	情報。温度が正常に戻りました	/MB/T_AMB
petTrapTemperatureLowerCriticalGoingLow	Temperature Lower fatal threshold has been exceeded	メジャー。温度がクリティカルなしきい値の上限を下回りました	/MB/T_AMB
petTrapTemperatureLowerCriticalGoingHighDeassert	Temperature Lower fatal threshold no longer exceeded	警告。温度がクリティカルなしきい値の下限を上回っています	/MB/T_AMB
petTrapTemperatureLowerNonRecoverableGoingHighDeassert	Temperature Lower non-critical threshold has been exceeded	メジャー。温度が復旧不可能なしきい値の下限を上回りました	/MB/T_AMB
petTrapTemperatureUpperNonRecoverableGoingHigh	Temperature Lower non-critical threshold no longer exceeded	クリティカル。温度が復旧不可能なしきい値の上限を上回っています	

表 13 コンポーネント、デバイス、およびファームウェアイベント

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
petTrapOEMStateDeassertedAssert	petTrapOEMStateDeassertedAssert	情報。障害が発生しました(「OEM State Deasserted (OEM 状態の表明停止)」の表明)	/MB/FEMn/FAULT
petTrapOEMPredictiveFailureAsserted	OEMReserved sensor DEASSERT	メジャー。OEM 予測エラーが表明されました。	/MB/FEMn/FAULT
petTrapOEMPredictiveFailureDeasserted	OEMReserved reporting Predictive Failure	情報。OEM 障害予測が表明停止しました	/CMM/ERR /NEMn/ERR /BLn/ERR /BLn/ERR /BLn/ERR /BLn/ERR
petTrapSystemFirmwareError	OEMReserved Return to normal	情報。システムファームウェアエラーが報告されました	
petTrapModuleBoardTransitionToRunningAssert	Module Transition to Running assert	情報	/NEMn/STATE /NEMn/STATE /BLn/STATE /BLn/STATE /BLn/STATE /BLn/STATE
petTrapModuleBoardTransitionToInTestAssert	Module Transition to In Test assert	情報	

表 13 コンポーネント、デバイス、およびファームウェアイベント (続き)

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
petTrapModuleBoardTransitionToPowerOffAssert	Module Transition to Power Off assert	情報	
petTrapModuleBoardTransitionToOnLineAssert	Module Transition to On Line assert	情報	
Undocumented PET 1378820	Module Transition to Off Line assert	情報	
petTrapModuleBoardTransitionToOffDutyAssert	Module Transition to Off Duty assert	情報	/NEMn/STATE /NEMn/STATE /BLn/STATE /BLn/STATE /BLn/STATE /BLn/STATE
petTrapModuleBoardTransitionToDegradedAssert	Module Transition to Degraded assert	情報	
petTrapModuleBoardTransitionToPowerSaveAssert	Module Transition to Power Save assert	情報	
petTrapModuleBoardInstallErrorAssert	Module Install Error assert	情報	
Undocumented PET 132097	Voltage reporting Predictive Failure	情報	/PSn/V_IN_ERR /PSn/V_IN_ERR /PSn/V_IN_ERR
Undocumented PET 132096	Voltage Return to normal	情報	/PSn/V_IN_ERR

表 14 電源装置に関するイベント

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
petTrapVoltageStateDeassertedDeassert	Voltage sensor ASSERT	情報。電圧イベントが発生しました	/PSn/V_OUT_OK /PSn/V_OUT_OK /PSn/V_OUT_OK
petTrapVoltageStateAssertedDeassert	Voltage sensor DEASSERT		/PSn/V_OUT_OK

表 15 ファンに関するイベント

SNMP トラップメッセージ	ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
petTrapFanPredictiveFailureDeasserted	Fan reporting Predictive Failure	情報。ファンの障害予測状態がクリアされました	/FMn/ERR
petTrapFanLowerNonRecoverableGoingLow	Fan Return to normal	クリティカル。ファン速度が復旧不可能な状態下限のしきい値を下回るまで低下しました。ファンに障害が発生したか取り外されました。	

## 関連情報

- 249 ページの「システムハードウェアコンポーネントの識別」
- 250 ページの「表の説明」
- 250 ページの「システムボードコンポーネント (センサー)」
- 252 ページの「センサー」
- 254 ページの「現場交換可能ユニット (FRU)」
- 255 ページの「SNMP および PET トラップ」

# 索引

---

## B

### BIOS

「iSCSI」画面, 216

「Main」画面, 187

Oracle System Assistant を使用した更新, 47, 90

SPLAN 設定, 170

TPM サポート, 構成, 166

出荷時のデフォルト, 確認, 164-165

ブートモード, レガシー BIOS と UEFI BIOS 間の  
切り替え, 157-161

### BIOS 設定ユーティリティ

「Advanced」メニューの選択, 194

「Boot」画面, 213

「IO」画面, 206

「Main」画面, 187

Oracle System Assistant の有効化, 76-77, 120-121  
からの終了, 222

キーマッピング, 153

サービスプロセッサネットワーク設定, 170

設定画面のサマリー, 163-185

ファンクションキー, 153

ブートモード, 157-161

BIOS の「Boot」画面, 213

BIOS の「iSCSI」画面, 216

BIOS の「Main」画面, 187

BIOS の「Save and Exit」画面, 222

## D

DNS 設定, 52-57, 95-100

## I

IPMI の種類, 250

IP アドレス, 設定, 171

## L

Linux オペレーティングシステム, インス  
トール, 57-61, 100-104

Linux シェル, 64-65, 107-108

## M

My Oracle Support, 70-75, 114-119

## N

NAC (Nomenclature Architecture Council), 249

## O

### Oracle Hardware Management Pack

Oracle System Assistant からのアクセス, 31-32  
概要, 14

### Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)

CLI からのアクセス, 30-31

DNS 設定, 52-57, 95-100

Oracle System Assistant を使用した更新, 47, 90

Web ブラウザからのアクセス, 29-30

概要, 13

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) (続き)  
クロック設定, 52-57, 95-100  
識別, 52-57, 95-100  
ネットワーク構成, 52-57, 95-100  
ユーザーアカウント, 52-57, 95-100
- Oracle System Assistant  
BIOSからの有効化, 76-77, 120-121  
ILOM SPの構成, 52-57, 95-100  
ILOMからのアクセス, 26-28  
Linux シェルへのアクセス, 64-65, 107-108  
OSのインストール, 57-61, 100-104  
ReadMe, 36  
インストールの検証, 68-70, 112-114  
概要, 11, 33  
キーボード言語の設定, 63-64, 106-107  
機能, 33  
高度なタスク, 64-65, 107-108  
壊れたまたは消去された, 70-75, 114-119  
サーバーの構成, 38, 83  
サーバーの設定, 33  
システムの情報および目録の表示, 40, 85  
終了, 35  
ソフトウェア更新の取得, 43, 88  
ソフトウェアの設定, 129-134  
トラブルシューティング, 68, 112  
ネットワーク設定の構成, 42, 87  
ハードウェア RAID の構成, 49-52, 92-95  
ファームウェアの更新, 47, 90  
ファイルシステムへのアクセス, 64-65, 107-108  
ブート中のアクセス, 24-26  
復元, 70-75, 114-119  
ヘルプ, 35  
無効化, 61-63, 104-106  
メディアの整合性チェック, 66-67, 109-110  
リリースノート, 36
- Oracle Enterprise Manager Ops Center, 概要, 11
- Oracle System Assistant インストールの検証, 68-70
- Oracle System Assistant にアクセスするための  
ファンクションキー, 24-26
- Oracle System Assistant のトラブルシューティング, 68, 112
- Oracle System Assistant の復元, 70-75
- Oracle System Assistant の無効化, 61-63, 104-106
- Oracle VM ソフトウェア, インストール, 57-61, 100-104
- ## P
- PET  
トラップ, 255  
メッセージ, 255
- ## R
- RAID  
構成, 49-52, 92-95
- ## S
- SNMP  
トラップ, 255  
メッセージ, 255
- SPLAN 設定, 構成, 170
- ## T
- TPM サポート, 構成, 166
- ## W
- Windows オペレーティングシステム, インストール, 57-61, 100-104
- ## あ
- アクセス  
ILOMからの Oracle System Assistant, 26-28  
Linux シェル, 64-65, 107-108  
システム管理ツール, 23-32  
ブート中の Oracle System Assistant, 24-26

## お

オペレーティングシステム  
 インストール, 57-61, 100-104  
 インストール用の管理ツールの選択, 19  
 オペレーティングシステムのイン  
 ストール, 57-61, 100-104

## か

管理者タスクの概要, 16  
 管理ツール, 選択, 10

## き

キーボード言語, 設定, 63-64, 106-107  
 キーボード言語の設定, 63-64, 106-107

## く

クロック設定, 52-57, 95-100

## け

言語, キーボードの設定, 63-64, 106-107

## こ

## 構成

ILOM SP, 52-57, 95-100  
 Oracle System Assistant を使用したサーバー, 38,  
 83  
 キーボード言語, 63-64, 106-107  
 ネットワーク設定, 42, 87  
 ハードウェア RAID, 49-52, 92-95  
 壊れた Oracle System Assistant, 70-75

## さ

サーバー管理ソフトウェア, 9-22

サーバー管理ソフトウェア, 概要, 15  
 サーバーコンポーネント, 更新, 20  
 サーバーコンポーネントの更新, 20  
 サーバーの設定, Oracle System Assistant, 33

## し

システム管理, 計画, 9-22  
 システム管理ツール, アクセス, 23-32  
 システム管理の計画, 9-22  
 システムの情報および目録, 表示, 40, 85  
 システムの情報および目録の表示, 40, 85  
 消去された Oracle System Assistant, 70-75

## ね

ネットワーク構成, ILOM, 52-57, 95-100  
 ネットワーク設定, 構成, 42, 87

## ふ

ファームウェアとソフトウェア  
 Oracle System Assistant を使用した更新, 47, 90  
 更新, 20  
 更新の取得, 43, 88  
 ファイルシステム, 64-65, 107-108  
 複数システム, 用の管理ツール, 11  
 ブレードシステム, 管理, 21

## め

メディアの整合性, 66-67, 109-110  
 メディアの整合性, チェック, 66-67, 109-110  
 メディアの整合性チェック, 66-67, 109-110

## も

モジュラーシステム, 管理, 21  
 問題, Oracle System Assistant, 68

ゆ

ユーザーアカウント, 52-57, 95-100